本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**
◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと装備品や車両の破損につながるおそれがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車の性能を十分にお使い頂けるとともに、いろいろな装備を上手に使うことができます。
	安全のためにしてはならない行為。（イラスト内に表示されています）

- コントロールパネルのスイッチは<＊＊＊＊>、操作画面に表示されるメニューや項目は［＊＊＊＊］と表示しています。
- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 三菱自動車販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- スマートフォン連携ナビゲーション装着車は、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書も合わせてお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

■ 外観フロント **.2**
■ 外観リヤ**.4**
■ 車室内**.6**
■ 運転席まわり**.8**
■ インストルメントパネル**.10**

イラスト目次 P.2

■ 電気自動車の特徴**.14**
■ 安全にご利用いただくために**.15**
■ 電気自動車と上手に付き合うために**.18**
■ 便利なサポート機能**.20**
■ 充電に関する注意事項**.21**
■ 充電に関する装備**.24**
■ 充電する**.29**
■ 便利な充電方法**.36**
■ 充電で困ったときは**.39**

電気自動車の機能 P.13

■ 運転する前に**.44**
■ シートベルト**.48**
■ お子さまの安全のために**.51**
■ エアバッグ**.59**
■ 盗難防止機能**.67**

安全なドライブのために P.43

■ 計器類**.70**
■ 警告灯・表示灯**.74**
■ マルチインフォメーションディスプレイ**.78**
■ メーターの明るさの調節**.99**

メーターの見かた P.69

■ キー**.102**
■ ドアの施錠と解錠**.106**
■ シート・ハンドルの調節**.111**
■ ミラーの調節**.116**
■ 窓ガラスの開閉**.123**
■ エアコンの操作**.125**
■ オーディオ**.134**

各部の操作 P.101

■ 始動する**.138**
■ 運転する**.141**
■ ランプをつける、ワイパーを使う**.148**
■ 運転支援システム**.156**
■ 駐車支援システム**.198**

運転のしかた P.137

■ 室内灯**.236**
■ 収納装備**.238**
■ その他の室内装備**.241**

室内装備 P.235

■ まずはじめに**.252**
■ 緊急時の対処法**.256**

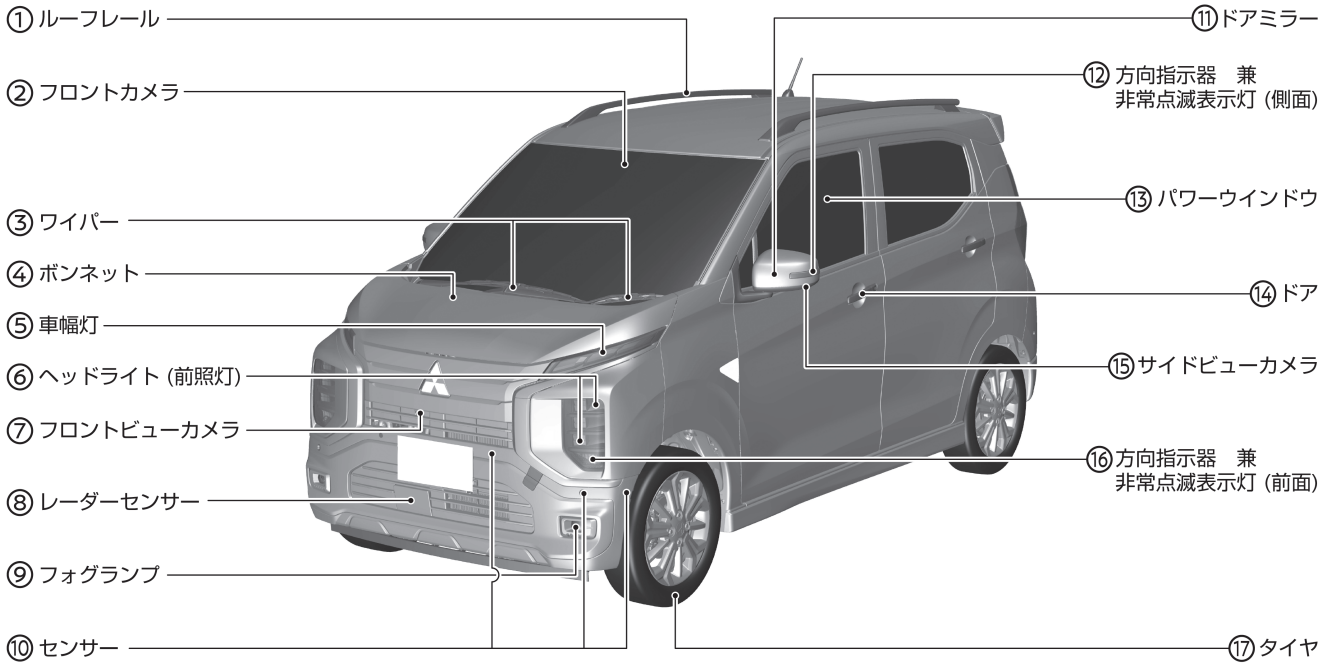
トラブルがおきたときは P.251

■ メンテナンスの前に**.298**
■ 工具・ジャッキ**.299**
■ 点検と整備**.303**
■ 清掃・お手入れ**.312**
■ サービスデータ**.318**

メンテナンス P.297

索引 P.323

外観フロント

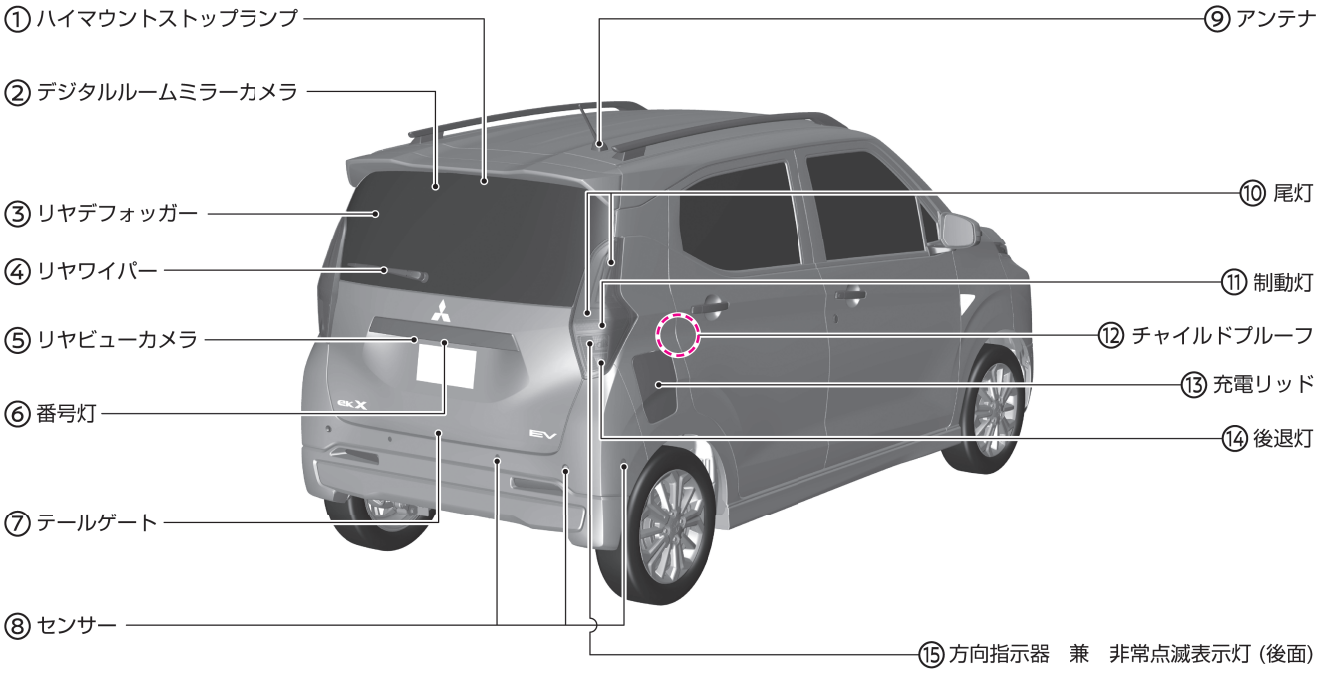

① ルーフレール
② フロントカメラ
③ ワイパー
④ ボンネット
⑤ 車幅灯
⑥ ヘッドライト (前照灯)
⑦ フロントビューカメラ
⑧ レーダーセンサー
⑨ フォグランプ
⑩ センサー
⑪ ドアミラー
⑫ 方向指示器　兼
非常点滅表示灯 (側面)
⑬ パワーウインドウ
⑭ ドア
⑮ サイドビューカメラ
⑯ 方向指示器　兼
非常点滅表示灯 (前面)
⑰ タイヤ

外観フロント

① ルーフレール★（P.45）
② フロントカメラ（P.314）
③ ワイパー（P.153）
④ ボンネット（P.303）
⑤ 車幅灯（P.148、P.292、P.320）
⑥ ヘッドライト（前照灯）（P.148、P.292、P.320）
⑦ フロントビューカメラ★（P.314）
⑧ レーダーセンサー（P.313）
⑨ フォグランプ★（P.153、P.292、P.320）
⑩ センサー（P.97、P.315）
⑪ ドアミラー（P.120）
⑫ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（P.152、P.292、P.320）
⑬ パワーウインドウ（P.123）
⑭ ドア（P.106）
⑮ サイドビューカメラ★（P.314）
⑯ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）（P.152、P.292、P.320）
⑰ タイヤ（P.306）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

外観リヤ

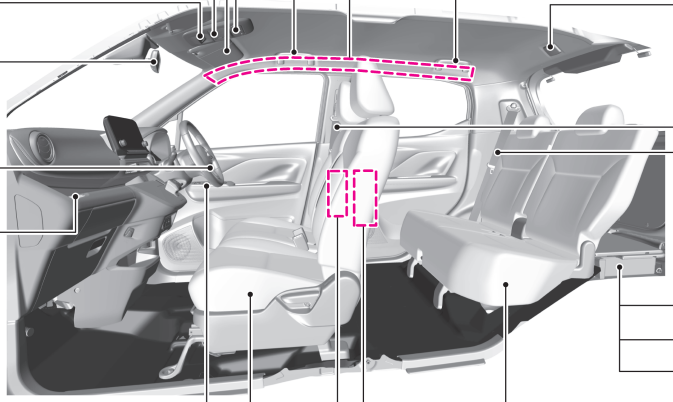

① ハイマウントストップランプ
② デジタルルームミラーカメラ
③ リヤデフォッガー
④ リヤワイパー
⑤ リヤビューカメラ
⑥ 番号灯
⑦ テールゲート
⑧ センサー
⑨ アンテナ
⑩ 尾灯
⑪ 制動灯
⑫ チャイルドプルーフ
⑬ 充電リッド
⑭ 後退灯
⑮ 方向指示器　兼　非常点滅表示灯 (後面)

外観リヤ

① ハイマウントストップランプ（➔P.292 、➔P.320 ）
② デジタルルームミラーカメラ★（➔P.317）
③ リヤデフォッガー（➔P.290）
④ リヤワイパー（➔P.154）
⑤ リヤビューカメラ（➔P.315）
⑥ 番号灯（➔P.148 、➔P.292 、➔P.320 ）
⑦ テールゲート（➔P.108）
⑧ センサー（➔P.97、➔P.315）
⑨ アンテナ（➔P.134）
⑩ 尾灯（➔P.148 、➔P.292 、➔P.320 ）
⑪ 制動灯（➔P.292 、➔P.320 ）
⑫ チャイルドプルーフ（➔P.107）
⑬ 充電リッド（➔P.27）
⑭ 後退灯（➔P.292 、➔P.320 ）
⑮ 方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）（➔P.152 、➔P.292 、➔P.320 ）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車室内



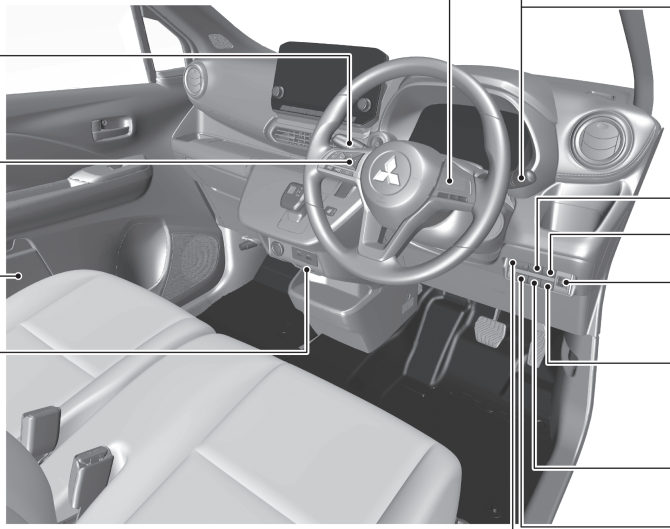
① サンバイザー
② カードホルダー
② カードホルダー
③ SOSコールスイッチ
④ 後席シートベルト非着用警告灯
⑤ 自動防眩ルームミラー
⑥ デジタルルームミラー
⑦ ロックノブ
⑧ ドリンクホルダー
⑨ パワーウインドウスイッチ
⑩ 前席シート
⑪ ルーム&マップランプ
⑫ アシストグリップ
⑬ SRSカーテンエアバッグ
⑫ アシストグリップ
⑭ ラゲッジルームランプ
⑮ シートベルト
⑯ 工具
⑰ ジャッキ
⑱ パンクタイヤ応急修理キット
⑲ 後席シート
⑳ SRSサイドエアバッグ

車室内

① サンバイザー（➔P.247）
② カードホルダー（➔P.248）
③ SOSコールスイッチ★（➔P.241）
④ 後席シートベルト非着用警告灯（➔P.267）
⑤ 自動防眩ルームミラー★（➔P.116）
⑥ デジタルルームミラー★（➔P.117）
⑦ ロックノブ（➔P.107）
⑧ ドリンクホルダー（➔P.239）
⑨ パワーウインドウスイッチ（➔P.123）
⑩ 前席シート（➔P.111）
⑪ ルーム&マップランプ（➔P.236）
⑫ アシストグリップ（➔P.249）
⑬ SRSカーテンエアバッグ（➔P.64）
⑭ ラゲッジルームランプ（➔P.236）
⑮ シートベルト（➔P.48）
⑯ 工具（➔P.299）
⑰ ジャッキ★（➔P.299）
⑱ パンクタイヤ応急修理キット（➔P.256）
⑲ 後席シート（➔P.113）
⑳ SRSサイドエアバッグ（➔P.63）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転席まわり



① ステアリングスイッチ (右)
－マイパイロット
－ハンズフリーフォン
－音声操作

② ワイパー・ウォッシャー スイッチ

③ ステアリングスイッチ (左)
－マルチインフォメーション ディスプレイ
－オーディオ

④ 車検証入れ

⑤ ETCユニット

⑥ ライトスイッチ

⑦ 方向指示器スイッチ

⑧ フォグランプスイッチ

⑨ TRIP RESETスイッチ

⑩ 今すぐ充電スイッチ

⑪ ヘッドライトレベリングダイヤル

⑫ 車線維持支援スイッチ

⑬ 走行支援スイッチ

⑭ ドライブモードスイッチ

⑮ ブレーキオートホールドスイッチ

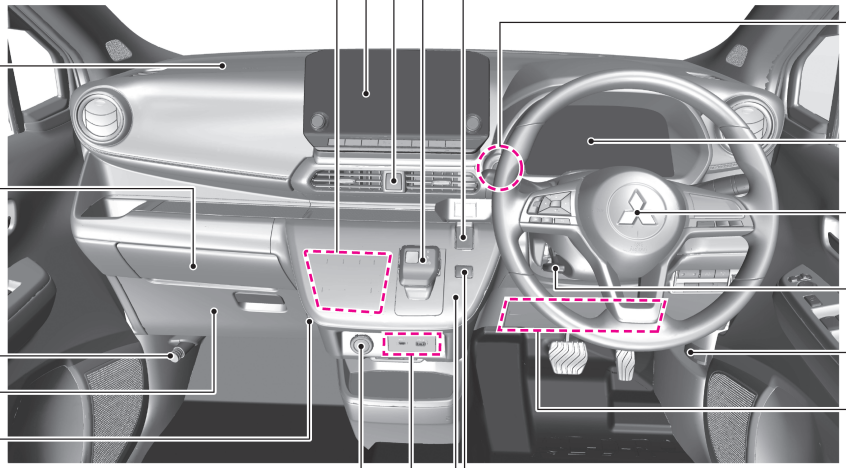
⑯ イルミネーションコントロールスイッチ

運転席まわり

① ステアリングスイッチ（右）★
-マイパイロット★（➔P.165）
-ハンズフリーフォン★（別冊※）
-音声操作★（別冊※）
② ワイパー・ウォッシャースイッチ（➔P.153）
③ ステアリングスイッチ（左）
-マルチインフォメーションディスプレイ（➔P.78）
-オーディオ★（➔P.135、別冊※）
④ 車検証入れ（➔P.238）
⑤ ETCユニット★（別冊※）
⑥ ライトスイッチ（➔P.148）
⑦ 方向指示器スイッチ（➔P.152）
⑧ フォグランプスイッチ★（➔P.153）
⑨ TRIP RESETスイッチ（➔P.71）
⑩ 今すぐ充電スイッチ（➔P.27）
⑪ ヘッドライトレベリングダイヤル（➔P.152）
⑫ 車線維持支援スイッチ★（➔P.170）
⑬ 走行支援スイッチ★（➔P.191）
⑭ ドライブモードスイッチ（➔P.158）
⑮ ブレーキオートホールドスイッチ（➔P.144）
⑯ イルミネーションコントロールスイッチ（➔P.99）
※ スマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル



① スマートフォン連携ナビゲーション
② タッチパネル式フルオートエアコン
－シートヒータースイッチ
－ステアリングヒータースイッチ
③ 助手席SRSエアバッグ
④ アッパーグローブボックス
⑤ 発炎筒
⑥ グローブボックス
⑦ コンビニエントフック
⑧ アクセサリーソケット
⑨ USBポート
⑩ 非常点滅表示灯スイッチ
⑪ セレクターレバー
⑫ 電動パーキングブレーキスイッチ
⑬ パワースイッチ
⑭ メーター
⑮ 運転席SRSエアバッグ
⑯ ハンドル位置調節レバー
⑰ ボンネットオープナー
⑱ 運転席SRSニーエアバッグ
⑲ イノベーティブペダル オペレーションモードスイッチ
⑳ マイパイロットパーキングスイッチ

インストルメントパネル

① スマートフォン連携ナビゲーション★（別冊※）
② タッチパネル式フルオートエアコン（➔P.125）
-シートヒータースイッチ★（➔P.245 ）
-ステアリングヒータースイッチ★（➔P.245 ）
③ 助手席SRSエアバッグ（➔P.61）
④ アッパーグローブボックス（➔P.238）
⑤ 発炎筒（➔P.253）
⑥ グローブボックス（➔P.238）
⑦ コンビニエントフック（➔P.246）
⑧ アクセサリーソケット（➔P.246）
⑨ USBポート★（別冊※）
⑩ 非常点滅表示灯スイッチ
⑪ セレクターレバー（➔P.141）
⑫ 電動パーキングブレーキスイッチ（➔P.142）
⑬ パワースイッチ（➔P.138）
⑭ メーター（➔P.70）
⑮ 運転席SRSエアバッグ（➔P.61）
⑯ ハンドル位置調節レバー（➔P.115）
⑰ ボンネットオープナー（➔P.303）
⑱ 運転席SRSニーエアバッグ（➔P.65）
⑲ イノベーティブペダル オペレーションモードスイッチ（➔P.156）
⑳ マイパイロットパーキングスイッチ★（➔P.217）
※ スマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

MEMO

電気自動車の機能

電気自動車の特徴

電気自動車（EV）ってどんな車？ P.14

安全にご利用いただくために

高電圧部品について P.15
電気自動車（EV）の取り扱いに関する注意事項 P.16
電気自動車（EV）が事故にあったときの注意事項 P.16

電気自動車と上手に付き合うために

航続距離を延ばすためのポイント P.18
バッテリーを長持ちさせるためのポイント P.18

便利なサポート機能

タイマー機能 P.20
My MITSUBISHI CONNECT★ P.20

充電に関する注意事項

充電に関する注意事項 P.21

充電に関する装備

充電装備と名称 P.24
充電ケーブル（コントロールボックス付）★ P.25
今すぐ充電スイッチ P.27
充電ポート P.27
駆動用バッテリークーラー P.28

充電する

充電の種類 P.29
普通充電のしかた P.32
急速充電のしかた P.34

便利な充電方法

タイマー充電のしかた P.36

充電で困ったときは

充電ができないときの対処方法 P.39

電気自動車（EV）ってどんな車？

駆動用バッテリーに蓄えられた電力を使用して、走行用モーターにより走行する自動車です。エンジン音の代わりにREADY（走行可能）表示灯［ ］の点灯・消灯で、パワーユニットの始動・停止を確認します。

駆動用バッテリー

電気自動車（EV）はガソリンを使用せず、駆動用バッテリーに蓄えられた電力で走行します。

そのため、給油する代わりに駆動用バッテリーを充電する必要があります。

- 駆動用バッテリーは、使用を繰り返すと徐々に容量（蓄電能力）が低下します。これはバッテリー本来の特性であり、家電製品と同様に異常ではありません。
- 気圧の急激な変化により、駆動用バッテリーから音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 急加速などで早く電力を消費すると、駆動用バッテリーに負担がかかるため、緩やかに加速し、航続距離を延ばすような運転を心がけてください。

➔航続距離を延ばすためのポイント（P.18）

走行用モーター

駆動用バッテリーに蓄えられた電力を使用して、エンジンの代わりにタイヤへ動力を伝えます。

回生ブレーキ

ガソリン車のエンジンブレーキの代わりにモーターを使って減速することを回生ブレーキと呼びます。減速するときに発電するため、発電した電力で駆動用バッテリーを充電することができ、航続距離を延ばすことができます。

- 次の場合は回生ブレーキが作動せず、通常のブレーキのみで制動力を発生させます。
  - パワーユニットまたはブレーキシステムに異常があるとき
  - ABSまたはアクティブスタビリティコントロール［ASC］が作動しているとき
  - 駆動用バッテリーが満充電のとき
- 回生ブレーキが作動しているときは、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

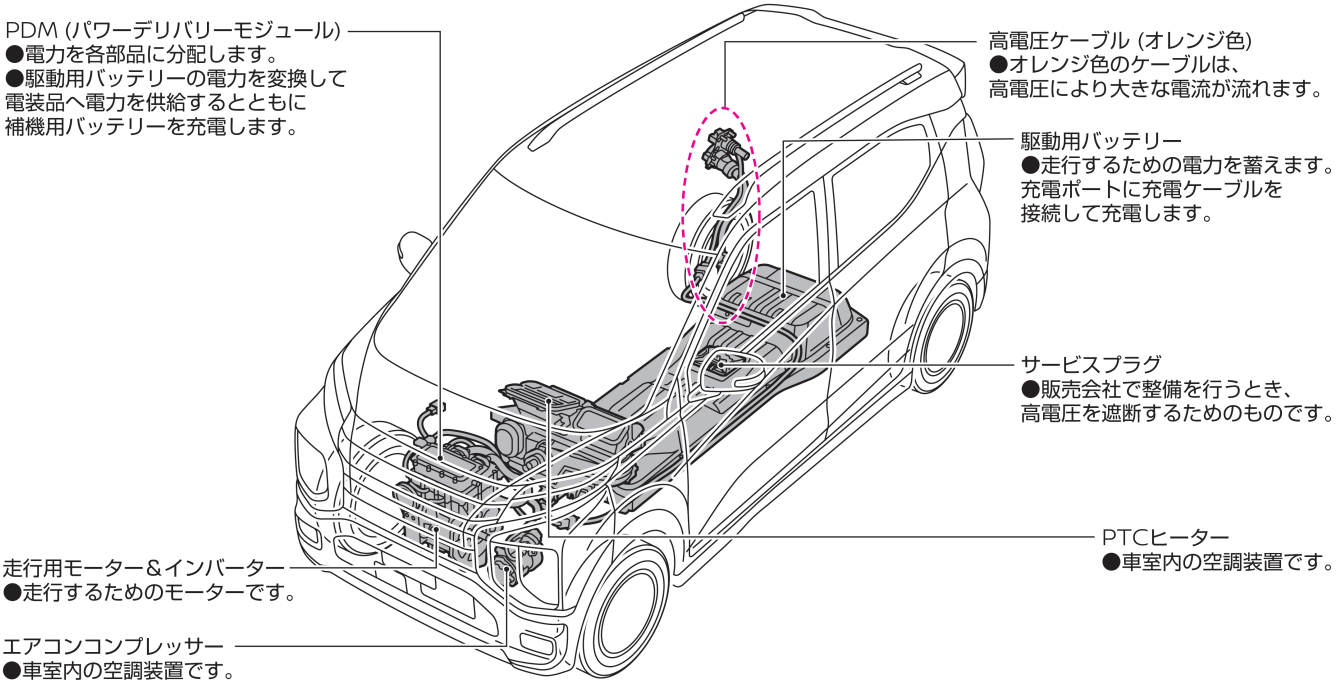
車両接近通報装置 [AVAS]

走行時の音がとても静かで通行人が車両の接近に気づきにくいため、警報装置が付いています。交差点などの徐行中に警報音が鳴り、通行人に車両の接近を知らせます。

➔車両接近通報装置[AVAS]（P.161）

高電圧部品について

電気自動車（EV）には高電圧部品が使われています。高電圧部品は高い電圧を使用していますので、分解や取り外しは絶対にしないでください。また、充電や走行した直後などに高温になることがあるため、手を触れないようにしてください。主な高電圧部品は次のとおりです。



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

電気自動車（EV）の取り扱いに関する注意事項

電気自動車（EV）を適切に取り扱うため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部位には触れない。**

  最大で約400Vの直流高電圧が使用されているため、高電圧ケーブルやコネクター、高電圧部品（走行用モーターや駆動用バッテリーなど）には触れないでください。感電すると生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。車両のパワーユニットルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

- **高温に注意する。**

  走行直後は走行用モーター、インバーターなど高電圧部品が高温になっている可能性があります。車両のパワーユニットルーム内に貼られているラベルの記載事項に必ず従ってください。

アドバイス

- 駆動用バッテリーの損傷を防止するため、次のことをお守りください。
  - ― 外気温が49℃以上の場所に24時間以上放置しない
  - ― 外気温が−25℃未満の場所に7日間以上放置しない
  - ― 駆動用バッテリー残量が0（ゼロ）か、ほぼ0（ゼロ）の状態で14日間以上放置しない
    ➔駆動用バッテリー残量計 (P.72)
- 車両を長期間使用しないときは、3か月に1回駆動用バッテリーを満充電にしてください。放置すると駆動用バッテリーを損傷するおそれがあります。
- 駆動用バッテリーは、不適切な方法で処分すると環境汚染につながります。廃車や駆動用バッテリーの処分については、三菱自動車販売会社にご相談ください。

電気自動車（EV）が事故にあったときの注意事項

事故が発生したときは、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れない。**

  高電圧部品および高電圧ケーブルの位置は、（➔P.15）を確認してください。

- **駆動用バッテリーから液漏れが見られる場合は、すみやかに三菱自動車販売会社に連絡する。**

  火災が発生するおそれがあります。

- **車室内や車外に液体が漏れているときは絶対に触れない。**

  万一、駆動用バッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときは、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。

- **走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷が無いか点検する。**

  床下に損傷が見られる場合は、絶対に触れずすみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

- **駆動用バッテリーや高電圧部品から火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れる。**

  火災を消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BCまたはCタイプ）を使用してください。消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ、水での消火も可能です。不適切な消火作業は危険なため、絶対に行わないでください。

- **けん引が必要なときは、前輪または4輪を持ち上げてけん引する。**

  けん引時に前輪が接地していると、走行用モーターが発電し、車両が損傷するおそれがあります。

けん引について (P.253)

- 事故などで車両が損傷した場合は、車両から離れ三菱自動車販売会社に連絡する。
- 事故などで車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、必ず三菱自動車販売会社に連絡する。

航続距離を延ばすためのポイント

航続距離は運転のしかた、道路状況、天候や気温、乗員数などに大きく左右されます。
次のようなことに気をつけると、1回の充電でより長い距離を走ることができます。

お出かけ前に

■ お出かけ前にエアコンを作動させ、車室内を快適な温度にする。

- 走行を始めてからのエアコンの消費電力を抑えられます。
- お出かけ前にエアコンを作動させるには、タイマーエアコン（➔P.20）またはリモートエアコン（タイマーエアコン）★、リモートエアコン（今すぐエアコン）★を使います。
  - リモートエアコン（タイマーエアコン）、リモートエアコン（今すぐエアコン）については、"https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/connect/"をご覧ください。

■ 消費電力が少ないルートを選択する。

- 上り坂の走行は航続距離に大きく影響するため、上り坂の少ないルートを選択すると電力を抑えられます。
  - スマートフォン連携ナビゲーション★で消費電力が少ないルートを検索することができます。詳しくは別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

■ 不要な荷物は積んだままにしない。

- 荷物を減らし、車両重量を軽くすることで、消費する電力を抑えられます。

■ 適切なタイヤ空気圧にする。

- タイヤ空気圧が低下していると、より電力が消費されます。
  ➔タイヤの点検項目 (P.306)

運転するときは

■ なめらかに発進、加速する。

- 急発進、急加速をすると、より電力を消費します。
- パワーメーター（➔P.71）で消費している電力を確認しながら加速することで、消費電力を抑えた加速ができます。

■ 車間距離に余裕を持ち、急ブレーキを極力避ける。

- 緩やかに減速すると、減速時に回生ブレーキによって発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 高速道路などでスピードを出しすぎない。

- スピードの出しすぎは、電力を無駄に消費します。

■ エアコンの設定温度を控えめにし、必要がなければこまめに OFF にする。

- エアコンによる余分な電力の消費を抑えられます。

■ 寒いときは、エアコンの代わりにシートヒーター★やステアリングヒーター★を使用する。

➔シートヒーター★ (P.245)
➔ステアリングヒーター★ (P.245)

- シートヒーターやステアリングヒーターは、エアコンに比べ消費電力が少ないため、使用する電力を抑えられます。

■ ECO モードで走行する。

➔ドライブモードセレクター (P.157)

- ECOモードを使うと、走行用モーターに供給する電力を抑えられます。

バッテリーを長持ちさせるためのポイント

駆動用バッテリーは使用していくうちに、徐々に容量（蓄電能力）が低下します。
次のようなことに気をつけると駆動用バッテリーを長持ちさせることができます。

充電するときは

■ 駆動用バッテリーを長持ちさせるため、充電するときは次のことに気をつける。

- 必要以上の頻繁な充電を避けることで、駆動用バッテリーを長持ちさせることができます。
- できるだけ急速充電を控え、普通充電またはV2H充電で充電してください。急速充電に比べて、普通充電またはV2H充電

で充電した方が駆動用バッテリーへの負担が少ないため、駆動用バッテリーを長持ちさせることができます。
➔ 充電の種類 (P.29)

駐車するときは

■ 駆動用バッテリーを長持ちさせるため、車両を保管するときは次のことに気をつける。

- 外気温が極端に高いまたは低い場所で車両を保管しないでください。温度変化により容量（蓄電能力）の低下が早まります。真夏は炎天下ではなく、なるべく日陰に駐車することで駆動用バッテリーを長持ちさせることができます。
- 駆動用バッテリーの残量が極端に低いまま放置しないでください。車両を長期間使用しないときは、3か月に1回程度は満充電にしてください。自然放電により充電量が徐々に低下するため、定期的な充電が必要です。

タイマー機能

充電やエアコンの作動をタイマー設定することができます。

タイマー充電

充電の開始時刻および停止時刻をあらかじめ設定することができます。

お客さまの契約している電気料金プランに合わせてタイマー充電を行うことで、電気料金の安い時間帯に充電することができます。

タイマー充電のしかた (P.36)

タイマーエアコン

お出かけ前に冷房または暖房を作動させることができます。

お出かけ前に車室内を快適な温度にしておくことで、走行を始めてからのエアコンの消費電力を抑えることができます。

タイマーエアコンの設定のしかた (P.131)

My MITSUBISHI CONNECT ★

車両から離れていてもお手持ちのスマートフォンで、駆動用バッテリー残量などを確認することができるアプリです。また、充電やエアコンの操作もできます。

詳しくは、"https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/connect/"をご覧ください。

駆動用バッテリー残量・充電状況の確認

■ 充電管理

●スマートフォンアプリから駆動用バッテリーの残量などを確認することができます。

■ プラグ挿し忘れ通知

●自宅など充電する場所を登録しておくと、登録した場所で充電ケーブルを接続し忘れたときや、充電ケーブルが根元まで確実に差し込まれていないときに通知する機能です。
設定方法については、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

充電・エアコンの操作

■ 今すぐ充電

●タイマー充電の開始時刻前であっても、離れた場所からスマートフォンアプリを使用して、すぐに充電を開始することができます。

■ リモートエアコン（タイマーエアコン）

●離れた場所からスマートフォンアプリを使用して、出発時刻と曜日の予約設定、温度設定をすることができます。

■ リモートエアコン（今すぐエアコン）

●離れた場所からスマートフォンアプリを使用して、出発前にエアコンを作動させることができます。

充電に関する注意事項

充電するときは、火災や感電事故などを防ぐため、次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、機器におよぼす影響について医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行う。（➲心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 (P.46)）**
- **異臭、煙、異音など充電中の異常、故障に気づいたときは使用を中止する。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。
- **雷が鳴ったら、車両、急速充電器、充電ケーブル（コントロールボックス付）★に触れない。**

  落雷により感電するおそれがあります。
- **ぬれた手でプラグを触ったり、抜き差ししたりしない。**

  感電のおそれがあります。
- **延長ケーブルや変換アダプターなどは絶対に使用しない。**

  火災ややけどのおそれがあります。
- **雨や雪の日での充電は次のことを必ず守る。**

  火災、感電、ケガ、やけどのおそれがあります。

  — 大雨などでコンセント周辺が浸水するおそれがあるときは、充電専用のブレーカーを落としてください

  — 万が一、充電ポートキャップ裏や内部が濡れた場合はふき取ってから充電を行ってください
- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★の分解、修理、改造は絶対に行わない。**

  火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。
- **コードやケーブルを引っぱる、ねじる、折り曲げる、踏みつける、引きずるなどの行為をしない。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **コードやケーブルを充電コネクタやコントロールボックスなどに巻きつける行為をしない。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **プラグの本体部分を持ってコンセントに対してまっすぐに根元まで確実に差す。**

  確実に差さないと異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **コードを引っ張ってプラグを抜かない。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **深い傷、割れ、破損、プラグが錆びているときなどの異常、故障時には使用しない。**

  火災や感電のおそれがあります。
- **プラグやコードを動かすと通電しなかったり、充電中に時々停止したりするときはただちに使用を中止する。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **異臭、煙、異音など充電中の異常、故障に気づいたときはただちに使用を中止する。**

  コードやケーブルの断線によって異常発熱し、発火するおそれがあります。
- **電気工事の資格を持つ専門の業者が施工したEV専用コンセントを使用する。**

  正しく使用しないと感電のおそれがあります。
- **内線規程に準拠したアースがつながっているEV専用コンセントを使用する。**

  正しく使用しないと感電のおそれがあります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

充電に関する注意事項

⚠ 警告

- **コンセントの差し込みがゆるいとき、プラグがコンセントにロックされないとき、またはコンセント側に破損や変色などがある場合は使用しない。**

  異常発熱し、発火するおそれがありますので、電気工事の資格を持つ専門の業者へ、コンセントの確認を依頼してください。

- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★の定格電圧/電流（充電ケーブルのラベルに記載）に対して建屋側のコンセントや配線の容量が十分であるか確認する。**

  建屋側の容量を超えて使用すると、配線が異常発熱し、発火するおそれがあります。

- **建屋配線の容量が不明な場合、電気工事士に確認する。**
- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★は日本国内でのみ使用する。**

⚠ 注意

- **子供だけで使わせない。**

  重大な事故につながるおそれがあります。

- **充電中は、ボンネットを開けない。**

  パワーユニットルーム内の冷却用ファンが突然回転し始め、手足や衣類・アクセサリー類などが接触したり、巻き込まれたりするおそれがあります。

- **充電するときは、充電コネクタが根元まで差されていることを必ず確認する。**

  充電コネクタが根元まで差されていないと、車両が充電コネクタを認識できずパワーユニットを始動できてしまうため、車両が発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★を落下させない、強い衝撃を与えない、または水没させない。**

  火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。

- **プラグや充電コネクタへ異物を挿入したり、定格以外のコンセントに接続したりしない。**

  火災や感電などの重大な傷害につながるおそれがあります。

- **充電ケーブル（コントロールボックス付）★を保管するときは次のことに気をつける。**
  - ― 直射日光を避けて保管してください
  - ― 雨風にさらされないように保管してください
  - ― 充電コネクタの端子部にゴミ、ホコリが入らないようキャップをして保管してください
  - ― コードやケーブルをコントロールボックスに巻き付けて保管しないでください
  - ― コードやケーブルがねじれたままで保管しないでください

アドバイス

- 充電ポート、充電ケーブル（コントロールボックス付）★に強い衝撃を与えないでください。
- 駆動用バッテリーを充電しながら、補機用バッテリーにブースターケーブルを接続しないでください。車両または充電機器が破損するおそれがあります。
- 車両にボディーカバーをかけたまま充電しないでください。
- 発電機を使用した充電は絶対にしないでください。
- 充電前に、充電ポート･充電コネクタ･プラグ部分に水分･腐食･異物･損傷がないことを確認してください。異物や損傷がある場合は充電を行わず、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 充電ポートに充電コネクタ以外のものを差し込まないでください。充電ポートが破損するおそれがあります。

充電に関する注意事項

アドバイス

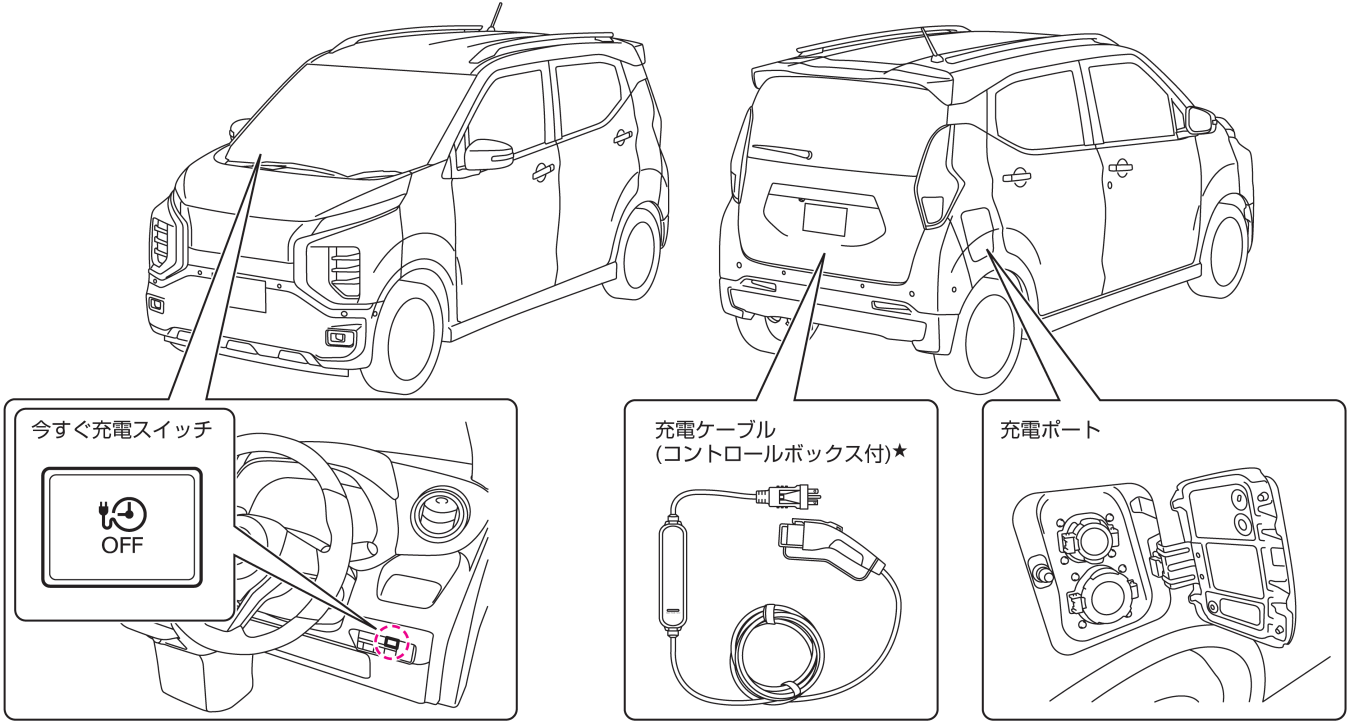
- 充電ポートが凍結したときは、ドライヤーなどで解凍してから充電コネクタの接続または取り外しを行ってください。
- 充電終了後は、充電ポートのキャップを必ず閉めてください。キャップを閉めずに充電リッドを閉めると、充電ポートに水やゴミが入り故障の原因となります。

- 急速充電と普通充電のコネクタを同時に接続すると、充電できません。
- 充電コネクタ接続中はREADY（走行可能）表示灯［ ］を点灯させることはできません。
- 充電中は、電磁波によりラジオが聞こえにくくなることがあります。
- 充電にかかる時間は、次の状態によって異なります。
  - 充電を開始したときの駆動用バッテリーの残量
  - 駆動用バッテリーの温度
  - 使用する充電機器の種類または接続する電源
  - 駆動用バッテリーの使用年数
  - エアコンなど電力を消費するものの使用状況
  - 駆動用バッテリークーラーの作動状態
- 充電時に冷却水ポンプおよび冷却ファンが作動することがありますが、異常ではありません。

充電に関する装備

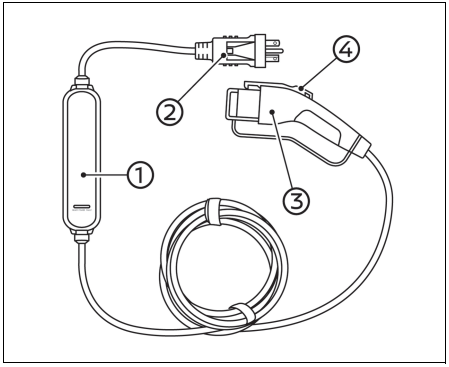
充電装備と名称

この車両はガソリンスタンドで給油する代わりに、自宅などで各種充電器や充電ケーブルと充電ポートを使って充電します。
それぞれの機能の説明は、次ページ以降をお読みください。



充電ケーブル（コントロールボックス付）★

充電ケーブル（コントロールボックス付）の各部の名称



① **コントロールボックス**
表示灯で充電の状態などを知らせます。

② **プラグ**
AC200Vの電源に接続します。

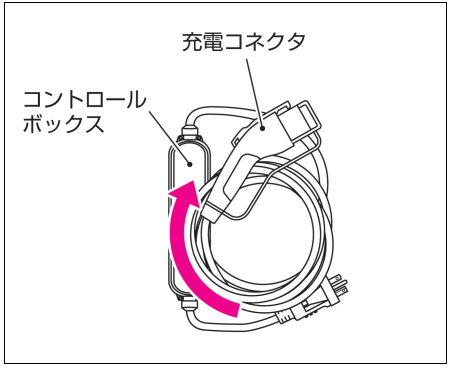
③ **充電コネクタ**
車両の普通充電ポートに接続します。

④ **リリーススイッチ**
車両から充電コネクタを抜くときに押します。

充電ケーブル（コントロールボックス付）の収納のしかた

⚠ 注意

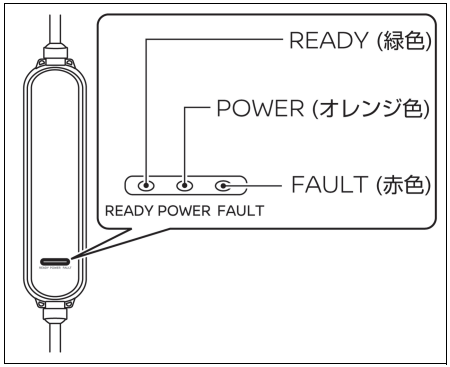
● **充電ケーブル（コントロールボックス付）を車載するときは必ずラゲッジフロアボードの下に収納する。**
充電コネクタやコントロールボックスなどが飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。



●充電ケーブル（コントロールボックス付）はラゲッジフロアボードの下に収納します。

●収納するときは、コントロールボックスの表示部を上面にして、コントロールボックスに対して時計周りにケーブルを巻いて収納します。時計周りに収納することで、充電ケーブルを長持ちさせることができます。

コントロールボックスの表示灯について



充電ケーブルのコントロールボックスには、充電の状態などを知らせる表示灯があります。

●正常なときは、プラグを電源に接続すると、緑色のランプ（READY）が点灯します。（接続直後は一度すべてのランプが点灯し、すぐに消灯します。）

●充電中は、緑色のランプ（READY）と同時にオレンジ色のランプ（POWER）が点灯します。

●次のようなときは、すみやかに充電ケーブルの使用を中止し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
— プラグを電源に接続しても、コントロールボックスの表示灯が3つとも点灯しない
— いずれかの表示灯が点滅している

― 赤色のランプ（FAULT）が点灯している

表示灯の点灯パターン			説明・対処方法
READY (緑色)	POWER (オレンジ色)	FAULT (赤色)	
●	○	◎	充電ケーブルのプラグをコンセントに接続したときに、毎回0.5秒間すべての表示灯が点灯します。
●	● (消灯)	● (消灯)	充電ケーブルが車両に未接続で、コンセントに接続されている状態です。 または、車両に接続されており、普通充電が完了・タイマー充電がセットされている状態です。
✹ (点滅)	● (消灯)	● (消灯)	充電ケーブルまたはコンセントが故障し、アースが取れていないことを示します。 お使いのコンセントの施工業者に連絡し、点検を受けてください。
●	☼ (点滅)	● (消灯)	
●	○	● (消灯)	車両に電力が供給されていることを示します。(充電中など)
●	● (消灯)	☼ (点滅)	漏電、または信号線に異常が発生していることを表しています。 ただちに使用を中止し、三菱自動車販売会社へご連絡ください。
●	☼ または ● (点滅)　(消灯)	◎	充電ケーブルが故障しています。 すみやかに使用を中止し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
✹ (点滅)	☼ または ● (点滅)　(消灯)	◎	プラグの温度検知ができなくなっていることを示します。安全のため充電電流を制限しています。 すみやかに使用を中止し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
✹ (点滅)	☼ または ● (点滅)　(消灯)	☼ (点滅)	プラグの温度が高くなっていることを示します。安全のため充電電流を制限しています。 一度プラグを抜き、しばらく経ってから再度接続してください。それでも表示が続く場合は、 すみやかに使用を中止し、お使いのコンセントの施工業者に連絡して点検を受けてください。 それでも解決しない場合は、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
● (消灯)	● (消灯)	● (消灯)	コンセントのブレーカーがOFFになっているか、充電ケーブルが故障しています。 ブレーカーがONになっているにもかかわらず、プラグをコンセントに接続しても表示灯が点灯しないときは、すみやかに使用を中止し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
●	☼ (点滅)	☼ (点滅)	コンセント電圧の異常を検知しています。安全のため充電電流を制限しています。 お使いの充電ケーブルの定格電圧 (100V／200V仕様) にあったコンセントに接続してください。

今すぐ充電スイッチ

タイマー充電を設定しているとき、キャンセルしてすぐに充電を開始したいときに使用します。

タイマー充電については、（P.36）をお読みください。

今すぐ充電スイッチの使いかた

タイマー充電の設定を一時的にキャンセルし、すぐに充電を開始したいときは、＜今すぐ充電スイッチ＞を押します。

今すぐ充電のしかた (P.32)

知識

- 充電ケーブルを接続してから＜今すぐ充電スイッチ＞を押すと、すぐに充電を開始します。
- ＜今すぐ充電スイッチ＞を押してから約15分以内に充電ケーブルを接続すると、すぐに充電を開始します。
- 充電ケーブルを接続する前に、再度＜今すぐ充電スイッチ＞を押すと、今すぐ充電をキャンセルすることができます。

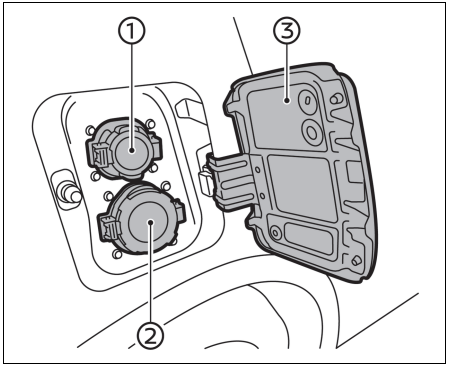
充電ポート

充電を行うとき充電ケーブルを接続する場所です。

アドバイス

- 充電ポート周辺の雪や泥、水分などを除去するときは、充電ポートキャップを閉めた状態で行ってください。
- 充電リッド周辺が凍結して開閉できないときは、無理に動かそうとはせず、必ず解凍してから開閉してください。
- 充電ポートには排水用の穴があります。この穴が詰まるなどして充電ポート内に水がたまったときは、充電を行わずに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

充電ポートの各部の名称



① **普通充電ポート**

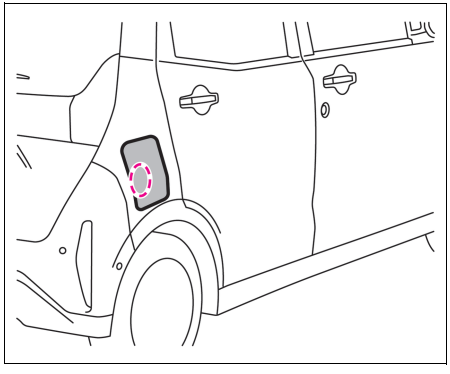
② **急速充電ポート**
急速充電、V2H充電／V2H給電、V2L給電のときに使用します。

③ **充電リッド**

充電リッドの開けかた、閉めかた

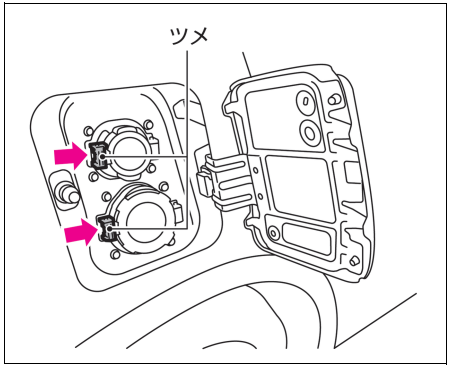
アドバイス

- 走行する前に、充電リッドが完全に閉まっていることを確認してください。充電リッドが閉まっていないと、走行中にリッドが突然開いて車両を破損するおそれがあります。
- 充電リッドを閉めるときは、充電ポートキャップが確実に閉まっていることを確認してください。



1. リッドを開けます。リッドの車両後方側中央部あたり（イラストの点線部分）を押すとリッドが少し開きま

す。開いたすき間に手を入れて全開します。



2. 使用する充電ポートキャップに付いているツメを押して、充電ポートキャップを開きます。（急速充電ポート：下側、普通充電ポート：上側）

3. 閉めるときは、充電ポートキャップを確実に閉めてから、充電リッドを押して閉めます。

充電ポート照明

●充電ポートには照明がついています。次のようなときに点灯・消灯します。

充電を開始するとき

●充電リッドを開けるとしばらく点灯します。消灯後に再度点灯させたいときは、充電リッドを一度閉めてから開けます。

●充電コネクタを接続すると、間もなく消灯します。

●充電ポート照明が点灯中に充電リッドを閉めても、充電ポート照明は点灯し続けます。

充電を終了するとき

●充電ケーブルを取り外すと点灯し、しばらくすると消灯します。

駆動用バッテリークーラー

駆動用バッテリークーラーについて

●駆動用バッテリーの温度が高くなると、加速力の低下や急速充電時間が長くなる原因となります。

●駆動用バッテリーの温度が高くなる原因は、主に高速道路の連続走行や急速充電、またそれらを繰り返して行う場合に起こりやすくなります。

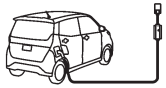
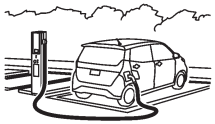
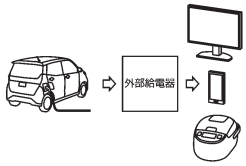
●駆動用バッテリークーラーは、走行中や急速充電中などにバッテリー温度が高くなると自動的に作動し、出力制限や充電制限が働かない温度に保つため、途中で急速充電を行いながら長距離の走行を行うときなどに有効な機能です。

●駆動用バッテリークーラーが作動すると、通常の走行時よりも電力を消費し、通常の走行時より電費の悪化や航続距離が低下します。不必要な加減速を控え、適切な速度で走行してください。

●外気温が0℃近くまで下がると、駆動用バッテリークーラーが作動しないことがあります。
バッテリー温度が上がったときは、➔パワーダウン警告灯が点灯したときは (P. 263)をお読みください。

充電の種類

充電の種類には普通充電、急速充電、V2H充電などがあります。雨や雪の中でも充電できますが、感電や漏電を防止するため、注意事項（➔P.21）を必ずお読みください。充電インフラ工事の詳細については、三菱自動車販売会社にお問い合わせください。V2Hの詳細については、各V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。

		普通充電 2.9kW (AC 200V)※1	急速充電 : ～30kW※2	V2H充電／給電 3～10kW程度	V2L給電 1.5～9kW程度
					
充電ポートの種類		普通充電ポート (上側)	急速充電ポート (下側)		
充電器の形状	コンセント型	○	-	-	-
	壁掛型	○	-	○	-
	スタンド型・ポール型	○	○	○	-

※1：2.9kWより高出力な充電器で充電した場合、最大充電電力が2.9kWに制限されます。
※2：30kWより高出力な充電器で充電した場合、最大充電電力が30kWに制限されます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

普通充電

主に自宅の電源（コンセント）に充電ケーブル（コントロールボックス付）★を接続して充電する日常的な充電を「普通充電」といいます。

普通充電には、次の2種類の充電方法があります。

■ 今すぐ充電

- 充電ケーブルを接続するだけで、すぐに充電を開始できます。（➔P.32）
- スマートフォン連携ナビゲーション装着車は、タイマー充電の開始時刻前であっても、離れた場所からスマートフォンアプリを使用して、すぐに充電を開始することができます。
  詳細については、“https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/connect/”をご確認ください。

■ タイマー充電

- 充電を行う時間帯をあらかじめ設定しておくことができます。（➔P.36）

普通充電にかかる時間は、駆動用バッテリーの温度、充電状態、経年数、接続した電源の状態、エアコンなど電力を消費するものの使用状況などにより異なります。

- AC100V用充電ケーブル（この車種専用の100V充電ケーブルは販売しておりません）を使用すると、AC100V電源からでも充電することができますが、AC200V電源での充電に比べると充電時間が長くなります。

急速充電

外出先などに設置された急速充電器を使用し、短時間で行うことができる充電を「急速充電」といいます。

この車両は、CHAdeMO※1（チャデモ）仕様の急速充電器を使用してください。

➔急速充電のしかた (P.34)

※1：CHAdeMOとは、日本発の電気自動車用急速充電規格です。

- 急速充電器は充電能力（最大充電電力：kW）の違いにより充電の速さに違いが現れます。そのため、充電時間が短い場合は、充電終了後の駆動用バッテリー充電量に違いが現れる場合があります。
- この車両は最大30kWの急速充電に対応しています。（30kWより高出力な充電器で充電した場合、最大充電電力が30kWに制限されます。）
- 急速充電器の利用料金については、急速充電器が設置されている店舗または急速充電器の管理者にお問い合わせください。

急速充電の注意事項

⚠ 警告

- **必ずCHAdeMO（チャデモ）仕様の急速充電器を使用する。**
  対応していない急速充電器を使用すると、火災や故障などのおそれがあります。

アドバイス

- 急速充電は、必ず急速充電器本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両または急速充電器を破損するおそれがあります。

急速充電にかかる時間

バッテリー温度計の表示	20kWh仕様 (30kW充電器)
	駆動用バッテリーの温度が極端に低いときは、充電できない場合があります。
	約40～60分
	約40分
	約40分
	45分以上

- 急速充電にかかる時間は、駆動用バッテリーの温度により大きく変化します。
- 上の表は、駆動用バッテリー温度計の目盛りを基準に、メーター内の駆動用バッテリー残量警告灯［ ］が点灯してから充電量80%までにかかる充電時間の目安です。（駆動用バッテリー温度計はメーターのマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。）
- 急速充電にかかる時間は、駆動用バッテリーの温度以外にも、充電状態、経年数、外気温、接続した急速充電器の種類により異なります。
- 高出力急速充電器の最大充電電力は30kW程度になります。
- バッテリー温度が極端に低いときは充電が開始されず時間がかかることがあります。

V2H 充電／ V2H 給電

アドバイス

- 「V2H充電」および「V2H給電」は、必ずV2H本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両またはV2H本体を破損するおそれがあります。
- V2Hに接続した状態で、家電などへの給電がない場合でも、バッテリー保護のため、駆動用バッテリークーラーが稼働することがあります。この動作によりバッテリー充電量が低下することがあります。
- 停電時、V2Hを起動させるための制御用電源供給機能があります。急速充電コネクタを接続すると、V2H起動用電源を急速充電コネクタからV2Hへ供給することができます。急速充電コネクタ接続後V2Hが起動しなかった場合、5分後にV2H制御用電源を供給停止しますが、一度急速充電コネクタを引き抜いてから再度接続するとV2H制御用電源供給を再開します。
- V2Hの種類により停電時の起動方法が異なります。詳細はV2Hの取扱説明書をご確認ください。

- 急速充電と同じCHAdeMO仕様の急速充電コネクタを使い3～10kW程度の双方向充電を行うものを、「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H本体

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

から車両へ充電を行うことを 「V2H充電」 、V2H本体を経由して車両から自宅へ電力供給することを 「V2H給電」といいます。

●V2Hの詳細については、各V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。

V2L 給電

アドバイス

- 「V2L給電」は必ずV2L本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両またはV2L本体を破損するおそれがあります。
- 急速充電コネクタを接続すると、V2L起動用電源が急速充電コネクタからV2Lへ供給されます。急速充電コネクタ接続後V2Lが起動しなかった場合、5分後にV2L制御用電源を供給停止しますが、一度急速充電コネクタを引き抜いてから再度接続するとV2L制御用電源供給を再開します。
- V2Lの種類により起動方法が異なります。詳細はV2Lの取扱説明書をご確認ください。
- V2L給電を行わずに長時間接続したまま放置すると、補機用バッテリーが消耗するおそれがあるため、ご注意ください。

●急速充電と同じCHAdeMO仕様の急速充電コネクタを使い1.5～9kW程度の給電を行うものを、「V2L（ヴィーツーエル）」といいます。V2L本体を経由して車両から家電などへ電力供給することを「V2L給電」といいます。

●V2Lの詳細については、各V2Lメーカーのカタログなどをご確認ください。

●アクセサリーソケットを使うお客様はACC状態（ACC電源オートオン/オフ機能）でお使いください。
➔ACC電源オートオン/オフ機能 (P.139)

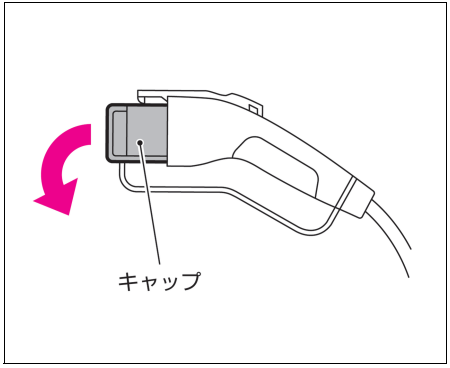
普通充電のしかた

すぐに充電を開始するときは、次の手順に従ってください。充電する時間帯を設定できるタイマー充電については、（➔P.36）をお読みください。

今すぐ充電のしかた

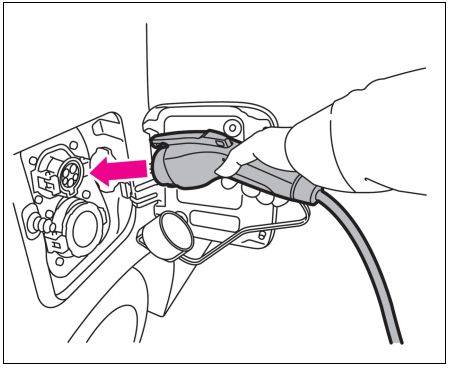
1. ＜パワースイッチ＞がOFF以外のときは、充電を開始できません。OFFになっていることを確認します。
2. ラゲッジルームから充電ケーブル（コントロールボックス付）★を取り出し、プラグをコンセントに接続します。

●充電ケーブル（コントロールボックス付）★のコントロールボックスの穴にひもなどを通し、コントロールボックスを壁に掛けることができます。



※車種により形状が異なります。

3. 充電コネクタのキャップを外します。
4. 充電リッドを押し、充電リッドを開けます。
（充電ポートの照明は、充電リッドを開けると、しばらく点灯します。）
➔充電リッドの開けかた、閉めかた (P.27)
5. 普通充電ポートのキャップを開けます。（キャップはツメを押すと開きます。）

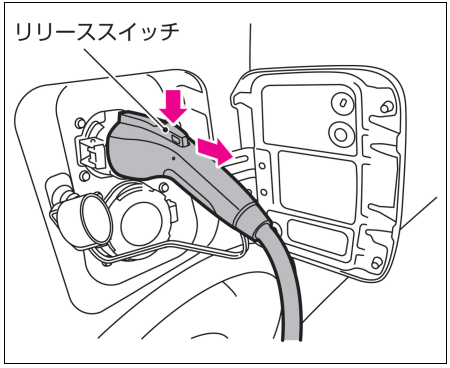


6. 充電コネクタを"カチッ"と音がするまで差し込みます。
正常に接続されると、ブザーが1回鳴ります。
また、充電ポートの照明が自動的に消灯します。

●車両の状態によりブザーが鳴らないときがありますが、異常ではありません。

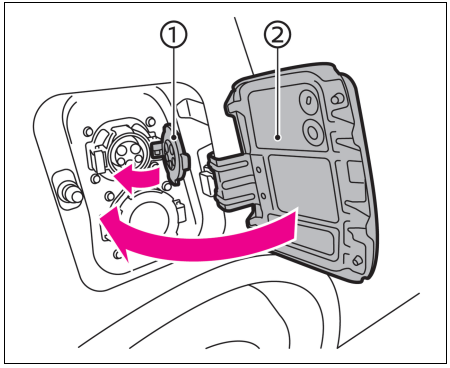
●タイマー充電を設定しているときは、＜今すぐ充電スイッチ＞を押すかスマートフォンアプリで今すぐ充電★を開始してください。これにより、タイマー充電の設定を一時的にキャンセルし、今すぐ充電が可能になります。

7. 正常に充電が開始されるとブザーが2回鳴ります。



●充電中はメーター内の充電表示灯が点滅します。また、充電ケーブルのコントロールボックスの緑色のランプ（READY）とオレンジ色のランプ（POWER）が点灯します。
充電が完了すると充電表示灯が点滅から点灯に切り替わり、コントロールボックスのオレンジ色のランプ（POWER）が消灯します。
充電表示灯（➔P.75）
コントロールボックスの表示灯について（➔P.25）

8. 充電を終了するときは、充電コネクタのリリーススイッチを押しながら、充電ポートから充電コネクタを引き抜きます。



9. 充電ポートのキャップ①を閉めてから、充電リッド②を閉めます。
プラグをコンセントから抜き、充電ケーブル（コントロールボックス付）★を元の場所に格納します。

●充電中は、＜パワースイッチ＞をONにしてエアコンなどを使用できますが、駆動用バッテリーの電力が消費されるため、充電時間は通常よりも長くなります。

●充電中に＜パワースイッチ＞をOFFにするときは、ブレーキペダルを踏まずに＜パワースイッチ＞を押してください。

●充電中に充電コネクタを外すと充電を中断できます。

●充電ポートの照明が消灯しているときに普通充電コネクタを引き抜くと、充電ポートの照明がしばらく点灯したあとに消灯します。

急速充電のしかた

急速充電器およびV2Hを利用するときは、次の手順に従ってください。

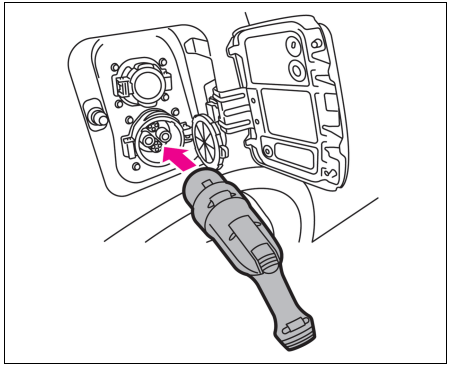
充電器は種類によって操作方法が異なるため、充電器本体の取り扱い方法を必ずご確認ください。

急速充電のしかた

1. ＜パワースイッチ＞がOFF以外のときは、充電を開始できません。OFFになっていることを確認します。

2. 充電リッドを押し、充電リッドを開けます。
充電リッドの開けかた、閉めかた (P.27)

3. 急速充電ポートのキャップを開けます。
（キャップはツメを押すと開きます。）



4. 充電器本体の手順に従い、急速充電コネクタを充電ポートの溝に合わせて根元まで確実に差し込み固定します。

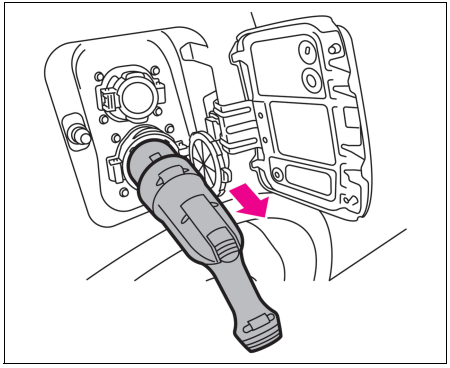
アドバイス

- 充電時は、必ず充電器本体の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両または充電器を破損するおそれがあります。

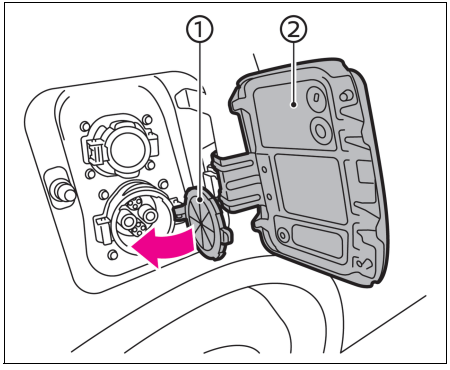
- 充電にかかる時間は、充電器の種類により異なります。
- 急速充電器本体の手順に従い、急速充電コネクタを差し込むときは、充電ポートの溝に合わせて根元まで確実に差し込み固定します。

5. 充電器本体の手順に従い、充電を開始します。

6. 正常に充電が開始されるとブザーが2回鳴ります。メーター内の充電表示灯が点滅していることを確認します。



7. 充電が停止したら、充電ポートから急速充電コネクタを引き抜きます。



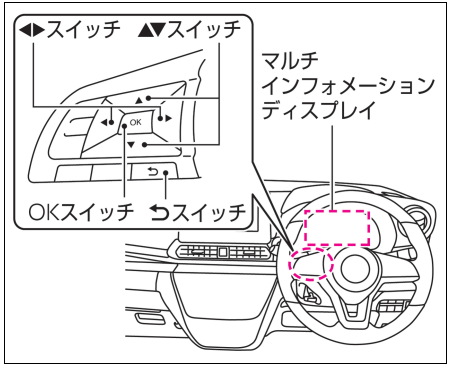
8. 充電ポートのキャップ①を閉めてから、充電リッド②を確実に閉めてください。

- 充電器の最大充電時間を経過したときに、満充電になる前に停止することがあります。（一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されていることがあります）
- 満充電になる前に充電が停止したときは、再度充電器の開始スイッチを押すと充電を再開できます。
- 急速充電にかかる時間は、外気温などの影響で変化します。
- 充電器本体に、車両の駆動用バッテリー残量や容量の数値（kWh）が表示される場合、実際の値とは異なる場合があります。
- 充電ポートの照明が消灯しているときに急速充電コネクタを引き抜くと、充電ポートの照明がしばらく点灯したあとに消灯します。

タイマー充電のしかた

充電する時間帯を設定することができます。
次の手順に従ってください。
お客さまが契約している電気料金のプランに合わせて、電気料金の安い時間帯に充電できます。

タイマー充電の設定のしかた



1. ステアリングスイッチの< ◀▶ >スイッチを数回押し、マルチインフォメーションディスプレイに設定画面を表示し<OK>スイッチを押します。

2. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［EV設定］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。

3. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［タイマー充電1］または［タイマー充電2］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。
時刻は2種類設定することができます。

4. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［タイマー］を選択し、<OK>スイッチを押してONにします。

5. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［開始時刻］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。

6. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで「時」を設定し、< ◀▶ >スイッチを押します。

7. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで「分」を設定し、<OK>スイッチを押します。
設定時間は10分単位で切り替わります。

8. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［停止時刻］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。

9. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで「時」を設定し、< ◀▶ >スイッチを押します。

10. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで「分」を設定し、<OK>スイッチを押します。
設定時間は10分単位で切り替わります。

11. スマートフォン連携ナビゲーション非装着車は、［曜日］の設定がありません。手順14に進みます。スマートフォン連携ナビゲーション装着車は曜日を選択します。ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［曜日］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。下線表示されている曜日が現在の曜日になります。

12. 日曜日から土曜日までそれぞれON･OFFを選択します。ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで曜日を選択し、<OK>スイッチを押してON･OFFを選択します。

13. 曜日を選択後、< ⮌ >スイッチを押します。 現在選択されている曜日が白く点灯します。

14. <パワースイッチ>をOFFにし、充電ケーブルを接続します。充電ケー

ブルの接続方法は、普通充電のしかた（➔P.32）をお読みください。
※設定した時刻に自動的に開始されます。

- ［自宅でタイマー充電］がONの場合は、自宅で普通充電をするときのみ、タイマー充電になります。➔自宅でタイマー充電モード★について (P.37)をお読みください。
- タイマーをOFFにすると予約が解除されます。予約を解除しても設定した時刻、曜日は消去されません。再度タイマーをONにすると、現在の設定条件で予約することができます。
- タイマー充電中に設定を変更すると、変更した内容に従って充電を開始または待機状態になります。
- 開始時刻から停止時刻の時間帯のみ充電を行うため、充電が完了しないことがあります。
- 駆動用バッテリークーラーが作動しているときは、お客さまが予想された充電量に到達するまでの充電時間が長くなる場合があります。
- V2H充電を行う場合、充電器本体がタイマー機能を持っている機種がありますので、詳細については各充電器メーカーのカタログなどをご確認ください。
- V2Hの詳細については、各V2Hメーカーのカタログなどをご確認ください。
- V2H充電の充電ケーブルの接続方法は、急速充電のしかた（➔P.34）をお読みください。

今すぐ充電のしかた

- タイマー充電の予約がされているときは、タイマー充電開始時刻まで充電を待機します。この状態ですぐに充電を行いたい場合は、次のいずれかの方法で今すぐ充電を行います。
  - 充電ケーブルを接続した状態で、スマートフォンアプリで今すぐ充電★を実行する
  - ＜今すぐ充電スイッチ＞を押す（➔P.27）
- 自宅での充電のみタイマー充電がON（自宅以外での場所では今すぐ充電）になる設定ができます。➔自宅でタイマー充電モード★について (P.37)をお読みください。

自宅でタイマー充電モード★について

- スマートフォン連携ナビゲーション★で自宅を登録し、［自宅でタイマー充電］をONにすると、自宅で普通充電をするときのみ、タイマー充電になります。
  マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［EV設定］⇒［自宅でタイマー充電］を選択すると、自宅でタイマー充電モードのON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、EV設定をお読みください。
  ➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ➔EV設定 (P.90)
  自宅の登録方法については、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。
- 自宅以外の場所で普通充電をするときは、今すぐ充電に自動的に切り替わります。

満充電優先モードについて

- ［満充電を優先］をONにすると、タイマー開始時刻からタイマー停止時刻の設定時間帯だけでは満充電にならない場合、充電開始時刻を早めて充電を開始します。
  また、停止時刻で満充電にならなかった場合、満充電になるまで充電を継続します。
  マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［EV設定］⇒［タイマー充電1］または［タイマー充電2］⇒［満充電を優先］を選択すると、満充電優先モードのON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、EV設定をお読みください。
  ➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ➔EV設定 (P.90)
- ［満充電を優先］をONにした場合、タイマーエアコンの作動状況や充電所要時間（推定）のずれなどにより、充電停止時刻で満充電にならないことがありま

す。その場合は、満充電まで充電を継続します。

- 満充電優先モードがONのときは、タイマー設定時間帯を越えて充電される場合があるため、お客さまの契約状況により電気料金の高い時間帯に充電される場合があります。
- 普通充電器（壁掛型）の種類によっては、充電電力が可変に制御されるものがあり、その場合は充電所要時間（推定）が正確に見積もれないため、満充電優先モードがONのときは、タイマー設定時間帯から外れて充電される場合があります。

充電で困ったときは

充電ができないときの対処方法

充電の作業中に困ったときは次のことをご確認ください。
これらを確認しても問題が解決できないときは、車両または充電機器の故障のおそれがあるため、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

症状	原因	対処方法
充電が全くできない	補機用バッテリーがあがっている	<パワースイッチ>を ON にしてもメーターなどが点灯しない場合は、補機用バッテリーがあがっている可能性があります。補機用バッテリーを充電または交換してください。
	駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低い	メーターの駆動用バッテリー温度計（➔P.79）を確認してください。駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低いときは、充電できない場合があります。

充電で困ったときは

症状	原因	対処方法
普通充電ができない	<パワースイッチ>が ON になっている	<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>を OFF にしてください。
	コンセントまで電気がきていない	漏電遮断器が作動していたり、停電していたりしていないか確認してください。 ● 電源にタイマー機能がついている場合は、電源に設定されている時間帯まではコンセントに電気がきていないものがあります。 ● 立体駐車場の場合、駐車パレットが完全に格納されるまでの間やエレベーターの作動中は、電気が遮断されるものがあります。
	コンセント側のアースが正しく接続されていない	三菱自動車が推奨する充電インフラ工事仕様に準拠したアース設置工事が行われているか確認してください。 充電ケーブル（コントロールボックス付）★は、コンセントに接続したときにアースの接続を自動的に確認しています。このため、コンセント側のアースが正しく接続されていない場合、表示灯が点滅し充電が開始しません。
	プラグがコンセントに正しく接続されていない	プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
	充電コネクタが正しく接続されていない	充電コネクタが正しく接続されているか確認してください。
	三菱自動車が推奨している配線ではない	充電設備が三菱自動車の推奨している仕様（配線の太さと長さ、ブレーカーなどの設定値、EV 専用コンセント）ではない場合、充電できない、または充電が途中で止まる場合があります。その場合は、別の充電設備で充電してください。
	他の車種の普通充電ケーブルを使用している。	eK X EV 専用の普通充電ケーブルを使用してください。
今すぐ充電ができない	タイマー充電が設定されている	<今すぐ充電スイッチ>を押すか、タイマー充電を解除してから充電を開始してください。

充電で困ったときは

症状	原因	対処方法
タイマー充電ができない	充電ケーブルを接続し忘れている	充電ケーブルを接続し、充電を行ってください。
	時計がずれている	時計の時刻を正しく調整してください。 スマートフォン連携ナビゲーション装着車は自動で時刻を調整しますが、補機用バッテリーの脱着をしたあとは GPS との通信が行われるまでの間、時刻が設定されません。
	タイマー充電の予約が設定されていない	タイマー充電が設定されていないときは、今すぐ充電が開始されます。タイマー充電の時刻および曜日を設定してください。
	現在時刻がタイマー開始時刻より前か、タイマー停止時刻を過ぎている	タイマー充電の設定時刻と現在の時刻を確認し、状況に応じて時刻を設定し直すか今すぐ充電を行ってください。
	＜今すぐ充電スイッチ＞が押されている	開始した今すぐ充電をキャンセルしたいときは、一度充電コネクタを取り外し、再度接続してください。タイマー充電待機状態に切り替わります。
スマートフォンアプリで今すぐ充電★ができない	充電ケーブルが接続されていない	あらかじめ充電ケーブルを接続してください。
	スマートフォンから車両に通信ができていない	スマートフォンが通信圏外になっていないか確認してください。
	車両が通信圏外にある	通信圏内に移動してください。
	リモート機能が OFF になっている	2 週間以上＜パワースイッチ＞が OFF のままだと、リモート機能は自動的に OFF になります。一旦＜パワースイッチ＞を ON にしてください。
普通充電が途中で止まってしまう	コンセントまで電気がきていない	充電中に漏電遮断器が作動したり、停電が起きたりしたおそれがあります。この場合、電力が復帰すると自動的に充電が再開されます。
	充電ケーブルが抜けている	充電ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
	充電コネクタのリリーススイッチが押されている	充電コネクタのリリーススイッチが押されていないことを確認してください。
	タイマー充電の停止時刻になった	タイマー充電は満充電まで充電できていなくても設定された停止時刻になると充電が停止します。状況に応じて、時刻を設定し直すか、今すぐ充電を行ってください。
	駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低い	メーターの駆動用バッテリー温度計（➔P.79）を確認してください。 駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低いときは、充電できない場合があります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

充電で困ったときは

症状	原因	対処方法
急速充電または V2H 充電ができない	急速充電コネクタが正しく接続されていない	急速充電コネクタを一度抜き差ししてから、急速充電コネクタが正しく接続され、ロックがかかっていることを確認してください。
	充電器のセルフチェック機能で NG になった	充電器本体、または車両故障の可能性があります。ただちに充電を停止し、充電器メーカー、または三菱自動車販売会社へお問い合わせください。
	充電器の電源が OFF になっている	充電器の電源が ON になっていることを確認してください。
	<パワースイッチ>が ON になっている	<パワースイッチ>を押して、<パワースイッチ>を OFF にしてください。
急速充電または V2H 充電が途中で止まってしまう	充電器のタイマーにより終了した	充電器本体には、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されていることがあります。その場合、一定時間経過すると充電が停止します。さらに充電したいときは、もう一度充電開始操作を行ってください。
	充電器の電源が何らかの理由で OFF になってしまった	充電器に異常がないか確認してください。
	駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低い	メーターの駆動用バッテリー温度計（➔P.79）を確認してください。駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低いときは、充電できない場合があります。
V2L が起動しない	アクセサリーソケットから 12V が供給されていない	ドア開閉など ACC 状態にしてから、V2L の電源スイッチを起動してください。

安全なドライブのために

運転する前に

運転前の準備 P.44
運転するときに注意すること P.45
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項 P.46

シートベルト

3 点式シートベルト P.48
シートベルトの注意事項 P.49

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときに注意すること P.51
チャイルドシート P.52

エアバッグ

SRS エアバッグ P.59
運転席＆助手席 SRS エアバッグ P.61
SRS サイドエアバッグ P.63
SRS カーテンエアバッグ P.64
運転席 SRS ニーエアバッグ P.65

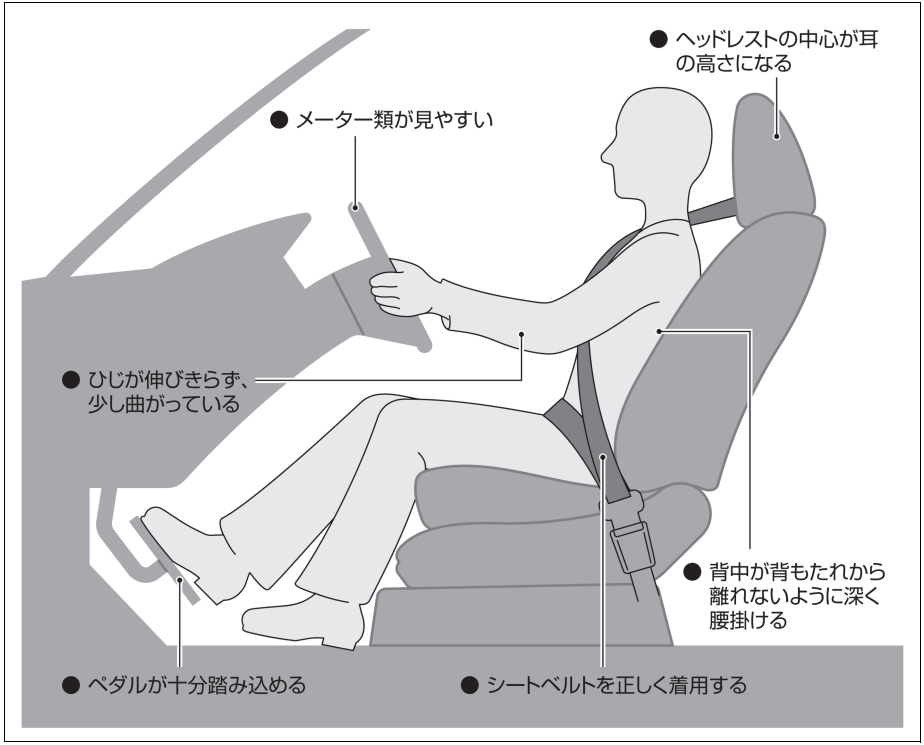
盗難防止機能

イモビライザー（盗難防止装置） P.67

運転前の準備

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル（➔P.114）、シート（➔P.111）、ミラー（➔P.116）を調節し、シートベルトを着用してください。

正しい運転姿勢について



⚠ 警告

- **ハンドル、シート、ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドルやシートを調節したあとは、確実に固定されていることを確認する。**
  固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートベルトの着用

- 必ず走行前にシートベルトを正しく着用してください。
  ➔シートベルト (P.48)
- 小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご使用ください。
  ➔チャイルドシート (P.52)

ミラーの調節

- シートおよびハンドルの調節が完了したら、ミラーを調節します。確実に後方確認ができる位置に、ドアミラーおよびルームミラーを調節してください。

➔ドアミラー (P.120)
➔自動防眩ルームミラー★ (P.116)

デジタルルームミラー付車

デジタルルームミラー付車は、デジタルルームミラーがOFFの状態（ルームミラーモード）で、確実に後方確認ができる位置に調節してください。

➔デジタルルームミラー★ (P.117)

運転するときに注意すること

⚠ 警告

車室内に人やペットを残さない

- **お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

診断機接続用のコネクターにはご注意を

- **診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。補機用バッテリーがあがったり、警告灯が点灯したりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。**

燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- **ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まない。**

  引火や爆発するおそれがあり危険です。

火気には十分注意する

- **操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしない。**

  荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。

- **灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、必ずふたを閉める。**

  紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

故障や破損したまま走行しない

- **事故などでランプが破損したまま走行しない。**

  内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ウインドウにアクセサリーを取り付けない。

- 視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをしたりして火災を起こすおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造しない

- **三菱自動車純正部品以外の車両の性能や機能に適さない部品を使用しない。**

  本来の性能を発揮できなくなる可能性があります。故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **電装品などを取り付けるときは、必ず三菱自動車販売会社にご相談ください。不適切な取り付けや誤った配線は、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。**

- **ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

アドバイス

改造しない

- 補機用バッテリーの端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 三菱自動車が国土交通省に届け出をした部品以外を装着すると、違法改造になることがあります。

無線送信機の取り付けについて

- お車に無線送信機を取り付けると、電装システムに影響をおよぼす可能性があります。悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ず三菱自動車販売会社にご相談ください。お客さまのご要望により、無線送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）を三菱自動車販売会社にてご提供します。

ルーフレール★について

- ルーフレールに三菱自動車純正のキャリア（別売り）を使用すると、荷物の積載が可能です。三菱自動車純正のキャリアを使用しないと、車体を破損するおそれがあります。
- 走行中に積載物が落下すると、重大な事故につながるおそれがありますので、しっかりと固定してください。固定方法などはキャリアに付属の取扱説明書に従ってください。

- ルーフレール付車は、次のことをお守りください。
  - ― 樹脂カバーに物を載せたり引っ掛けたりしない。
  - ― キャリア取付部以外の樹脂カバーは取り外さない。
  - ― キャリアを取り付けるときは、三菱自動車販売会社に相談する。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方の注意事項

心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

充電について

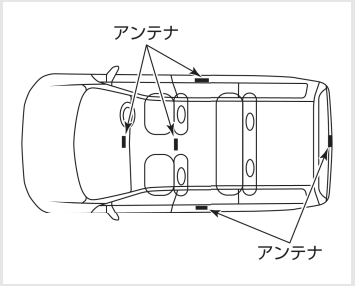
- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、機器におよぼす影響について医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行う。**
- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、充電ケーブル（コントロールボックス付）★から約15cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

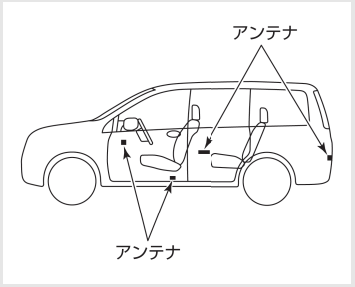
  充電ケーブル（コントロールボックス付）からの電波が機器の作動に影響を与える場合があります。

- **植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器（ICD）などの医療電気機器を使用している方は、急速充電器には近づかない。**

  操作する必要がある場合は他の方にお願いしてください。充電中の急速充電器からの電磁波が機器などに一時的な影響を与える場合があります。

キーレスオペレーションシステムについて





⚠ 警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

  ドアおよびテールゲート開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、パワーユニットの始動時などにキーレスオペレーションシステムの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーレスオペレーションシステムの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

SOS コール★について

- **SOSコールは無線通信機能を利用しているため、心臓ペースメーカーやその他医療用電気機器を使用する場合は、当該の各医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響について必ず確認する。**

  SOSコールの電波が医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

➔SOSコール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★ (P.241)

3点式シートベルト

シートベルトは、シートに身体を固定することで安全を確保するための安全装置です。
走行するときは、必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 注意

- **プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理しない。また、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしない。**
  誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

ELR（緊急固定）付シートベルトについて

●身体の動きに合わせて伸縮し、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトがロックし身体を固定します。

プリテンショナーシートベルトについて（前席／後席★）

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯［ ］が点灯しているときは走行しない。**
  <パワースイッチ>をONにしてから約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーが作動しません。必ずSRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

⚠ 注意

- **廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず三菱自動車販売会社に相談する。**

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず三菱自動車販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

プリテンショナー機構

自動的に巻き取る

●正面衝突などで車両前方から強い衝撃を受けたときに、装着したシートベルトを瞬時に巻き取り、乗員の拘束性能を高めます。

●運転席＆助手席SRSエアバッグと同時に作動します。
➔SRSエアバッグ (P.59)

●運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。車両前方から強い衝撃を受けたとき、肩からシートベルトを巻き上げると同時に腰側からも巻き上げ、乗員の拘束性能を高めます。

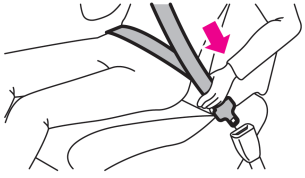
シートベルトの着用のしかた

⚠ 警告

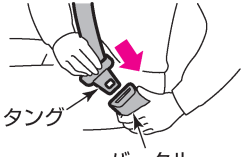
- **ベルトが肩に確実にかかる位置にアンカーの高さを調節する。また、アンカーが確実に固定されていることを確認する。**
  万一のときに肩からベルトが外れるなど、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

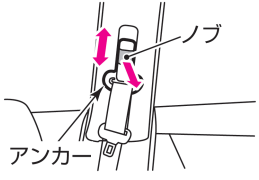
- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。



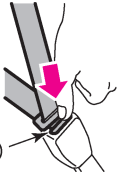
1. 正しい姿勢でシートに座り、タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。



2. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに"カチッ"と音がするまで確実に差し込みます。



3. アンカー位置の高さを調節します。（前席シートのみ）
ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。手を離したあと、"カチッ"と音がするまで動かし固定させます。



4. 外すときは、バックルのボタン（赤色部）を押し、タングを持ってゆっくり戻します。

シートベルトの注意事項

⚠ 警告

- **走行する前に全員がシートベルトを着用する。**
  着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- **シートベルトを着用するときは、次のことを必ず守る。**
  シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
  — 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  — 2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
  — ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  — 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腰部に強い圧迫を受けることがあります。
  — 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分に掛かっていないと、上半身が拘束できないことがあります。
  — クリップなどで故意にベルトにたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果が発揮できないことがあります。
- **シートの背もたれを倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **バックルや巻き取り装置の中に異物を入れない。**
  シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- **妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用する。**

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避け腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  チャイルドシート (P.52)

- **事故などで衝撃を受けたり傷がついたりしたシートベルトは、三菱自動車販売会社に点検を依頼する。**

  一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分に発揮しないことがあります。

⚠ 注意

- **シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使用しない。**

  ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分に発揮できないことがあります。シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。

お子さまを乗せるときに注意すること

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

お子さまにもシートベルトを着用する

- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させる。**

  お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

  ➔シートベルトの着用のしかた（P.48）

小さなお子さまにはチャイルドシートを使用する

- **シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートを使用する。**

  ➔チャイルドシート（P.52）

チャイルドシートは後席シートに取り付ける

- **チャイルドシートは後席シートに取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

- **チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、ラゲッジルーム（荷室）などに収納する。**

  車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまは後席シートに乗せる

- **お子さまを助手席に乗せるのは避ける。**

  お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになったりするおそれがあります。

  また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

ドア、ウインドウなどは大人が操作する

- **ドアやウインドウなどの開閉は、お子さまには操作させない。**

  開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **チャイルドプルーフ（➔P.107）や＜パワーウインドウロックスイッチ＞（➔P.123）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。**

窓から手や顔を出さない

- **お子さまが腕や顔を出さないように注意する。**

  急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- **車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろす。**

  炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

- **お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

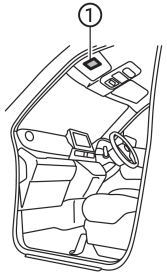
チャイルドシート

お子さまの年齢や体格にあわせたチャイルドシートを選択し、車両に適切に取り付けてください。

⚠ 警告

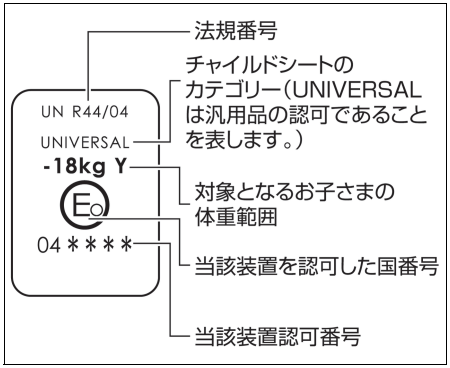
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

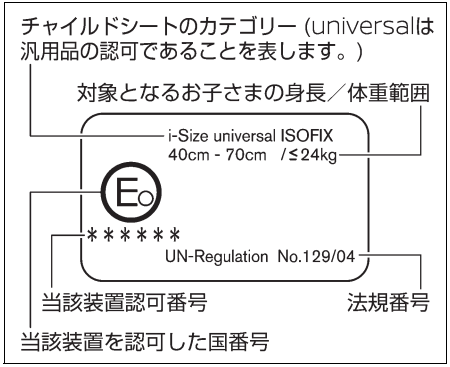
  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。



① エアバッグ警告ラベル

チャイルドシートについて





- チャイルドシートには、乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの3種類があります。お子さまの年齢や体格にあわせて、適切なチャイルドシートをお選びください。

- チャイルドシートの固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- この車は UN R44 または R129 の基準に適合した ISOFIX 取付装置を標準装備しています。
- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートを総称してチャイルドシートと呼んでいます。
- UN R44 または R129 はチャイルドシートに関する国際法です。 UN R44 または R129の基準に適合した汎用 （ユニバーサル） チャイルドシートには、 認可マークが貼られています。

チャイルドシートの選びかた

この車両には、シートベルトで取り付けるチャイルドシートと、i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートを取り付けることができます。i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートは、シートベルトを使わずに固定するため、簡単に取り付けることができます。

■ シートベルト固定タイプのチャイルドシート

シートベルトを使ってチャイルドシートを固定します。

➔シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた (P.57)

■ i-Size および ISOFIX チャイルドシート

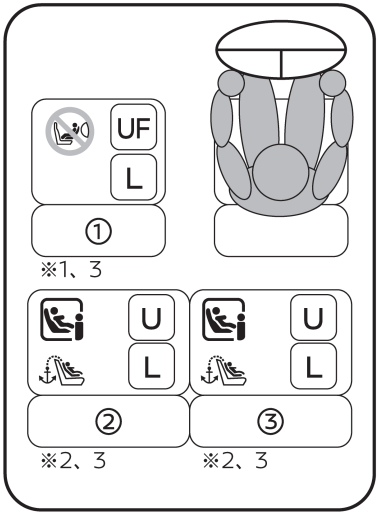
後席シートに付属しているISOFIX取付装置で固定します。

➔i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートの取り付けかた (P.57)

使用できるチャイルドシートについて

チャイルドシートの取り付け位置により、使用できるチャイルドシートが異なります。

選択の目安



凡例

マーク	説明
U	車両シートベルト固定式汎用型チャイルドシートに適している
UF	車両シートベルト固定式の前向きに取り付ける汎用型チャイルドシートに適している
	i-Size及びISOFIXチャイルドシートに適している
	後ろ向きチャイルドシート取り付け禁止
	ISOFIXチャイルドシート上部取付金具 (テザーアンカレッジ) を装備している座席
L	添付リストに記載されたチャイルドシートに適している
	チャイルドシートの取り付けに適していない

※1：チャイルドシートを装着する際は、背もたれを前に倒し、元に戻すときに一番最初にロックする位置に調節してください。

※2：ベルト固縛のチャイルドシートを装着する際は、背もたれを前に倒し、元に戻すときに一番最初にロックする位置に調節してください。

※3：チャイルドシートを装着する際は、シートの前後調節（スライド）を最後端位置に調節してください。

●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調節してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

幼児拘束装置メーカーに関する詳細情報

シート位置番号	①	②	③
汎用ベルト式に適する着席位置（○ / X）	○（前向きのみ）	○	○
i-Size および ISOFIX 着席位置（○ / X）	X	○	○
横向き固定具に適する着席位置（L1/L2）	-	-	-
適する最大の後ろ向き固定具（R1/R2X/R2/R3）	-	R3	R3
適する最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	-	F3	F3
適する最大のブースター固定具（B2/B3）	B3	B3	B3

● i-SizeおよびISOFIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、 ご使用前にUN R44またはR129の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、 チャイルドシートに付属の取扱説明書を参照してください。

■ 推奨チャイルドシート

三菱自動車が推奨するチャイルドシートです。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

固定方法	チャイルドシート品名	適用範囲	①助手席	リヤシート	
				②左側席	③右側席
ISOFIX	i-Size チャイルドシート（後ろ向き）	身長 100cm 以下 体重 18kg 以下	X	○	○
	i-Size チャイルドシート（前向き）*	身長 76 ～ 100cm 体重 18kg 以下	X	○	○

※：身長76cm以上、かつ月齢が15か月を超えるまでは前向きで使用しないでください。

固定方法	チャイルドシート品名	質量グループ（お子さまの体重）		①助手席	リヤシート	
					②左側席	③右側席
シートベルト	チャイルドシート（後ろ向き）	0+	13kg まで	X	○	○
	チャイルドシート（前向き）	I	9 ～ 18kg	○	○	○
	ジュニアシート	II & III	15 ～ 36kg	○	○	○

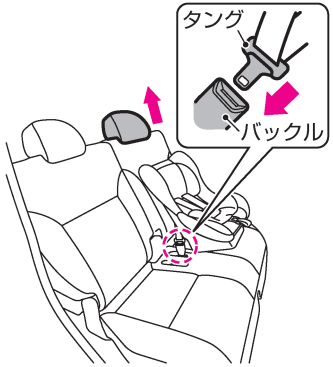
●チャイルドシートがヘッドレストに干渉し安定して取り付けられない場合は一番上に調整してください。上げても安定しない場合には取り外してください。

シートベルト固定タイプのチャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。



1. ヘッドレストを外し（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置きます。
➔ヘッドレストの調節のしかた（P.112）
シートベルトをチャイルドシートに通し、タングをバックルに"カチッ"と音がするまで確実に差し込みます。

2. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って固定します。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

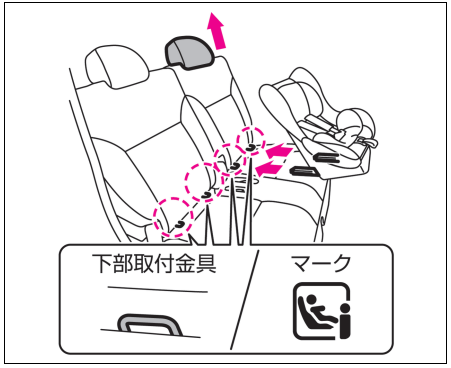
i-Size および ISOFIX チャイルドシートの取り付けかた

⚠ 警告

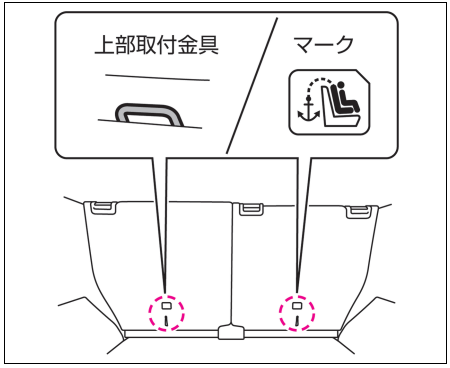
- **i-SizeおよびISOFIXチャイルドシートを取り付けるときは、後席シートのヘッドレストを取り外す。（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）**
- **チャイルドシートが確実に固定されていることを確認する。**

  確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けてください。
- **チャイルドシートを取り付けるときは、ISOFIX取付装置周辺に異物がないことやシートベルトなどがかみ込んでいないことを確認する。**

  チャイルドシートが確実に固定されず、急ブレーキや衝突などでチャイルドシートが飛び出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。



1. ISOFIXチャイルドシート下部取付金具は、後席シート左右背もたれのマーク下側にあります。
ヘッドレストを外して（ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートを正しく取り付けられない場合）、チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って下部取付金具に固定します。
➔ヘッドレストの調節のしかた（P. 112）



2. 上部取付金具は、後席シート背もたれ裏側にあります。
上部取付金具にフックを固定し、テザーベルトを締めます。
チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認します。

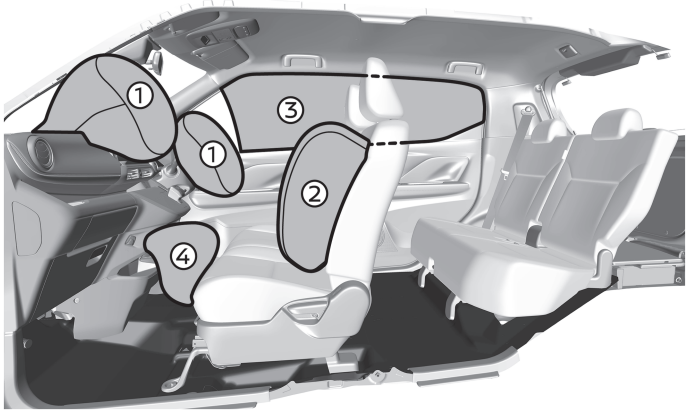
- ISOFIX取付装置は、下部取付金具と上部取付金具の2種類があります。
下部取付金具は背もたれと座面のすき間にあり、上部取付金具は背もたれ裏側にあります。
- 三菱自動車純正以外のシートカバーは使用しないでください。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、乗員への衝撃を緩和します。シートベルトと併用することで安全性を高めるため、シートベルトは必ず着用してください。

SRS エアバッグの種類

① 運転席&助手席SRSエアバッグ
② SRSサイドエアバッグ
③ SRSカーテンエアバッグ
④ 運転席SRSニーエアバッグ



アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず三菱自動車販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度ふくらむと再使用できません。三菱自動車販売会社で交換してください。

- SRSエアバッグは高温のガスにより高速でふくらむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。
- SRS とは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRS エアバッグの作動

SRSエアバッグは、＜パワースイッチ＞がONのときに作動可能です。

＜パワースイッチ＞をONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯［ ］が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRSエアバッグは、正面衝突や側面衝突で衝撃を受けたときに作動します。ただし、衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならないときは、作動しないことがあります。

SRSエアバッグが作動するような衝撃を感知すると、非常点滅表示灯が自動的に点滅します。＜非常点滅表示灯スイッチ＞を押すと消灯しますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。また、衝撃の大きさによっては、点滅しないことがあります。

- 助手席SRSエアバッグ、助手席側のSRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。

SRS エアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSエアバッグ警告灯［ ］が次の状態のときは走行しない。**
  - ― ＜パワースイッチ＞をONにした直後、SRSエアバッグ警告灯が約7秒間点灯しないとき（消灯したままのとき）
  - ― SRSエアバッグ警告灯が点灯し続けるとき

  SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。三菱自動車販売会社にご相談ください。
- **正しい姿勢でシートベルトを正しく着用する。**

  SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。また、SRSエアバッグの効果が発揮されないおそれがあります。
- **助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。**

  SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

➔チャイルドシート (P.52)

- **必ず次のことを守る。**

  SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなったりし、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRSエアバッグ格納部を修理するときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついているとき、およびひび割れがあるときは、そのまま使用せず三菱自動車販売会社で交換してください。
  運転席&助手席SRSエアバッグの格納場所は（➔P.61）をお読みください。
  SRSサイドエアバッグの格納場所は（➔P.63）をお読みください。
  SRSカーテンエアバッグの格納場所は（➔P.64）をお読みください。
  運転席SRSニーエアバッグの格納場所は（➔P.65）をお読みください。
- SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
- 電気テスターを使用したSRSエアバッグの回路診断、または回路を変更しないでください。
- エアロパーツなどを取り付けたり、サスペンションを改造するときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

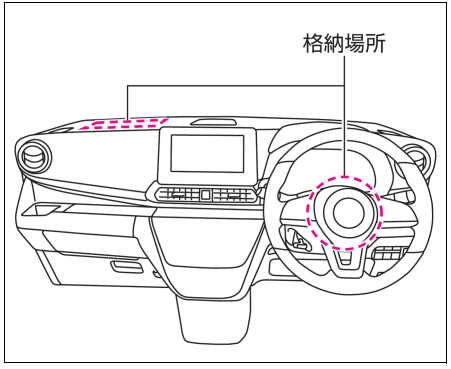
● **SRSエアバッグが作動したときは、30分経過するまでエアバッグに触らない。**
高温になるため、やけどをするおそれがあります。

● **SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流す。**
皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

運転席＆助手席 SRS エアバッグ

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRSエアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。

SRS エアバッグが作動するとき

- 次のような衝撃が強いときに作動します。
  - 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
  - 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき
- 次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）
  - 高速で縁石などに衝突したとき
  - 深い穴や溝に落ち込んだとき
  - ジャンプして地面にぶつけたとき
- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。
- 運転席、助手席SRSエアバッグはふくらんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。
- エアバッグが作動したときは、自動でSOSコール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★（➔P.241）が作動します。

SRS エアバッグが作動しにくいとき

- 次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
  - 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき

— 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
— トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
— 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRS エアバッグが作動しないとき

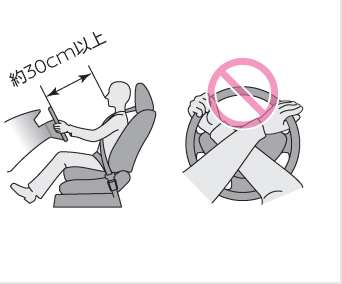
●一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。
— 横方向や後ろから衝突されたとき
— 横転、転覆したとき

運転席&助手席 SRS エアバッグの注意事項

⚠ 警告

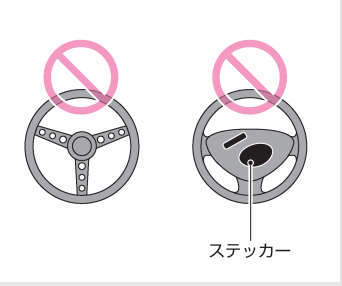
● **運転席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、内がけでのハンドル操作はしない。**

ハンドルから顔をできるだけ（約30cm以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど、手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



● **不適正なハンドルに交換したり、SRSエアバッグ格納部にステッカーなどを貼ったりしない。**

SRSエアバッグ作動時に正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



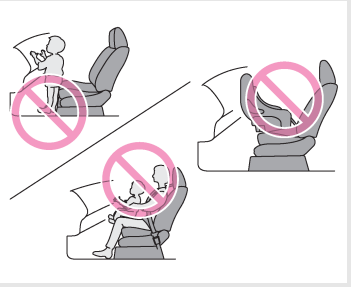
● **フロントガラスにアクセサリーなどを付けない。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

● **助手席のSRSエアバッグ格納部に身体を近づけない。また、お子さまを近づかせない。**

SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを不必要に近づけたりしないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いたりせず、後席シートに乗せてください。



● **チャイルドシートは後席シートに取り付ける。**

SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

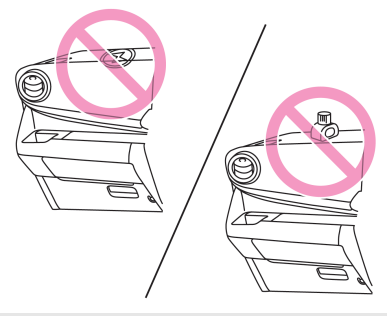
やむをえず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

- **チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認する。**

  固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- **SRSエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置いたりしない。**

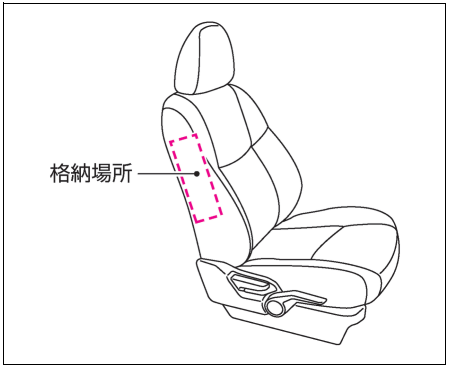
  SRSエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSサイドエアバッグは、運転席、助手席ともにシート背もたれ側面（外側）に格納されています。

SRS サイドエアバッグが作動するとき

- 次のような衝撃が強いときに作動します。
  - 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

📖 知識

- エアバッグが作動したときは、自動でSOSコール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★（➔P.241）が作動します。

SRS サイドエアバッグが作動しにくいとき

- 次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
  - 側面に斜め方向から衝突されたとき
  - 側面にバイクが真横から衝突したとき
  - ボンネット（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
  - 横転、転覆したとき
  - 斜め前方から衝突したとき
  - 電柱などに衝突したとき

SRS サイドエアバッグが作動しないとき

- 一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。
  - 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
  - 後ろから衝突されたとき

SRS サイドエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSサイドエアバッグの格納部に近づかない。**

  ドアにもたれるなど、前席シートの背 もたれ側面（外側）に近づかないでく ださい。特にお子さまが窓から腕を出 したり、前席シートの背もたれを抱え たりしないように注意してください。 万一のとき重大な傷害を受けるおそ れがあります。

- **前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かない。**

- **三菱自動車純正以外のシートカバーは使用しない。**

  取り付けるときはシートカバーに添付の取扱説明書に従い確実に取り付けてください。また、シートのSRSサイドエアバッグが収納されている付近にドリンクホルダーなどのカー用品を取り付けたり、ステッカーなどを貼らないでください。SRSサイド エアバッグが膨らむのを妨げたり、膨らむときにこれらの物が飛んで重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

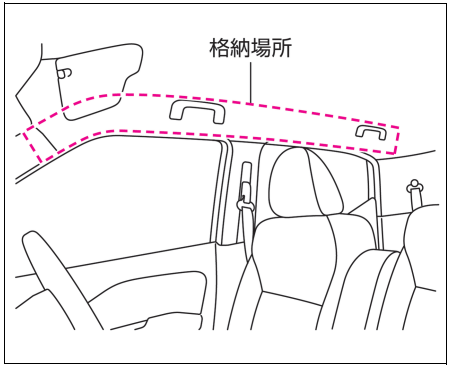
- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**

  SRSサイドエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRS カーテンエアバッグ

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時にふくらみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSカーテンエアバッグは、運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

SRS カーテンエアバッグが作動するとき

●次のような衝撃が強いときに作動します。

— 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

📖 知識

- エアバッグが作動したときは、自動でSOSコール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★（➔P.241）が作動します。

SRS カーテンエアバッグが作動しにくいとき

●次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

— 側面に斜め方向から衝突されたとき
— 側面にバイクが真横から衝突したとき
— ボンネット（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
— 横転、転覆したとき
— 斜め前方から衝突したとき
— 電柱などに衝突したとき

SRS カーテンエアバッグが作動しないとき

●一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

— 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
— 後ろから衝突されたとき

SRS カーテンエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSカーテンエアバッグの格納部に近づかない。**
  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けない。**
  SRSカーテンエアバッグが作動したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

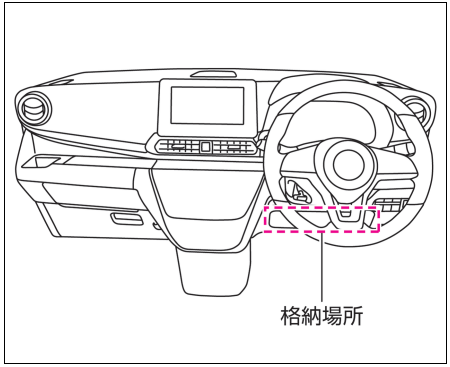
⚠ 注意

- **ドアをガラスが割れるほど強く閉めない。**
  SRSカーテンエアバッグが誤作動するおそれがあります。

運転席 SRS ニーエアバッグ

車両前方から強い衝撃を受けたときに、SRSニーエアバッグが瞬時にふくらみ、運転者の下肢部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所



SRSニーエアバッグは、ハンドル下のインストルメントパネル部に格納されています。

SRS ニーエアバッグが作動するとき

●次のような衝撃が強いときに作動します。
— 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
— 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

●次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）
— 高速で縁石などに衝突したとき
— 深い穴や溝に落ち込んだとき
— ジャンプして地面にぶつけたとき

📖 知識

- エアバッグが作動したときは、自動でSOSコール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★（➔P.241）が作動します。

SRS ニーエアバッグが作動しにくいとき

●次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
— 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
— 衝突時に折れない電柱などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき
— トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
— 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRS ニーエアバッグが作動しないとき

●一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。
— 横方向や後ろから衝突されたとき
— 横転、転覆したとき

SRS ニーエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- **SRSニーエアバッグの格納部に近づかない。**

  万一のとき重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **SRSニーエアバッグ格納部およびその周辺にステッカーなどを貼らない。**

  また、アクセサリーなどを取り付けない。

  SRSニーエアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。

イモビライザー（盗難防止装置）

イモビライザー（盗難防止装置）について

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、あらかじめ登録されているキー以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーター（➔P.77）が点滅します。
- ＜パワースイッチ＞をONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- キーに登録された信号は、キーごとに異なります。

MEMO

メーターの見かた

計器類

各部名称 P.70
メーター P.71

警告灯・表示灯

警告灯の表示位置 P.74
表示灯の表示位置 P.75
表示灯がついたときは P.76

マルチインフォメーションディスプレイ

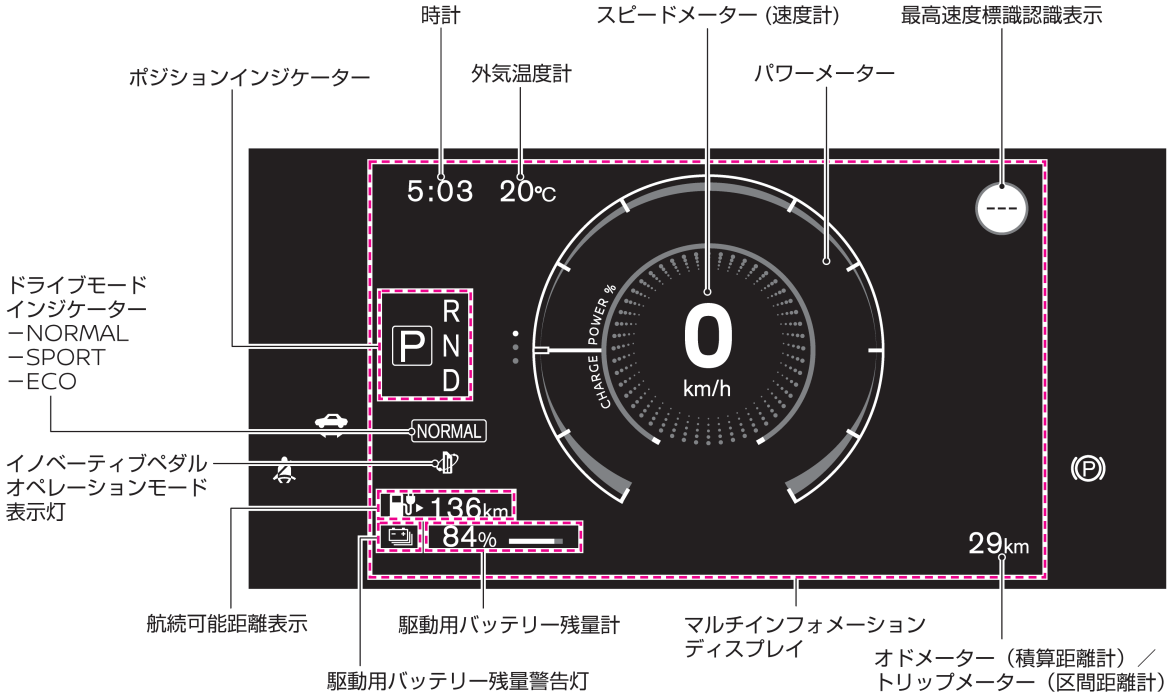
マルチインフォメーションディスプレイとは P.78
車両情報画面 P.79
各種設定画面 P.85
タイヤアングルガイド P.95
タイマー設定状態確認画面 P.96
その他の表示機能 P.97

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール P.99

各部名称

<パワースイッチ>をONにすると、計器類が表示されます。



メーター

メーターには、パワーメーター、駆動用バッテリー残量計、航続可能距離表示などがあります。<パワースイッチ>をONにすると表示します。

スピードメーター（速度計）

●走行速度を表示します。

時計

●時刻を表示します。
●スマートフォン連携ナビゲーション装着車は、スマートフォン連携ナビゲーションの時計と連動しており、時刻は自動的に調整されます。
●マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［時計］⇒［時刻設定モード］を選択すると、時刻の設定を手動に切り替えることができます。

設定の詳細については時計をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)

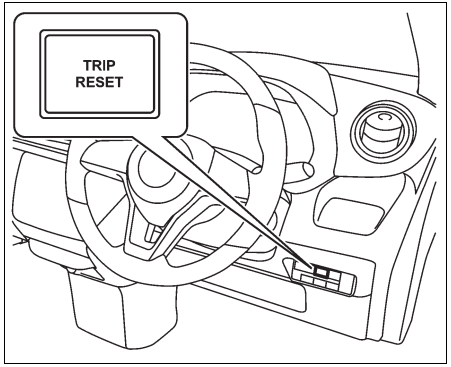
➔時計 (P.91)

●時計は、補機用バッテリーを外すと記憶が消去されます。補機用バッテリーを接続後、正しい時刻に調整してください。
●スマートフォン連携ナビゲーション装着車の時計は、補機用バッテリーを接続後しばらく走行すると、自動的に調整されます。
●時刻の表示は、12時間表示または24時間表示を選択できます。

外気温度計

●外気温を表示します。
●外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。
●外気温度計が3°C以下になると、温度の周辺に凍結注意表示［ ］が点灯または点滅します。
表示·非表示の設定ができます。
設定（➔P.86）

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）



●<TRIP RESET>スイッチを押すごとに、オドメーター ⇒ トリップメーター［A］⇒トリップメーター［B］⇒オドメーターの順に切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

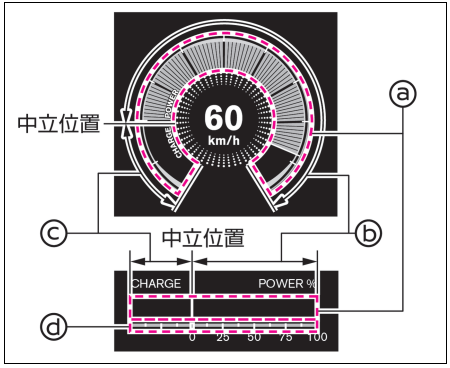
●総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

●リセットしてからの走行距離をkmで表示します。［A］と［B］でそれぞれ使い分けることができます。
●リセットするときは0にしたいほうを表示させ、<TRIP RESET>スイッチを1秒以上押します。
●補機用バッテリーを外したときは、トリップメーターの［A］と［B］の記憶が消去され0に戻ります。

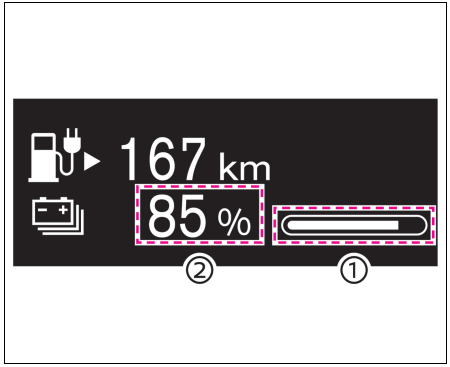
パワーメーター

走行中の出力（加速力）と回生量（電力の回収量）を表示します。



- 加速しているときは、ゲージⓐが中立位置から右側ⓑに表示されます。ゲージⓐが右側ⓑに多くなるほど、加速力が強くなっていることを表します。
- 電力を回収しているときは、ゲージⓐが中立位置から左側ⓒに表示されます。ゲージⓐが左側ⓒに多くなるほど、多くの電力を回収していることを表します。
- 出力または回生量が制限されると、ⓓの点灯範囲が狭くなります。中立位置からⓓまでの範囲内でⓐが点灯します。
- 次の場合、出力または回生量が制限され、ⓓの点灯範囲が狭くなります。
  - 駆動用バッテリーの温度が極端に高いまたは低いとき
  - 走行用モーターの温度が高いとき
  - 駆動用バッテリーの残量が低下しているとき
  - 満充電のときは、これ以上回生することができないため右側ⓑのみ点灯します

駆動用バッテリー残量計

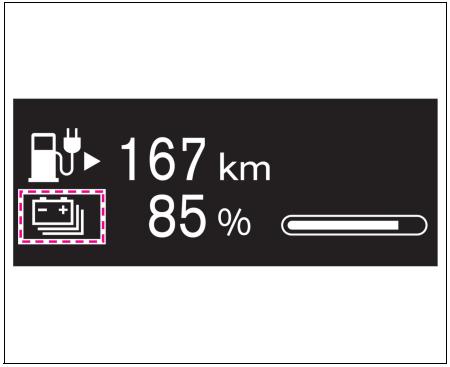


- ①は現在の駆動用バッテリーの残量をゲージで表示します。
- ②は現在の駆動用バッテリーの残量を%で表示します。
- 駆動用バッテリーの温度によって、駆動用バッテリー残量が増減することがあります。
- 駆動用バッテリー温度が低い状態で、高速道路や長い上り坂を走行した場合は、残量が大幅に減少することがあります。

アドバイス

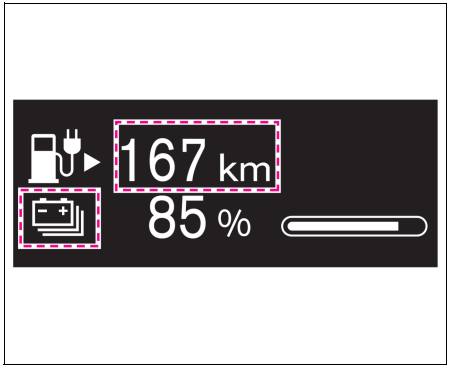
- ②の残量表示が［---］表示になった場合、駆動用バッテリー残量が非常に少ない状態です。すみやかに最寄りの充電施設で充電してください。

駆動用バッテリー残量警告灯



- 駆動用バッテリーの残量が低下すると、黄色く点灯します。

航続可能距離表示



- 現在の駆動用バッテリーの残量で走行できるおおよその距離を表示します。
- 表示される距離は、直前の平均電費と現在の駆動用バッテリーの残量から算出します。
- 駆動用バッテリー残量警告灯［］が黄色く点灯後も充電せずに走行を続けると、距離表示が［---］に変わります。
- 充電直後に表示される航続可能距離は、充電前の平均電費から算出されます。駆動用バッテリーが満充電であっても平均電費により表示される航続可能距離が異なることがあります。
- 駆動用バッテリー温度が低い状態で、高速道路や長い上り坂を走行した場合は、残量が大幅に減少することがあります。
- 外気温が極端に低いときや、長い上り坂を走行した直後は、表示される距離が大幅に減少することがあります。

ポジションインジケーター

- セレクターレバーのシフトポジションを表示します。
  ➔セレクターレバーの操作 (P.141)
  ― 適正な位置からずれていると、ポジションインジケーターが点滅します。

アドバイス

- 補機用バッテリー電圧低下、および補機用バッテリーあがりにより電気部品への電源供給が停止されると、ポジションインジケーターが消灯する場合があります。その場合はⓅスイッチを押してシフトポジションをPにしてください。

ドライブモードインジケーター

- 現在選択されているドライブモードが表示されます。ドライブモードは次のモードがあります。
  ― NORMAL
  ― SPORT
  ― ECO
  ➔ドライブモードセレクター (P.157)

イノベーティブペダル オペレーションモード表示灯

- <イノベーティブペダル オペレーションモードスイッチ>を押してONにすると、イノベーティブペダル オペレーションモード表示灯が点灯し、イノベーティブペダル オペレーションモードがOFFのときは、イノベーティブペダル オペレーションモード表示灯が消灯します。
  ➔イノベーティブペダル オペレーションモード (P.156)

最高速度標識認識表示

- フロントガラス上部にあるフロントカメラにより最高速度標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［道路標識表示］を選択すると、機能のON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、マルチインフォメーションディスプレイ（➔P.78）、運転支援システム（➔P.86）をお読みください。

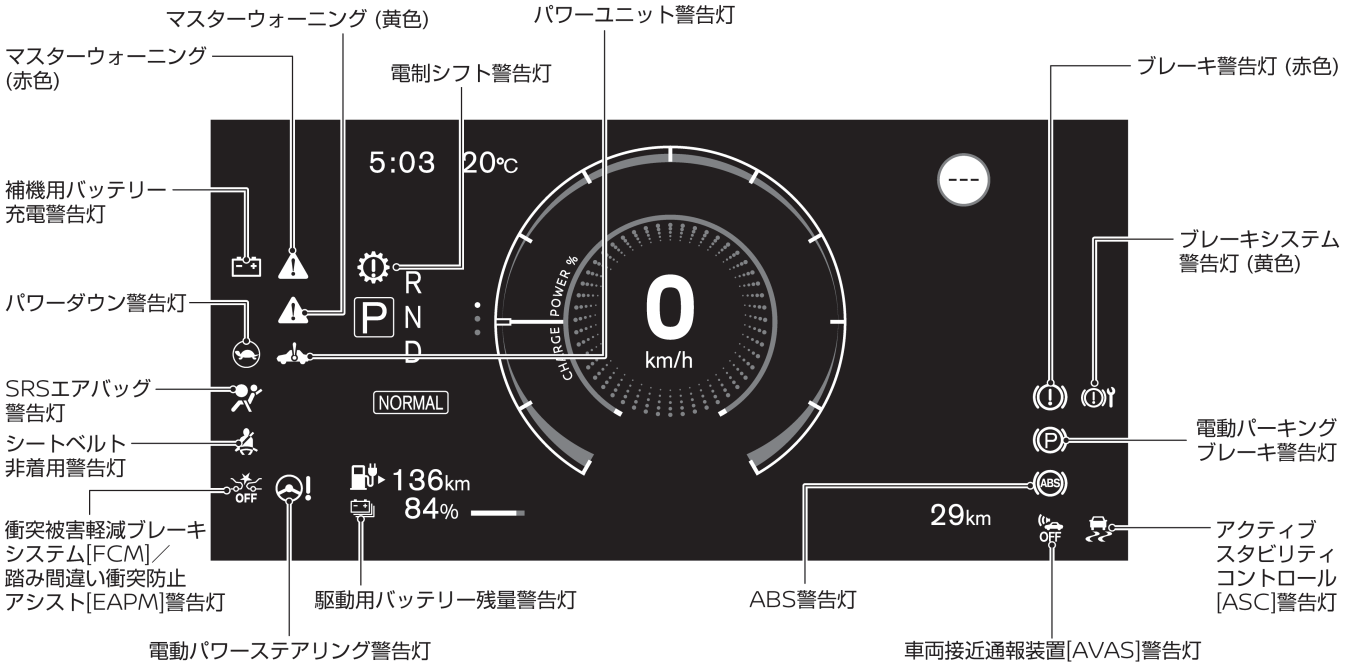
マルチインフォメーションディスプレイ

- マルチインフォメーションディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。

マルチインフォメーションディスプレイについては、（➔P.78）をお読みください。

警告灯の表示位置

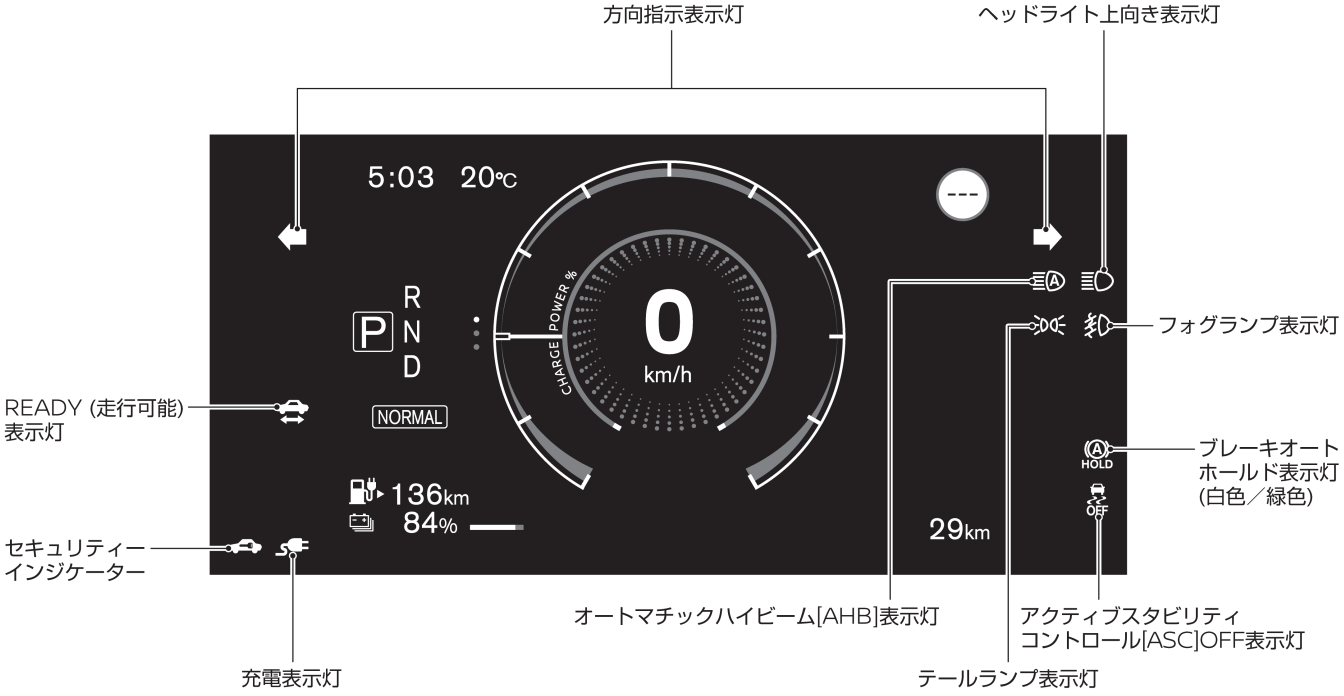
次のイラストは、説明のためすべての警告灯を表示しています。通常は警告すべき事象がおこったときに該当の警告灯のみ点灯または点滅します。



各警告灯については、（➔P.264）をお読みください。

表示灯の表示位置

次のイラストは、説明のためすべての表示灯を表示しています。通常は事象がおこったときに該当の表示灯のみ点灯します。

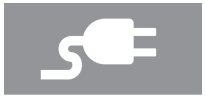


☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯がついたときは

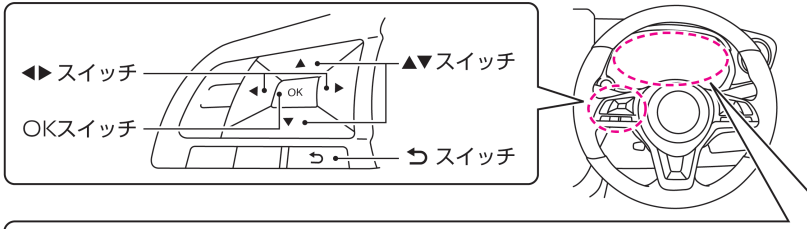
表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。
点灯している理由は、次の説明をお読みください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

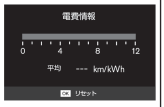
表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	方向指示表示灯	● <非常点滅表示灯スイッチ>を押すと左右同時に点滅します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、方向指示器を作動させると、作動させた側のみ点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。 ➔方向指示器の使いかた (P.152) ➔外装ランプが点灯しないときは (P.292)
	ヘッドライト上向き表示灯	● ヘッドライトのハイビーム（上向き）を点灯させると点灯します。	➔ハイビーム（上向き）への切り替えかた (P.151)
	テールランプ表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。	➔ライトスイッチの使いかた (P.148)
	フォグランプ表示灯★	● フォグランプを点灯させると点灯します。	➔フォグランプの使いかた (P.153)
	アクティブスタビリティコントロール［ASC］OFF 表示灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、ASC を OFF にしていると点灯します。	➔アクティブスタビリティコントロール［ASC］(P.159)
	オートマチックハイビーム [AHB] 表示灯	● AHB を ON にすると点灯します。	➔オートマチックハイビーム [AHB] (P.150)

表示灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ブレーキオートホールド表示灯（白色）	● ブレーキオートホールドが待機状態のとき白色に点灯します。	➔ブレーキオートホールド機能について (P.144)
	ブレーキオートホールド表示灯（緑色）	● ブレーキオートホールドが作動しているとき緑色に点灯します。	➔ブレーキオートホールド機能について (P.144)
	充電表示灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 充電コネクタを接続すると点灯し、充電中は点滅します。	● 充電コネクタを接続しても点灯しないときや、充電中に点滅しないときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
	READY（走行可能）表示灯	● 走行できる状態になると点灯します。（走行中も点灯し続けます。）	-
	セキュリティーインジケーター	● <パワースイッチ>が ON 以外のときに点滅します。	➔イモビライザー（盗難防止装置）(P.67) ● <パワースイッチ>を ON にしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイとは

マルチインフォメーションディスプレイで、様々な機能の作動状態を表示したり、設定したりすることができます。<パワースイッチ>がONのとき、ハンドル左側にある< ◀▶ >スイッチを押すと、ホーム、EVグループ、エコグループ、インフォメーショングループ、オーディオ情報★、ナビゲーション情報★、警告、設定の順で表示項目が切り替わります。車種により表示できる項目が異なる場合があります。



ホーム ※2	EVグループ ※1※2	エコグループ ※1※2	インフォメーショングループ ※1※2	オーディオ情報	ナビゲーション情報	警告	設定 ※2
							
・速度計+パワーメーター (円) ・速度計+パワーメーター (バー) ・速度計	・充電所要時間 (推定) ・駆動用バッテリーステータス ・駆動用バッテリー容量計	・電費情報 ・電費履歴 ・ドライブコンピューター	・マイパイロット ・走行支援 ・タイヤアングルガイド ・グリップコントロール	・オーディオ	・ナビゲーション	警告が発生している場合表示されます。	・ASC設定 ・運転支援システム ・画面カスタマイズ ・車両設定 ・EV設定 ・メンテナンス ・時計 ・日付設定 ・スケジュール ・単位／言語 ・工場出荷設定

※1 「表示項目選択」で選択した項目を表示します。　※2 ▲▼スイッチを押すと項目を選択します。

車両情報画面

様々な車両情報を表示したり、各種設定をしたりすることができます。

ホーム

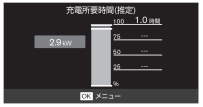
＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチでホームを選択し、＜ ▲▼ ＞スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（P.78）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	スピードメーター表示変更	● スピードメーター表示のタイプを切り替えます。	● スピードメーター＋パワーメーター（円）→スピードメーター＋パワーメーター（バー）→スピードメーターのみの順で切り替わります。

EV グループ

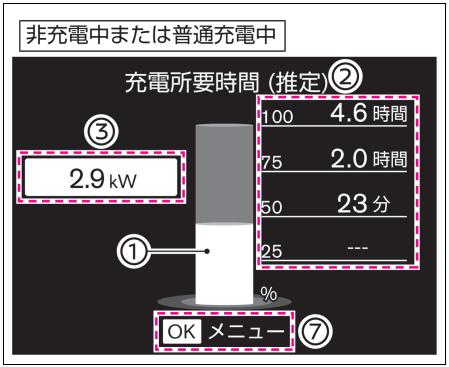
＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチで車両情報を選択し、＜ ▲▼ ＞スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（P.78）をお読みください。

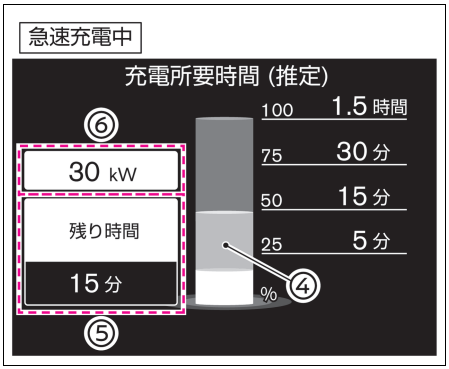
マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［画面カスタマイズ］⇒［表示項目選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	充電所要時間（推定）	● 充電完了までにかかる充電時間の目安を表示します。	● ＜パワースイッチ＞を ON にした直後は、実際にかかる時間より長めに表示されることがあります。また、充電を開始した直後や停止した直後は、実際にかかる時間と異なることがありますが、しばらくすると正しい時間に修正されます。 詳しくは、（P.81）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	駆動用バッテリーステータス	● 駆動用バッテリーの残量および温度、航続可能距離を表示します。 ● 駆動用バッテリーの温度は、外気温や充電状況、走行条件などにより変化します。	● 駆動用バッテリーの温度が上がり①の範囲から外れると、走行用モーターのパワーダウン警告灯［ ］が点灯し、出力が制限されることがありますが故障ではありません。駆動用バッテリーの温度が下がるまで、風通しのよい日陰などに停車してください。 ● 次の場合、駆動用バッテリーの温度が上がりやすくなります。 — 連続で高速走行をしたとき — 連続で登坂走行をしたとき — 急速充電を繰り返し行ったとき — 外気温が高いとき ● 外気温が極端に低く、駆動用バッテリー温度計の目盛りが表示されない場合は、走行可能状態にならないことがあります。 ● 駆動用バッテリーの温度が高いまたは低いとき、急速充電にかかる時間が長くなります。 ● 車両の制動灯が点灯するとメーター内の制動灯も点灯します。
	駆動用バッテリー容量計	● 駆動用バッテリーの容量を表示します。	● 駆動用バッテリーの経年数などにより蓄電能力が低下すると、目盛りが右側から順に減少します。

■ 充電所要時間（推定）について





- マルチインフォメーションディスプレイの［充電時間表示設定］で選択されている充電電力値の充電所要時間（推定）が表示されます。

① 現在の 駆動用バッテリーの残量を表示します。

② 各%までの充電所要時間（推定）を表示します。（25%、50%、75%、100%）

③ 非充電中は現在選択されている充電電力値を表示します。普通充電中は実際の充電電力値に応じた固定値を表示します。

④ ⑤の残り充電時間経過時に達していると予想される充電量を表示します。

⑤ 急速充電の残り時間を表示します。

⑥ 急速充電中の実際の充電電力値を表示します。

⑦ 非充電中に＜OK＞スイッチを押すと、［充電時間表示設定］に移行します。表示したい充電電力値を選んでください。なお、充電中は選択できません。

設定の詳細については、EV設定をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは（P.78）

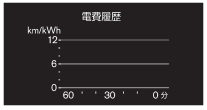
➔EV設定（P.90）

- 充電中は、⑦の表示が消えて、［充電時間表示設定］に移行できません。
- 充電中は、現在充電中の充電電力値で充電所要時間（推定）が計算され②に表示されます。
- 充電停止時は、現在選択されている充電電力値の表示に戻ります。
- 充電停止時の急速充電の充電所要時間（推定）は、30kW充電の電力値の表示に戻ります。
- 充電中に、電源が停止（コンセント抜きなど）すると現在選択されている充電電力値の表示に戻ります。
- 現在の駆動用バッテリー残量が、各%を越えた時点で、充電所要時間（推定）②が［---］表示になります。
- 満充電時は、すべての充電所要時間（推定）が［---］表示になります。
- 充電所要時間（推定）が24時間以上の場合は、［24時間以上］と表示されます。
- 普通充電の電力値③は固定値です。急速充電の電力値⑥は、充電中に実際の電力が表示されます。
- 各%ごとの充電所要時間（推定）②は現時点の予測値であり、車両状態や充電状態により、実際の充電時間は変化します。
- 普通充電の充電電力値は、電力値を固定値として表示しているため、実際の電力とは異なることがあります。
- V2H充電中は、充電時間がすべて［---］表示になります。（充電時間が予測できないため）
- 普通充電器（壁掛型）の種類によっては、充電電力が可変に制御されるものがあり、その場合は充電電力値が正確に見積もれないため、実際の充電時間と異なる場合があります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エコグループ

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチでエコグループを選択し、＜ ▲▼ ＞スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.78）をお読みください。
マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［画面カスタマイズ］⇒［表示項目選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	電費情報	● 現在の瞬間電費、リセットしてから現在までの平均電費を表示します。 ● 平均電費をリセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押します。その後リセット画面が表示されるので、［はい］を選択し、再度ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押すとリセットされます。	● 平均電費は、補機用バッテリー交換後やリセット後は［---］と表示します。 ● 平均電費は約 30 秒ごとに更新されます。 ● 平均電費をリセットすると、ドライブコンピューターの平均電費も連動してリセットされます。
	電費履歴	● 5 分ごとの平均電費を、最大 60 分前まで棒グラフで表示します。	-
	ドライブコンピューター	● ドライブコンピューターを表示します。リセットするときは、この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押します。その後リセットメニューからリセットする項目を選択し、再度ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押すとリセットされます。	● ドライブコンピューターの項目 — 平均電費 — 平均車速 — 走行距離 — 走行時間 ● ドライブコンピューターの平均電費をリセットすると、電費情報の平均電費もリセットされます。

インフォメーショングループ

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチでインフォメーショングループを選択し、＜ ▲▼ ＞スイッチを押すと項目が切り替わります。ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.78）をお読みください。
マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［画面カスタマイズ］⇒［表示項目選択］で選択していると表示します。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	マイパイロット★	● マイパイロットの作動状態を表示します。ステアリングスイッチの＜マイパイロットスイッチ＞を押すと、走行支援画面を表示してから数秒後にマイパイロット画面に切り替わります。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押すと、マイパイロットのメニュー画面を表示し、車線維持機能の ON・OFF を設定できます。	● マイパイロットについては、（➔P.164）をお読みください。 ● 車両の制動灯が点灯すると、メーター内の制動灯も点灯します。 ● ［車線維持支援スイッチ］でも車線維持支援機能 [LKA] の ON・OFF を切り替えることができます。
	走行支援	● 走行支援システムの ON・OFF 状態を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押すと、走行支援システムのメニュー画面を表示し、各システムの ON・OFF を設定できます。詳しくは運転支援システム（➔P.86）の中の該当項目をお読みください。	● 詳しくは、各走行支援システムの説明をお読みください。 — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.177) — ➔車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP] (P.189) — ➔前方衝突予測警報 [PFCW] (P.181)
	タイヤアングルガイド	● 前進時や後退時のタイヤの方向や角度と進行方向を一目で確認することができます。	● タイヤアングルガイドについては、（➔P.95）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	グリップコントロール	● グリップコントロールの作動状態を表示します。 ● グリップコントロール機能により、ブレーキ制御がかかっている車輪を青色に表示します。制動灯が点灯しているときは、メーター内の制動灯も点灯します。	● グリップコントロールについては、（P.159）をお読みください。

オーディオ情報★

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチでオーディオ情報を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（P.78）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	オーディオ	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。 ● この画面を表示中に、ステアリングスイッチの＜ OK ＞スイッチを押すと、オーディオの種類を切り替えることができます。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

ナビゲーション情報★

＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチでナビゲーション情報を選択します。ステアリングスイッチの使いかたは（P.78）をお読みください。

画面表示	項目	概要	詳細説明
	ナビゲーション	● スマートフォン連携ナビゲーションで目的地を設定していると、スマートフォン連携ナビゲーションと連動し、次の右左折までの距離などを表示します。 ● 目的地を設定していないときは、黒画面が表示されます。	● スマートフォン連携ナビゲーションの取り扱いについては、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

警告

警告について

●異常を検知するとマスターウォーニング［ ⚠ ］が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告を表示します。警告を一時的に消すときは、＜OK＞スイッチを押します。

●警告が表示されたときは、すみやかに適切な処置をしてください。放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

確認のしかた

異常を検知している場合、＜パワースイッチ＞がONのとき、ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチで警告を選択すると、異常を検知している警告が確認できます。

警告メッセージの表示画面については、（➔P.271）をお読みください。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.78）をお読みください。

各種設定画面

運転支援システムのON・OFF設定をはじめ、時計の調整やアラームの設定などができます。

ステアリングスイッチの使いかたは（➔P.78）をお読みください。

設定（各種設定画面）

各種設定画面では、次の機能の設定ができます。ステアリングスイッチの＜ ◀▶ ＞スイッチで設定を表示し、＜OK＞スイッチを押して設定画面を表示させ＜ ▲▼ ＞スイッチを押して選択します。＜OK＞スイッチを押して決定することができます。

➔設定例1（表示項目選択） (P.94)
➔設定例2（タイヤ） (P.94)

■ ASC 設定

項目	機能
システム	● アクティブスタビリティコントロール［ASC］機能の ON・OFF を設定します。 ➔ASC の ON・OFF のしかた (P.160)

■ 運転支援システム

項目 1	項目 2	機能
MI-PILOT ★	車線維持支援	● 車線維持支援機能 [LKA] の ON・OFF を設定します。 ➔マイパイロット★ (P.164)
車線逸脱	車線逸脱警報	● LDW の ON・OFF を設定します。 ➔車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP] (P.189)
	LDP（車線逸脱防止支援）	● LDP の ON・OFF を設定します。 ➔車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP] (P.189)
衝突被害軽減ブレーキ		● FCM、PFCW、EAPM の ON・OFF を設定します。 ➔衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.177) ➔前方衝突予測警報 [PFCW] (P.181) ➔踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] (P.183)
先行車発進お知らせ		● LCDN の設定を、［OFF］、［標準］、［早め］から選択します。 ➔先行車発進通知 [LCDN] (P.196)
道路標識表示		● 最高速度標識認識の ON・OFF を設定します。 ➔標識認識システム [TSR] (P.193)
進入禁止標識		● 進入禁止標識認識／一時停止標識認識の ON・OFF を設定します。 ➔標識認識システム [TSR] (P.193)

項目 1	項目 2	機能
パーキングセンサー	フロントセンサー	● フロントセンサーの ON・OFF を設定します。 ➔パーキングセンサー（フロント / リヤ）(P.97)
	リヤセンサー	● リヤセンサーの ON・OFF を設定します。 ➔パーキングセンサー（フロント / リヤ）(P.97)
	センサー画面切替	● 障害物に近づいたときの、割り込み表示 ON・OFF を設定します。 ➔パーキングセンサー（フロント / リヤ）(P.97)
	センサー感度	● センサー検知距離を［遠距離］、［中距離］、［近距離］から選択します。障害物までの最長距離が 110%（［遠距離］）、100%（［中距離］）、90%（［近距離］）で変更できます。 中を選択したときの障害物までの最長距離は、（➔P.211）お読みください。 ➔パーキングセンサー（フロント / リヤ）(P.97)
	ボリューム	● ボリューム（警告音（ブザー））を、［大］、［中］、［小］から選択します。 ➔パーキングセンサー（フロント / リヤ）(P.97)
	移動物検知★	● 移動物検知の ON・OFF を設定します。 ➔移動物検知機能について (P.210)
ふらつき警報		● DAA の ON・OFF を設定します。 ➔ふらつき警報 [DAA] (P.193)
タイマーアラーム設定	--- 分／ --- 分	● 設定した時間まで連続走行したことをお知らせします。< ▲▼ >スイッチを押すと「分」が切り替わり、< OK >スイッチを押すと決定します。 — 最大 360 分まで設定できます — 設定時間は 30 分単位で切り替わります（< ⮌ >スイッチを押すと設定前の画面に戻ります）
	リセット	［はい］を選択すると、走行した時間をリセットできます。
凍結注意		● 外気温度表示が 3°C 以下になったときに表示する凍結注意表示の ON・OFF を設定します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目 1	項目 2	機能
ペダルオペレーションモード記憶		● イノベーティブペダル オペレーションモードのモード記憶の ON・OFF を設定します。ON にすると、パワーユニット再始動後も、設定状態を維持できます。 ➲イノベーティブペダル オペレーションモード (P.156)

■ 画面カスタマイズ

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
表示項目選択		● メーター画面で表示させたい項目を選択することができます。ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで項目を切り替えて、表示させたい項目で< OK >スイッチを押します。
エコ情報設定	エコドライブレポート	● エコドライブレポートの ON・OFF を設定します。 OFF にすると、エコドライブレポートが表示されなくなります。 ➲エコドライブレポートについて (P.97)
	電費履歴リセット	● 電費履歴画面を表示します。(リセットを選択すると履歴を消去します。)
ナビゲーション設定★	自動割込み設定	● 走行中、次の右左折点に接近したとき、メーター内にポップアップでお知らせする機能の ON・OFF を設定します。
クルーズ画面自動切替★		● マイパイロット画面切替の ON・OFF を設定します。 ON にすると、マイパイロットのシステムを ON にしたとき、自動的に画面がマイパイロット画面に切り替わります。 ➲マイパイロット★ (P.164)
ストップランプ作動表示		● 車両の制動灯が点灯したときに、駆動用バッテリーステータス画面の制動灯も点灯する機能の ON・OFF を設定します。

項目 1	項目 2	機能
メーター演出	アニメーション	● ディスプレイ演出の ON・OFF を設定します。 OFF にすると、パワーユニット始動時のアニメーションが OFF になります。
	サウンド	● ディスプレイ演出の ON・OFF を設定します。 OFF にすると、パワーユニット始動時のサウンドが OFF になります。
ライトモードガイダンス		● ライトスイッチを回したとき、スイッチ位置をメーター内にポップアップで表示する機能の ON・OFF を設定します。

■ 車両設定

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
ライト / 照明	オートライト感度調整	● オートライトの感度を 4 段階で設定できます。
	ウエルカムライト	● ウェルカムライトの ON・OFF を設定します。 ［ドアアンロック / ロック連動］、［ドアアンロック連動］、［ドアロック連動］、［OFF］から選択できます。 ウェルカムライト （➔P.102）
	自動室内灯	● 室内灯の自動点灯機能の ON・OFF を設定します。 ➔室内灯 (P.236)
方向指示器	コンフォートフラッシャー	● コンフォートフラッシャー機能の ON・OFF を設定できます。
ワイパー	車速連動	● 車速連動機能の ON・OFF を設定します。 ➔フロントワイパーの使いかた (P.153)
	リバース連動	● リバース連動機能の ON・OFF を設定します。 ➔リヤワイパーの使いかた (P.154)

項目 1	項目 2	機能
ドアミラー	OFF	● ドアロック連動格納機能が OFF になります。 ➔ドアロック連動自動格納機能について (P.121)
	始動時展開	● ドアロック連動格納機能が ON になります。＜パワースイッチ＞を ON にしたときにドアミラーが開く設定になります。 ➔ドアロック連動自動格納機能について (P.121)
	解錠時展開	● ドアロック連動格納機能が ON になります。リモコンまたは、ドアハンドルのスイッチで解錠すると、ドアミラーが開く設定になります。 ➔ドアロック連動自動格納機能について (P.121)
ドアロック	ドアハンドルスイッチ	● ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠機能の ON・OFF を設定します。 ➔キーレスオペレーションシステムの機能による施錠・解錠のしかた (P.106)

■ EV 設定

走行中は操作できません。

項目	機能
タイマー充電 1	● タイマー充電を設定できます。 詳細については（➔P.36）をお読みください。
タイマー充電 2	
自宅でタイマー充電★	● スマートフォン連携ナビゲーション★で自宅を登録しているときのみ表示します。 ● 自宅でタイマー充電モードの ON・OFF を設定します。 ➔自宅でタイマー充電モード★について (P.37)
充電時間表示設定	● 充電所要時間（推定）に表示させる充電電力値（固定値）を、2.9kW（AC 200-240V）、1.1kW（AC 100-127V）、30kW（急速充電）から選択します。 ➔充電所要時間（推定）について (P.81)

項目	機能
タイマーエアコン 1	● タイマーエアコンを設定できます。 詳細については（➔P.131）をお読みください。
タイマーエアコン 2	

■ メンテナンス

走行中は操作できません。

項目	機能
タイヤ ユーザー	● ［メンテナンス］では、次回メンテナンスを行うまでの距離を設定できます。設定値を超えるとメンテナンスする距離がきたことを表示で知らせます。（定期交換部品等の交換距離については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。） — ＜ ▲▼ ＞スイッチで距離が切り替わり、＜ OK ＞スイッチを押すと決定します。（＜ ⮌ ＞スイッチを押すと設定前の画面に戻ります） — 500km ～ 30,000km までの範囲内で距離を設定できます。 — 設定距離は 500km 単位で切り替わります。 — ［リセット］を選択して＜ OK ＞スイッチを押すとリセット画面が表示されます。［はい］を選択し、再度＜ OK ＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。 ● 機能を停止することができます。 — 停止する場合は、距離表示を［---］に合わせ＜ OK ＞スイッチを押して決定します。

■ 時計

走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
表示★		● 時刻表示の ON・OFF を設定します。
12H/24H		● ＜ OK ＞スイッチを押すと 12 時間表示、24 時間表示を切り替えます。
時刻設定モード★	自動	● GPS からの情報を使って自動で時刻を設定します。
	手動	● ［時刻調整］から手動で時刻を設定します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目 1	項目 2	機能
時刻調整		● 時刻を設定します。 ① < OK >スイッチを押すと「時」調整画面に切り替わります。 ②< ▲▼ >スイッチを押して「時」を調整します。 ③< ◀▶ >スイッチを押すと「分」調整画面に切り替わります。 ④< ▲▼ >スイッチを押して「分」を調整します。 ⑤ < OK >スイッチを押すと時刻が設定されます。 （< ⮌ >スイッチを押すと前の調整画面に戻ります）

■ 日付設定

走行中は操作できません。

機能
● 日付を調整します。 ① < OK >スイッチを押すと「年」調整画面に切り替わります。 ②< ▲▼ >スイッチを押して「年」を調整します。 ③< ◀▶ >スイッチを押すと「月」調整画面に切り替わります。 ④< ▲▼ >スイッチを押して「月」を調整します。 ⑤< ◀▶ >スイッチを押すと「日」調整画面に切り替わります。 ⑥< ▲▼ >スイッチを押して「日」を調整します。 ⑦ < OK >スイッチを押すと日付が設定されます。 （< ⮌ >スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）

■ スケジュール

日付設定で日付を設定していない場合は、設定することができません。走行中は操作できません。

項目 1	項目 2	機能
誕生日		● 誕生日や各種記念日の設定ができます。 ● 設定した日付になると、表示で知らせます。 ① < OK >スイッチを押すと「月」調整画面に切り替わります。 ②< ▲▼ >スイッチを押して「月」を調整します。 ③< ◀▶ >スイッチを押すと「日」調整画面に切り替わります。 ④< ▲▼ >スイッチを押して「日」を調整します。 ⑤ < OK >スイッチを押すと日付が設定されます。 （< ⮌ >スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）
記念日	記念日 1	
	記念日 2	
車検日		● 車検日や点検日の設定ができます。 ● 設定した日付の約 1 か月前から表示で知らせます。 ① < OK >スイッチを押すと「年」調整画面に切り替わります。 ②< ▲▼ >スイッチを押して「年」を調整します。 ③< ◀▶ >スイッチを押すと「月」調整画面に切り替わります。 ④< ▲▼ >スイッチを押して「月」を調整します。 ⑤< ◀▶ >スイッチを押すと「日」調整画面に切り替わります。 ⑥< ▲▼ >スイッチを押して「日」を調整します。 ⑦ < OK >スイッチを押すと日付が設定されます。 （< ⮌ >スイッチを押すと前の調整画面に戻ります。）
点検日		
スケジュール表示	誕生日	● それぞれの設定したスケジュール表示の ON・OFF を設定します。
	記念日 1	
	記念日 2	
	車検日	
	点検日	

■ 単位／言語

走行中は操作できません。

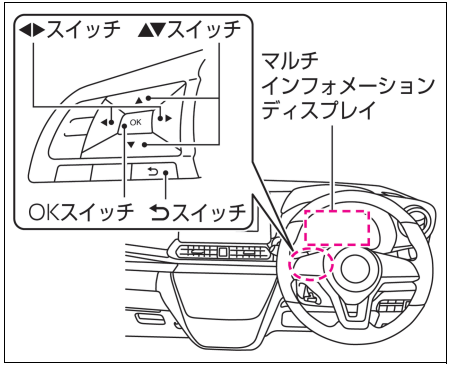
項目	機能
温度	● 温度の単位を ℃ または ℉ に切り替えます。
言語	● 表示言語を日本語または English に切り替えます。

■ 工場出荷設定

走行中は操作できません。

機能
工場出荷時の設定にリセットすることができます。 ●［はい］を選択すると、各種設定が初期化されます。

設定例 1（表示項目選択）



1. ステアリングスイッチの< ◀▶ >スイッチを数回押し、設定画面を表示して<OK>スイッチを押します。
2. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチを押して、［画面カスタマイズ］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。
3. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチを押して、［表示項目選択］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。
4. 表示させたい項目を、ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチを押して選択し、<OK>スイッチを押して選択すると表示できるようになります。

設定例 2（タイヤ）

1. ステアリングスイッチの< ◀▶ >スイッチを数回押し、設定画面を表示して<OK>スイッチを押します。
2. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチを押して、［メンテナンス］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。
3. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチを押して、［タイヤ］を選択し、<OK>スイッチを押して決定します。
4. ［タイヤ］画面でステアリングスイッチの<OK>スイッチを押して、次回メンテナンスを行う距離の

［設定］画面に進みます。（［---km/---km］の右側の表示）
※［---km/---km］の左側は、設定以降走行した距離を表示します。

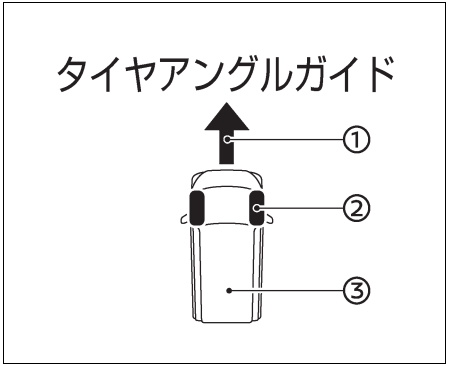
●手順4でリセットを選択してステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと走行した距離をリセットできます。（［---km /---km］の左側の表示）

5. 次回メンテナンスを行う距離を設定できます。（手順4［---km/---km］右側の表示）
ステアリングスイッチの＜ ▲▼ ＞スイッチを押して距離を切り替え、＜OK＞スイッチを押して決定します。
設定距離は500km単位で切り替わります。
※機能を停止する場合は、距離表示を［---］にあわせ＜OK＞スイッチを押して決定します。

タイヤアングルガイド

タイヤアングルガイドについて

●前進時や後退時のタイヤの方向や角度と進行方向を一目で確認することができます。



① 現在のシフトポジションと前輪タイヤの向きで自車が進む方向を表示します。
② 前輪タイヤが向いている方向を表示します。
③ 自車を表します。

●補機用バッテリーを外したときや、補機用バッテリーがあがったときは、タイヤアングルガイドを正しく作動させるために以下の操作を行ってください。
— 1. 周囲の安全を確認し、パワーユニットを始動します。
— 2. 停車したままハンドルを右にいっぱいに切り、その後左にいっぱいに切ります。
— 3. 正常に作動することを確認します。正常に作動しないときは、再度上記の操作を行ってください。

タイヤアングルガイドの表示例

●例1：シフトポジションがP、R、N以外でハンドルを左に切っているとき、自車が左前方向に進むことを示しています。

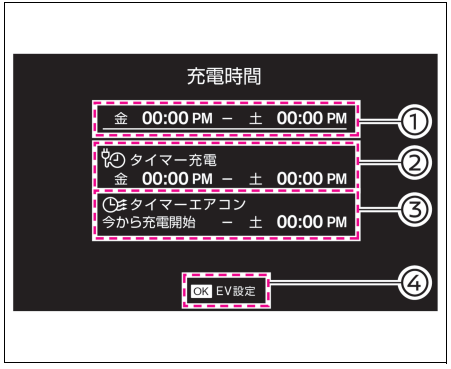
●例2：シフトポジションがRでハンドルを左に切っているとき、自車が左後ろ方向に後退することを示しています。

●マルチインフォメーションディスプレイの［設定］でパーキングセンサーをONにしているときに、センサーが障害物を検知する、またはシフトポジションをRにした場合、センサー画面が割り込み表示します。
センサー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、一時的にパーキングセンサーを停止できます。
➔パーキングセンサー（フロント/リヤ） (P.97)

タイマー設定状態確認画面

タイマー設定状態確認表示

●＜パワースイッチ＞をOFFにすると、約30秒間表示されます。



①：充電予定時刻
タイマー充電がONの場合、前回のタイマー充電時の電力値で充電所要時間を計算し、開始時刻、停止時刻を表示します。
タイマー充電がOFFの場合、今すぐ充電を開始したとき、満充電になる停止時刻を表示します。停止時刻は、充電時間表示設定で選択されている電力値で充電所要時間を計算し、停止時刻を表示します。

②：タイマー充電の設定状況
タイマー充電がONの場合、タイマー充電の開始時刻、停止時刻を確認できます。

③：タイマーエアコンの設定状況
タイマーエアコンがONの場合、タイマーエアコンの出発時刻を確認できます。

④：表示中に＜OK＞スイッチを押すと、［EV設定］に移行します。
タイマー充電、充電時間表示設定、タイマーエアコンの設定を変更できます。
設定の詳細については、EV設定をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)

➔EV設定 (P.90)

●表示中に画面切り替え操作を行うと、表示時間が操作から30秒延長されます。

●＜パワースイッチ＞をOFFにして、ドアを施錠すると、表示が消えます。

●スマートフォン連携ナビゲーション装着車は曜日も表示されます。

●充電予定時刻は10分単位で表示されます。24時間以上の充電時間は［24時間以上］と表示されます。

●前回のタイマー充電時と異なる電力値で充電すると、タイマー充電時間が再計算され、＜パワースイッチ＞をOFFにしたときに表示されていた時間と異なる時間で充電されることがありますが、異常ではありません。

●タイマー充電とタイマーエアコンの時刻が重なると、充電予定時刻が長めに計算され表示されます。

●充電ケーブルを接続するとすぐ充電が開始する条件では、充電開始時刻が［今から充電開始］と表示されます。

●充電中は、実際に充電を開始した時刻が開始時刻として表示され、充電している電力値で充電所要時間を計算し、停止時刻を表示します。

●満充電後または、V2H充電で充電中は、①充電予定時間は［--:--］となります。

●スマートフォン連携ナビゲーション装着車は、自宅でタイマー充電モードをONにしていると、自宅で＜パワースイッチ＞をOFFしたときのみ、①にタイマー充電予定時刻が表示されます。
➔自宅でタイマー充電モード★について (P.37)
自宅以外で＜パワースイッチ＞をOFFにした場合、今すぐ充電モードになり充電開始時刻が［今から充電開始］と表示されます。

●満充電優先モードがONのときに、タイマー開始時刻からタイマー停止時刻の設定時間帯だけでは満充電にならない場

合、①に表示されるタイマー充電予定時刻は、タイマー設定時間帯を越えた時刻が表示されます。
➔満充電優先モードについて (P.37)

- 充電停止時刻は目安です。予定された停止時刻に満充電にならないことがあります。
- タイマー充電とタイマーエアコンの時刻が重なると、予定された停止時刻に満充電にならないことがあります。
- 駆動用バッテリークーラーが作動しているときは、充電時間が長く表示される場合があります。
- 各電力値で充電時間を確認したい場合、［充電所要時間（推定）］表示で確認するか、タイマー充電をOFFにして確認してください。
➔充電所要時間（推定）について (P.81)

その他の表示機能

パーキングセンサー（フロント / リヤ）

- 車両が障害物に近づくと、マルチインフォメーションディスプレイのセンサー表示色が緑→黄→赤の順に切り替わり、警報音（ブザー）が鳴ります。

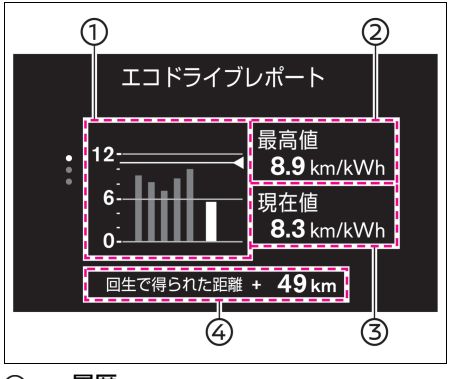
表示色	警報音
緑	ピッ、ピッ、ピッ・・・
黄	ピピピピピ・・・
赤	ピー

- 次の場合にパーキングセンサー（フロント/リヤ）が作動します。
  - シフトポジションを**R**にしたとき
  - シフトポジションが**D**または**B**で障害物を検知したとき（約10km/h以下）
- センサー表示中にステアリングスイッチの＜OK＞スイッチを押すと、一時的にパーキングセンサー（フロント/リヤ）を停止できます。
- ただし次の場合は、一時停止が解除されます。
  - シフトポジションを**N**、**P**にしたとき
  - 約12km/h以上で走行したとき
- センサーについては、（➔P.211）をお読みください。
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［パーキングセンサー］を選択すると、パーキングセンサーの各種設定が行えます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)
- センサーが障害物を検知すると、センサー画面が割り込み表示します。割り込み表示はOFFにすることができます。
➔運転支援システム (P.86)
- センサーのお手入れについては、（➔P.315）をお読みください。
- 障害物の検知は前方4個、後方4個のセンサーを使用して検知します。

エコドライブレポートについて

＜パワースイッチ＞をOFFにしてから、ステアリングスイッチの＜▲▼＞スイッチを

押し、エコドライブレポート画面を表示します。
エコドライブレポートの結果は、約500m以上走行したときのみ表示します。



① **履歴**
過去5回分の平均電費を表示します。

② **最高値**
過去のベスト電費を表示します。

③ **現在値**
今回の平均電費を表示します。

④ **回生で得られた距離**
今回の走行で回生した電力量を距離換算で表示します。

- 画面を切り替えてから、約30秒間表示されます。
- 表示中に画面切り替え操作を行うと、表示時間が操作から30秒延長されます。
- ＜パワースイッチ＞をOFFにして、ドアを施錠すると、表示が消えます。
- 走行したルートのほとんどが下り坂だった場合、回生量が大きく、回生で得られた距離④が走行した距離以上になることがあります。
- 走行したルートのほとんどが下り坂だった場合、回生量が大きく、現在値③が99.9km/kWhになることがあります。
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［画面カスタマイズ］⇒［エコ情報設定］⇒［エコドライブレポート］を選択すると、エコドライブレポートの表示·非表示を切り替えることができます。
設定の詳細については、画面カスタマイズをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔画面カスタマイズ (P.88)

着信表示★

- スマートフォン連携ナビゲーション★で携帯電話をハンズフリー接続しているときに、着信すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

通話表示★

- スマートフォン連携ナビゲーション★で携帯電話をハンズフリー接続しているときに、通話すると表示します。
ハンズフリーフォンについては、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

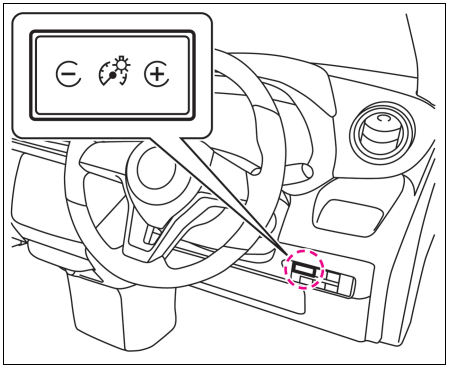
音声操作表示★

- スマートフォン連携ナビゲーション★で音声操作を行うと、マルチインフォメーションディスプレイに音声操作表示をします。
音声操作については、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

メーターの明るさの調節

イルミネーションコントロール

メーターの明るさの調節のしかた



＜パワースイッチ＞がONのとき、メーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- 明るさのレベルが最大または最小に達すると、音が鳴ります。

MEMO

キー

キーレスオペレーションキー P.102
キーレスオペレーションシステムに関する注意事項 P.103

ドアの施錠と解錠

ドア P.106
テールゲート P.108

シート・ハンドルの調節

前席シート P.111
後席シート P.113
ハンドル P.114

ミラーの調節

自動防眩ルームミラー★ P.116
デジタルルームミラー★ P.117
ドアミラー P.120

窓ガラスの開閉

パワーウインドウ P.123

エアコンの操作

タッチパネル式フルオートエアコン P.125
吹き出し口 P.128
エアコンを使うときに注意すること P.129
タイマーエアコンの設定のしかた P.131
タイマーエアコンに関する注意事項 P.133

オーディオ

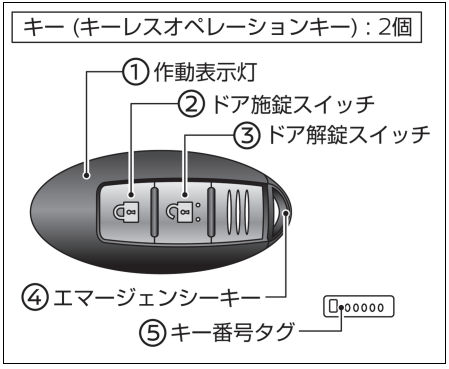
オーディオ★の使いかた P.134
ステアリングスイッチ★ P.135

キーレスオペレーションキー

キーを携帯するだけでドアの施錠・解錠およびパワーユニットの始動操作ができます。

ドアの施錠・解錠のしかたは（➔P.106）、始動操作は（➔P.138）をお読みください。

各部名称と機能



① **作動表示灯**
②または③のスイッチを押すと点滅します。

② **ドア施錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが施錠されます。

③ **ドア解錠スイッチ**
スイッチを押すと、全ドアが解錠されます。

④ **内蔵キー（エマージェンシーキー）**
キーの電池が切れたときや、補機用バッテリーがあがったときなどにドアの施錠・解錠ができます。

⑤ **キー番号タグ**
キーを紛失した場合、キー番号から三菱自動車販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

- キーは2個ついています。
- キーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 作動表示灯が点滅しない場合は、電池の消耗が考えられます。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。
  ➔キーレスオペレーションキーの電池交換 (P.309)
- キーの電池が切れても、ドアの施錠・解錠やパワーユニットの始動を行うことができます。
- キーレスオペレーションシステムの機能のON・OFFを切り替えることができます。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

キーレスオペレーションシステムに関する機能について

■ アンサーバック機能

- ドアの施錠･解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）
  アンサーバック機能のブザーを停止することができます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

■ ウェルカムライト

- ドアの施錠･解錠時に、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。（施錠時約10秒、解錠時約30秒）
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］⇒［ウエルカムライト］を選択すると、ウェルカムライトの設定を変更することができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  ➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ➔車両設定 (P.89)

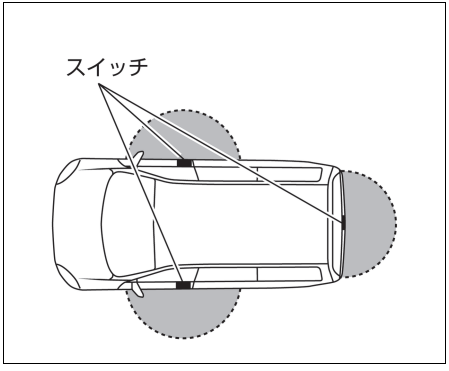
■ キー連動室内照明システム

- ドアを解錠すると、室内照明が約15秒間点灯します。
  詳しくは、室内灯（➔P.236）をお読みください。

■ オートロック機能

●＜ドア解錠スイッチ＞を押してから約30秒以内にいずれかのドアを開けなかったときは、盗難防止のため全ドアが施錠されます。
（施錠されるまでの間に、再度＜ドア解錠スイッチ＞を押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）

ドアの施錠・解錠の作動範囲



作動範囲は各ドアハンドルのスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各ドアハンドルのスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

キーが作動範囲内にある場合は、キーを携帯している人以外でもドアハンドルのスイッチを押して施錠·解錠できます。

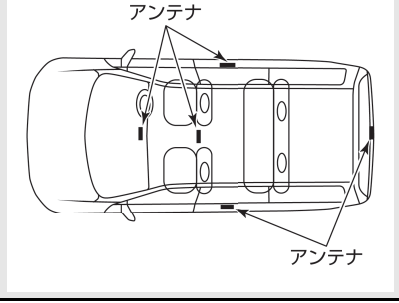
●ドアハンドルのスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。

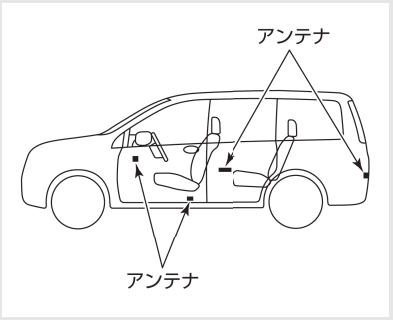
●ドアハンドルのスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。

●車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず＜パワースイッチ＞をOFFにして施錠してください。

キーレスオペレーションシステムに関する注意事項

⚠ 警告





- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用されている方は、アンテナから約22cm以下の範囲に装着部位を近づけない。**

  ドアおよびテールゲート開閉時、ドアハンドルのスイッチ操作時、パワーユニットの始動時などにキーレスオペレーションシステムの電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用されている方は、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してから使用する。**

  キーレスオペレーションシステムの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があります。

- **航空機内ではキーのスイッチを押さない。**

⚠ 警告

万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあるため、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。

アドバイス

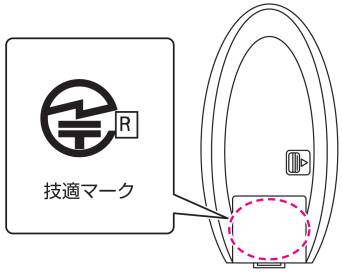
- キーは運転者が必ず携帯してください。
- キーは、必ず内蔵キー（エマージェンシーキー）を内蔵した状態で携帯してください。
- キーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるときの衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面、ドアポケット付近、グローブボックス内、フロア上では、キーが正常に作動しなかったり、車外から施錠ができ、キーを車室内に封じ込めたりするおそれがあります。
- キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに三菱自動車販売会社にご相談ください。

- キーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、ドアハンドルのスイッチやキーのスイッチが正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - キーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式のリモコンスイッチを操作しているとき
  - キーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
  - コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
  - 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
  - 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）
- キーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  - 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 日本国内のみで使用する

- キーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

  ➔キーレスオペレーションキーの電池交換 (P.309)
- キーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- キーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  - 長時間高温になる場所に置かない
  - 分解しない
  - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
  - 水にぬらさない
  - 超音波洗浄器などにかけない
  - 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
  - テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない
- キーの認証技適マークはキーの裏面で確認できます。

アドバイス



- キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

  キーレスオペレーションキーの電池交換 (P.309)

- キーの電池が切れ、施錠･解錠ができないときは、内蔵キー（エマージェンシーキー）で施錠･解錠ができます。

  ドアが開かないときは (P.260)

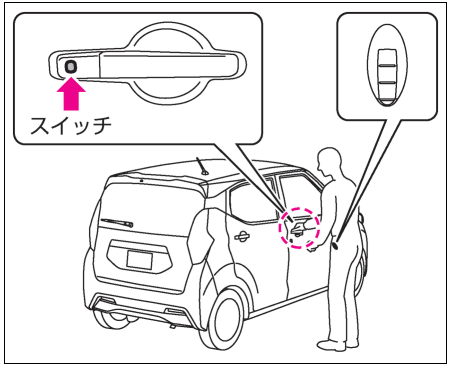
- 次のような場合は、作動しません。
  - READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯している
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - 車から離れすぎているとき
  - キーの電池が切れているとき

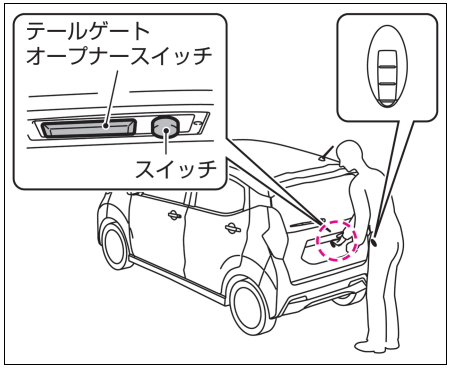
ドア

ドアハンドルのスイッチやキーレスオペレーションキーのスイッチで施錠・解錠します。

施錠したあとは、必ず施錠されていることを確認してください。

キーレスオペレーションシステムの機能による施錠・解錠のしかた





- キーを携帯し、運転席、助手席ドアまたはテールゲートにあるスイッチを押すと全ドアが施錠・解錠します。
- キーが各スイッチから周囲約80cm以内にあるときに作動します。
- 施錠・解錠したときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅

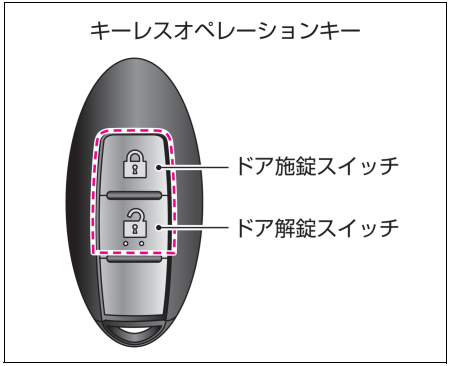
- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアハンドルが引かれるため、施錠できないことがあります。
- ドアハンドルのスイッチでの施錠・解錠機能のON・OFFを切り替えることができます。設定を切り替えたいときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

- 次のような場合は、作動しません。
  - READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているとき（解錠のみできます）
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - キーが施錠・解錠の作動範囲内にないとき
  - キーの電池が切れているとき

オートロック機能

- 盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。ドアハンドルのスイッチを押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

キーのスイッチでの施錠・解錠のしかた



- 全ドアを施錠するときは、＜ドア施錠スイッチ＞ を押します。

●全ドアを解錠するときは、＜ドア解錠スイッチ＞ を押します。
●作動範囲は、車両から約1mです。
●施錠・解錠をしたときは、ブザーおよび非常点滅表示灯が次のように作動します。

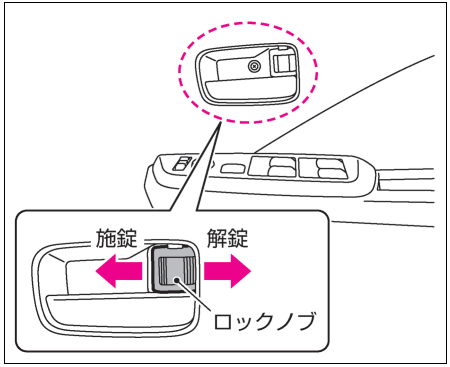
	ブザー音	非常点滅表示灯
施錠	ピッ	1回点滅
解錠	ピピッ	2回点滅

●キーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。三菱自動車販売会社にご相談ください。
➔キーレスオペレーションキーの電池交換（P.309）
●キーの電池が切れ、施錠・解錠ができないときは、内蔵キー（エマージェンシーキー）で施錠・解錠ができます。
➔ドアが開かないときは（P.260）
●次のような場合は、キーのスイッチを押しても作動しません。
— READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているとき
— ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
— 車から離れすぎているとき
— キーの電池が切れているとき

オートロック機能

●盗難防止のため、自動的に施錠する機能です。＜ドア解錠スイッチ＞を押して解錠したときは、約30秒間ドアを開けないと再び全ドアが施錠されます。

ロックノブでの施錠・解錠のしかた



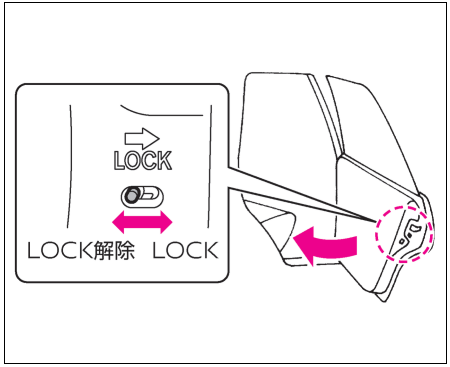
●施錠するときは、施錠するドアのロックノブを施錠側に押し込みます。
●解錠するときは、解錠するドアのロックノブを解錠側に引きます。
●運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
●運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが同時に解錠します。

キーを使用しない施錠のしかた

助手席、後席ドア

●ロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。
●運転席ドアが開いているときは、運転席ロックノブで施錠できません。

チャイルドプルーフ



後席シートに乗せたお子さまなどが、誤って後席のドアを開けないようにロックできます。

ロックするには

●後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。

ドアを開けるには

●解錠しているとき、車外からドアハンドルを引きます。
●車室内から開けるときは、ドアロックノブが解錠していることを確認し、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

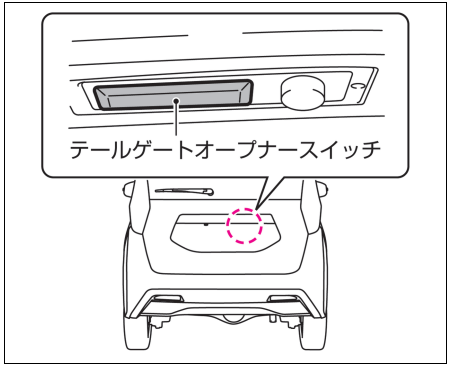
ドアに関する注意事項

⚠ 警告

- **ドアの開閉はお子さまにはさせない。**
  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。**
  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- **走行する前にドアを確実に閉める。**
  走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

テールゲート

テールゲートの開けかた

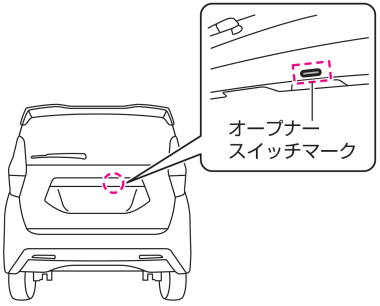


- 解錠されているときは、<テールゲートオープナースイッチ>を押し、テールゲートを持ち上げます。
- 施錠されているときは、キーを携帯して<テールゲートオープナースイッチ>を押し、テールゲートを持ち上げます。（ドアも同時に解錠します。）

アドバイス

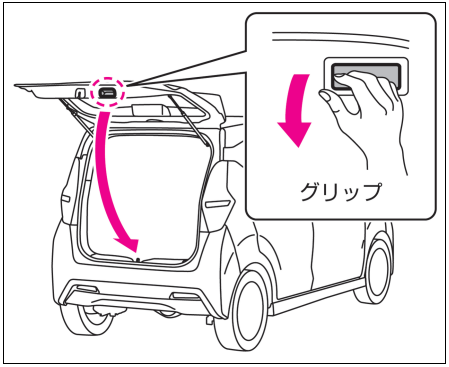
- <テールゲートオープナースイッチ>を押したまま、リモコンでドアを施錠・解錠しないでください。故障の原因になります。
- 手を添えないと全開にならない場合は、ガスステーの保持力が低下しているおそれがあります。お近くの三菱自動車販売会社にて、早めに点検を受けてください。

知識



- <テールゲートオープナースイッチ>の位置を示すマークがあります。

テールゲートの閉めかた



●ドアグリップに手を掛け、テールゲートを降ろし確実にロックするまで押しつけます。

アドバイス

- テールゲートを閉めるときは、ストライカーに異物を挟まないようにしてください。ストライカーやテールゲートのロックが破損し、テールゲートが閉まらなくなるおそれがあります。

テールゲートに関する注意事項

⚠ 警告

- **テールゲートの開閉はお子さまにはさせない。**

  手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **テールゲートを開けるときは、周囲の安全を確認する。**

  後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。

- **走行する前にテールゲートを確実に閉める。**

  走行中に突然テールゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しない。**

  急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **テールゲートや車体側に手を触れたままテールゲートを閉めない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。

- **テールゲートを閉めるときは、テールゲートのふちやその周辺に手をかけない。**

  手を挟まれてケガをするおそれがあります。必ず外から押して閉めてください。

- **テールゲートを開ける前に、テールゲートに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除く。**

  重量物が付いたままテールゲートを開けると、重みで突然閉まるおそれがあります。

- **テールゲートを開けるときは、必ず全開にする。**

  途中で止めると突然閉まるおそれがあります。

- **風が強いときにテールゲートを開ける場合は特に注意する。**

  風にあおられ、急に閉まることがあります。

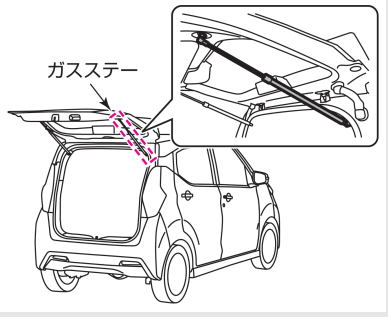
- **テールゲートを閉めるときは、手などを挟まないように注意する。**

⚠ 注意

テールゲートガスステーについて

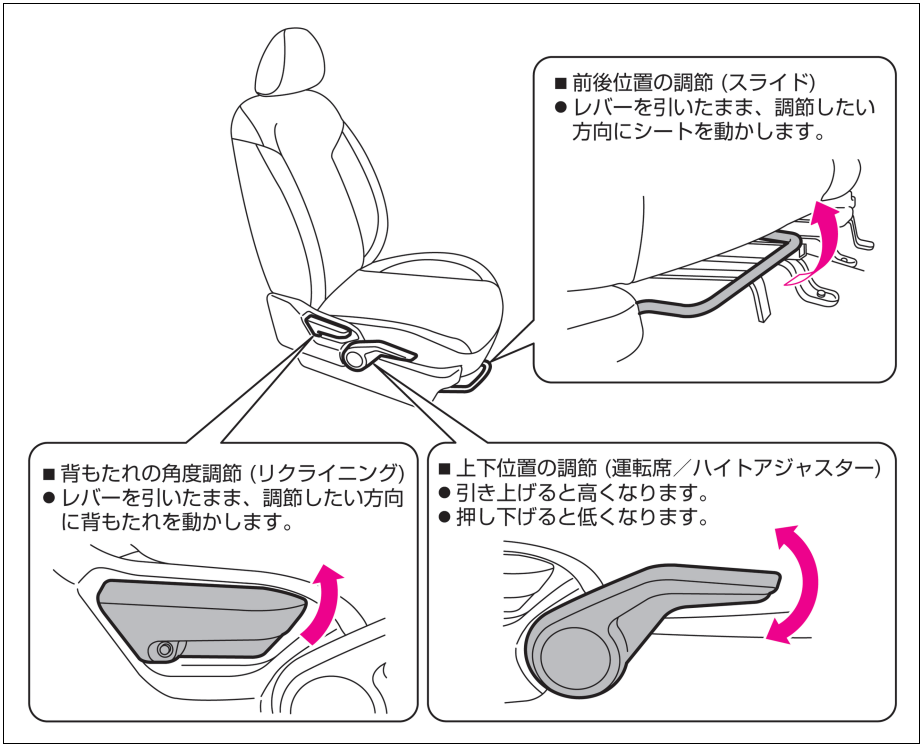
- **テールゲートのガスステーは、テールゲートの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことを守る。**
  - ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしない
  - ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をロッド部に付着させない
- **ガスステーを持って、テールゲートを閉めたり、ぶら下がったりしない。**

  手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。



前席シート

シートの調節のしかた



⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。**
  運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**

⚠ 注意

車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションなどを使用すると、前席シートベルト非着用警告音（P.267）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

ヘッドレストの調節のしかた

⚠ 警告

- **ヘッドレストを外したまま走行しない。**

  万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

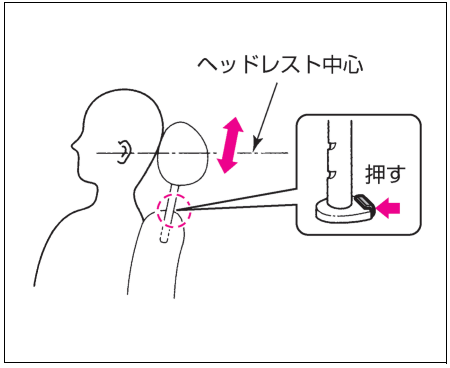
⚠ 注意

- **ヘッドレストを取り付けるときは、前後の向きを間違えない。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

- **ヘッドレストを取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認する。**

  万一のとき、ヘッドレストが効果を十分に発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。



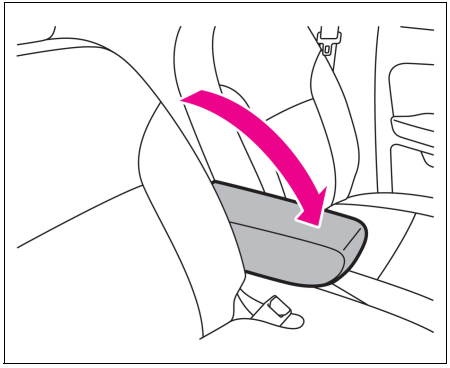
ヘッドレストの中心が、耳の高さになる位置に調節します。

- 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。
- 低くするときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ヘッドレストを差し込みます。

アームレスト★の使いかた



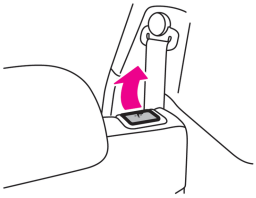
- 使うときはアームレストを前に倒します。格納するときは引き上げます。

後席シート

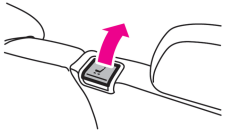
シートの調節のしかた

■背もたれの角度調節 (リクライニング)
●レバーを引いたまま、調節したい方向に背もたれを動かします。

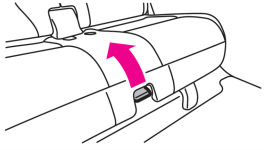
■背もたれの倒しかた
●レバーを引きながら、背もたれを前方に倒します。

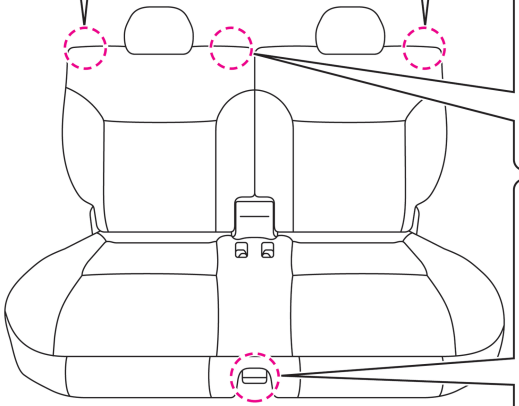


■前後位置の調節 (スライド)
●レバーを引いたまま、調節したい方向にシートを動かします。



■前後位置の調節 (スライド)
●レバーを引いたまま、調節したい方向にシートを動かします。





⚠ 警告

- **シートは必ず走行前に調節する。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **シートを調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  固定されていないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **背もたれを必要以上に倒したまま走行しない。**
  シートベルトが効果を十分に発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- **シートを調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけない。**
  挟まれてケガをするおそれがあります。
- **背もたれの角度を調節するときは、背もたれを支えながら調節する。**
  顔や身体に当たり、思わぬケガをするおそれがあります。
- **シートの下に手を入れるときは注意する。**
  車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートレールやシートフレームに当たり、ケガをするおそれがあります。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 一定以上の車速で走行中、後席の乗員が着用しているシートベルトを外すと、後席シートベルト非着用警告音（P.267）が作動します。

  後席乗員検知付車は、後席の乗員がシートベルトを着用していない状態で一定以上の車速で走行すると、後席シートベルト非着用警告音が作動します。

シートの折りたたみかた

警告

- **シートは必ず固定する位置で使用する。**

注意

- **シートを折りたたんだとき、折りたたんだ背もたれの上に乗らない。**

  シートを損傷したり、転んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

- **背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻す。**

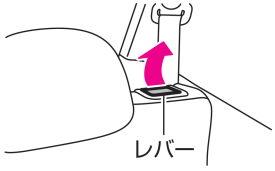
  急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

- **背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれで挟み込んでいないことを確認する。**

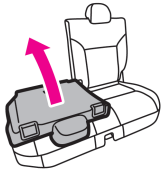
  挟み込まれていると、シートベルトが正しく着用できません。

アドバイス

- 物や飲物などを置いたままシートを折りたたむと、物を壊したり車室内を汚すおそれがあります。シートを倒すときは十分に注意してください。
- ラゲッジルーム（荷室）に荷物を積むときは、シートベルトに傷をつけないように注意してください。
- 前席シートに当たりシートが折りたためないときは、ヘッドレストを格納するか、前席シートの前後位置を調節してください。



1. 折りたたみたいシートの背もたれの角度調節レバーを引きながら、背もたれを前に倒します。



2. 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押し付けてロックします。

ヘッドレストの使いかた

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
  - 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。
  - 下げるときは、ボタンを押しながら下げます。
- 後席シートのヘッドレストは、格納状態では機能が十分に発揮できません。ロックする位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレストの外しかた、付けかた

- 脱着のしかたは、前席シートと同じです。

ヘッドレストの調節のしかた (P.112)

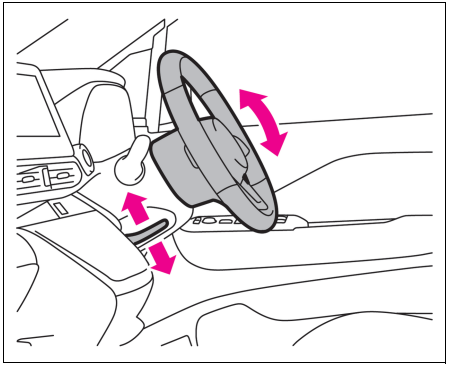
ハンドル

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドル位置を調節します。

ハンドル位置の調節のしかた

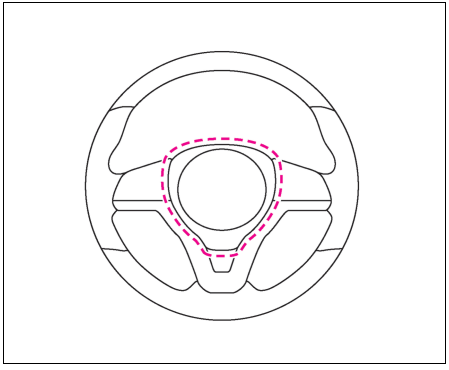
⚠ 警告

- **ハンドルの調節は、必ず走行前に行う。**
  走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **調節したあとは、確実に固定されたことを確認する。**
  ハンドル位置が固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



●ハンドル左下のレバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かします。
●適切な位置で止め、レバーを引き上げて固定します。

ホーンの鳴らしかた



ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

自動防眩ルームミラー★

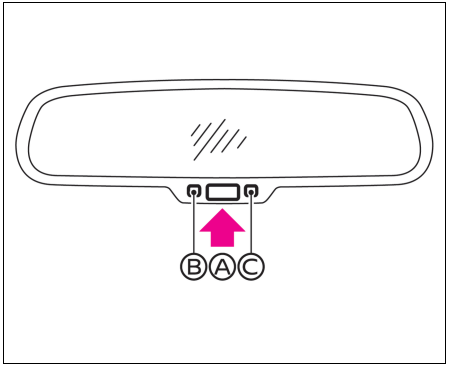
自動防眩ルームミラーは、後続車両のヘッドライトの明るさに応じて反射率を調整します。

<パワースイッチ>をONにすると作動します。

自動防眩ルームミラー★の使いかた

●ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます

●システムが作動状態になるとインジケーターⒷが点灯し、後続車両のヘッドライトによる眩しさを軽減します。



●スイッチⒶを押すとルームミラーは標準作動状態になり、インジケーターが消灯します。スイッチを再び押すと、自動防眩システムが作動します。

●スマートフォン連携ナビゲーション非装着車は、シフトポジションをRに入れると、モニターには車両後方が映し出されます。➔リヤビューモニター★ (P. 198)

⚠ 警告

● **ミラーの調節は走行前、防眩への切り替えは必要なときのみ行う。**

思わぬ事故につながるおそれがあります。

● **ルームミラーに物をかけたり、ガラスクリーナーを使用したりしない。**

センサーⒸの感度が低下し、作動不良の原因となる場合があります。

アドバイス

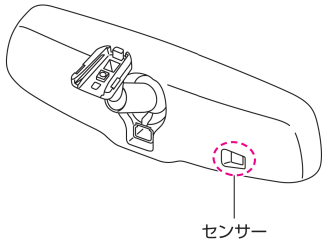
● ミラーを90度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。

知識

● リヤビューモニターを表示中は、防眩システムの作動、非作動の切り替えはできません。(スマートフォン連携ナビゲーション非装着車)

● 自動防眩システムを非作動状態にしてパワーユニットを停止しても、再度パワーユニットを始動すると自動防眩システムは作動状態になります。

● ミラー裏側にあるセンサーをドライブレコーダーなどでふさがないでください。防眩機能が作動しない場合があります。

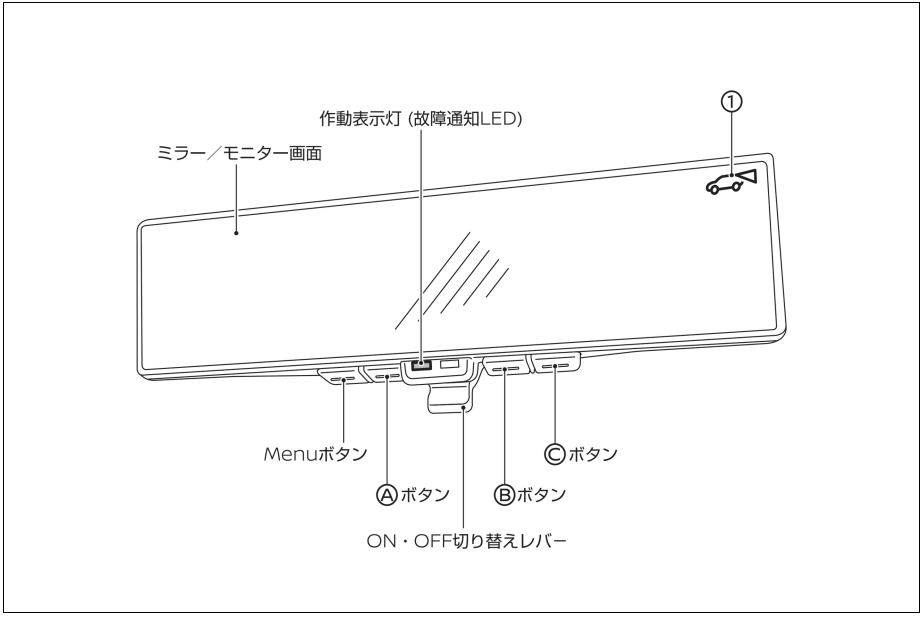


デジタルルームミラー★

乗員、ヘッドレスト、積載物などでさえぎられがちなルームミラーの後方視界をクリアに保ちます。車内の状況に関わらず、車両後方にあるカメラの画像をルームミラーに映し出します。ON・OFF切り替えレバーでミラー状態とモニター表示状態を切り替えることができます。

スマートフォン連携ナビゲーション非装着車は、マルチアラウンドモニター（ P.202 ）を表示させることができます。

デジタルルームミラーの使いかた



Menuボタン：調節する項目を表示
Ⓐボタン･Ⓑボタン：項目選択および調節
Ⓒボタン：決定

知識

- 各ボタンは下側から上方向に押します。

ルームミラーモード

- ミラーとして使用します。

デジタルルームミラーモード

- モニターとして使用します。

（デジタルルームミラーモードのときは、①が表示されます。）

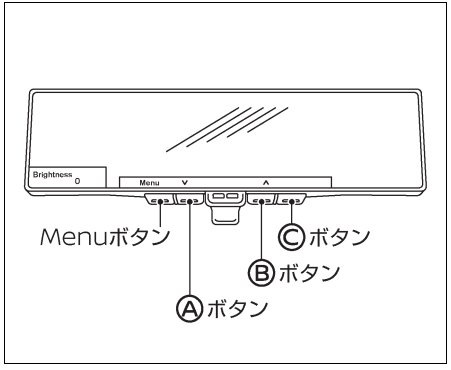
1. ＜パワースイッチ＞をONにします。
2. デジタルルームミラーのON・OFF切り替えレバーを手前に引きます。（作動表示灯（故障通知LED）が点灯）
3. デジタルルームミラーモードに切り替わり、モニターに車両後方の画像が表示されます。デジタルルームミラーのON・OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、モニター画面がOFFになり、ルームミラーモードとして使用できます。

- 周囲の明るさにより見づらかったり、眩しく感じたときはデジタルルームミラーモードをOFFにし、ルームミラーモードでご使用ください。

ミラーの調節

●スマートフォン連携ナビゲーション非装着車は、<パワースイッチ>がONのときにⒶボタンを押すか、シフトポジションをRに入れると、マルチアラウンドモニター画面が表示されます。
➔マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）★ (P.202)

デジタルルームミラーの画質調節



●次の場合にMenuボタンを押すと、各種調節ができます。
調整したい項目をⒶボタン、ⒷボタンⒸボタンを押して選択し、Ⓒボタンを押して決定します。
— デジタルルームミラーモードのとき（スマートフォン連携ナビゲーション装着車）
— デジタルルームミラーモードでマルチアラウンドモニター画面を表示していないとき（スマートフォン連携ナビゲーション非装着車）

■ Brightness（明るさ）

モニター画像の明るさを調節します。
●Ⓐボタンを押すと、画面が暗くなります。
●Ⓑボタンを押すと、画面が明るくなります。
●調節幅：-8（暗い）～+8（明るい）

■ Down/Up（下／上）

モニター画像の上下位置を調節します。
●Ⓐボタンを押すと、画像が下に移動します。
●Ⓑボタンを押すと、画像が上に移動します。
●調節幅：-8（下方向）～+8（上方向）

■ Left/Right（左／右）

モニター画像の左右位置を調節します。
●Ⓐボタンを押すと、画像が左に移動します。
●Ⓑボタンを押すと、画像が右に移動します。
●調節幅：-8（左）～+8（右）

■ Rotation（回転）

モニター画像位置の回転調節をします。
●Ⓐボタンを押すと、画像が左に回転します。
●Ⓑボタンを押すと、画像が右に回転します。
●調節幅：-8（左回り）～+8（右回り）

■ Indication（インジケーター）

モニター文字表示の表示・非表示を設定します。
●Ⓐボタンを押すと、モニター文字表示が非表示になります。
●Ⓑボタンを押すと、モニター文字表示が表示されます。

■ Language（言語）

表示させる言語を切り替えます。
●Ⓐボタン・Ⓑボタンで選択し、Ⓒボタンで決定します。

■ Switch Backlight（スイッチ照明）

スイッチの照明のON・OFFを設定します。
●Ⓐボタンを押すと、スイッチの照明がOFFになります。
●Ⓑボタンを押すと、スイッチの照明がONになります。

■ License（ライセンス）

ライセンス情報が表示されます。

デジタルルームミラー使用時の注意事項

⚠ 警告

● 走行前に、ルームミラーの調節を必ず行う。

ミラーの調節

⚠ 警告

ルームミラーモード（ミラー状態）にして正しい姿勢で運転席に座り、後方がよく見える位置に調節してください。調節をしないで運転を始めると、デジタルルームミラーモード（モニター表示状態）にしたときにミラーの反射でモニターが見えにくくなる場合があります。

- **デジタルルームミラーモードのときに作動表示灯（故障通知LED）が消灯したら、すみやかにルームミラーモードに切り替える。**

  再度デジタルルームミラーにしても点灯しない場合、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社にご相談ください。

- **あらかじめ死角範囲を確認する。**

  デジタルルームミラーには死角があります。システムを過信せず、安全運転を心がけてください。

- **ミラー本体やカメラ、配線を分解したり改造したりしない。**

  異臭がする、煙が出るなどした場合は、ただちに使用を中止し三菱自動車販売会社にご相談ください。

- **走行中に操作しない。**

  走行中に操作を行うと、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ミラー本体、カメラ、配線類にはタバコなどの火気を近づけない。**

  破損や車両火災の原因となります。

- **デジタルルームミラーが故障したときは、すぐにルームミラーモードに戻す。**

- **モニターを凝視しない。**

  — 前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

  — 同乗者が凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

- **太陽や後方車両のヘッドライトなどの強い光源がカメラに入ると、デジタルルームミラーのモニターに光のスジが入ったり、明るい光源がモニター上に広がったりする場合があります。その際には、必要に応じてルームミラーモードに戻してご使用ください。**

アドバイス

- パワーユニットが停止している間にデジタルルームミラーを長時間使用すると補機用バッテリーがあがるおそれがあります。
- 無線機のアンテナをデジタルルームミラー近くに取り付けないでください。無線機の電波により、デジタルルームミラーの映像に乱れが出ることがあります。
- ボタンを強く押しすぎたり、レバーを強く操作したりすると故障の原因となります。また、ミラー本体が落下するおそれがあります。
- ミラーを上下20度、左右30度以上回転させないでください。配線が断線するおそれがあります。
- ミラー本体に強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 車両後方についているカメラやカメラカバーに無理な力をかけないでください。カメラが外れたり、故障するおそれがあります。
- 外部光による影響でモニターが見えにくいときは、ルームミラーモード（ミラー状態）にして使用してください。
- LED光源を使用した照明の一部が映った場合、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 外部環境の乱反射により、画面がちらつく場合がありますが、故障ではありません。
- 素早い動きにはモニター表示が追従できない場合がありますが、故障ではありません。
- ルームミラーとは後方の見えかたが異なります。デジタルルームミラーの機能を過信せず、直接後方を確認するなど、責任のある運転を心掛けてください。

アドバイス

- モニターの明るさを明るく調節し過ぎると、運転中に目が疲れることがあります。明るさを適切に調節してください。
- 雨天時はリヤワイパーを併用してください。リヤワイパーを併用してもカメラ映像が不鮮明の場合、リヤワイパーゴムの劣化を確認してください。
- リヤワイパー使用中は、カメラ前をリヤワイパーが通過した際に、画面がちらつくように見える場合がありますが、故障ではありません。
- カメラ映像が不鮮明な場合は、デジタルルームミラーカメラ前面のテールゲートガラスを清掃してください。清掃してもカメラ映像が不鮮明な場合は、ガラス面に油膜が付いているおそれがあります。油膜取りを使用して清掃してください。

  ➔外観リヤ (P.4)

  ➔デジタルルームミラー★のお手入れ (P.317)
- テールゲートガラスがくもった場合は、リヤデフォッガーを使用し、テールゲートガラスのくもりを取ってください。くもりが完全に取れるまでルームミラーモードで使用してください。
- デジタルルームミラーのモニターが熱を帯び、高温になることがありますが、故障ではありません。
- 遠いものや暗いときは色が認識しにくいことがありますが、故障ではありません。
- デジタルルームミラーのお手入れについては（➔P.317）をお読みください。
- 運転者の体調などによりデジタルルームミラーモードの映像に焦点が合うまでに時間を要する場合があります。
- デジタルルームミラーの前方をふさがないでください。モニターの明るさ調整やカメラ映像の切り替えができないことがあります。
- デジタルルームミラーモードのとき、デジタルルームミラーが高温になると明るさが低下したり、映像が表示されなかったりする場合があります。
- デジタルルームミラーモードのとき、デジタルルームミラーが低温になるとカメラ映像が遅れることがあります。

ドアミラー

＜パワースイッチ＞がONまたはOFFでACC状態のときに操作できます。

ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（➔P.139）をお読みください。

ドアミラーの注意事項

⚠ 警告

- **ミラーの調節は、必ず走行前に行う。**

  走行中にミラーを調節すると、前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **ミラーが動いているときは手を触れない。**

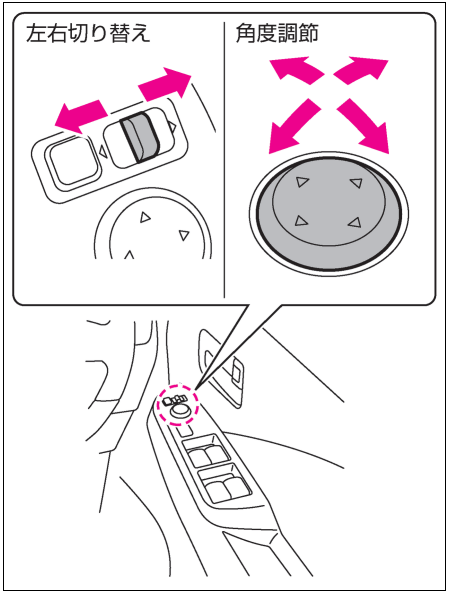
  手を挟む、またミラーが故障するおそれがあります。
- **ミラーを格納したまま走行しない。**

  後方確認ができないため危険です。

ドアミラーの角度調節のしかた

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

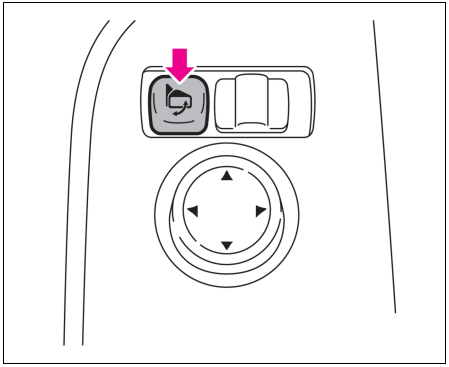


●＜左右切り替えスイッチ＞を、調節したいミラーの方に動かします。
●＜角度調節スイッチ＞を前後左右に押して、鏡面角度を調節します。

ドアミラーの格納のしかた

アドバイス

● 手動でミラーを開閉しないでください。手動で開閉すると、走行中にミラーが規定位置より前方または後方に倒れ、後方確認ができなくなるおそれがあります。手動で開閉してしまったときは、走行前に＜ドアミラー格納スイッチ＞で開閉操作を行ってください。



●＜ドアミラー格納スイッチ＞を押すと、左右のミラーが格納します。
●＜ドアミラー格納スイッチ＞をもう一度押すと、元の位置に戻ります。
●＜ドアミラー格納スイッチ＞操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
●手動で開閉すると、＜パワースイッチ＞をONにしたときに、＜ドアミラー格納スイッチ＞の位置によってはミラーが動き出すことがあります。

ドアロック連動自動格納機能について

ドアの施錠に連動させ、ミラーを格納することができます。＜ドアミラー格納スイッチ＞が押し込まれていない状態で使います。

●リモコンまたは、ドアハンドルのスイッチで施錠すると、左右のミラーが格納されます。
●＜パワースイッチ＞をONにすると、元に戻ります。
●＜ドアミラー格納スイッチ＞が押し込まれているときは、ドアロック連動自動格納機能は作動しません。
●マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［車両設定］⇒［ドアミラー］を選択すると、ドアロック連動自動格納機能のON･OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、車両設定をお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは（P.78）
➔車両設定（P.89）

ヒーテッドドアミラー★の使いかた

●＜パワースイッチ＞がONのとき、＜リヤデフォッガースイッチ＞（➔P.290）

をタッチする（押す）と、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

パワーウインドウ

<パワースイッチ>がONのときに操作できます。

パワーウインドウの注意事項

⚠ 警告

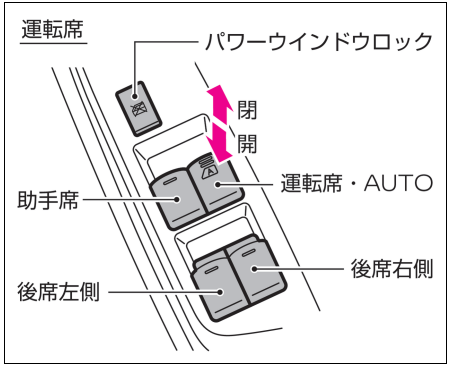
- **乗員の操作を含めすべての窓ガラス開閉操作は運転者に責任があるため、次のことを必ず守る。**
  - 走行中は顔や腕、物などを車外に出さないでください。車外の物に当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
  - 窓ガラスを開閉するときは、窓から手や顔などを出したり、故意に挟み込み防止機構を働かせたりしないでください。手や顔、腕などを窓ガラスに挟まれたり巻き込まれたりすると、重大な傷害につながったりするおそれがあります。
  - お子さまにはパワーウインドウを操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあるため、<パワーウインドウロックスイッチ>を押し込んでください。
  - 窓ガラスを開閉するときはお子さまに声をかけ、手や腕などが窓ガラス付近にないことを確認してから操作を行ってください。
  - 車から離れるときは<パワースイッチ>をOFFにし、キーとお子さまを車室内に残さないでください。いたずらなどの誤った操作によって思わぬ事故につながるおそれがあります。

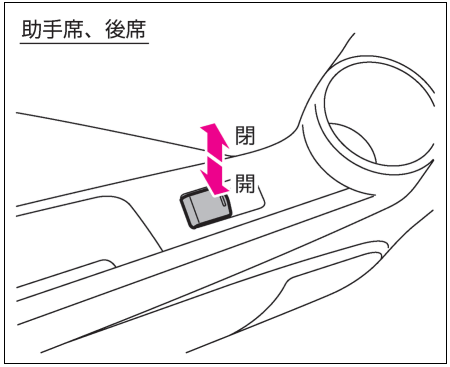
⚠ 注意

- **指などを挟まれないように注意する。**

  窓ガラスには挟み込み防止機構がありますが、窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。

パワーウインドウの開けかた、閉めかた





運転席のスイッチで、各席の窓ガラスの開閉ができます。助手席のスイッチおよび後席のスイッチでは自席の窓ガラスの開閉ができます。

開けるには

- スイッチを軽く押すと、押している間だけ開きます。

閉めるには

- スイッチを軽く引き上げると、引き上げている間だけ閉まります。

自動開閉するには

運転席の窓ガラスはワンタッチで自動開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引き上げます。

開閉操作をロックするには

お子さまが誤って窓ガラスを開閉することを防止できます。

- ＜パワーウインドウロックスイッチ＞を押し込むと、運転席以外の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すとロックが解除されます。

キーOFF後作動機構

- 運転席の窓ガラスは、＜パワースイッチ＞をOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアまたは助手席ドアを開けると、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

⚠ 警告

- **窓ガラスを閉める前に乗員の手や顔などが窓から出ていないことを確認する。**

  挟み込み防止機構を解除すると、自動開作動と挟み込み防止機構が作動しません。確認せずに窓ガラスを閉めると重大な傷害につながるおそれがあります。

- 運転席の窓ガラスをワンタッチで閉めているとき、車体と窓ガラスの間に異物が挟まると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し開きます。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないとき

運転席窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないときは、次の操作を行い初期設定してください。

① パワーユニットを始動します。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認し、正常に作動しないときは、早めに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

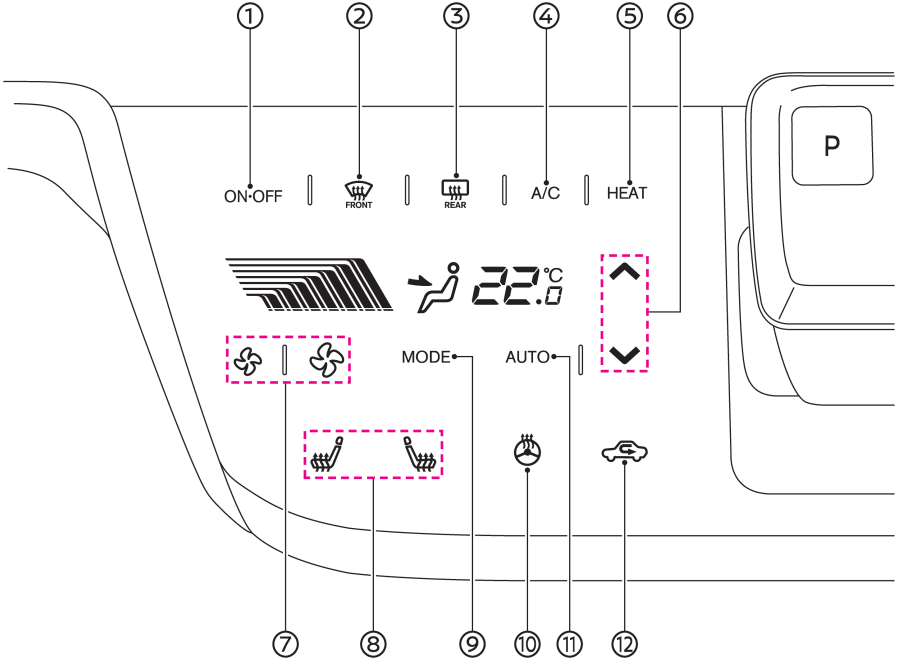
アドバイス

- 初期設定を行うときは、ドアを閉めて操作してください。

タッチパネル式フルオートエアコン

吹き出し温度、吹き出し口、風量を自動で制御し、設定した温度に保ちます。また、内気循環／外気導入を自動制御モードに設定することで、自動制御に切り替えます。エアコンは＜パワースイッチ＞の状態により使用できる機能が異なります。詳しくは（➔P.129）をお読みください。

各スイッチの名称と機能



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

① **ON・OFFスイッチ**
オートエアコンシステムのON・OFFを切り替えます。

② **デフロスタースイッチ（P.290）**
フロントガラスのくもりが取れます。

③ **リヤデフォッガースイッチ（P.290）**
テールゲートガラスのくもりが取れます。また、ヒーテッドドアミラー付車はドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し、霜やくもりが取れます。

④ **A/Cスイッチ**
消費電力を抑えたいときに冷房・除湿機能のキャンセルができます。

⑤ **HEATスイッチ**
消費電力を抑えたいときに暖房機能のキャンセルができます。

⑥ **温度調節スイッチ**
設定温度を切り替えます。
（Lo 18.0°C～32.0°C Hi）

⑦ **風量調節スイッチ**
風量を切り替えます。

⑧ **シートヒータースイッチ★（P.245）**

⑨ **吹き出し口切り替えスイッチ（P.128）**
吹き出し口を切り替えます。

⑩ **ステアリングヒータースイッチ★（P.245）**

⑪ **AUTOスイッチ**
自動制御に切り替えます。吹き出し温度、吹き出し口、風量の切り替えを自動で制御して設定した温度に保ちます。

⑫ **内外気切り替えスイッチ**
スイッチをタッチするごとに、内気循環、外気導入が切り替わります。（内気循環のとき、スイッチの表示灯が点灯します。）

オートでの使いかた

1. ＜AUTO＞スイッチをタッチします。（スイッチの表示灯が点灯）
2. ＜温度調節スイッチ＞をタッチして、設定温度を調節します。
   ∧：設定温度を上げる
   ∨：設定温度を下げる
3. ＜A/C＞スイッチまたは＜HEAT＞スイッチのどちらかの表示灯が点灯します。
4. ＜内外気切り替えスイッチ＞を約2秒間タッチし続けます。
   作動音とともにスイッチの表示灯が2回点滅し、自動制御モードに切り替わります。

●オートで使用中に風量の調節または吹き出し口の切り替えを行うと＜AUTO＞スイッチの表示灯は消灯しますが、操作した機能以外については引き続き自動制御されます。 また、内気循環／外気導入が自動制御モード中に＜内外気切り替えスイッチ＞をタッチするとマニュアルモードに切り替わります。（点灯の場合は内気循環、消灯の場合は外気導入の状態になります。）

送風運転のしかた

1. ＜A/C＞スイッチまたは＜HEAT＞スイッチ（表示灯が点灯しているスイッチ）をタッチして、表示灯を消灯させます。（このとき、＜AUTO＞スイッチの表示灯が消灯）
2. ＜風量調節スイッチ＞をタッチして、風量を調節します。

●送風で使用すると、冷房、暖房、除湿機能が作動せず、ファンのみがまわって車室内の空気を循環させます。

●送風で使用すると、エアコンの消費電力が抑えられるため、航続可能距離を延ばすことができます。

●エアコンシステムOFFのときに＜風量調節スイッチ＞をタッチすると、送風運転になります。

タッチスイッチ感度の調整のしかた

1. パワーユニットを始動します。
2. ＜ON・OFF＞スイッチを約10秒間タッチします。
   ブザーが鳴り、設定温度表示部に感度が表示され、タッチスイッチ感度調整モードになります。
3. ＜温度調節スイッチ＞をタッチして感度を調整します。
   タッチスイッチ感度調整モードになってから約20秒経過するとブザーが鳴り、感度が設定されます。

●感度は5段階（1～5）に調整できます。
― 1：低い（反応しにくい）

― 5：高い（反応しやすい）

- タッチスイッチ感度調整モードになってから約20秒以内に＜パワースイッチ＞をOFFにすると、感度は設定されず調整前の状態に戻ります。
- 工場出荷時の感度は「2」に設定されています。

運転モードについて

■ AUTO 運転モード

- ＜AUTO＞スイッチがONの場合、車室内外の環境に応じて自動でエアコンの運転モードが切り替わります。（選択されているモードによって＜A/C ＞スイッチまたは＜HEAT＞スイッチの表示灯が自動で切り替わります）

■ マニュアル運転モード

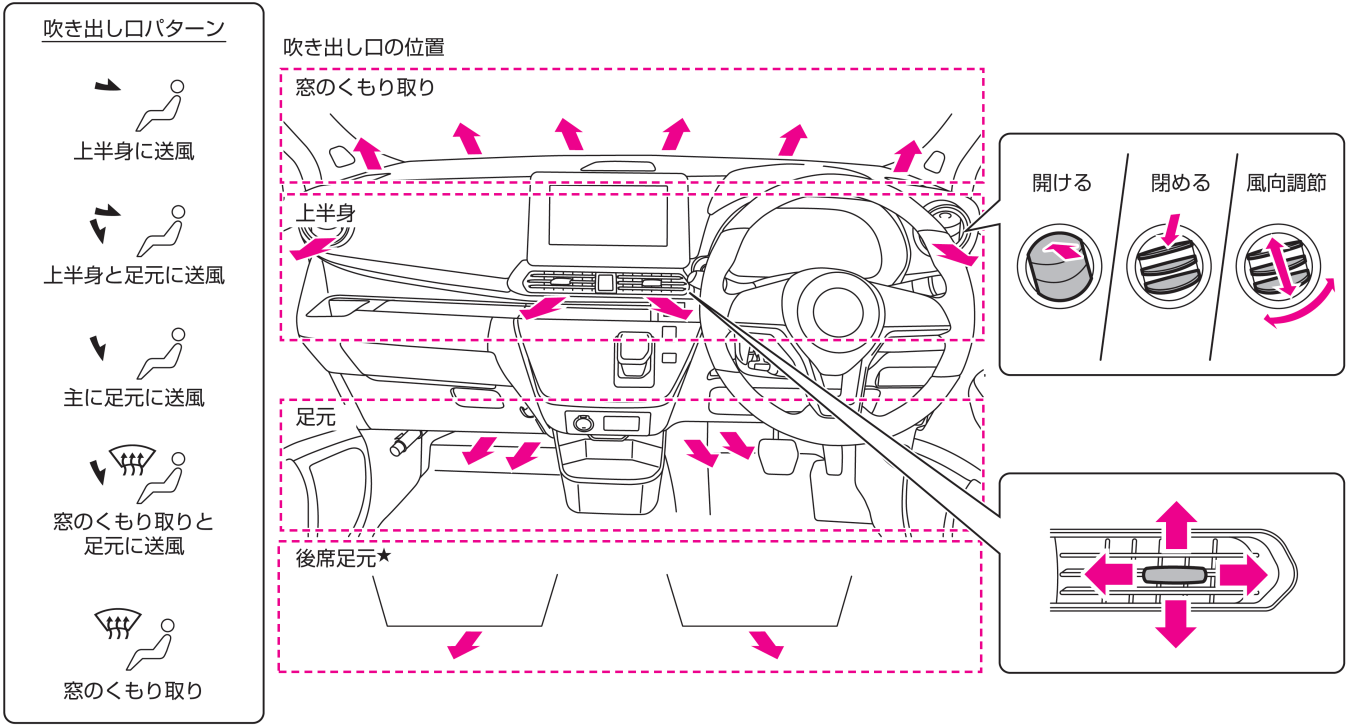
- ＜HEAT＞スイッチ、＜A/C＞スイッチを操作することで、運転モードを手動で切り替えることができます。（選択しているモードのスイッチ表示灯が点灯します）
  その際、送風運転を除く各運転モードにおいて、設定温度に調節されます。（＜A/C＞スイッチの表示灯は消灯します）
- マニュアル運転モードからAUTO運転モードに戻すときは、＜AUTO＞スイッチをタッチしてく ださい。

スイッチ	運転モード
A/C　HEAT	冷房運転 ● 車室内を冷やしたいとき ※ 温風は出ません。
A/C　HEAT	暖房運転 ● 車室内を温めたいとき ※ 冷風は出ません。
A/C　HEAT	除湿暖房運転 ● 暖房運転のときに窓ガラスがくもってしまったとき ※ 追加でスイッチをタッチして両方の表示灯を点灯させると、手動で設定することができます。
A/C　HEAT	送風運転 ● 温度調節せず風だけ出したいとき ※ 点灯しているスイッチをタッチして両方の表示灯を消灯させると、手動で設定することができます。 ※ 温度表示が消えます。

- 除湿暖房運転は、窓がくもった場合など必要なときのみ使用することでエアコンの消費電力を抑え、航続可能距離を延ばすことができます。

吹き出し口

＜吹き出し口切り替えスイッチ＞または＜デフロスタースイッチ＞をタッチするごとに吹き出し口が切り替わります。



エアコンを使うときに注意すること

各機能の作動条件について

●この車両のエアコンは、送風機能、冷房／暖房機能、タイマーエアコンまたはリモートエアコン（タイマーエアコン）★、リモートエアコン（今すぐエアコン）★でそれぞれ使える条件が異なります。
それぞれの機能は次の条件のときに使用できます。

パワースイッチ	OFF	ON	ON（READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯）
送風機能	-	○	○
冷房／暖房機能	-	○ ※1	○
タイマーエアコン	○	-	-
リモートエアコン（タイマーエアコン）★	○	-	-
リモートエアコン（今すぐエアコン）★	○	-	-

※1： 充電中のみ使用できます。

エアコンに関する注意事項

⚠ 警告

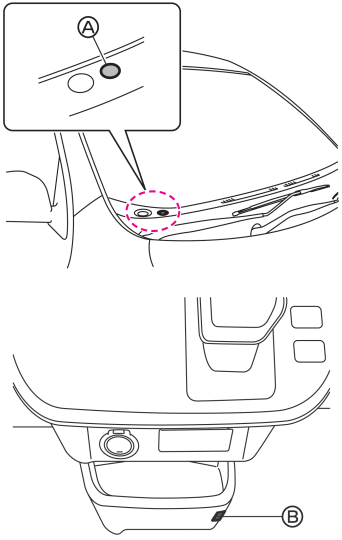
● **内気循環で長時間使用しない。**
窓ガラスがくもりやすくなり、視界が損なわれ危険なため、一時的にご使用ください。

⚠ 注意

● **吹き出し風を長時間連続して身体に当てない。**
特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間当たらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

● **<デフロスタースイッチ>をONにしているときに、エアコンの設定温度を低くしない。**
フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス



- 自動温度調節は、日射センサーⒶと温度センサーⒷで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

- エアコンの消費電力は、外気温とエアコンの設定温度により変化します。特に夏に車室内を冷やしすぎたり、冬に車室内を暖めすぎたりすると、消費電力が多くなり航続可能距離が大幅に減少する原因になります。
- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンエアフィルターを装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンエアフィルターは定期的に交換してください。

  交換時期：1年ごとまたは12,000km走行ごと
- クリーンエアフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコンシステムのオイル循環を切らさないために、ときどき<A/C>スイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコンシステムが作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。

- エアコンガスは必ず指定のものをご使用ください。エアコンガスの詳細については、ボンネットの裏にあるエアコンラベルをご確認ください。
- エアコンの修理、メンテナンスは三菱自動車販売会社にご相談ください。

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0℃近くまで下がると、<A/C>スイッチの表示灯が点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- エアコンがONのとき、またはOFFにした直後に、〝カチカチ〟、〝シュー〟、〝コツン〟などの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 駆動用バッテリーを冷却する、またヒートポンプで暖房を行うため、コンプレッサーと冷却ファンが作動することがあります。また、要求能力によってコンプレッサーが断続運転することがありますが、異常ではありません。

知識

- タイマーエアコンまたはリモートエアコン（タイマーエアコン）★、リモートエアコン（今すぐエアコン）★の作動時もコンプレッサーおよび冷却ファンの音がしますが、異常ではありません。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。
- 足元に送風にしても上半身の温まりを考慮し、ドア･窓からの冷気を防ぐためドア側の吹き出し口から温風が出ます。
- フットモードのときにも、デフロスターから風を出す設定に変更することができます。設定を切り替えたいときは、三菱販売会社にご相談ください。
- エアコンの運転中、運転後または充電中などに車両の下に水が垂れることがあります。
- 外気温が低いときは、外気温に応じてフロントデフロスターからの風量が多くなります。
- 通電するもの（コード、USBなど）を近づけると、スイッチが反応することがあります。

エアコンのにおいについて

- エアコンシステムは、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。
- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

タイマーエアコンの設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイでタイマーエアコンの出発予定時刻を設定しておくと、その時間にあわせてお出かけ前に車室内を快適な温度にすることができます。そのため、走行を始めてからのエアコンの電力を抑えることができます。

⚠ 警告

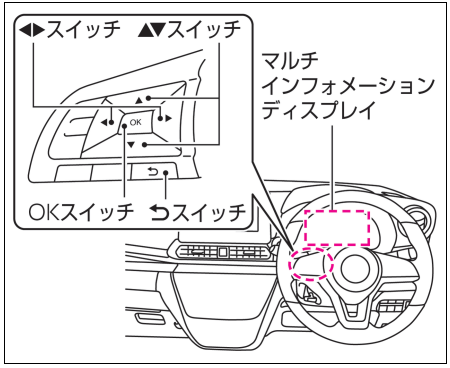
- **お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さない。**

  タイマーエアコンを設定していても、システムの自動停止などの理由で車室内が高温または低温になることがあり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

- タイマーエアコンは、駆動用バッテリー残量が少なくなっているときは、作動しません。
  ➔駆動用バッテリー残量計 (P.72)
- 設定した2種類の時刻は、1週間分予約できます。設定した予約は継続されるため、毎回設定する必要はありません。
- タイマーをOFFにすると予約が解除されます。予約を解除しても設定した時刻、曜日は消去されません。再度タイマーをONにすると、現在の設定条件で予約をすることができます。
- スマートフォン連携ナビゲーション装着車は、タイマーエアコンの出発時刻と曜日の予約設定、温度設定をスマートフォンアプリからも操作できます。

タイマーエアコンの使いかた

マルチインフォメーションディスプレイでタイマーエアコンの出発予定時刻を設定しておくと、その時間にあわせてお出かけ前に車室内を快適な温度にすることができます。そのため、走行を始めてからのエアコンの電力を抑えることができます。



1. ステアリングスイッチの< ◀▶ >スイッチを数回押し、マルチインフォメーションディスプレイに設定画面を表示します。
2. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［EV設定］を選択し、

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

＜OK＞スイッチを押して決定します。

3. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［タイマーエアコン1］または［タイマーエアコン2］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。
時刻は2種類設定することができます。ここではタイマーエアコン1の登録方法を説明します。

4. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［タイマー］を選択し、＜OK＞スイッチを押してONにします。

5. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［出発時刻］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。

6. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで「時」を設定し、< ◀▶ >スイッチを押します。

7. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで「分」を設定し、＜OK＞スイッチを押します。
設定時間は10分単位で切り替わります。

8. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［エアコン温度］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。
設定温度は18.0℃～32.0℃の範囲で設定できます。

9. ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで設定温度を選択し、＜OK＞スイッチを押します。

10. スマートフォン連携ナビゲーション非装着車は、［曜日］の設定がありません。手順13に進みます。スマートフォン連携ナビゲーション装着車は曜日を選択します。ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［曜日］を選択し、＜OK＞スイッチを押して決定します。

11. 日曜日から土曜日までそれぞれON・OFFを選択します。ステアリングスイッチの< ▲▼ >スイッチで［曜日］を選択し、＜OK＞スイッチを押してON・OFFを選択します。

12. ［曜日］を選択後、< ⮌ >スイッチを押します。
現在選択されている［曜日］が白く点灯します。

13. ＜パワースイッチ＞をOFFにし、充電ケーブルを接続します。
充電ケーブルを接続することをおすすめします。（充電ケーブルを接続しないと、駆動用バッテリーの電力を消費します）
充電ケーブルの接続方法は、今すぐ充電のしかた（➔P.32）をお読みください。V2H充電の充電ケーブルの接続方法は、急速充電のしかた（➔P.34）をお読みください。
※：出発時刻に設定した温度になるように、エアコンが自動的に作動します。

バッテリーを使用するモードについて

- ［駆動用バッテリーを使用する］をONにすると、充電ケーブルを接続していなくても、駆動用バッテリーの電力を使用して、タイマーエアコンが約15分間作動します。
- 駆動用バッテリー残量警告灯［🔋］が黄色く点灯したら、エアコンが停止します。
➔駆動用バッテリー残量警告灯 (P.72)
- 駆動用バッテリーが消費されるため、タイマーエアコンの必要が無いときは、［駆動用バッテリーを使用する］をOFFに切り替えてください。

タイマーエアコンに関する注意事項

タイマーエアコンを使用するときの注意事項

- 充電中にタイマーエアコンが作動すると、充電に必要な時間が延びることがあります。
- 出発時刻になると、エアコンが自動的に停止します。設定した出発時刻よりも早く、または遅れて車に乗り込むと、車室内の温度が快適な温度になっていない場合があります。
- 外気温が低いときにタイマーエアコンを作動させると、 駆動用バッテリーの残量が低下することがあります。この場合、出発するときに充電が完了していないことがあります。
- 充電施設によっては、利用できない時間帯が設定されていることがあります。タイマーエアコンを使用する場合は、利用可能な時間帯を確認してください。また、タイマーエアコンを設定する場合は、充電器の電源がONになっていることを確認してください。
- タイマーエアコン作動中でも設定した時刻を変更することができます。設定変更後に＜パワースイッチ＞をOFFにすると、新しい設定が反映されます。
- タイマーエアコンは、家や充電器などから供給される電力を使用するため、外気温が極端に高い、または低いとき、AC100V用充電ケーブル（この車種専用の100V充電ケーブルは販売しておりません）を使用しているとき、設定温度と外気温の差が大きいときなどは、エアコンの性能が制限され、車室内が設定した温度にならないことがあります。
- バッテリーを使用するモードは、 駆動用バッテリーの消費を抑えるために作動時間を約15分間のみとしており、外気温によっては車室内が設定した温度にならないことがあります。

オーディオ★の使いかた

安全運転のために

⚠ 警告

- **走行中のオーディオ操作は、絶対にしない。**
  前方不注意となるおそれがあります。
- **音量を大きくしない。**
  大きすぎると車外の状況がわからないため、思わぬ事故の原因となります。

●運転中は車外の音が聞こえる程度の音量でお聞きください。

ラジオの受信について

●ラジオの受信は、車両の移動に伴う電波の変動、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することができない場合があります。

●オーディオを聞いているとき、車室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。

アンテナについて

⚠ 注意

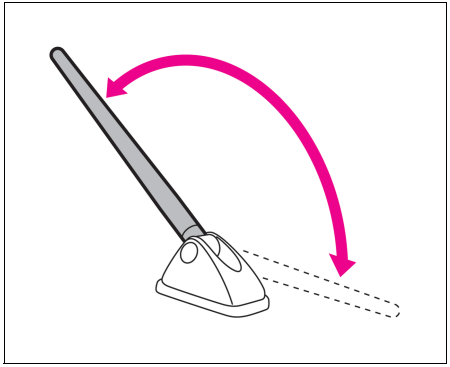
- **アンテナの調節や脱着時は、周囲の安全を十分に確認してから行う。**

アドバイス

- アンテナを調節するときや脱着するときは、アンテナの根元を持って行ってください。
- 次のような場合には、必ずアンテナを取り外してください。破損するおそれがあります。
  — 洗車機を使うとき
  — ボディーカバーを掛けるとき
  — 降雪時に長時間駐車するとき

●屋根の低い車庫や立体駐車場など、アンテナが当たるような場所ではアンテナを倒してください。

調節のしかた



●アンテナの角度は無段階に調節できます。

●アンテナの根元を持って動かします。

外しかた

●アンテナの外しかたについては、（ P. 312 ）をお読みください。

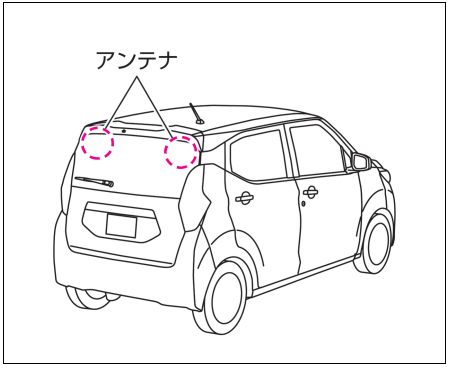
アドバイス

- アンテナが当たるような場所以外では倒したままにしないでください。車体に当たり、塗装面を傷つけるおそれがあります。

ガラスアンテナ★について

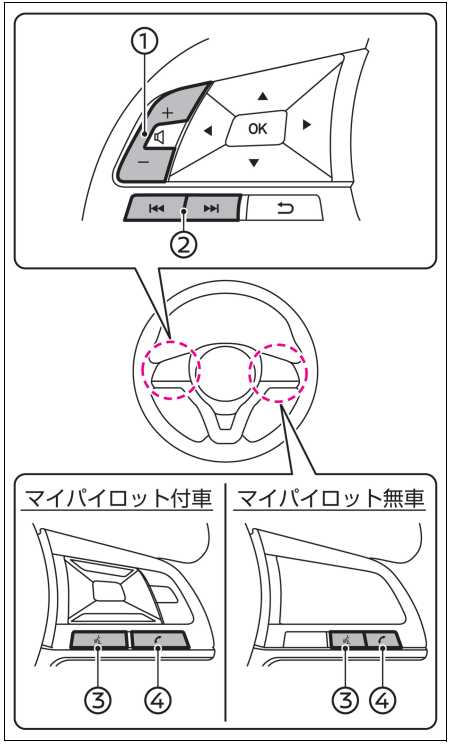
アドバイス

- テールゲートガラスにミラータイプのフィルムや金属物（市販のアンテナなど）を貼り付けないでください。受信感度が低下し、ノイズ（雑音）などが入るおそれがあります。
- テールゲートガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。
- アンテナ線は、手荷物などで傷つけないようにしてください。



●アンテナ線はテールゲートガラスの内側にあります。

ステアリングスイッチ★



① **<+>／<->スイッチ**
音量を調節できます。

② **＜⏮＞／＜⏭＞スイッチ**
曲や放送局などの切り替えができます。

③ **＜🎤＞スイッチ**
音声操作画面に切り替えます。

④ **＜📞＞スイッチ**
ハンズフリーフォン操作画面に切り替えたり、通話に応答したり終了したりします。

※車両型式、オプションなどにより、使用できないスイッチもあります。

●取り扱いについては、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書またはオリジナルナビゲーション用取扱説明書も合わせてお読みください。

●三菱自動車純正品以外のナビゲーションシステムでは作動の保証はいたしません。

MEMO

始動する

パワースイッチ P.138
ACC 電源オートオン / オフ機能 P.139

運転する

セレクターレバー P.141
電動パーキングブレーキ P.142
ブレーキオートホールド P.143
発進・走行 P.146
停車・駐車 P.147

ランプをつける、ワイパーを使う

ライトスイッチ P.148
ヘッドライトレベリングダイヤル P.152
フォグランプスイッチ★ P.153
ワイパー・ウォッシャースイッチ P.153

運転支援システム

イノベーティブペダル オペレーションモード P.156
ドライブモードセレクター P.157
エマージェンシーストップシグナルシステム [ESS] P.158
アンチロックブレーキシステム [ABS] P.158
アクティブスタビリティコントロール［ASC］ P.159
ヒルスタートアシスト [HSA] P.160
車両接近通報装置 [AVAS] P.161
e-Assist P.161
走行支援システム P.162
マイパイロット★ P.164
衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付） P.177
前方衝突予測警報 [PFCW] P.181
踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] P.183
車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP] P.189
ふらつき警報 [DAA] P.193
標識認識システム [TSR] P.193
先行車発進通知 [LCDN] P.196

駐車支援システム

リヤビューモニター★ P.198
リヤビューモニター★の注意事項 P.199
マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）★ P.202
マルチアラウンドモニター★に関する注意事項 P.213
マイパイロットパーキング★ P.217

パワースイッチ

⚠ 警告

- **パワーユニットを始動する前にペダルの位置を確認する。**

  ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

- **パワーユニットを始動するときは、必ず運転席に座る。**

  運転席以外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **セレクターレバーの操作は必ずREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯したことを確認してから行う。**

  READY（走行可能）表示灯が点灯する前にセレクターレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **パワーユニットを始動したあとは、イノベーティブペダル オペレーションモードのON・OFF状態を確認してから走行する。**

  イノベーティブペダル オペレーションモードがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なるため、走行前に確認してください。

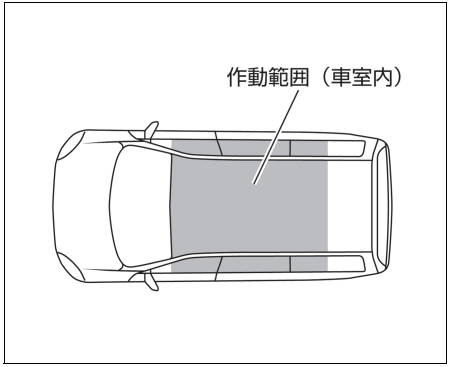
アドバイス

- メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているとき、ボンネットを開けたままにしないでください。補機用バッテリーへの充電が停止するため、補機用バッテリーがあがるおそれがあります。

この車両にはエンジンがないため、エンジン音の代わりにメーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］の点灯・消灯で、パワーユニットの始動・停止を確認します。

始動のしかた

1. キーレスオペレーションキーを携帯して車両に乗り込みます。
   アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（P.44）がとれるようにハンドル、シート、ミラーを調節します。
2. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みながら、＜パワースイッチ＞を押します。
3. メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯し、走行できるようになります。



- キーが作動範囲（車室内）にあるときに、パワーユニットを始動することができます。
- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、"カチッ"と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- システム始動前のペダル操作などにより、ブレーキペダルが硬くなっている場合があります。この場合、ペダルを軽く踏んだ状態ではペダル踏み込み操作が検知されず、走行可能表示灯が点灯しませんので、ブレーキペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

停止のしかた

1. ブレーキペダルを踏んで、車両を完全に停車させます。

2. ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。
➔電動パーキングブレーキのかけかた (P.142)
3. セレクターレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
4. <パワースイッチ>を押します。
ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が消灯していることを確認します。

パワースイッチでのモードの切り替えかた

●キーレスオペレーションキーを携帯しているときに、次の作動をします。
— ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り 替わります。

モード	働き
OFF	● ドアミラーなどが使える位置（ACC 状態のとき） ● パワーユニットを停止する位置
ON	● すべての電装品が使える位置

●キーレスオペレーションキーを携帯しているときに、次の作動をします。
— ブレーキペダルを踏まずに<パワースイッチ>を押すと、モードが切り替わります。
— ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、パワーユニットが始動します。
— パワーユニットが始動中に<パワースイッチ>を押すと、パワーユニットが停止します。

アドバイス

● 補機用バッテリーあがりを防止するため、電装品はパワーユニットを始動した状態でご使用ください。パワーユニットを始動しないときは、電装品を長時間使用することや同時に複数使用することは避けてください。
● 次の条件がそろった状態でしばらくすると自動的に<パワースイッチ>がOFFになります。
— <パワースイッチ>がON（メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］は消灯）の状態のとき
— 停車しているとき
● <パワースイッチ>がOFFの位置でも、ACC状態のときはアクセサリーソケットなどの電装品を使うことができます。
ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（➔P.139）をお読みください。

非常停止のしかた

⚠ 警告

● **非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行う。**
非常停止後は、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

緊急時など、走行中に強制的にパワーユニットを停止（<パワースイッチ>OFF）させるときは、次の操作を行ってください。
●<パワースイッチ>を2秒以上押し続ける

ACC 電源オートオン / オフ機能

<パワースイッチ>がOFFのときでも、特定の条件で、スマートフォン連携ナビゲーション★、アクセサリーソケットなどの一部の電装品が使える状態（ACC状態）に自動で切り替わる機能です。パワーユニットの停止後や、<パワースイッチ>をONにする前でも、スマートフォン連携ナビゲーション★、アクセサリーソケットなどが使用できます。

ACC 電源オートオン / オフ機能について

●次の場合、自動でACC状態に切り替わります。

— リモコン（キーレスオペレーションキー）機能でドアを施錠または解錠したとき
— ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
— ドアを開けたとき
— ドアを閉めたとき

ACC状態を停止するには

●次の場合、ACC状態が完全に停止します。
— スマートフォン連携ナビゲーション装着車は、ACC状態のままスマートフォン連携ナビゲーションの操作を行わずに約13分間経過したとき
— スマートフォン連携ナビゲーション非装着車は、ACC状態のまま約11分間経過したとき
— パワーユニット停止後、リモコン（キーレスオペレーションキー）機能で施錠してから約3分間経過したとき

アドバイス

● 補機用バッテリーあがりを防止するため、電装品（ナビゲーションシステムやアクセサリーソケットなど）はパワーユニットを始動した状態でご使用ください。

●スマートフォン連携ナビゲーション★以外のナビゲーションシステムを取り付けた場合は、＜パワースイッチ＞をOFFにするとナビゲーションシステムもOFFになります。

セレクターレバー

⚠ 警告

- **セレクターレバーの操作は必ずREADY（走行可能）表示灯［🚗］が点灯したことを確認してから行う。**

  READY（走行可能）表示灯が点灯する前にセレクターレバーを操作すると、目的のシフトポジションに切り替わらず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **セレクターレバーには物を掛けない。**

  車両が突然発進するなど、事故の原因になるおそれがあります。

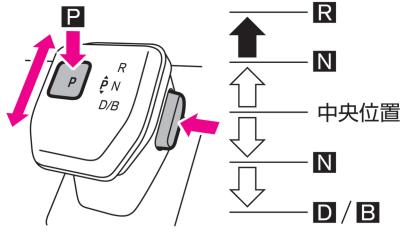
アドバイス

- セレクターレバーは、操作後に手を離すと中央に戻ります。中央の位置以外で保持し続けないでください。故障の原因になります。

メーター内のREADY（走行可能）表示灯［🚗］が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。セレクターレバーを操作したあとは、目的のシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。

セレクターレバーの操作

P	セレクターレバーにあるⓅスイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、ボタンを押して車両前方へ2段階スライドさせます。
N	Pのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方、または車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 D・Bのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両前方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。 Rのときは、ブレーキペダルを踏みながら車両後方に1段階スライドさせ、しばらく保持します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、車両後方に2段階スライドさせます。
B	Dのときに車両後方に2段階スライドさせるとBに切り替わります。 もう一度2段階スライドさせるとDに戻ります。



- セレクターレバーが中央に無いときは、Ⓟスイッチを押してもPに切り替えられません。
- シフトポジションをRに切り替えるとブザーが鳴ります。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションはNに切り替わります。
  - 前進中にシフトポジションをRに切り替える
  - 後退中にシフトポジションをDに切り替える
- <パワースイッチ>がONでもメーター内のREADY（走行可能）表示灯［🚗］が点灯していないときは、D・B・Rには切り替えられません。
- 以下の条件が重なったとき、シフトポジションが自動でPに切り替わる場合があります。
  - 運転席シートベルトを外したとき

— 運転席ドアを開けたとき

●この車両にはオートP機能がありますが、電制シフトが故障した場合は、シフトポジションがP以外で＜パワースイッチ＞をOFFにしようとしても、ブザーが鳴り、＜パワースイッチ＞をOFFに切り替えられません。＜パワースイッチ＞をOFFにできないときは、次の操作を行ってください。

— ①停車してパーキングブレーキをかけます。

— ②ブレーキペダルを踏み込みながら＜パワースイッチ＞を押して、＜パワースイッチ＞をONに切り替えます。

— ③セレクターレバーにあるⓅスイッチを押してPに切り替えます。

— ④＜パワースイッチ＞を押して、OFFに切り替えます。

各シフトポジションの機能

シフトポジション	役割
P	駐車およびパワーユニットを始動するとき
R	後退するとき
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行するとき
B	下り坂などで、強い回生ブレーキが必要なとき（満充電時や低温時などはブレーキが弱くなることがあります。）

●シフトポジションをPに切り替えずに＜パワースイッチ＞をOFFにすると、自動的にシフトポジションがPに切り替わります。（オートP機能）

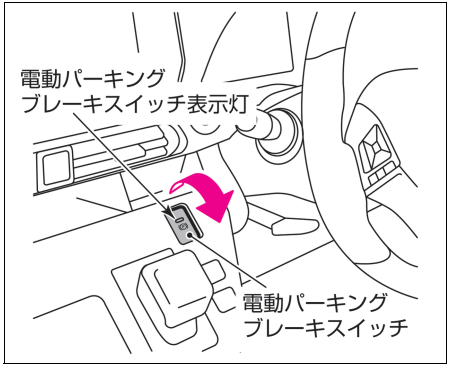
●充電中はシフトポジションを切り替えることができません。

電動パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキをかけると、後輪が固定されます。＜電動パーキングブレーキスイッチ＞で操作します。

電動パーキングブレーキのかけかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2. ＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引きます。
スイッチを引くと、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞の表示灯が点灯し、メーター内の電動パーキングブレーキ警告灯［ Ⓟ ］が、約2秒後に点灯します。

●ブレーキオートホールドが作動しているときにシフトポジションをPにすると、パーキングブレーキがかかります。
その他、ブレーキオートホールドについては（➔P.144）をお読みください。

電動パーキングブレーキの解除のしかた

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。

2. ＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を押します。
スイッチを押すと、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞の表示灯が消灯し、電動パーキングブレーキが解除されるとメーター内の電動パーキングブレーキ警告灯［ Ⓟ ］が消灯します。

●電動パーキングブレーキは、＜パワースイッチ＞がONのときのみ解除できます。

自動解除のしかた

＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を操作しなくても、パーキングブレーキを解除することができます。
渋滞や上り坂での発進に便利です。

●電動パーキングブレーキがかかっている状態でシフトポジションをD、またはRにし、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
パーキングブレーキが解除され、電動パーキングブレーキ警告灯［ Ⓟ ］が消灯します。
●パーキングブレーキの自動解除は、以下の条件を満たしている必要があります。
— 運転席ドアが閉まっている
— メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯している
— シフトポジションがP、N以外のとき

電動パーキングブレーキに関する注意事項

⚠ 警告

- **車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけたあと、シフトポジションをPに切り替える。**
- **非常時以外は、電動パーキングブレーキを作動させたまま走行しない。**
ブレーキに不具合が生じ、事故につながるおそれがあります。
- **電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返さない。**
システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。

アドバイス

- 寒冷時に駐車するときは、電動パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPに入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。
寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。

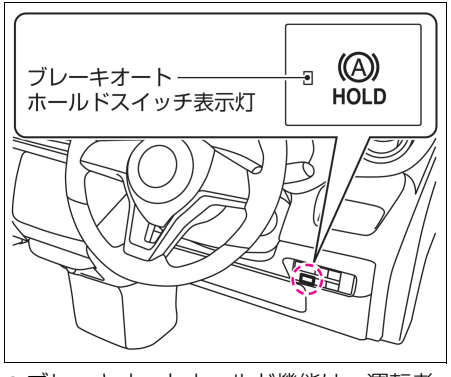
- 電動パーキングブレーキが補機用バッテリーあがりや故障などで解除できなくなったときは、三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

●電動パーキングブレーキをかけたり解除したりすると、車両の後方部から作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
●走行中、非常事態で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引き続けてください。ブザーが鳴り、電動パーキングブレーキがかかります。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。
●＜パワースイッチ＞がOFFまたはACC状態のときに、＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引くと、スイッチの表示灯がしばらく点灯状態になることがあります。
ACC状態については、ACC電源オートオン/オフ機能（➔P.139）をお読みください。

ブレーキオートホールド

ブレーキオートホールド機能は、信号待ちなどの停車中にブレーキ力を保持する機能です。

ブレーキオートホールド機能について



●ブレーキオートホールド機能は、運転者のブレーキ操作によって停車した際に、ブレーキ力を保持する機能です。
ブレーキ力が保持されているときにアクセルペダルを踏むと、ブレーキが解除され、発進することができます。

ブレーキオートホールド機能の作動について

●ブレーキオートホールド機能のON・OFF設定は、再度設定を変更するまで、＜パワースイッチ＞をOFFにしても、その設定が維持されます。

ブレーキオートホールド機能をONにする

●＜パワースイッチ＞をONにし、＜ブレーキオートホールドスイッチ＞を押すと、＜ブレーキオートホールドスイッチ＞の表示灯が点灯します。

●ブレーキオートホールド機能は、次の条件が満たされたときのみ、ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（白色）が点灯し、待機状態になります。（(P.77)）
— 運転席シートベルトを着用している
— 電動パーキングブレーキが解除されている
— シフトポジションがP位置以外にある
— 急な坂道の途中に停車していない

ブレーキオートホールド機能をOFFにする

ブレーキオートホールド機能がONのとき、＜ブレーキオートホールドスイッチ＞を押すと、＜ブレーキオートホールドスイッチ＞の表示灯が消灯しブレーキオートホールド機能がOFFになります。

ブレーキ力が保持されている状態で、ブレーキオートホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルを踏みながら＜ブレーキオートホールドスイッチ＞を押します。

ブレーキオートホールド機能の使いかた

■ ブレーキ力を保持させる

ブレーキオートホールド機能が待機状態（ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯）のとき、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させると、ブレーキオートホールド機能によってブレーキ力が保持されます。

ブレーキ力が保持されているときは、ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が緑色に点灯します。（(P.77)）

■ 発進する

シフトポジションがPまたはN位置以外にあり、ブレーキ力が保持されている状態でアクセルペダルを踏むと、保持されているブレーキ力が解除されて発進します。
ブレーキ力の保持が解除されると、ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］が白色に点灯し、待機状態に戻ります。

●坂道では、ブレーキオートホールド機能が作動開始するまでブレーキペダルを強く踏み込む必要があります。

ブレーキオートホールド機能使用時の注意事項

⚠ 警告

● **急な坂道や滑りやすい路面で使用しない。**

ブレーキオートホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。

急な坂道などでブレーキオートホールド機能を作動させたとき、運転者にブレーキペダルを踏むよう促す警告メッセージが表示されることがあります。

⚠ 警告

- **ブレーキオートホールド機能が作動していても停止状態を維持できないときは、ブレーキを使用して車両を停車させる。**

  ブレーキ力保持状態のときに外的要因で車両が動くと、警告音が鳴り、警告メッセージが表示されることがあります。

  警告メッセージ（➔ (P.273)）

- **次の場合はブレーキオートホールド機能をOFFにする。**

  — 洗車機を使用するとき

  — 車両にけん引されるとき

  — 車両をけん引するとき

  — 過積載の時

- **次の場合はシフトポジションをP位置にしてパーキングブレーキが確実にかかっているか確認する。**

  車両が不意に動き出し重大な傷害や事故を起こすおそれがあります。

  — 駐車するとき

  — 人が乗降するとき

  — 荷物の積み下ろしをするとき

- **アクティブスタビリティコントロール［ASC］警告灯［ ］（➔ (P.268)）、ブレーキシステム警告灯［ ］（➔ (P.266)）、電動パーキングブレーキ警告灯［Ⓟ］（➔ (P.265)）、またはマスターウォーニング［ ⚠ ］（➔ (P.270)）が点灯し、「シャシー制御表示」の警告メッセージ（➔ (P.274)）が表示されたときは、ブレーキオートホールド機能は作動しません。**

- **ブレーキオートホールド機能をOFFにする際は、ブレーキペダルを踏みながら<ブレーキオートホールドスイッチ>を押す。**

  急な坂道では、ブレーキオートホールド機能での停止状態からアクセルを踏んでもブレーキオートホールド機能が解除できない場合があります。

- **ブレーキペダルから足を離す前に、ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（緑色）が点灯していることを確認する。**

⚠ 注意

- **ブレーキオートホールド機能によってブレーキ力が保持されているときに、ブレーキオートホールド機能をOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。**

  ブレーキが解除され車両が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **車両が停止してもブレーキ保持が開始されないときは、ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（緑色）が点灯するまでブレーキペダルを踏み込む。**

  ブレーキペダルが十分な力で踏まれていない、もしくは車両停止後にブレーキペダルを離すのが早すぎると、ブレーキオートホールド表示灯［ Ⓐ HOLD ］（緑色）は点灯しません。

アドバイス

- 次の場合は、システムに異常が発生しているおそれがあります。ただちに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

  — 警告メッセージが表示されたとき

  — <ブレーキオートホールドスイッチ>を押してもスイッチの表示灯が点灯しないとき

- ブレーキオートホールド機能がONでブレーキ力が保持されているときに、次の状態になるとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ力が解除されます。（ブレーキオートホールド表示灯はOFFになります。）

  — ブレーキオートホールド機能によるブレーキ力の保持が3分以上継続されたとき

— シフトポジションをP位置にしたとき
— ＜電動パーキングブレーキスイッチ＞を引き上げたとき
— 運転席シートベルトを外したとき
— ＜パワースイッチ＞をOFFにしたとき
— ブレーキオートホールド機能に不具合が生じたとき

●ブレーキ力を保持しているときは、車両の停止状態を維持するため、作動音が発生する場合がありますが、異常ではありません。

発進・走行

発進するときの注意事項

⚠ 警告

● **発進するときは、アクセルペダルを踏んだままセレクターレバーを操作しない。**

急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアが開いた状態でアクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキが解除されず、電動パーキングブレーキが故障するおそれがあります。

発進のしかた

1. ブレーキペダルを踏んだまま＜パワースイッチ＞を押して、メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯していることを確認します。
➔始動のしかた (P.138)
2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクターレバーを車両後方に2段階スライドさせ、シフトポジションをDに切り替えます。
➔セレクターレバーの操作 (P.141)
3. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、パーキングブレーキを解除します。
➔電動パーキングブレーキの解除のしかた (P.142)
4. ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

●急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト[HSA]（➔P.160）が作動します。

●緩やかな坂道ではHSAが作動しない場合がありますが、自動的に車両の後退を抑制する機能が働き、一定の車速以上では後退しないように制御します。

走行するときの注意事項

⚠ 警告

● **走行中はシフトポジションをNに切り替えない。**

回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。

● **イノベーティブペダル オペレーションモードがOFFのときは、下り坂ではフットブレーキと回生ブレーキを併用する。**

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなり危険です。坂の勾配に応じて回生ブレーキを併用してください。

➔イノベーティブペダル オペレーションモード (P.156)

● **イノベーティブペダル オペレーションモードがOFFのときに、回生ブレーキの効きが弱くなった場合は、ブレーキペダルを踏んで減速する。**

● **イノベーティブペダル オペレーションモードをON にすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

- 上り坂では、クリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 上り坂でシフトポジションをDまたはBのまま故意に車両を後退させたり、下り坂でRのまま故意に車両を前進させたりしないでください。車両故障のおそれがあります。
- 浸水・冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに三菱自動車会社で点検を受けてください。

走行のしかた

- シフトポジションをDにしたまま走行します。アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
- 下り坂では、ガソリン車のエンジンブレーキの代わりに回生ブレーキ（➔P.14）を併用して走行します。シフトポジションがDのときよりBのほうが、回生ブレーキの効きが強くなります。速度が出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 回生ブレーキは、満充電時や低温時などにブレーキが弱くなることがあります。回生ブレーキが弱いときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。
- 走行中にセレクターレバーにあるⓅスイッチを押した場合は、操作が無効となります。（ブザーが鳴り、操作前のシフトポジションが維持されます。）

停車・駐車

停車・駐車の注意事項

⚠ 警告

- **駐車するときは、ガスライターなどに注意する。**

  操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれ があります。

⚠ 注意

- **長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があるので注意する。**

アドバイス

- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形したりするおそれがあります。

停車・駐車のしかた

1. 停車するときは、シフトポジションはDまたはBのままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
2. そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。
   ➔電動パーキングブレーキのかけかた (P.142)
3. ブレーキペダルを踏んだままセレクターレバーにあるⓅスイッチを押し、シフトポジションをPに切り替えます。
4. ＜パワースイッチ＞を押します。
   メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ 🚗 ］が消灯していることを確認してから、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

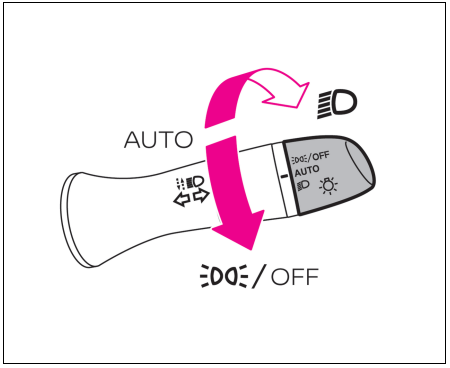
ライトスイッチ

ライトスイッチの注意事項

アドバイス

- メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯していないときは、長時間点灯させないでください。補機用バッテリーがあがるおそれがあります。

ライトスイッチの使いかた



スイッチを回すと、次のように点灯、消灯します。

スイッチ位置	点灯するランプ
＜ /OFF＞（＜ /OFF＞の位置にしても手を離すと自動で＜ AUTO ＞の位置に戻ります。）	停車時に＜ /OFF＞の位置に回すと車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。停車時に＜ /OFF＞の位置に回して 1.5 秒以上保持すると、全ランプが消灯します。走行を開始すると周囲の明るさに応じて、ランプが自動点灯・消灯します。
＜ AUTO ＞	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯・消灯します。
＜ ＞	ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

- 車幅灯、尾灯、番号灯が点灯しているときはメーター内のテールランプ表示灯［ ］が点灯します。
- ライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回すと、マルチインフォメーションディスプレイにライトオフガイダンスが表示されます。
- 通常時は＜AUTO＞の位置で使用してください。

バッテリーセーバー

- READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯時にランプを点灯したまま＜パワースイッチ＞をOFFにし、リモコンまたはドアハンドルのスイッチで施錠すると、補機用バッテリーあがりを防止するためランプが消灯します。ランプ消灯後、次の操作を行うとランプが再点灯します。
  - ― ＜パワースイッチ＞をONにする
  - ― ライトスイッチを操作する（約5分後にランプは再度消灯します）

ヘッドライト消し忘れ警報

- ＜パワースイッチ＞がON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合にブザーが鳴ります。
  - ― ライトスイッチが＜ ＞の位置にあるとき
  - ― ライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯［ ］が点灯しているとき

＜ /OFF＞の使いかた

- ライトスイッチは＜ /OFF＞の位置に回しても手を離すと自動で＜AUTO＞の位置に戻ります。
- ランプの点灯状態は次のとおりです。

ライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回したとき

- 停車時にライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回すと、車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。
- 停車時にライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回しても、走行すると周囲の明るさに応じてヘッドライトが自動点灯します。
- 走行中にライトスイッチを＜ /OFF＞の位置に回すと、周囲が明るいときは車幅灯、尾灯、番号灯のみが点灯します。

周囲が暗いときはライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回しても、点灯しているヘッドライトを消灯できません。（停車時またはフォグランプ★点灯時のみ消灯可能です。）

●フォグランプ点灯時、車両が完全に停止する前にライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回してヘッドライトを消灯した場合、再度走行してもヘッドライトは点灯しません。再度ヘッドライトを点灯させるときは、ライトスイッチを＜≡D/OFF＞または＜ ≡D ＞の位置に回すか、フォグランプをOFFにします。（フォグランプ付車）

ライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回して1.5秒以上保持したとき

●停車時にライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

●停車時にライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回して1.5秒以上保持しても、走行すると周囲が暗いときはヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

●走行中にライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回して1.5秒以上保持しても、点灯しているランプを消灯できません。

次の操作をすると、AUTO（自動点灯･消灯）に戻ります。

●再度ライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回す

●＜ ≡D ＞の位置にしてから＜AUTO＞の位置にする

AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた

●＜パワースイッチ＞がOFFのときは消灯します。

●＜パワースイッチ＞がONのときは次のように作動します。

周囲が明るいとき

●停車中、走行中ともにヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が消灯します。

周囲が暗いとき

●停車中、走行中ともにヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が自動点灯します。

オートライトコントロール（フロントワイパー連動）

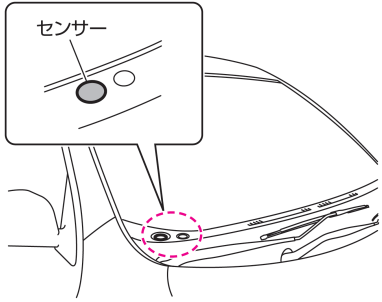
●歩行者事故が多く発生している夕暮れ時や雨天でのワイパー使用時にもランプを自動点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［車両設定］⇒［オートライト感度調整］を選択すると、オートライトの感度調整ができます。設定の詳細については、車両設定をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)

➔車両設定 (P.89)

アドバイス



● センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

＜ ≡D ＞の使いかた

●ライトスイッチを＜ ≡D ＞の位置に合わせるとヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。

自動点灯ランプの消灯のしかた

●フォグランプ★点灯中を除き、ヘッドライトは走行中に消灯できない仕様となっています。

ヘッドライトの消灯方法

●停車中、ライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回すと、ヘッドライトが消灯します。

●走行中、フォグランプがONの状態でライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回すと、ヘッドライトが消灯します。（フォグランプ付車）

すべてのランプの消灯方法

●停車中、ライトスイッチを＜≡D/OFF＞の位置に回して1.5秒以上保持すると、全ランプが消灯します。

オートマチックハイビーム [AHB]

●先行車または対向車や周囲の明るさなどに応じ、ハイビーム（上向き）とロービーム（下向き）が切り替わります。

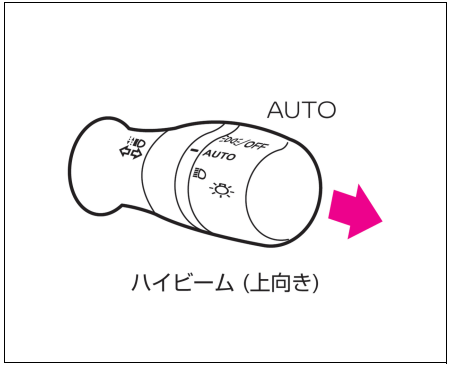
●約25km/h以上で走行中、ヘッドライトが点灯しているときに切り替えを行い、約15km/h以下になるとロービーム（下向き）に切り替わります。

●AHBがONでロービームのとき、ライトスイッチを車両後方に引くとパッシングになります。
（AHBはONを維持）

●ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

●次のような原因で、上向きと下向きの切り替わるタイミングが変化することがあります。
- 対向車または先行車のランプの明るさ
- 対向車または先行車の向きや動き
- 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯している
- 対向車または先行車が二輪車
- 道路状況（カーブや勾配、路面状況など）
- 乗車している人数や荷物の量

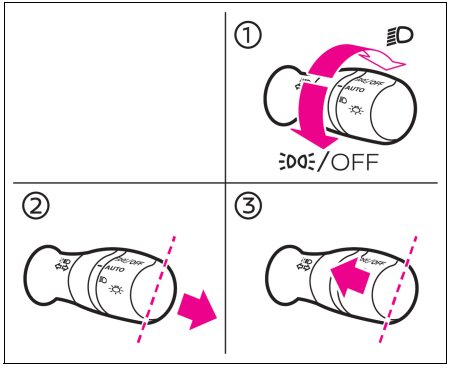
AHBをONにする方法



ハイビーム（上向き）

●ライトスイッチが＜AUTO＞の位置でレバーを車両前方に押すと、AHBがONになります。（メーター内のAHB表示灯［ ≡Ⓐ ］が点灯）

AHBをOFFにする方法

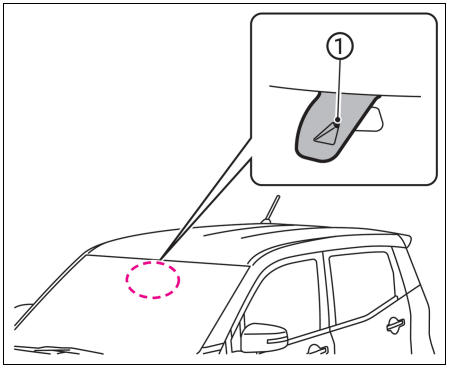


次のいずれかの操作をすると、AHBがOFFになります。

●ハイビームのとき
- ライトスイッチを＜AUTO＞の位置以外にする…①
- ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…②
- ライトスイッチを車両後方に引く（ロービームに切り替わります）…③

●ロービームのとき
- ライトスイッチを＜AUTO＞の位置以外にする…①
- ライトスイッチを車両前方に押す（ハイビームに切り替わります）…②

■ フロントカメラについて



フロントガラス上部に周囲の状況を感知するためのカメラ①があります。

AHBを正しく作動させるため、次のことをお守りください。

- フロントガラスが汚れたら清掃してください。
- カメラの周辺にアクセサリーやステッカーなどを取り付けないでください。
- カメラのレンズには触れないでください。
- カメラおよびその周囲に強い衝撃を与えないでください。

フロントカメラの取り扱い (P.314)

AHB の注意事項

⚠ 警告

- **システムを過信しない。**

常に周囲の状況を確認し、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替えてください。

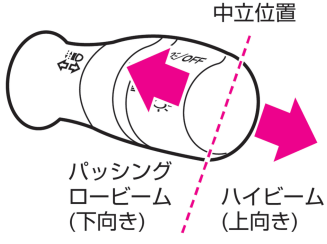
- **次のようなときは、AHBが正しく作動しない場合があるため、必要に応じて上向きと下向きを手動で切り替える。**
  - 悪天候のとき（雨、霧、雪など）
  - 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっていたり、汚れなどが付着したりしているとき
  - カメラの向きがずれているとき
  - 周囲にヘッドライトや尾灯に似た光源があるとき
  - 対向車または先行車が無灯火のとき
  - 対向車のヘッドライトが破損または汚れていたり、光軸がずれているとき
  - 自転車やバイクなど、ライトの明るさや大きさが十分でないとき
  - 歩行者など光を発しないもののとき
  - 明るさの急激な変化が連続しているとき
  - 段差や起伏のある道路を走行しているとき
  - カーブが多い道路を走行しているとき
  - ミラーや標識など反射の強いものが前方にあるとき
  - トレーラーやコンテナなど先行車の後部の反射が強いとき
  - パンクやけん引などで車両が傾いているとき

アドバイス

- AHBが正しく作動しなかったり、作動中にメーターにAHB表示灯［ ］が点灯しなかったりしたときは、AHBが故障しているおそれがあります。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

  AHB表示灯（P.76）

ハイビーム（上向き）への切り替えかた



☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ライトスイッチが＜ ＞の位置のとき

●ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。

●パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のとき

●ヘッドライトが点灯しているとき、ライトスイッチを車両前方に2回押すとハイビームに切り替わります。（1回押すとオートマチックハイビーム[AHB]（➔P.150）がONになります。）

●ロービームに戻したいときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。

●パッシングするときは、ライトスイッチを車両後方に引きます。ハイビームの状態からパッシングしたいときは、ライトスイッチを2回車両後方に引きます。

アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

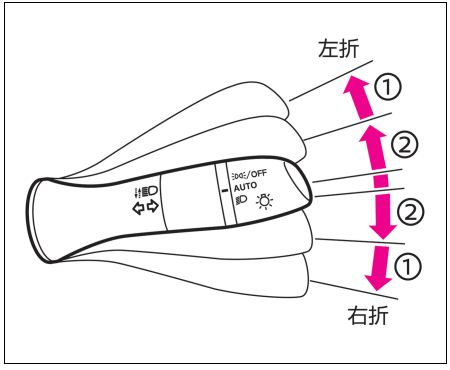
●ハイビームに切り替えているときは、メーター内のヘッドライト上向き表示灯［ ］が点灯します。

●AHBがONのとき、ライトスイッチを車両前方に押すと、ハイビームに切り替わります。

●ヘッドライト、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。

●ライトスイッチは車両前方に押しても車両後方に引いても、手を離すと自動で中立位置に戻ります。

方向指示器の使いかた



＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。

●右折または左折するときは、ライトスイッチを①の位置まで動かします。

●車線変更などのときは、ライトスイッチを②の位置まで動かし軽く押さえます。スイッチを押さえている間、方向指示器が点滅します。
また、スイッチ②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。（コンフォートフラッシャー機能）

アドバイス

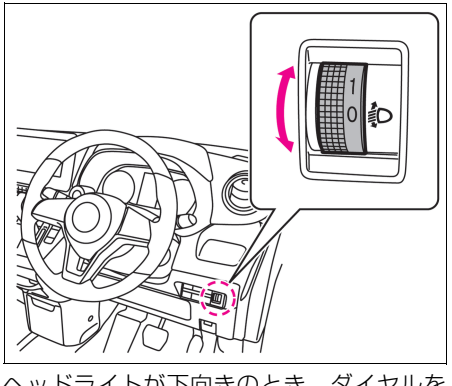
- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。

➔外装ランプが点灯しないときは(P.292)

ヘッドライトレベリングダイヤル

ヘッドライトの照らす方向（光軸）を調節します。乗員の人数や荷物の重さなどに応じ、調節してください。

ヘッドライトレベリングダイヤルの使いかた



ヘッドライトが下向きのとき、ダイヤルを回して調節します。

ランプをつける、ワイパーを使う

- 通常は、ダイヤルが0の位置で使います。
- ダイヤルを大きな数字の方へ回すほど、照らす方向は下向きになります。

アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドライトが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調節してください。

■ ダイヤル位置の目安

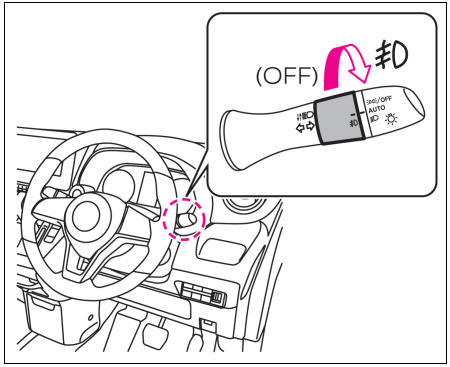
次の表を目安に、乗員の人数や荷物の量に応じてダイヤル位置を選択してください。

スイッチ位置	前席シート乗員数	後席シート乗員数	ラゲッジルームの積載重量
0	1	0	―
	2	0	―
1	2	2	―
	2	2	50kg
2	1	0	235kg

フォグランプスイッチ★

雨、霧、雪などで視界が悪いとき、ヘッドライトの補助として使用します。

フォグランプの使いかた

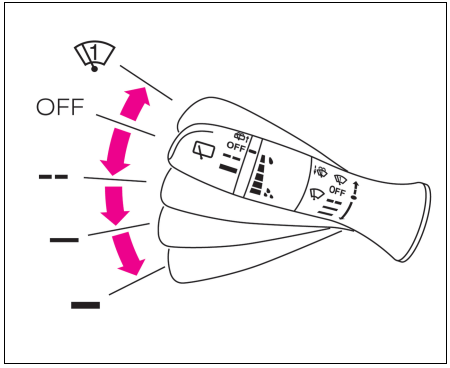


- ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
- スイッチを＜ ≢D ＞の位置に合わせます。
- 消灯するときは、スイッチを再度操作します。
- フォグランプが点灯しているときは、フォグランプ表示灯［ ≢D ］が点灯します。
- 濃霧時にヘッドライトを消灯して走行したい場合は、次の操作を行うと車幅灯とフォグランプの点灯で走行することができます。
  - フォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチを＜AUTO＞から＜ ≡D⇔/OFF ＞の位置に回す、または＜ ≡D ＞から＜ ≡D⇔/OFF ＞の位置に回す

ワイパー・ウォッシャースイッチ

＜パワースイッチ＞がONのとき使用できます。

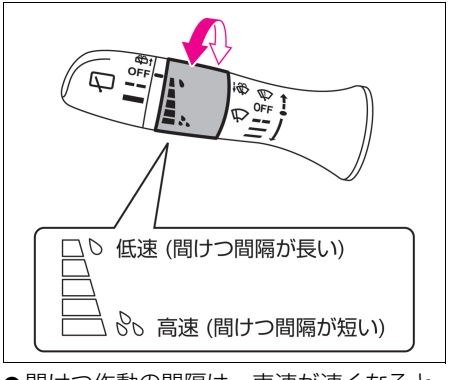
フロントワイパーの使いかた



- スイッチを動かすと、次のように作動します。

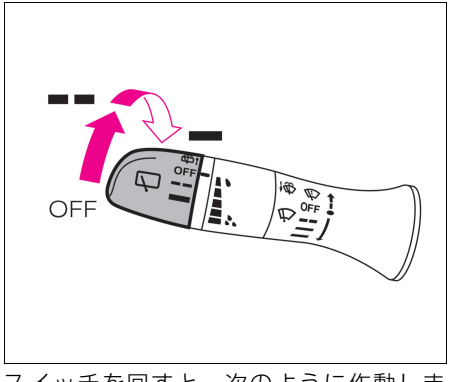
スイッチ位置	作動
＜ 1 ＞	レバーを上げている間作動します。 手を離すと OFF に戻ります。
＜ OFF ＞	停止します。
＜ -- ＞	間けつで作動します。 スイッチを回し、ワイパーの間けつ時間を調節します。

スイッチ位置	作動
＜ ━ ＞	低速で連続して作動します。
＜ ━ ＞	高速で連続して作動します。



- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- ライトスイッチが＜AUTO＞の位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくヘッドライトが点灯します。
  AUTO（自動点灯・消灯）の使いかた (P.149)
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［車両設定］⇒［ワイパー］を選択すると、車速連動機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、車両設定をお読みください。
  マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  車両設定 (P.89)

リヤワイパーの使いかた



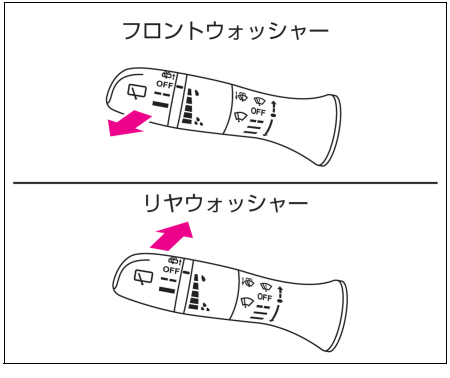
スイッチを回すと、次のように作動します。

スイッチ位置	作動
＜ OFF ＞	停止します。
＜ ╍ ＞	間けつで作動します。
＜ ━ ＞	低速で連続して作動します。

■ リバース連動機能

- フロントワイパー作動中にシフトポジションをRに切り替えると、リヤワイパーが作動します。

ウォッシャーの使いかた



■ フロントウォッシャー

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを引いている間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レバーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

■ リヤウォッシャー

- スイッチを車両前方に押すと、ウォッシャー液が噴射します。
- スイッチを押している間はウォッシャー液の噴射とワイパーの作動が続き、レ

バーを離すとワイパーが数回作動してから停止します。

ワイパー・ウォッシャーを使うときの注意事項

⚠ 警告

- **寒冷時は、ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターでガラスを温める。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にする。**

  寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

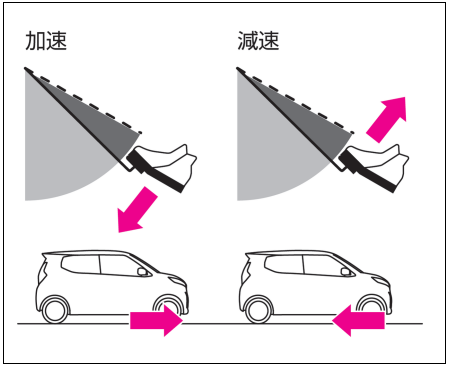
アドバイス

- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチを＜OFF＞にして障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分間）待ってから、再度スイッチを操作してください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでワイパーゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障したりするおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーをご使用ください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、連続して30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

イノベーティブペダル オペレーションモード

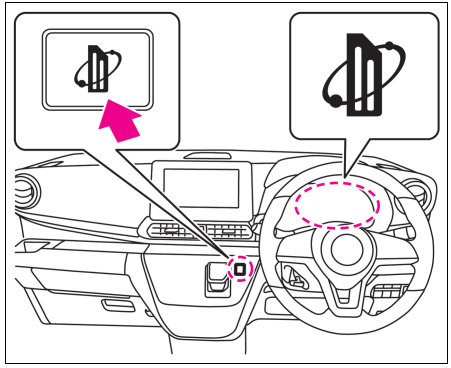
アクセルペダルの操作のみで加減速を行い、ブレーキペダルへ踏み替える頻度を大幅に減らすことができます。

イノベーティブペダル オペレーションモードについて



●イノベーティブペダル オペレーションモードをONにすると、回生ブレーキの効きが強くなり、アクセルペダルの操作のみで速度調整することができるようになります。

イノベーティブペダル オペレーションモードの使いかた



●＜パワースイッチ＞がONのとき、＜イノベーティブペダル オペレーションモードスイッチ＞を操作するごとにON・OFFが切り替わります。（メーター内のイノベーティブペダル オペレーションモード表示灯が点灯します。）
➔イノベーティブペダル オペレーションモード表示灯 (P.73)

●一度＜パワースイッチ＞をOFFにしてからパワーユニットを再始動すると、イノベーティブペダル オペレーションモードはOFFになります。

●再始動後もイノベーティブペダル オペレーションモードの設定状態を維持したい場合は、マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［ペダルオペレーションモード記憶］をONに切り替えてください。

イノベーティブペダル オペレーションモードの作動について

●アクセルペダルを離したときの減速度がガソリン車より強いため、アクセルペダルを完全に離さずゆっくりと緩めることで、なめらかに減速することができます。

●アクセルペダルを離しても減速度が足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。

●アクセルペダルを離した際、発生する減速度、およびブレーキペダルの操作状態に応じて制動灯が点灯します。

●車速によって最大減速度が変わります。極低速は回生ブレーキを作動させずクリープ現象が発生します。停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。

●イノベーティブペダル オペレーションモードがONのときも、ブレーキペダルを使用することができます。

●後退時はイノベーティブペダル オペレーションモード OFFと同じ特性になります。

イノベーティブペダル オペレーションモードに関する注意事項

⚠ 警告

● 機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。

⚠ 警告

走行･道路状況に応じてブレーキペダルを踏んでください。

- **メーターに［イノベーティブペダル オペレーションモードシステム異常 減速、停車する際はブレーキを踏んでください］と警告メッセージ（➔P.280）が表示されたときは、イノベーティブペダル オペレーションモードが故障しているため、ただちに三菱自動車販売会社で点検を受ける。**
- **極低速は回生ブレーキを作動させずイノベーティブペダル オペレーションモード OFF同様のクリープ現象が発生します。**

  停車するときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- **減速中の減速度合いが足りない場合は、ただちにブレーキペダルを踏む。**

  車両が動きだしたり、止まりきらなかったりして、思わぬケガや事故につながるおそれがあります。
- **過積載、急勾配、氷結路などの制動力が低下する条件では、減速度が十分でない場合があるため、必要に応じてブレーキペダルを使用する。**
- **けん引中は、イノベーティブペダル オペレーションモードをOFFにする。**

- イノベーティブペダル オペレーションモードがONのときとOFFのときでは、アクセルペダルの特性が大きく異なります。イノベーティブペダル オペレーションモードのON･OFFをメーターで確認してください。
- イノベーティブペダル オペレーションモードがONのとき、シフトポジションをDからBまたは、BからDに切り替えても、イノベーティブペダル オペレーションモードの特性は変わりません。
- イノベーティブペダル オペレーションモードのモード記憶設定（➔P.88）は、「工場出荷設定」の「初期化」をしてもリセットされません。
- シフトポジションが、P、Nのときは、イノベーティブペダル オペレーションモードは作動しません。
- 運転支援システムが作動しているときは、運転支援システムが優先されます。
- 減速によってブレーキペダルが動いたりイノベーティブペダル オペレーションモードが作動しているときに作動音が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブモードセレクター

複数のドライブモードがあります。目的に応じて使い分けてください。

ドライブモードセレクターの注意事項

⚠ 警告

- **走行中に<ドライブモードスイッチ>や画面を注視しない。**

  前方不注意となり思わぬ事故につながるおそれがあります。

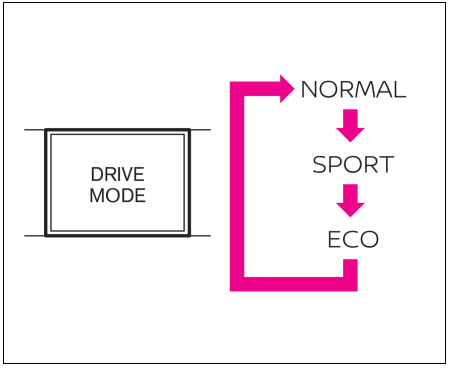
ドライブモードについて

ドライブモード	特徴
NORMAL	通常走行に最適な標準的制御のモード。
SPORT	モーター出力のレスポンスを高めた、力強い走りができるモード。また、アクセルペダル OFF 時の回生ブレーキ力を強めて、アクセルペダル操作のみでメリハリのあるスポーティな走行が可能。
ECO	電費・航続可能距離を最優先とする特性のモード。また、アクセルペダル OFF 時の回生ブレーキ力を最小限にし、エコドライブが可能。

モードの切り替えかた

アドバイス

- ＜ドライブモードスイッチ＞を操作してもモードが切り替わらない場合は、システムの異常が考えられます。三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



- ＜パワースイッチ＞がONのとき、＜ドライブモードスイッチ＞を操作すると、選択可能なドライブモードがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- モードの設定は、パワーユニットを再始動しても維持されます。

エマージェンシーストップシグナルシステム [ESS]

ESS : Emergency Stop Signal system

エマージェンシーストップシグナルシステム[ESS]は、急ブレーキを踏んだとき、後続車に追突される可能性を低減させるため、制動灯を点滅させて後方へ急ブレーキを知らせます。

ESS について

- 60km/h以上の速度で走行中、急ブレーキを踏むと作動します。
- 次の場合は作動が停止します。
  - ブレーキペダルから足を離したとき
  - ブレーキペダルを踏んでいても急ブレーキではなくなったとき

知識

- メーター内のABS警告灯［ ］（P.264）が点灯しているときは、ESSが作動しない場合があります。

アンチロックブレーキシステム [ABS]

ABS : Anti-lock Brake System

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させるとともにハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABS に関する注意事項

警告

- **カーブの手前では十分に減速する。**

  ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車両と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早めの操作で安全運転を心がけてください。

- **でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、特に速度を控え、車間距離を十分にとる。**

  ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、砂利道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を抑え、車間距離を十分にとって運転してください。

- **タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着する。**

  ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABS について

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- <パワースイッチ>をONにしたときや、パワーユニットを始動後最初の発進時に、パワーユニットルーム内から音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停車させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

アクティブスタビリティコントロール［ASC］

ASC：Active Stability Control

ASCは、横滑りや駆動輪の空転を抑えて走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

ASC の機能について

- ASCのシステムには次の機能があります。
  - ― ASC機能：走行中の横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させる機能です。
  - ― トラクションコントロール機能（TCS）：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、モーターの出力を抑えることにより、駆動力およびハンドルの操作性を向上させる機能です。
  - ― グリップコントロール機能：滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する機能です。
  - ― ABS機能：ABS（➔P.158）
- ASC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

ASC の作動について

- ASCの作動と警告灯
  - ― ASCが作動しているときは、メーター内のASC警告灯［ 🚗 ］が点滅します。
  - ― トラクションコントロール機能のみが作動しているときもASC警告灯［ 🚗 ］が点滅します。ASC警告灯が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- 次の場合、ASC警告灯［ 🚗 ］が点灯することがあります。一度<パワースイッチ>をOFFにし、再度ONするとASC警告灯は消灯します。
  - ― 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
  - ― 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき

ASC に関する注意事項

⚠ 警告

- **滑りやすい路面やカーブの手前では速度を落とす。**

  この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。ASCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では、特に速度を落とし安全運転を心がけてください。
- **次の場合、メーター内のASC警告灯［ 🚗 ］が点灯し正常に作動しないことがあるので注意する。**
  - ― サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - ― サスペンション、タイヤ、ブレーキなどの関係部品が著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- **ASC付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着する。**

ASC の ON・OFF のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［ASC設定］⇒［システム］を選択すると、ASC機能のON･OFFを切り替えることができます。設定の詳細については、ASC設定をお読みください。
  マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ASC設定 (P.85)
- ASC機能をOFFに切り替えると、ASCが停止し、ASC OFF表示灯［ ］が点灯します。
- 再度、ASCを使用（ON）するときは、もう一度マルチインフォメーションディスプレイでASC機能をONに切り替えます。ASC OFF表示灯［ ］が消灯し、ASCがONになります。
- ASCが作動しているときは、ぬかるみや雪道から脱出するときに、スリップ状態を検知するため、アクセルペダルを踏み込んでもタイヤの回転数が上がらないことがあります。タイヤの回転数を上げたいときはマルチインフォメーションディスプレイでASCを停止してください。
- ASC機能をOFFにすると、ASCのすべての機能と、次の機能が停止します。（ABS機能およびグリップコントロール機能を除く）
  - マイパイロット★（P.164）
  - 衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（P.177）
  - 前方衝突予測警報[PFCW]（P.181）
  - 踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]（P.183）
  - 車線逸脱防止支援機能[LDP]（P.189）
- ＜パワースイッチ＞をONにするたびに、ASCは自動的にONになります。
- ASCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- ＜パワースイッチ＞をONにしたときや、パワーユニットを始動後最初の発進時に、パワーユニットルーム内から音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

ヒルスタートアシスト [HSA]

HSA : Hill Start Assist

ヒルスタートアシスト[HSA]は、上り坂での発進を補助するシステムです。

⚠ 警告

- **HSAの機能を過信しない。**

  凍結している路面や泥状の坂道では、車両がスリップして後退することがあります。特に安全運転を心がけてください。

  緩やかな坂道ではHSAが作動せず後退する場合があります。その際はブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。
- **停車するときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ブレーキペダルを踏み続ける。**

  この装置は、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間ブレーキ力を保持しますが、その後ブレーキ力が解除されます。駐車するときは確実にシフトポジションを**P**に入れ、パーキングブレーキをかけてください。

HSA について

- 上り坂で発進するとき、ブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間に発生する車両の後退を防ぎます。
- シフトポジションが**P**、**N**以外のとき、ブレーキペダルから足を離すと、約2秒間ブレーキ力を保持します。
- セレクターレバーを操作した直後はブレーキを踏んだ状態で約1秒待ってから発進してください。シフトポジションを**P**から**D**または**N**から**D**に切り替えた直後は、HSAが作動しないことがあります。
- アクティブスタビリティコントロール［ASC］警告灯［ ］（P.268）が点灯したときは作動しません。
- HSAが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動

が発生したりすることがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置 [AVAS]

AVAS : Acoustic Vehicle Alerting System

AVASは、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせるシステムです。

⚠ 警告

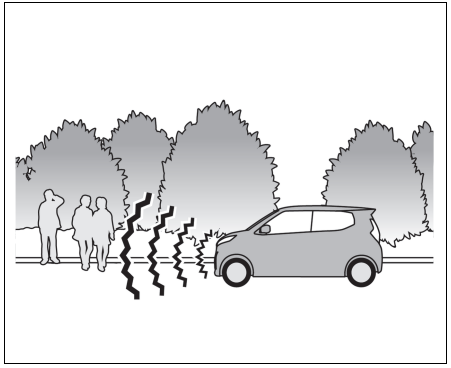
- **AVASの音が聞こえないときは、三菱自動車販売会社で点検する。**

  AVASの音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか確認してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションをRにし、窓を開けて音が聞こえるか確認します。車両前方から音が聞こえないときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

車両接近通報装置 [AVAS] について

AVASは、メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているとき、次の場合に作動します。

- 発進時、車速が30km/h以下のとき
- 減速時、車速が25km/h以下になったとき
- シフトポジションがRのとき



AVASの音を大きくしたい場合は、三菱自動車販売会社へご相談ください。音を小さくすることはできません。

AVASの故障について

- システムに異常があると、メーター内の車両接近通報装置[AVAS]警告灯［ OFF ］が点灯します。
  車両接近通報装置[AVAS]警告灯（➔P.271）

e-Assist

各種センサーによって事故の危険を検知して運転者に知らせるとともに、できる限り事故被害を予防・回避・軽減できるよう支援する安全技術です。

e-Assist について

e-Assistには次の機能があります。

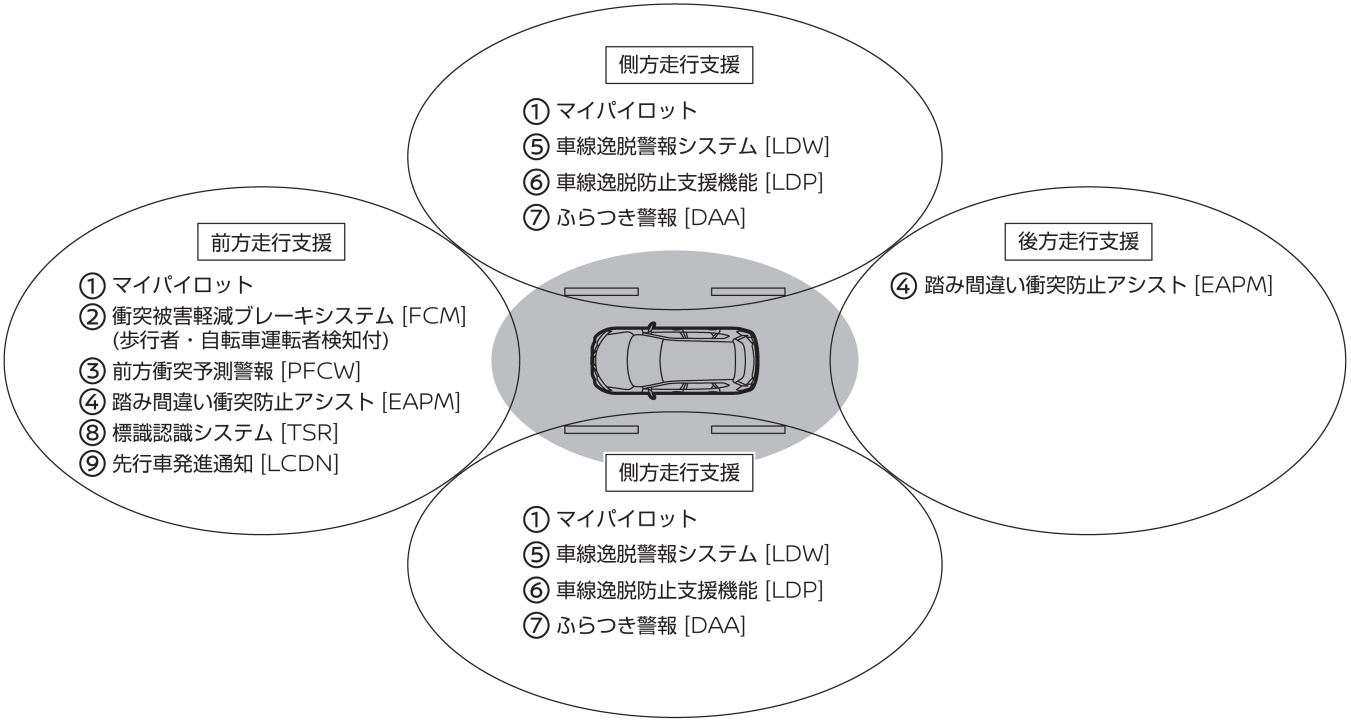
- 衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（➔P.177）
- 前方衝突予測警報[PFCW]（➔P.181）
- 踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]（➔P.183）
- 車線逸脱警報システム[LDW]（➔P.189）
- 車線逸脱防止支援機能[LDP]（➔P.189）
- ふらつき警報[DAA]（➔P.193）
- 標識認識システム[TSR]（➔P.193）
- 先行車発進通知[LCDN]（➔P.196）
- オートマチックハイビーム[AHB]（➔P.150）

⚠ 警告

- **e-Assistの各機能は、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転操作の負担や衝突被害を軽減することを目的としています。システムの検知性能・制御性能には限界があるため、これらのシステムに頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。**

走行支援システム

走行支援システムについて



運転支援システム

① **マイパイロット★**
走行中、前方の車両との車間距離を制御し、前方車両停車時は停車してその状態を保持します。また、走行車線内を走行するようにハンドルを制御することで運転操作の負担を減らします。（➔P.164）

② **衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）**
前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。（➔P.177）

③ **前方衝突予測警報[PFCW]**
前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に 注意を促します。（➔P.181）

④ **踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]**
進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違えやブレーキ操作が遅れたとき、音と表示で警告し、さらに過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。（➔P.183）

⑤ **車線逸脱警報システム[LDW]**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。（➔P.189）

⑥ **車線逸脱防止支援機能[LDP]**
運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。（➔P.189）

⑦ **ふらつき警報[DAA]**
ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したとき、音と表示により運転者に休憩を促します。（➔P.193）

⑧ **標識認識システム[TSR]**
走行中に検知した進入禁止標識、一時停止標識、および最高速度標識の情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示 し、運転者にお知らせする機能です。（➔P.193）

⑨ **先行車発進通知[LCDN]**
先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。（➔P.196）

マイパイロット★

マイパイロットは、運転者が設定した車速を上限に先行車と車速に応じた車間距離を保ちながら、車線中央付近を走行するための運転操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ

⚠ 警告

- **高速道路や自動車専用道路で使用する。**

  マイパイロットは、高速道路や自動車専用道路の直線や緩やかなカーブでの使用を想定して設計されています。一般道での使用は思わぬ事故につながるおそれがありますので使用しないでください。

- **マイパイロットの性能には限界があるため、システムだけに頼った運転はせず、常に安全運転を心がける。**

  自車の前への急な割り込みや先行車が急ブレーキをかけたとき、急なカーブを走行するとき、悪天候などでは、適切な減速や操舵制御が行えず先行車に接近したり、レーンマーカーに近づくことがあります。先行車との車間距離、自車の車線内の位置、周囲の状況に応じて自らアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作し、常に安全運転を心がけてください。

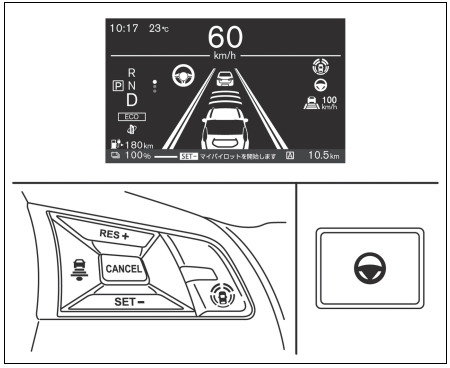
  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは、左側に引かれた線のことを示します。

- **手放し運転を行うことはできない。**

  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

- **停止中の車両には反応しない。**

  料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては減速しません。十分注意してください。



マイパイロットについて

- マイパイロットのシステムには次の機能があります。
- アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができる定速制御機能については、➔定速制御機能について(P.174)をお読みください。

レーダークルーズコントロール[ACC]

ACC：Adaptive Cruise Control

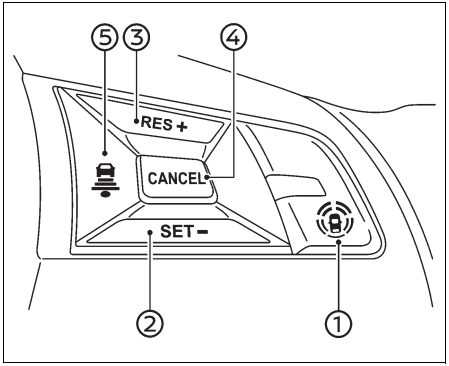
- 先行車を検出しているときは、運転者がセットした車速（約30km/h以上）を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。
- 先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、ACCは停止した状態を保持します。
- 先行車が発進したときは、ステアリングスイッチの＜RES+＞スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態を解除し、再びACCによる追従走行を開始します。
- 先行車を検出していない場合は運転者がセットした車速で定速走行します。（約30km/h以下では前方に車両がいない場合使用できません。）
  ➔レーダークルーズコントロール[ACC]の作動 (P.166)

車線維持支援機能[LKA]

LKA：Lane Keep Assist

- 車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。（約50km/h以下では前方に車両がいる場合に作動できます。）
  ➔車線維持支援機能[LKA]の作動 (P.170)

ステアリングスイッチ（マイパイロット）



① **マイパイロットスイッチ**
-マイパイロットのON・OFFができます。

② **SET-スイッチ**
-＜SET-＞スイッチを押したときの車速でマイパイロットを開始できます。
-設定速度を下げることができます。

③ **RES+スイッチ**
-マイパイロットを解除後、解除前の設定速度で再び開始することができます。
-設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
-マイパイロットの解除ができます。

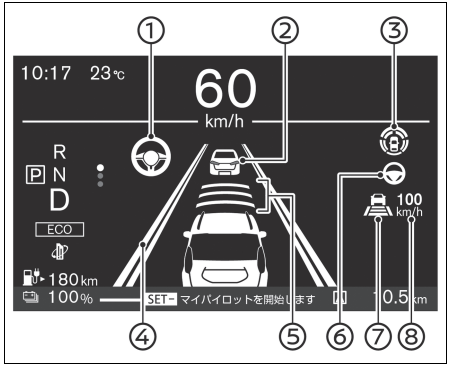
⑤ **車間設定スイッチ**
-車間設定を「長」「中」「短」の3段階に切り替えることができます。

知識

- マイパイロットをONにすると、車線逸脱防止支援機能[LDP]も同時にONになります。

  詳しくは、➔車線逸脱警報システム[LDW]／車線逸脱防止支援機能[LDP] (P.189)をお読みください。

マルチインフォメーションディスプレイ



① **車線維持支援機能作動表示**
-車線維持支援中は緑色に点灯

② **先行車検出表示**
-先行車検出有り：表示
-先行車検出無し：非表示

③ **マイパイロット作動灯**
-マイパイロットON：白色に点灯
-マイパイロット作動開始：緑色に点灯

④ **車線検出表示**
-車線検出有り：緑色に点灯
-車線検出無し：灰色に点灯

⑤ **車間設定表示**
- 車間距離の設定状況を表示

⑥ **車線維持支援機能作動灯／警告灯**
-車線維持支援中は緑色に点灯

⑦ **車速制御作動灯／警告灯**
-定車間制御中：緑色に点灯
-定速制御中：先行車アイコンが非表示

⑧ **設定車速表示**
-設定車速を表示

マイパイロットの使いかた

1. ＜マイパイロットスイッチ＞を押します。

- マイパイロットがONになります。
- マルチインフォメーションディスプレイにマイパイロットの状態が表示されます。

知識

- ＜マイパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し続けると定速制御機能に切り替わり、車線維持機能を行いません。

2. 設定したい速度まで加速または減速します。
3. ＜SET-＞スイッチを押したときの車速でマイパイロットを開始します。

●スイッチを押したときの速度が設定速度になり、マイパイロットの制御が開始します。（車速約30km/h以下で先行車を検出しているときにスイッチを押した場合、設定速度は30km/hになります。）

●マイパイロット作動灯が緑色で点灯します。

レーダークルーズコントロール [ACC] の作動

●ACCで自車が停止したとき、停止した状態を保持するまでは周囲に注意してください。

●＜車間設定スイッチ＞により、車間を設定することができます。
➔車間距離設定の変更のしかた （P.168）

●ACCの制御によりブレーキが作動した場合は、自車の制動灯が点灯します。

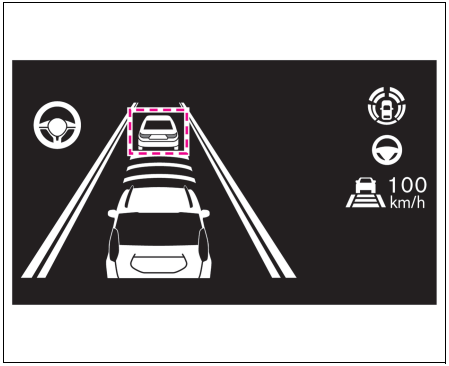
●ブレーキが作動したとき、音がすることがありますが異常ではありません。

●車両停止保持状態のときに、＜RES+＞スイッチを押すと、約3秒間は発進待機状態になります。（車両停止保持状態が解除されます）

●ACCにより自車が停止した後、約3分を経過すると、解除音とともに電動パーキングブレーキが作動し、ACCは解除されます。

●次の条件では［RES+で発進します］とメッセージが表示され、停止した状態を保持します。
- 約3秒を超えて停止したとき
- 前方にセンサーもしくはフロントカメラで障害物を検出したとき
- 割り込み車両を検出したとき
- 歩行者を検知したとき
- 信号機を検知したとき
- ブレーキ操作をしたとき
- 車線幅の狭い道路を検知したとき
- センサーが適切に作動していないとき

先行車を検出しているとき



●運転者がセットした車速(約30km/h以上)を上限に、車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車検出表示が点灯し、車速制御作動灯が定車間制御表示（緑）で点灯します。

⚠ 警告

- **運転者は周囲の状況に注意し、必要に応じてブレーキペダルを操作する。**

  車速･車間制御機能で停止した後、前方に車両が割り込んできた場合、位置や車両の向きによっては検出することができず、先行車が発進すると自車も動きだし割り込んできた車両に接近するおそれがあります。

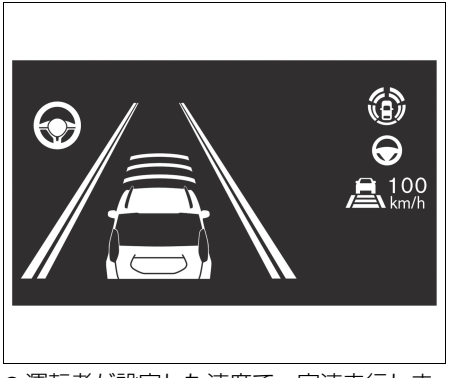
先行車が停止したとき

●ACCで走行中に先行車が停止したときは、先行車に続いて自車も停止します。一度停止すると、ACCは停止した状態を保持します。

先行車が発進したとき

●ACCで停止状態を保持しているときに先行車が発進したときは、＜RES+＞スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと停止状態は解除され、再びACCによる追従走行を開始します。

先行車を検出していないとき

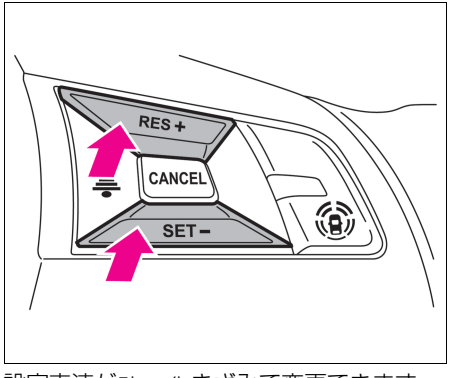


●運転者が設定した速度で、定速走行します。先行車検出表示が消灯し、車速制御作動灯の先行車アイコンが非表示になります。

知識

- 設定車速までは機能の制御によって加速しますが、素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- 先行車を検出していない場合、車速が約25km/h以下になると、ACCは解除されます。

設定車速の変更のしかた



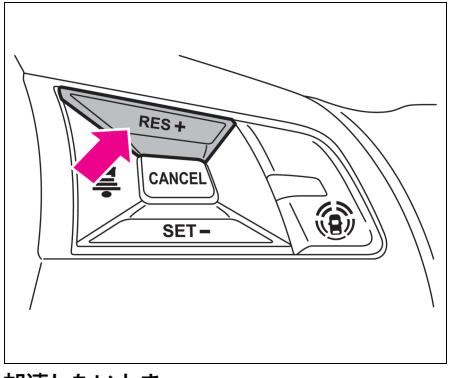
設定車速が5km/hきざみで変更できます。

●設定車速を上げたいときは、＜RES+＞スイッチを押します。

●設定車速を下げたいときは、＜SET-＞スイッチを押します。

●車間制御しているときは、先行車に合わせた車速に制御されるため、＜RES+＞スイッチを押して、設定車速を上げても加速しません。 このとき機能上は設定車速を変更しているため、先行車を検出しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速はマルチインフォメーションディスプレイの設定車速表示を確認しながら変更してください。

一時的に加速、減速をしたいとき



加速したいとき

●アクセルペダルを踏むと、加速します。

●アクセルペダルを離すと、元の制御状態に戻ります。

減速したいとき

●ブレーキペダルを踏むと、減速（制御が解除）します。

●解除前の設定速度で再びセットしたいときは、＜RES+＞スイッチを押します。

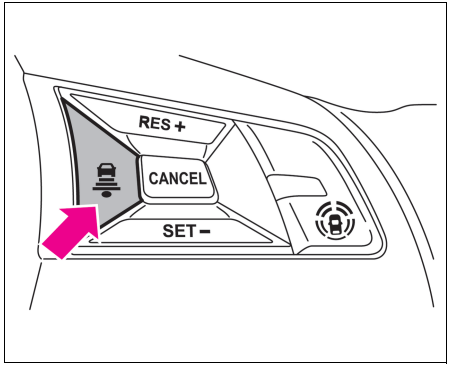
●アクセルペダルを踏んでいるときは、ACCによるブレーキ制御も接近警報も行いません。

●通常、車間制御中は先行車の速度に合わせて加速、減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要なときや、先行車が急減速したり、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどはアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏んで周囲の状況に応じた適切な加速、減速を行ってください。

●アクセルペダルを踏んで加速した場合や、＜SET-＞スイッチで設定速度を下げた場合などで設定速度より実際の速度の方が高くなったときは、設定速度表示が点滅します。

車間距離設定の変更のしかた

先行車との車間距離を交通状況に応じて選ぶことができます。レーダークルーズコントロール[ACC]制御中またはセット待機状態のときに車間設定を切り替えることができます。



●＜車間設定スイッチ＞を押すごとに「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。

●車間距離は車速に応じて変わり、速度が高いほど長くなります。

●車間設定は、パワーユニットを停止しても再度設定を変更するまでその状態が維持されます。

割り込み検知

●自車に近い位置に他車が割り込んできたときは、"ポーン"という音とともに先行車検出表示が点滅し、運転者にお知らせします。

接近警報

●車間制御中に先行車の減速度合いが大きい場合や他車の割り込みなどによって、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、次のようにブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示によって運転者に注意を促します。この場合は、ブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

●先行車に接近し、車間距離が十分でないと判断されるときはブザーが"ピッ、ピッ、ピッ、ピッ…"と鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの先行車検出表示および接近警報表示が点滅します。

●接近警報が頻繁に作動するような状況では、レーダークルーズコントロール[ACC]を使用しないでください。

●短い車間距離でも、次の場合には接近警報が作動しないことがあります。
- 先行車との相対速度が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れていくとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき

●料金所や渋滞の最後尾で停止中の車両に対しては接近警報は作動しません。

追い越し時加速機能

●設定車速が70km/h以上でレーダークルーズコントロール[ACC]制御中、先行車が設定車速以下のとき、方向指示器を右折側に操作すると、車両が加速し先行車を追い越す準備を始めます。

●運転者がステアリングを操作し、追い越すために車線を変更したときに先行車を検出した場合は、運転者がセットした車速に応じた車間距離を保つように車間制御を行い走行します。先行車を検出しなかった場合は運転者がセットした車速で定速走行します。

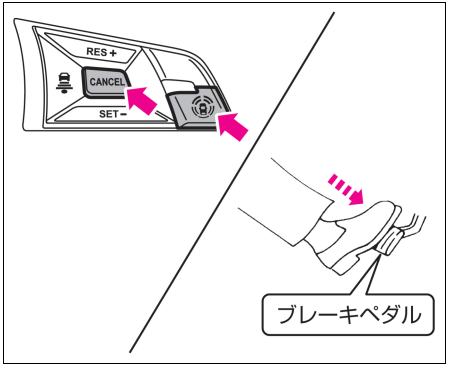
●方向指示器を右折側に操作し、車両が加速しているときに先行車との距離が近づきすぎると加速は停止し、設定してある車間距離に戻ります。

●次の場合は追い越し時加速機能が解除されます。
- ブレーキを踏んだとき
- ＜CANCEL＞スイッチを押したとき

レーダークルーズコントロール [ACC] の解除のしかた

⚠ 警告

- **車から離れるときは、必ず＜マイパイロットスイッチ＞を押して、マイパイロットをOFFにし、シフトポジションをPに入れ、パワーユニットを停止する。**



次のいずれかの操作でACCが解除されます。

- ＜CANCEL＞スイッチを押す
- ＜マイパイロットスイッチ＞を押す
- ブレーキペダルを踏む
  （ACCにより、自車が停止状態を保持しているときを除く）

レーダークルーズコントロール [ACC] の自動解除

- 次の場合は、解除音とともにACCが解除されます。
  - 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき
  - 運転席のシートベルトを解除したとき
  - 先行車を検出していないときに、車速が約25km/hを下回ったとき
  - ACCにより自車が停止後、約3分が経過したとき
  - シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
  - 電動パーキングブレーキをかけたとき
  - アクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしたとき
  - ASC/TCSが作動したとき
  - タイヤが空転したとき
  - 周辺の電波源の影響を受けているとき
- ACCにより自車が停止状態を保持しているとき、次の条件により、ACCが解除されると電動パーキングブレーキが作動します。
  - 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき
  - 運転席のシートベルトを解除したとき
  - ACCにより自車が停止後、約3分が経過したとき
  - シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
  - ASCをOFFにしたとき
  - ACCに異常があるとき
  - ＜CANCEL＞スイッチを押したとき
  - ＜マイパイロットスイッチ＞を押したとき
- 次の場合は［フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください］と表示され、作動が停止します。
  - レーダーセンサー部が汚れ、先行車の検出が困難になったとき

  システムを再び作動させる場合は、安全な場所に停車して、パワーユニットを一旦停止してレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除いてから再始動し、再びパワーユニットをONにしてください。
  - 道路形状や周辺の建造物により、レーダーセンサーが先行車を正確に検知できないとき（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）

  システムを再び作動させる場合は、上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。

アドバイス

- ACCにより自車が停止状態を保持中に運転席ドアを開けたとき、電動パーキングブレーキが正常に作動しなかった場合は［ブレーキペダルを踏んでください］と警告メッセージが表示されます。

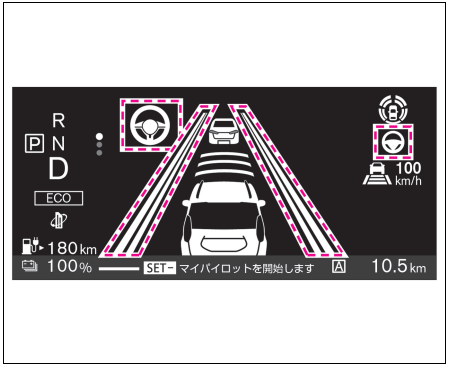
マイパイロット（レーダークルーズコントロール [ACC]）の故障について

●システムに異常があると、警告音とともにマルチインフォメーションディスプレイに車速制御警告灯（オレンジ）が点灯し、警告メッセージが表示され、システムが停止します。
車速制御警告灯（➔P.165）
マイパイロット警告メッセージ★（➔P.286）

アドバイス

● 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車しパワーユニットを一旦停止し、再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

車線維持支援機能 [LKA] の作動



車線中央付近を走行するようにステアリングを制御し、運転者のハンドル操作を支援します。

●LKAは、次の条件を満たすとき作動することができます。
— レーダークルーズコントロール[ACC]の制御が開始しているとき
— 両側のレーンマーカーを検出しているとき
レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。
— 車速が約50km/h以上のとき
— 車速が約50km/h以下では、先行車を検出しているとき
— 運転者がハンドルを持っているとき
— 車線の中央を走行しているとき
— 方向指示器が作動していないとき
— ワイパーが高速で作動していないとき

●LKAが作動すると、ブザーが鳴るとともに車線維持支援機能作動灯、車線維持支援機能作動表示、車線検出表示が緑色になります。

●LKA作動中に走行車線の右側、もしくは左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音とともに車線逸脱防止支援機能[LDP]表示がオレンジ色に点滅します。

車線維持支援機能 [LKA] の ON・OFF のしかた

スイッチでのON・OFFの設定

●＜車線維持支援スイッチ＞を押すごとにLKAのON・OFFを切り替えることができます。

メーターでのON・OFFの設定

●マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［MI-PILOT］⇒［車線維持支援］を選択すると、LKAのON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)

知識

- マルチインフォメーションディスプレイの車両情報画面がクルーズ画面のときは、ステアリングにある＜OK＞スイッチを押すとマイパイロットの設定画面が表示されます。
- LKAのON・OFF設定はパワーユニットを停止しても再度設定が変更されるまで、その状態を維持します。

手放し警告について

⚠ 警告

- **手放し運転を行うことはできません。**
  運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

●運転者がハンドルを持っていない、または操作していない場合、マルチインフォメーションディスプレイに手放し警告が表示されます。

●手放し警告が表示されているにもかかわらず、運転者のハンドル操作が検出されない場合は、警告音とともに手放し警告が点滅し、LKAは解除されます。

●手放し警告によりLKAが解除された場合、再び運転者がハンドル操作すると手放し警告は消灯し、マイパイロットを解除し再度セット、もしくは＜車線維持支援スイッチ＞を押すことでLKAを再開できます。

●運転者のハンドル操作が検出されない場合、緊急警報音が鳴るとともにマルチインフォメーションディスプレイに［減速します］と表示され、自車を減速、緊急停止させます。

●緊急警報音が作動し、自車が減速したとき、車速が約65km/hを下回ると非常点滅表示灯が自動で作動します。ハンドル操作をすると、非常点滅表示灯は自動で消灯します。

アドバイス

- ハンドルに手を軽く添えて運転をしている場合など、ハンドル操作を検出できず、手放し警告が表示されることがあります。

マイパイロット緊急停止支援システム（SOSコール機能付）

●車両を緊急停止させた後、SOSコールサービスのオペレーターに接続し、オペレーターから公共機関（警察･消防･医療機関）に救援要請を行います。
（SOSコールのシステムを利用するにはMITSUBISHI CONNECT サービスの契約が必要です。）
➔SOSコール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★ (P.241)

車線維持支援機能 [LKA] の一時待機について

運転操作による一時待機

●方向指示器を作動させたときは、車線維持支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）

●車線維持支援機能作動灯、車線維持支援機能作動表示、車線検出表示が灰色になります。

システムによる一時待機

●次の場合は、音と警告メッセージが表示され、車線維持支援機能が一時待機状態になります。（再び作動条件を満たすと作動を再開します）
  — 両側の車線を検出しなくなったとき
  — 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき

●車線維持支援機能作動灯、車線維持支援機能作動表示、車線検出表示が灰色になります。

車線維持支援機能 [LKA] の自動解除

●次の場合は、音と警告メッセージが表示され、LKAが解除されます。

— ワイパーを高速で作動させたとき
— 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき （雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）
— 両側の車線を検出しなくなったとき
— 車速が約50km/h以下で、先行車を検出しなくなったとき

●LKAによるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によりいつでも修正することができます。

➔マイパイロット（車線維持支援機能[LKA]）警告メッセージ (P.287)

マイパイロット（車線維持支援機能[LKA]）の故障について

●システムに異常があると、警告音とともにマルチインフォメーションディスプレイ内に車線維持支援機能警告灯（オレンジ）が点灯し、警告メッセージが表示され、システムが停止します。
車線維持支援機能警告灯（➔P.165）
マイパイロット（車線維持支援機能[LKA]）警告メッセージ★（➔P.287）

アドバイス

● 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車しパワーユニットを一旦停止し、再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

マイパイロットに関する注意事項

⚠ 警告

● **マイパイロットは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意での運転操作を補助するものではありません。**
先行車との車間距離、車線内の位置、周囲の状況に応じてアクセル、ブレーキ、ハンドルを操作するなどして、常に安全運転を心がけてください。

● **マイパイロットの性能には限界があります。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、マイパイロットを使用しないでください。**
— 急カーブや曲がりくねった道マイパイロットは直線路や緩やかなカーブ路での使用を想定して設計しているため、車線中央付近を維持できなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
— 急勾配の坂道停止状態を保持できず、車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
— 急な下り坂設定車速を超えてしまうおそれがあります。また先行車がいる場合は、ブレーキが過熱して十分な減速ができなくなるおそれがあります。
— 凍結路や積雪路など滑りやすい路面タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
— 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況ブレーキ作動が遅れて車間距離が短くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
— 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、レーンマーカーが極端に近い道道路構造物に接近し思わぬ事故につながるおそれがあります。

● **次のような状況では先行車との車間距離が正確に検出できない、またはレーンマーカーが検出できない場合があり、適切に制御できず、思わぬ事故につながるおそれがありますのでマイパイロットを使用しないでください。**
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき

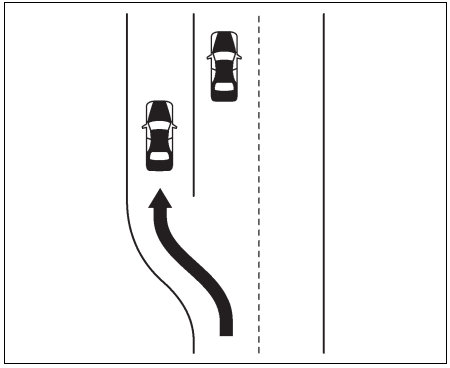
⚠ 警告

- カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
- カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
- 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
- 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
- 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
- トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
- 工事などによる車線規制や仮設のレーンマーカーがあるとき
- 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- 急な上り坂、下り坂が繰り返される道を走行するとき
- 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
- 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

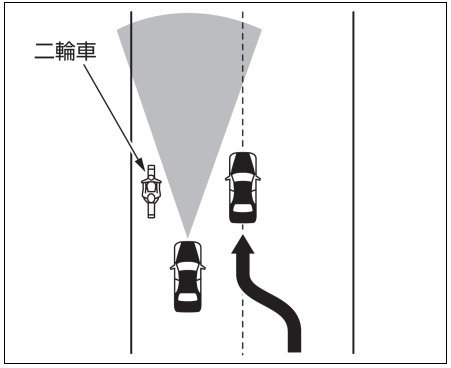
- **次のような状況ではマイパイロットは正しく機能しません。マイパイロットを使用しないでください。**
  - タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 純正品以外のブレーキ部品やサスペンション部品を使用しているとき
  - カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
  - 極端に重い荷物を積んでいるとき
  - けん引しているとき
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

●マイパイロットを正しく作動させるために、カメラ前方のフロントガラス、レーダーセンサーおよびその周辺のお手入れを行ってください。
➔フロントカメラの取り扱い (P.314)
➔レーダーセンサーの取り扱い (P.313)

レーダークルーズコントロール[ACC]について

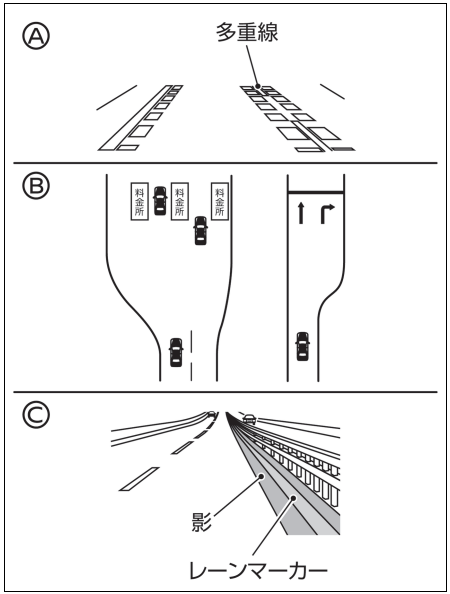


●高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなどに進入する（本線から出る）とき本線上でACCによりセット車速よりも遅い車速で走行する先行車に追従走行している場合には、自車または先行車の車線変更などで、自車線上に先行車を検出しなくなることによりセット車速まで加速するため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 近距離ではレーダーセンサーの検出エリアが狭いため、自車線の端を走行する二輪車を検出できなかったり、間近に割り込んでくる先行車の検出が遅れたりして、車間距離が適切に保てない場合があります。
- レーダーセンサーの汚れを判定する機能を備えておりますが万全ではありません。
  状況によってはレーダーセンサーが汚れていても判定できない場合があります。また雪、氷などが付着したときも判定できない場合があります。このような状況では、適切な作動ができなくなるおそれがありますので、常に前方に注意して走行してください。また、レーダーセンサーおよびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
  なお、汚れを判定した場合は、ACCは解除されます。
- 道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、車線規制や工事中などで車線の幅が狭くなっている道）や自車の状況（ハンドル操作、車線内の位置、事故や故障で走行が不安定な場合など）によっては、一時的に先行車を検出できなくなったり、隣の車線の車両や周辺のものを検出して制御したり、警報が作動する場合があります。
  また、一時的に先行車を検出できず、先行車に近づく場合があります。

車線維持支援機能[LKA]について



- 次のような状況ではレーンマーカーを正しく検出できず、適切なハンドル制御が行えない場合があります。
  - レーンマーカーが消えかかっている、汚れているなど不明瞭なとき
  - レーンマーカーが路面の色と似ており見えにくいとき
  - レーンマーカーが多重に描かれているときⒶ
  - 消されたレーンマーカーが、まだ薄く残っているとき
  - 料金所や交差点手前などでレーンマーカーがない、またはレーンマーカーが大きく変化しているときⒷ
  - 車線幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
  - 停止禁止部分または立ち入り禁止部分がある道を走行しているとき
  - 濡れている、または水たまりがある路面を走行しているとき
  - 工事などで車線内に複数のレーンマーカーがある道を走行しているとき
  - 道路構造物、街路樹、建物などの影が差している路面を走行しているときⒸ
  - 合流、分岐路を走行しているとき

定速制御機能について

定速制御機能を使用すると、シフトポジションがDまたはBのとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。（車線維持支援や車間制御は行いません。）約40km/h以上で任意の速度にセットできます。

■ 定速制御機能表示

●＜マイパイロットスイッチ＞をONにすると点灯し、システムの作動状態を色で表示します。セットすると設定した速度を表示します。
— 白色：
＜マイパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押し、システムがONになると表示します。
— 緑色：
車速を設定すると表示します。
— オレンジ色（警告灯）：
システムが故障すると表示します。
●定速制御機能使用時は、車線維持支援を行いません。

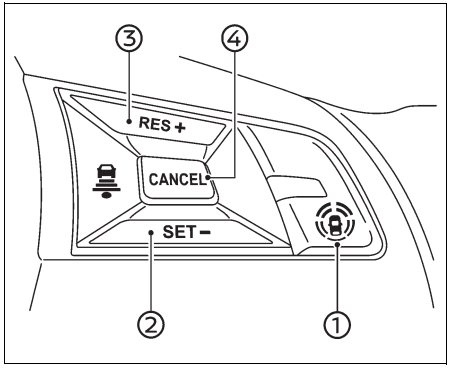
⚠ 警告

● **定速制御機能を使用するときは、十分な車間距離をとる。**
定速制御中は車間制御を行わないため、ブレーキ操作も警報も行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
● **次の状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速制御機能を使用しない。**
— 交通量の多い道や急カーブのある道
— 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
— 急な下り坂

アドバイス

● 定速制御機能表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車して、パワーユニットを一旦停止し、再始動してから再度定速制御機能をセットしてください。パワーユニットを再始動後もセットできない、または定速制御機能表示がオレンジ色に点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

■ ステアリングスイッチ（定速制御機能）



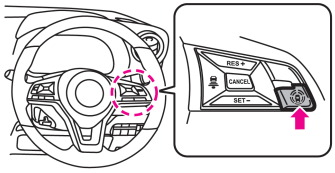
① **マイパイロットスイッチ**
-定速制御機能のON･OFFができます。

② **SET-スイッチ**
-スイッチを押したときの車速で定速制御機能をセットできます。
-設定車速を下げることができます。

③ **RES+スイッチ**
-定速制御機能を解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
-設定速度を上げることができます。

④ **CANCELスイッチ**
-定速制御機能の解除ができます。

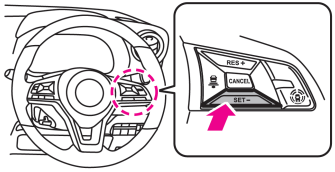
定速走行のしかた



1. ハンドルにある＜マイパイロットスイッチ＞を1.5秒以上押して定速制御機能をON（待機状態）にします。
   マルチインフォメーションディスプレイに定速制御機能表示が点灯します。

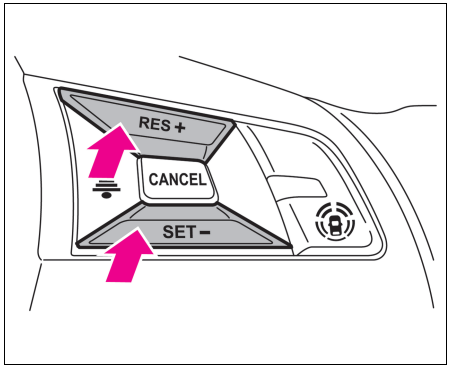
●定速走行中、一時的に加速したいときはアクセルペダルを踏みます。加速後にアクセルペダルを離すと、徐々に設定車速に戻ります。

2. 設定したい速度まで加速または減速します。



3. ＜SET-＞スイッチを押します。
   ＜SET-＞スイッチを押したときの車速で定速走行を開始します。

設定車速の変更のしかた



速度を上げる

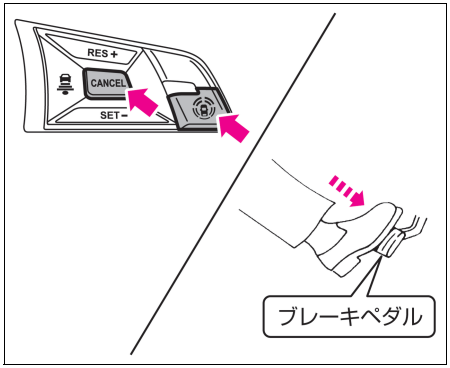
●定速走行中に＜RES+＞スイッチを押し続けると加速します。設定したい速度で手を離します。

速度を下げる

●定速走行中に＜SET-＞スイッチを押し続けると減速します。設定したい速度で手を離します。

定速走行の解除のしかた

次の操作をすると、定速走行が解除されます。



●＜CANCEL＞スイッチを押す
●＜マイパイロットスイッチ＞を押す
●ブレーキペダルを踏む

アドバイス

- ＜CANCEL＞スイッチで解除したときやブレーキペダルを踏んで解除したときは、セット待機状態になります。解除前の設定車速で再びセットしたいときは、＜RES+＞スイッチを押します。
  （車速が約40km/h以上のとき戻せます。）
- 次の場合は、“ピー”という音とともに制御が解除されます。
  — 速度が約25km/h以下になったとき

アドバイス

- ― アクティブスタビリティコントロール［ASC］/TCSが作動したとき
- ― タイヤが空転したとき
- ― シフトポジションをDまたはB以外にしたとき
- ― システムに異常があるとき

衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）

FCM：Forward Collision Mitigation system

衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]は、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車と衝突のおそれがあるとき、警報とブレーキにより、運転者の衝突回避操作を支援します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  FCMは、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突回避操作を支援、または衝突時の被害や傷害の軽減を目的としています。あらゆる状況で効果があるわけではありません。

必ず周囲の安全確認を行い、前方車両との車間距離を十分に維持して安全運転を心がけて走行してください。

メーター表示	項目
	接近警報表示
	緊急警報表示
	FCM／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] 警告灯

FCMについて

- フロントガラス上部のフロントカメラおよび車両前部のレーダーセンサーにより、前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車を検知します。
- 車速約5km/hから作動します。
  歩行者・人が乗車している自転車には約10～60km/hの範囲で作動します。
  （車速約80km/h以上では停止車両に対しては作動しません。）
- 衝突するおそれがあると判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのFCM表示（接近警報表示）がオレンジ色に点滅します。
- 運転者の衝突回避操作が不十分で、衝突危険性が高まったときには、マルチインフォメーションディスプレイのFCM表示が赤色の緊急警報表示になり、警報音（ブザー）とともに、軽いブレーキがかかります。
- さらに衝突の危険性が高まったときには、衝突の直前に強いブレーキがかかります。
- 次の場合、システムによるブレーキの作動が解除されます。
  - ― アクセルペダルを強く踏み込んだとき
  - ― ハンドルを大きく、または素早く切ったとき
  - ― 前方の車両や歩行者、人が乗車している自転車との衝突の危険がなくなったと判断したとき
- システムによるブレーキで車両が停止したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除されます。
- 運転者がハンドルやアクセル、ブレーキを操作している場合は、FCMの作動が遅れる、または作動しない場合があります。
- 前方車両と自車の速度の差が小さいときは作動しません。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- マルチインフォメーションディスプレイを「走行支援」および「マイパイロット」★に切り替えると、FCMの作動状態

をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは、マルチインフォメーションディスプレイとは（➔P.78）をお読みください。

FCM の停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［衝突被害軽減ブレーキ］を選択すると、FCM機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)
●走行中はFCMをON・OFFできません。
●機能をOFFにすると、システムが停止します。
（FCM／EAPM警告灯［ 🚗 ］が点灯）
●パワーユニットを再始動するとONに切り替わります。
●FCMをOFFにすると、PFCW、EAPMも連動してOFFになります。
➔前方衝突予測警報[PFCW] (P.181)
➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM] (P.183)

FCM に関する注意事項

●次のような障害物は検知しません。
— 子供などの背の低い人、動物
— 対向車両
— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者、人が乗車している自転車以外の障害物）
●システムは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。
— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
— 前方を横切って通過する車両
— 斜めもしくは前向きに止まっている車両
●次のような場合は、前方の車両、歩行者、人が乗車している自転車が検知できないことがあります。
— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などの付着やワイパーの拭き残しがあるとき
— カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
— カーブを走行しているとき
— 勾配の変化があるところを走行しているとき
— 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
— 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
— 前方車両からの太陽光などが強く反射されたとき
— 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更・右左折、前方車両の右左折・急ハンドル・急加速・急減速など）
— パワーユニットが始動してから約15秒間のシステムチェックをしているとき
— カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
— カメラの向きがずれているとき
— 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
— 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
— オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行しているとき

— 子供用の自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車･タンデム自転車など）

●また、以下のようなシーンでは、システムチェックが完了しないことがあります。
— パワーユニット始動後、走行してからFCMシステムが1回も障害物を検知していないとき

●以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。
— 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
— 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
— 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合（周りの風景が水たまりに映り込むなど）
— 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
— 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき

●以下の対象物にはシステムが作動しない場合があります。
— 歩行者、人が乗車している自転車の移動速度が速いとき
— 対向して接近する歩行者、自転車
— 歩行者の姿勢や手足の状態（手を上げているなど）により、歩行していると特定できないとき
— 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
— 車高の低い車両
— 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
— 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
— 前方の至近距離に割り込んだ車両
— 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者、自転車
— 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者、人が乗車している自転車
— 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
— リヤタイヤから車両後端までが長い車両
— 四輪車以外の車両（二輪車など）
— 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
— ショッピングカート、ベビーカー、自転車などを押しているとき

●以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。
— 複数の対象物同士が近接している場合
— 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合

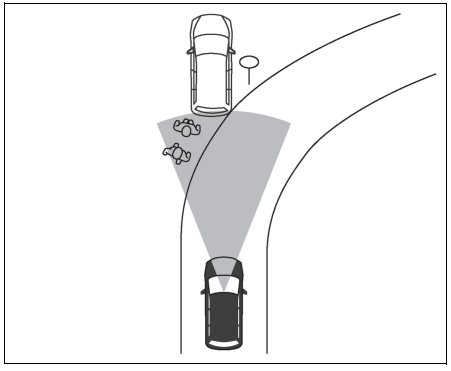
●外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

●次のような場合は、システムが機能を十分に発揮できないことがあります。
— 滑りやすい路面を走行しているとき
— 勾配のある路面を走行しているとき
— 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
— 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
— 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
— 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
— 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
— 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
— 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）

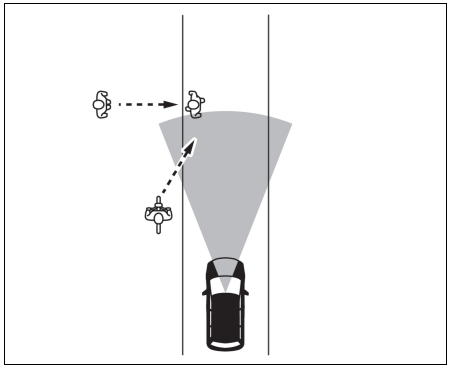
●路面または壁面の影や模様･ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示、濡れた路面に映り込んだ模様、わだちなどや光の反射を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール、カーブミラー、電柱や電線、看板）などで構成される形状が、車両や歩行者、自転車の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ･位置などと似通っている場合、システムが作動する場合があります。

●右左折中の前の車両にシステムが作動を継続する場合があります。

●前の車両に接近し追い越す場合、システムが作動する場合があります。
●道路形状（カーブ路、カーブの出入り口、ワインディング道、車線規制や工事中など）によっては、一時的に自車正面の対向車にシステムが作動する場合があります。
●自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
●以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。



― 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、自転車、人が乗車している自転車、車両など）
― 道幅が狭い路地などを走行する際の歩行者･人が乗車している自転車



― 路肩の障害物を避けるため、一時的に自車前方の走行レーンにはみ出したり、近づく歩行者や人が乗車したりしている自転車
― 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
― 駐車場内にある物（梁など）
― 走行車線または隣接する車線にある物（歩行者、車両など）
― 走行車線または隣接する車線に近づいてくる物（歩行者、車両など）
― 対向して接近する歩行者
― 走行路にある物（近接する樹木など）

FCM の作動が停止するとき

●次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
― FCMの設定をOFFにしたとき
― アクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしたとき（メーターの表示と警報音（ブザー）のみ作動します。）
― 周辺の電波源の影響を受けているとき
停止したときの状態が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
●次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯し、システムが一時的に作動しなくなります。
― フロントガラスの汚れなどにより、カメラが前方を認識できなくなったとき
― 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき
― 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき
（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）
●システムに異常があると、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイ内に警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.270）
警告メッセージ（P.275）
●次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイに［フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください］と警告が表示され、システムが自動的に停止します。

― 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき

上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れを取り除き、パワーユニットを再始動してください。

― 道路形状や周辺の建造物により、レーダーが先行車を正確に検知できないとき

（例：長い橋、雪原、長い壁の横など）

上記の状況から離れるとシステムは自動的に作動を再開します。

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。フロントカメラの取り扱いについては、（➔P.314）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してから再始動してください。

  上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

  警告灯（➔P.270）

●夜間、ライトを付けずに走行するなどで、カメラの視界が真っ暗な状態になった場合は、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点滅する場合があります。

前方衝突予測警報 [PFCW]

PFCW：Predictive Forward Collision Warning

前方を走行する2台前の車両を検知し、急な減速などにより、自車の回避操作が必要と判断した場合には、警報によって運転者に注意を促します。

システムに関する表示

⚠ 警告

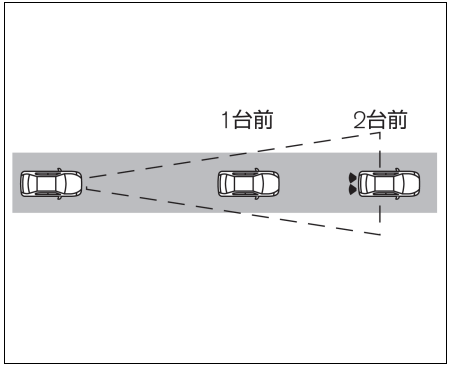
- **PFCWは前方を走行する２台前の車両の急な減速などを検知したとき運転者に警報を行いますが、衝突を回避する機能はありません。**
- **PFCWは脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。**

  前方の車両との車間距離、周囲の状態に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

メーター表示	項目
	接近警報表示

メーター表示	項目
	衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] ／踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] 警告灯

PFCW について



●PFCWは車速が約5km/h以上で作動します。

●車両前部に取り付けられたレーダーセンサーにより前方の2台前の車両との距離を計測します。

●自車の回避操作が必要と判断すると、マルチインフォメーションディスプレイの接近警報表示がオレンジ色に点滅するとともに警報音を鳴らして、運転者に注意を促します。

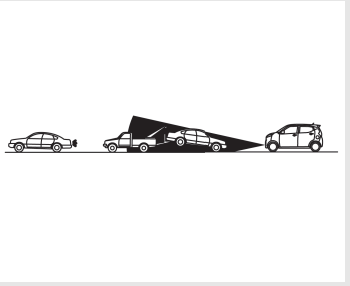
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

●FCMのON・OFFを切り替えると、PFCW、EAPMも連動してON・OFFされます。
➔衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）（P.177)
➔踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM](P.183)

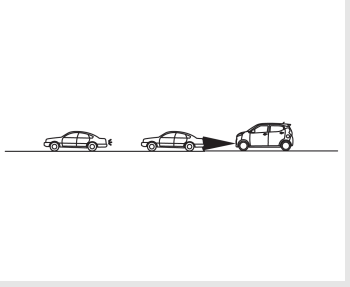
PFCW に関する注意事項

⚠ 警告

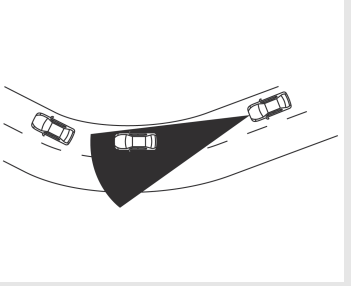
- **次のような障害物は検知しません。**
  - ― 歩行者、自転車、動物、道路上に落ちている障害物
  - ― 対向車両
  - ― 前方を横切って通過する車両
- **次のような場合は、前方の2台前の車両を検知できないことがあります。**
  - ― 悪天候（雨、雪、霧など）で視界が悪いとき
  - ― 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - ― 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - ― 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき
  - ― トンネル内を走行しているとき

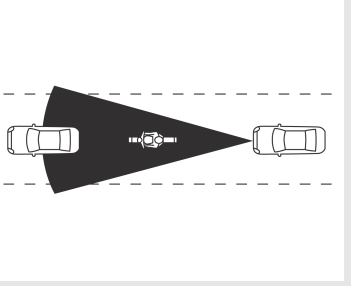


  - ― 前方の車両がけん引を行っているとき



  - ― 前方の車両との距離が極端に近いとき
  - ― 急なカーブや、勾配の変化があるところを走行しているとき





- **前方の車両がオートバイのような幅の狭い車両のときは、前方の車両を検知できず、PFCWは警報を行わないことがあります。**
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

PFCW の作動が停止するとき

●次の場合、メーター内の衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
— FCMの設定をOFFにしたとき
— FCMが異常により作動を停止したとき
— アクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしたとき
— 周辺の電波源の影響を受けているとき
停止したときの状態が改善されるとシステムは作動を再開します。

●次の場合、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯するとともにマルチインフォメーションディスプレイに［フロントレーダー及びその周辺が汚れています拭いてください］と警告が表示され、システムが停止します。
— 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着しているとき
上記警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、パワーユニットを再始動してください。

●システムに異常があると、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯するとともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告灯（P.270）
警告メッセージ（P.275）

アドバイス

- FCMをONにできない、または警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してから再始動してください。上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
警告灯（P.270）
- レーダーセンサーの周辺が汚れているときは安全な場所に停車し、レーダーセンサー周辺の汚れなどを取り除いてからパワーユニットを再始動してください。レーダーセンサーの取り扱いについては、（P.313）をお読みください。

踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]

EAPM：Emergency Assist for Pedal Misapplication

踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]は、進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者（前進時のみ）などがいる場所で、駐車操作時など低速のときにアクセルペダルとブレーキペダルを間違えて踏み込む、あるいはブレーキ操作が遅れたときに運転者に音と表示で警告します。

さらにモーター出力やブレーキを制御することで、過度な加速の防止や障害物への衝突防止を支援します。

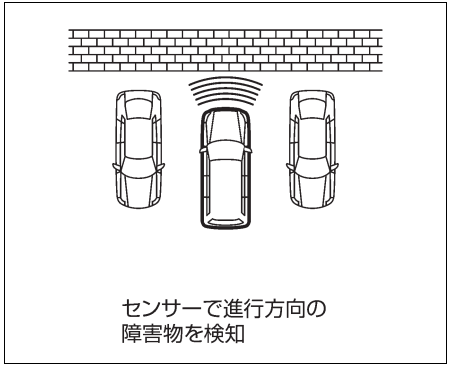
システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**
EAPMは、アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えることにより引き起こされる暴走や衝突事故の軽減を目的とした補助機能です。あらゆる状況で効果があるわけではありません。運転者は周囲の安全確認を行い、常に注意深い運転操作を心がけて走行してください。

メーター表示	項目
⚠警告 踏み間違い衝突防止アシストが作動しました	EAPM 作動時表示
OFF	衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM 警告灯

EAPM について



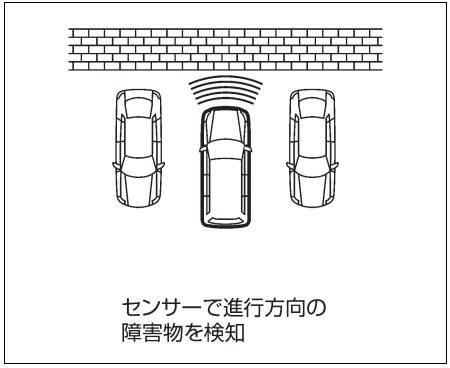
前進時

- フロントガラス上部のフロントカメラにより前方の車両や歩行者を検知します。
- フロントバンパーに取り付けられたセンサーにより、進行方向の障害物を検知します。

後退時

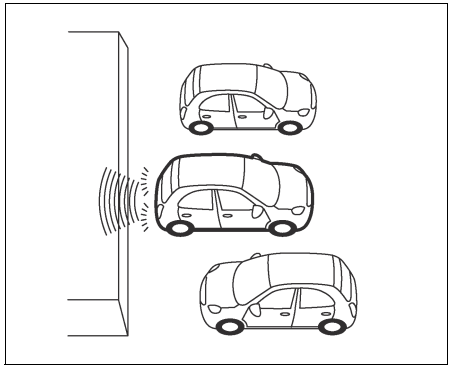
- リヤバンパーに取り付けられたセンサーにより、進行方向の障害物を検知します。

低速加速抑制機能



- 前進時（停車時含む）、進行方向に車両や歩行者、壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 後退時（停車時含む）、進行方向に壁などの障害物を検出している場合に、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、約6秒間加速を抑制したり、弱いブレーキをかけたりすることで車速が上がることを抑えます。
- 車両、歩行者に対しては、車速約0～25km/hの範囲で作動します。
- 壁などの障害物に対しては、車速約0～15km/hの範囲で作動します。
- 低速加速抑制機能が作動しているときは、警報音（ブザー）と警告灯の点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイの表示によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.270）
  警告メッセージ（➔P.274）

低速衝突軽減ブレーキ機能



- 前進、または後退時、進行方向の障害物を検知し、衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、モーター出力の制御、およびブレーキをかけて衝突を回避、または被害の軽減をします。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能は、車速約15km/h以下で作動します。
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動すると、警報音（ブザー）と警告灯の点滅によって運転者に警告します。
  警告灯（➔P.270）
- 低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは制動灯が点灯します。

●低速衝突軽減ブレーキ機能が作動しているときは、作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

低速衝突軽減ブレーキが作動するとき・しないとき

クルマ止めのない駐車場などで、壁などに衝突しそうになったとき

万一、運転者のブレーキ操作が遅れ、壁などに衝突するおそれがあるとシステムが判断すると、警報音（ブザー）と警告灯が点滅し、ブレーキをかけて衝突を回避または被害を軽減します。

●ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいたときは作動しません。

●システムは、ブレーキペダルを踏みながら車両を移動する（駐車場での操作）など低速における支援を目的にしています。
アクセルペダルを踏んで前進・後退する状況などでは作動が遅れ十分に機能しない場合があります。

縦列駐車をするとき

シフトポジションをDからR、またはRからDに切り替えたときは、セレクターレバーの操作を繰り返すたびに進行方向の障害物を検知してブレーキ制御が作動します。

●ブレーキ制御が作動したあと、シフトポジションを切り替えずにさらに同じ障害物に向かって前進、または後退をした場合、ブレーキ制御は作動しません。

●アクセルペダルを踏んでいるときは作動が遅れることがあります。

●シフトポジションがRのときは、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、シフトポジションがDのときは後方の障害物に対して作動しません。

●障害物に対し斜めに接近すると作動しないことがあります。

●幅の狭い障害物に対しては作動しないことがあります。

●他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

並列駐車をするとき

●狭いスペースに進入するときに作動することがあります。

●他の車両の角部に向かって接近したときは作動しません。

●他の車両が自車両に対して横にずれた位置にあるときは、作動しないまたは作動が遅れることがあります。

●後退中は、前方の障害物に対しては作動しません。同様に、前進中は後方の障害物に対しては作動しません。

●壁から突き出している柱や配管などに対しては作動しません。

EAPM の停止のしかた

●マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［衝突被害軽減ブレーキ］を選択すると、EAPMのON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)

●機能をOFFにすると、システムが停止します。
（衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM警告灯［ 🚗 ］が点灯）

●EAPMの設定は、FCM、前方衝突予測警報[PFCW]の設定と連動しています。

●パワーユニットを再始動するとONに切り替わります。

EAPM に関する注意事項

⚠ 警告

- **次の場合は、予期せずシステムが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあるため、EAPMをOFFにする。**
  - — けん引するとき
  - — トレーラーなどに積載するとき
  - — 点検などでシャシーダイナモを使用するとき
  - — 純正品以外のサスペンション部品を使用しているとき（車高や車両の傾きが変わると正しく障害物を検知できないことがあります）
- **センサーは次のような障害物は検知しません。**

⚠ 警告

— 背の低い障害物
— 幅の狭い障害物
— 針金、金網、ロープなどの細い障害物
— バンパーに非常に近い障害物
— 急に進行方向に現れた障害物

● **センサーは次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**

— 地面から高い位置に存在する障害物
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 周囲に超音波を発するものがあるとき
— スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物

● **センサーは次のような場合は検知しないことがあります。**

— 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 周囲に超音波を発するものがあるとき
— 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

● **センサーは次のような場合は検知することがあります。**

— 周囲に草が生い茂っているとき
— 車両側面の近くに壁があるとき
— 路面上に段差や突起物があるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき
— 車両感応センサーや他車のセンサーなど、超音波を発生するものが付近にいたとき
— 他車のホーン、オートバイの排気音や工事など、付近で大きな音がしたとき
— 背が高く上部が張り出しているものがあるとき

● **フロントカメラは次のような障害物は検知しません。**

— 子供などの背の低い人、動物、自転車
— 対向車両
— 道路構造物（ガードレール、ポールなど車両と歩行者以外の障害物）

● **フロントカメラは車両の後端を認識するため、以下の例のような車両を検知しないもしくは検知できない場合があります。**

— バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
— 幌がはみ出し、後端形状がはっきりしない車両
— 前方を横切って通過する車両
— 斜めもしくは前向きに止まっている車両

● **フロントカメラは次のような場合、前方の車両、歩行者が検知できないことがあります。**

— 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
— 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
— カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪などが付着しているとき
— カメラ前方のフロントガラスが曇っているとき
— 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
— 前方の強い光により前方車両のタイヤの部分が影になり見えにくいとき
— 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
— 夜間やトンネル内などで前方の車両のテールランプが点灯していないとき
— トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
— カーブを走行しているとき

⚠ 警告

- ― 勾配の変化があるところを走行しているとき
- ― 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
- ― 歩行者が大きな荷物を持っている、背景と同じ色の服を着ているなど人特有の輪郭が認識できないとき
- ― 前方車両からの太陽光などを強く反射されたとき
- ― 対象物の位置や動きが大きく変化した場合（自車の車線変更･右左折、前方車両の右左折･急ハンドル･急加速･急減速など）
- ― 始動してから約15秒間
- ― カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
- ― カメラの向きがずれているとき

- **フロントカメラは以下の例のような周辺状況では対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - ― 対象物が背景と似た色合いで区別ができない場合
  - ― 対象物が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいる場合
  - ― 対象物が路面の水たまりの付近にいる場合(周りの風景が水たまりに映りこむなど)
  - ― 対象物が建物や街路樹などの影と重なっているとき
  - ― 対象物と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- **以下の対象物にはフロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動しない場合があります。**
  - ― 夜間やトンネル内など暗い場所にいる歩行者
  - ― 車高の低い車両
  - ― 最低地上高（地面から車体までの高さ）が極端に低いもしくは極端に高い車両
  - ― 特殊な形状の車両（タンクローリー、サイドカーなど）
  - ― 前方の至近距離に割り込んだ車両
  - ― 前方の至近距離に飛び出してきた歩行者
  - ― 自車の正面から横にずれた位置に存在する車両や歩行者
  - ― 後端面積が小さい車両（空荷のトラックなど）
  - ― リヤタイヤから車両後端までが長い車両
  - ― 四輪車以外の車両（二輪車など）
  - ― 荷台から荷物や幌がはみ出している車両
- **フロントカメラは以下の例のような場合、衝突するおそれがある対象を正しく検出できない場合があります。**
  - ― 複数の対象物同士が近接している場合
  - ― 対象となる二輪車または車高の低い車両の前方近くに車両がいる場合
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **ブレーキ制御は短時間しか作動しません。必ず運転者がブレーキペダルを踏んでください。**
- **車両を停止させる場合は、必ず運転者がブレーキペダルを踏む。**

  低速加速抑制機能が作動したあとに低速衝突軽減ブレーキ機能が作動したときは、車両が停止してから約2秒後にブレーキが解除され、車両が動き出します。
- **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

⚠ 注意

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- **システムの作動を待たず、すみやかにブレーキ操作を行う。**

⚠ 注意

車両の状態、走行状況、交通環境、天候、路面状況などにより作動しない場合や、本来の性能を発揮できないことがあります。

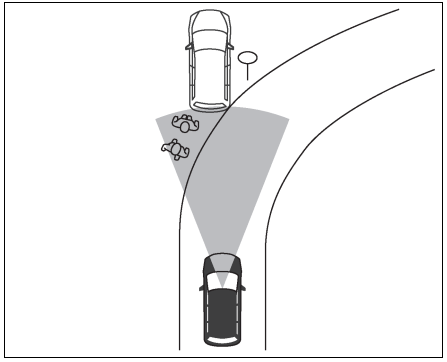
- **アクセルペダルを踏んだ状態で障害物に接近したときは、作動が遅れることがあります。**

アドバイス

- 次の場合は、システムが正常に作動しなかったり、機能を十分に発揮できないことがあります。
  - 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
  - 勾配が急な坂道を走行しているとき
  - 段差などをまたいでいるときなど車両姿勢が変化しているとき
  - 滑りやすい路面を走行しているとき
  - ハンドルを大きく切って旋回しているとき
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 長期間駐車などで、ブレーキの性能が十分に発揮できないとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているときや、タイヤチェーンを装着しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席やラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
- 動いている物体に対してはEAPMは作動しません。（前方の車両、歩行者を除く）

低速加速抑制機能について

- センサーで検出した壁や車両などの大きな障害物に対して作動します。車両の幅以下の障害物は検知しません。
- フロントカメラで検出した衝突のおそれのある前方の車両や歩行者に対して作動します。
- 低速加速抑制機能は、運転者がアクセルペダルを戻すと解除されます。
- アクセルペダルを踏み続けた場合は、作動を開始してから約6秒後に解除されます。
- 渋滞中などで前方にいる車両を追い越すときなどに低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 信号待ちや右折待ちなどで、車間距離の短い状態から前の車に続いて発進する際、アクセルペダルを素早く深く踏み込むと低速加速抑制機能が一時的に作動することがあります。
- 次の場合は作動しません。
  - 車速が約15km/h以上のとき（前方の車両、歩行者に対しては約25km/h以上）
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
  - シフトポジションが D、B、R 以外のとき
  - トラクションコントロール機能（TCS）が作動しているとき
  - タイヤが空転しているとき
- 路面または壁面の模様·ペイント（かすれた道路標示や漢字で構成される特殊な道路標示を含む）、前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両や歩行者の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ·位置などと似通っている場合、フロントカメラが対象物の形状を正しく検出できずシステムが作動する場合があります。
- 自転車で走行している人を歩行者と検知し、システムが作動する場合があります。
- 以下のような物に反応し、システムが作動する場合があります。
  - 道路脇にある物（道路標識、ガードレール、歩行者、車両など）



― 道路上方にある物（低い橋、道路標識など）
― 路面上にある物（線路、格子、鉄板など）
― 駐車場内にある物（梁など）

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。

低速衝突軽減ブレーキ機能について

- ブレーキ制御が作動したあと、再び同じ障害物に近づいても作動しません。
- 次の場合は作動しません。
  ― シフトポジションが D、B、R 以外のとき
- 前進時は車両後方の障害物に対しては作動しません。同様に、後退時は車両前方の障害物に対しては作動しません。

EAPM の作動が停止するとき

- 次の場合、メーター内の衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]／EAPM警告灯［ ］が点灯し、作動が停止します。
  ― FCMの設定をOFFにしたとき
  ― アクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしたとき
- FCMが一時的に作動できなくなったときは、FCM／EAPM警告灯［ ］が点滅し、EAPMも一時的に作動しなくなります。
  詳しくは、FCMの作動が停止するとき(P.180)をお読みください。
- システムに異常があると、メーター内のFCM／EAPM警告灯［ ］が点灯するとともに、マルチインフォメーションディスプレイ内の警告が表示され、システムが停止します。
  警告灯（P.270）
  警告メッセージ（P.275）

アドバイス

- システムを正しく作動させるためにセンサーはいつもきれいにしておいてください。センサーの取り扱いについては、（P.315）をお読みください。
- 警告灯が点灯したときは、安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してから再始動してください。

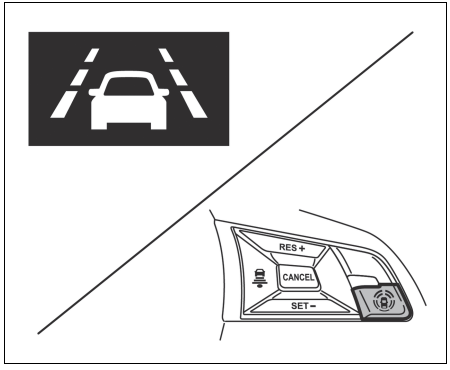
上記の操作をしても、警告灯が点灯し続けるときはシステムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
警告灯（P.270）

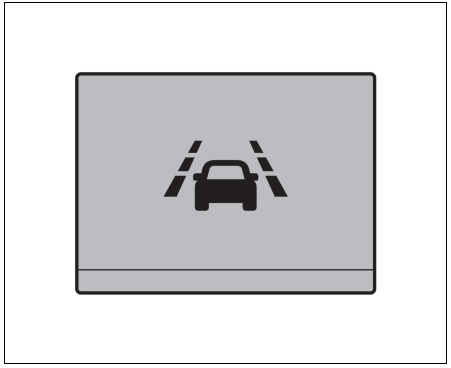
車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP]

LDW：Lane Departure Warning、LDP：Lane Departure Prevention

車線逸脱警報システム[LDW]は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。車線逸脱防止支援機能[LDP]は、運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、運転者が車線内に戻す操作を支援します。

システムに関連する表示とスイッチ





⚠ 警告

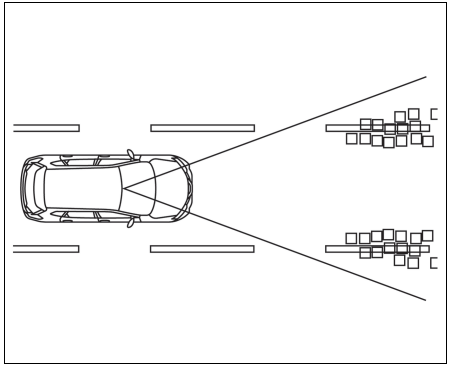
- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

  LDW／LDPは、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良による危険を回避するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転を心がけてください。

- **カメラには限界があるため、機能を過信しない。**

  道路の状態、天候、交通状況などによりシステムが正常に作動しないことがあります。

LDW について



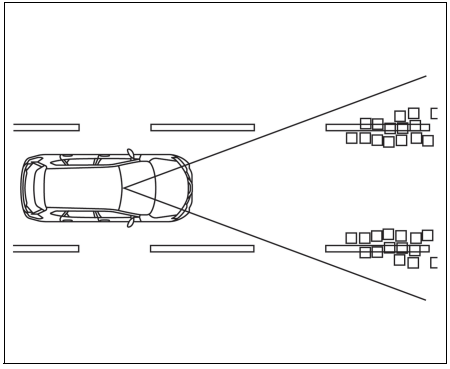
- フロントガラス上部のフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのLDW表示がオレンジ色に点滅します。

  レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。
- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報を行いません。（方向指示器を解除したあと、約2秒間は警報を行いません。）
- マルチインフォメーションディスプレイを「走行支援」に切り替えると、LDWの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。

詳しくは、走行支援をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
走行支援 （➔P.83）

LDP について



- フロントガラス上部のフロントカメラにより走行車線のレーンマーカーを検知します。
- 車速約60km/h以上で作動します。
- 走行車線の右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイのLDP表示がオレンジ色に点滅します。
  同時にブレーキを短時間制御し、車両を車線内に戻す方向に制御力を短時間発生

させて車両を車線内に戻す操作を促します。
レーンマーカーとは、走行車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

- 車両の移動する方向に方向指示器を作動させている場合は警報もブレーキ制御も行いません。
（方向指示器を解除したあと、約2秒間は作動しません。）
- マルチインフォメーションディスプレイを「走行支援」に切り替えると、LDPの作動状態をマルチインフォメーションディスプレイ内で確認することができます。
詳しくは走行支援をお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
走行支援 （➔P.83）

ON・OFF のしかた

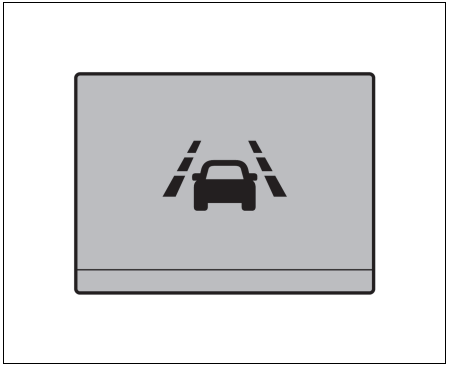
LDW

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［車線逸脱］⇒［車線逸脱警報］を選択すると、LDW機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)
- LDWの設定は、パワーユニットを再始動しても維持されます。

LDP（マイパイロット付車）

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［車線逸脱］⇒［LDP（車線逸脱防止支援）］をONにしているとき、＜マイパイロットスイッチ＞を押すとシステムがONになります。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)
- パワーユニットを停止するとLDPはOFFになります。

LDP（マイパイロット無車）



- ＜走行支援スイッチ＞を押すごとにON・OFFを切り替えることができます。
- パワーユニットを停止するとLDPはOFFになります。

LDW ／ LDP に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため、LDPを使用しないでください。**
  - 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
  - 急なカーブ、急な上り坂･下り坂が繰り返されるとき
  - 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
  - 車線の幅が狭い道路を走行するとき
  - 摩耗しているタイヤ、空気圧不足のタイヤ、タイヤチェーンを装着しているときや、三菱自動車純正品もしくは三菱自動車販売会社で購入したタイヤ以外を使用しているとき
  - 純正品以外のブレーキ部品、サスペンション部品を使用しているとき
- **次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。**

⚠ 警告

— 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり・汚れ・雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき

— 急なカーブのある道路を走行するとき

— 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき

— 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります。）

— 車線の分岐・合流のある道路を走行したとき

— 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき

— 先行車との車間距離が短く、カメラの検出範囲が遮られるとき

— 雨、雪、汚れなどがフロントガラスに付着しているとき

— 汚れなどでヘッドライトの明るさが不十分なときやヘッドライトの光軸調整が適切に行われていないとき

— 前方から強い光（太陽光など）を受けているとき

— 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）

アドバイス

● 外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

作動が停止するとき

LDW

●炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったときは、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されるとともに、LDW表示が点滅または消灯し、一時的に作動が停止します。（室内の温度が下がると、作動を復帰します。）

●システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、システムが停止します。
警告メッセージ（➔P.275）

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。フロントカメラの取り扱いについては、（➔P.314）をお読みください。

● マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してから再始動してくだ さい。

パワーユニット再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

LDP

●次の場合は、“ポー”というブザー音とともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。
警告メッセージ：［作動範囲外のため現在使用できません］

— アクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしたとき
警告メッセージ：［システムを解除しました 滑りやすい路面です］

— ASC/TCSが作動したとき

— タイヤの空転を検出したとき
システムを再び作動させる場合は、解除されたときの状態が改善されてから一度＜マイパイロットスイッチ＞または＜走行支援スイッチ＞をOFFにし、再度LDPをONにしてください。

●炎天下に駐車したときなど、フロントカメラが高温になったときは、“ポー”というブザー音とともにマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、作動を解除します。 システムを再び

作動させる場合は、室内の温度が下がってから再びシステムをONにしてください。

- システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されるとともに、LDP表示がオレンジ色に点灯し、作動が停止します。
  警告メッセージ（➔P.275）

アドバイス

- マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、安全な場所に停止し一度パワーユニットを停止してから再始動してください。パワーユニット再始動後も警告が表示され続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ふらつき警報 [DAA]

DAA : Driver Attention Alert

ふらつき警報[DAA]は、ハンドル操作から運転者の注意力が低下していると判断したときに、マルチインフォメーションディスプレイの表示と音により運転者に休憩を促します。

システムに関連する表示

⚠ 警告

- **機能には限界があるため、過信せず安全運転を心がける。**

このシステムは疲労時の運転を補助するものではありません。疲労時の運転は重大な事故にいたる危険があるため、運転前に十分に休憩をとり、安全運転を心がけてください。

DAA について

- 車速約60km/h以上で走行中、運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに、警報音（ブザー）とともにマルチインフォメーションディスプレイに［休憩しませんか？］と警告メッセージを表示します。
  警告メッセージ（➔P.276）

DAA の停止のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［ふらつき警報］を選択すると、DAA機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ➔運転支援システム (P.86)
- 設定は、パワーユニットを再始動しても維持されます。
- マイパイロット★作動中は、DAAのシステムはOFFになります。
  ➔マイパイロット★ (P.164)

DAA の作動が停止するとき

- システムに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、作動が停止します。
  警告メッセージ（➔P.275）

アドバイス

- 安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してから再始動してください。
- 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。

  通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

標識認識システム [TSR]

TSR : Traffic Sign Recognition

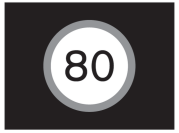
フロントガラス上部にあるフロントカメラにより標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

システムに関連する表示

進入禁止標識認識表示

一時停止標識認識表示

最高速度標識認識表示



⚠ 警告

- **走行中は運転者の責任で実際の標識を確認する。**

  TSRは、運転者の安全運転をサポートする機能です。

  TSRには限界があり、状況によっては標識を認識できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。

TSR について

- TSRには次の機能があります。

進入禁止標識認識

- 前方の車両進入禁止標識を認識し、一方通行路へ進入する可能性がある場合にはマルチインフォメーションディスプレイに警告表示します。
- 万一、車両進入禁止標識を通過した場合には警告音が鳴ります。

一時停止標識認識

- 前方の一時停止標識を認識した場合には、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

知識

- 次のような道路標識は認識しません。
  - 電光式の最高速度標識
  - 補助標識（時間帯、区間の終わりなど）

最高速度標識認識

- 前方の最高速度標識を認識した場合には、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
  ➔最高速度標識認識表示 (P.73)
- 次の場合は、最高速度標識の表示が切り替わります。
  - 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 次の場合は、最高速度標識の表示を終了し［---］が表示されます。
  - 最高速度標識を認識し、車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき
  - 右左折などで走行している路線が変わったとシステムが判断したとき
- 最高速度標識を認識できない場合は［---］が表示されます。

進入禁止標識／一時停止標識認識の停止のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［進入禁止標識］を選択すると、進入禁止標識／一時停止標識認識機能のON・OFFを切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ➔運転支援システム (P.86)
- いずれの設定も、パワーユニットを再始動しても維持されます。

最高速度標識認識の停止のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［道路標識表示］を選択すると、最高速

度標識認識機能のON・OFFを切り替えることができます。
設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
➔運転支援システム (P.86)

●最高速度標識認識の設定は、パワーユニットを再始動しても維持されます。

TSR に関する注意事項

⚠ 警告

- **次のような場合は、標識の認識が遅れたり、認識できなかったりすることがあります。**
  - ― 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯していない、あるいはヘッドライトのレンズが極端に汚れているとき
  - ― カメラ前方のフロントガラスに汚れ、油膜、水滴、氷、雪、虫汚れなどが付着しカメラの視界がさえぎられているとき
  - ― カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - ― 前方から強い光（太陽光や対向車両のハイビームなど）を受けているとき
  - ― 前方車両から反射した強い光（太陽光など）を受けているとき
  - ― トンネルの出入り口や日陰など、急に明るさの変化が起こったとき
  - ― 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき
  - ― 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - ― 勾配の変化があるところを走行しているとき
  - ― 未舗装路など凹凸のある路面を走行しているとき
  - ― 隣車線の車両で視界が遮られているとき
  - ― 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
  - ― 標識の周辺が煩雑で標識を認識しにくいとき
  - ― 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
  - ― 夜間で標識に自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にあるとき
  - ― 標識が色あせたり、折れ曲がったりしているとき
  - ― 標識が破損しているなど形状が変わってしまっているとき
  - ― 標識が泥、雪、または霜などで覆われているとき
  - ― 標識の一部が樹木や汚れなどによって隠れて不明瞭なとき
  - ― 標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき
  - ― 標識が大きすぎたり、小さすぎたりするとき
  - ― 標識が低すぎたり、高すぎたりするとき
  - ― 標識が明るすぎたり、暗すぎたりしたとき
  - ― カメラの向きがずれているとき
  - ― 始動してから約15秒間は標識を認識しません
- **次のような場合は、標識の認識が適正に行えず、実際の規制内容とは異なるものを表示したり、 実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の最高速度よりも高い数字や、低い数字を表示したりすることがあります）**
  - ― 数字が認識しにくい標識（数字が消えかかっているなど）
  - ― 認識対象となる標識の色、形に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

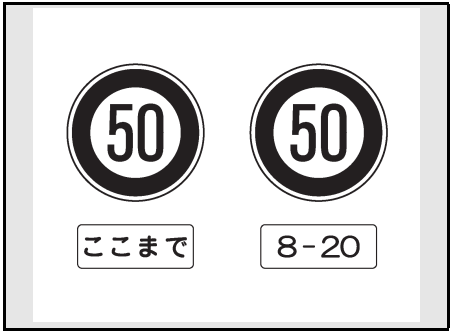
― 自車の路線に対しての標識ではないが、自車の路線付近にあり、その標識が自車の路線に向いている場合（本線から分岐する側道の一時停止標識や最高速度標識など）

⚠ 注意

- **TSRは、運転者の安全運転をサポートする機能です。**

  TSRには限界があり、状況によっては標識を認識できなかったり、実際とは異なる表示をしたりする場合があります。

  運転の際は、必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。
- **標識の近傍にある補助標識は認識しないため、実際の規制内容と異なる表示をする場合があります。必ず運転者の責任で実際の標識を確認してください。**



アドバイス

- システムを正しく作動させるためにカメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。フロントカメラの取り扱いについては、（P.314）をお読みください。

●外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。

先行車発進通知 [LCDN]

LCDN : Leading Car Departure Notification

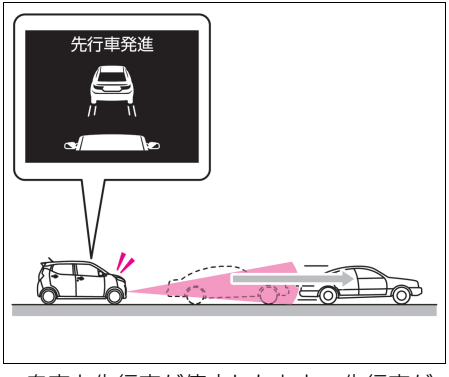
先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、音と表示でお知らせする機能です。

システムに関連する表示

⚠ 注意

- **先行車との車間距離や周囲の状況を目視で直接確認し、常に安全運転を心がけてください。**

LCDN について



- 自車と先行車が停止したあと、先行車が発進しても自車が停止し続けた場合に、ブザー音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。
- 次のいずれかの条件を満たしているときに作動します。
  - シフトポジションがP、R以外でブレーキペダルを踏んで停止している
  - シフトポジションがNで停止している
  - シフトポジションがP、R以外でブレーキオートホールド機能が作動している
  - レーダークルーズコントロール[ACC]★で停止状態を保持している

LCDN の設定のしかた

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［先行車発進お知らせ］を選択すると、LCDNの設定（［OFF］／［標準］／［早め］）を切り替えることができます。
  設定の詳細については、運転支援システムをお読みください。
  ➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)
  ➔運転支援システム (P.86)

LCDN に関する注意事項

- 次の場合は作動しません。
  - 衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]のシステム異常等により、FCM／踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]警告灯が点灯もしくは点滅しているとき（FCMやアクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしているときを除く）
  - 先行車との車間距離が長いとき
- システムを正しく作動させるために車両前部に取り付けられたレーダーセンサーとその周辺、およびフロントカメラ前方のフロントガラスのお手入れを行ってください。
  ➔レーダーセンサーの取り扱い (P.313)
  ➔フロントカメラの取り扱い (P.314)
- 次のような場合は、作動が遅れたり、作動しないことがあります。
  - 自車と先行車との間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んだり横切ったとき
  - 先行車がオートバイのような幅の狭い車両のとき
  - 先行車との車間距離が極端に短いとき
  - 先行車が自車に対して左右にずれているとき
  - 先行車が右左折、車線変更、急旋回をしたとき
  - 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
  - 急勾配の坂道、急カーブで停止しているとき
  - 未舗装路など凹凸のある路面で停止しているとき
  - 車両が傾いているとき（後席シートやラゲッジルームに極端に重い荷物を積んでいるとき）
  - ハンドルが大きく切れているとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）のとき
  - 前方の車両や対向車などにより水、雪、砂などの巻き上げが発生しているとき
  - 雪や氷、泥などがレーダーセンサー周辺に付着しているとき
  - カメラの視界がさえぎられているとき（フロントガラスの汚れ、油膜、虫汚れ、ワイパーブレード）
  - カメラ前方のフロントガラスがくもっているとき
  - マルチインフォメーションディスプレイにセンサー表示されているとき
- 道路状況や交通状況などにより不必要な作動をすることがあります。周囲の状況を目視で直接確認してください。

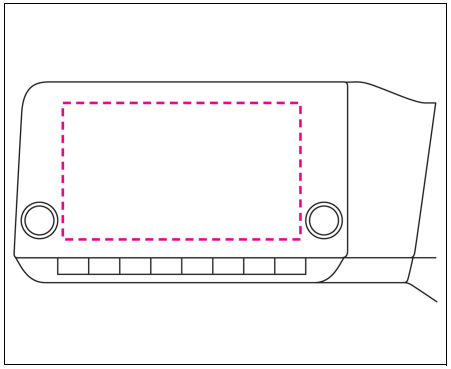
☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

リヤビューモニター★

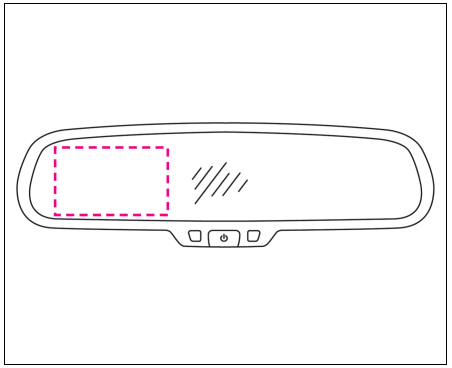
リヤビューモニターについて

●リヤビューモニターは自動防眩ルームミラー★、またはスマートフォン連携ナビゲーション★のモニターに表示されます。（車種により表示される位置が異なります。）

<スマートフォン連携ナビゲーション装着車>



<スマートフォン連携ナビゲーション非装着車>



●＜パワースイッチ＞がONのとき、シフトポジションを Rに入れると作動します。車の後方の状況を確認しながら後退させることができます。

●シフトポジションをRから他の位置にすると、リヤビューモニターがOFFになります。

●スマートフォン連携ナビゲーション装着車はリヤビューモニターを表示中に＜カメラスイッチ＞を押すと、予想進路線機能のON･OFFを切り替えることができます。

●ナビゲーションシステムで＜カメラスイッチ＞⇒［予想進路線表示］を選択すると、予想進路線表示のON･OFFを切り替えることができます。

⚠ 警告

● **リヤビューモニターの機能を過信しない。**

リヤビューモニターは、後退操作を補助するシステムです。後退するときは、直接目で後方および周囲の安全を確認しながら運転してください。

● **実際の距離感を間違えないように注意する。**

リヤビューモニターの映像はレンズの特性により、画面に映る人や障害物の感覚が実際の位置や距離と異なります。

各表示線について

①**距離目安ライン**

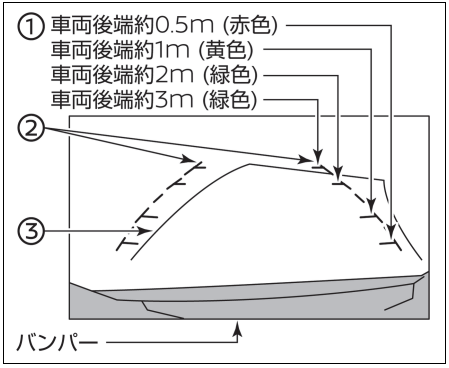
●車両後方の距離の目安を示します。

②**車幅目安ライン**

●後退したときの車幅の目安を示します。

③**予想進路線★**

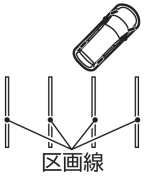
●スマートフォン連携ナビゲーション装着車は運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。



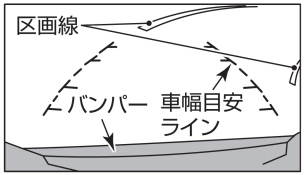
リヤビューの見かた

知識

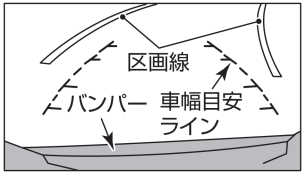
- 画面では車幅目安ラインと駐車スペースの区画線が平行に見えても、実際には平行ではない場合があります。
- 前記と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドルの操作も左右逆になります。



1. 画面に表示される目安ラインを利用して駐車する例を説明します。
シフトポジションを Rにして、駐車スペースに入るようにゆっくりと後退します。



2. 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅目安ラインと駐車スペースの左右の区画線が平行になるようにハンドルを操作します。

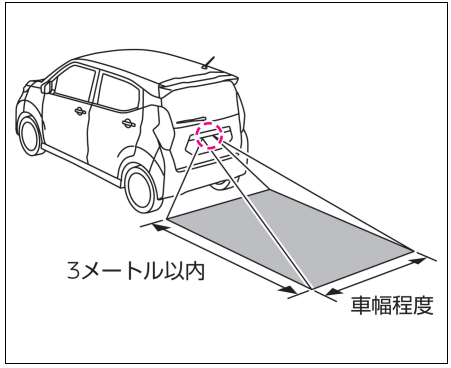


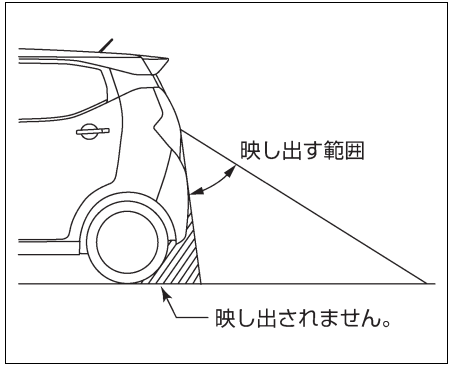
3. 車幅目安ラインと駐車スペースの区画線が平行になったらハンドルをまっすぐ（直進状態）にして、ゆっくりと後退します。

リヤビューモニター★の注意事項

映し出す範囲

●バンパー後端から車の後方を映します。





⚠ 注意

- **リヤビューモニターだけを見ながら後退しない。**

⚠ 注意

絶対に画面の映像だけを見ながら後退しないでください。映像と実際の状況は異なることがあるため、車をぶつけたり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。後退するときは、後方や周囲の安全を目視やミラーなどで直接確認してください。

アドバイス

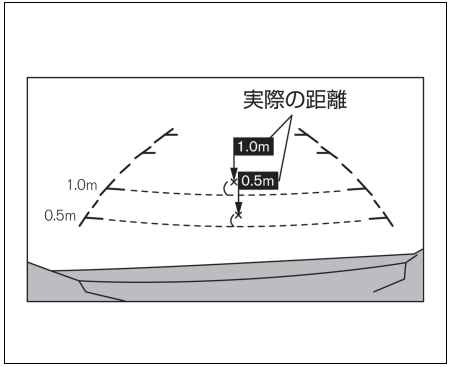
- 車や路面の状況により、映る範囲が異なることがあります。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた鏡像です。
- 画面に表示される距離目安ライン、車幅目安ラインはあくまでも目安です。また、車両の乗車人数、車両姿勢などによって距離目安ライン、車幅目安ラインの位置がずれます。実際のまわりの状況を直接目で確認してご使用ください。

映像と実際の路面との誤差

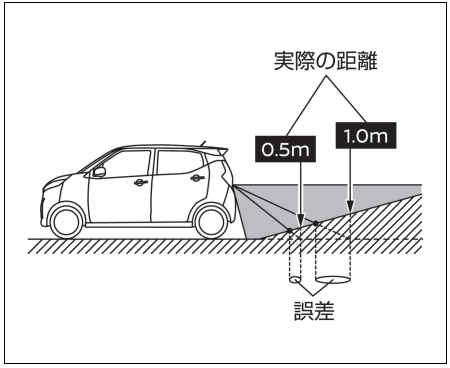
●次のような場合には、画面の映像と実際の路面状況（距離や進路など）に誤差が生じます。

急な上り坂が後方にあるとき

●後方に上り坂がある場合、距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。



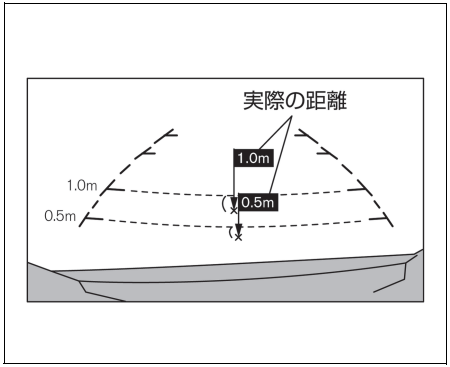
●上り坂に障害物がある場合には障害物が実際よりも遠くにあるように見えます。

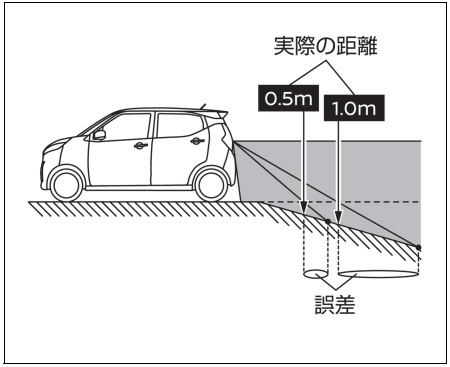


急な下り坂が後方にあるとき

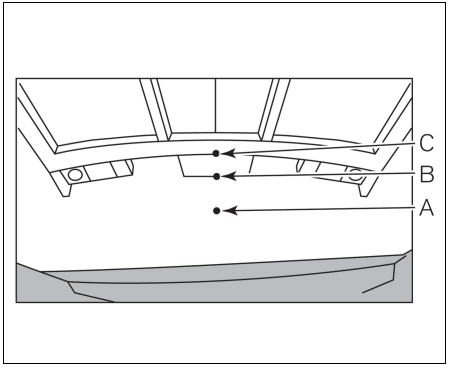
●後方に下り坂がある場合、距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。

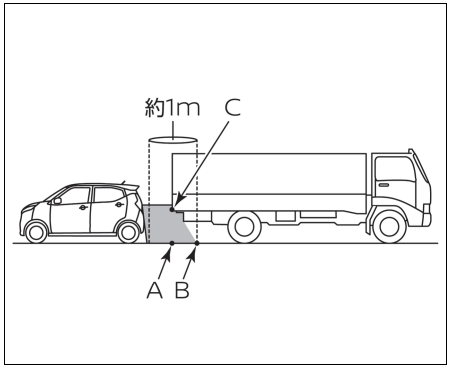
●下り坂に障害物がある場合には、障害物が実際よりも近くにあるように感じます。





立体物が近くにあるとき



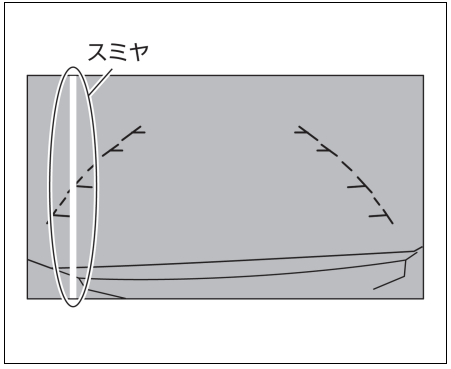


- 距離目安ライン、車幅目安ラインは平面物（道路など）を対象にしています。そのため、張り出し部分のある立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。
- 例 ：Cの位置はBの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はAの位置と同じ距離です。Aの距離まで下がるとぶつかることがあります。

故障かなと考える前に

故障かな？	確認すること	対処方法
映像の映りが悪い	カメラレンズが汚れていませんか？	カメラレンズを清掃してください。 ➔リヤビューカメラの取り扱い (P.315)
	カメラレンズに雨、雪などの水滴が付着していませんか？	
	太陽光や他車のヘッドライトの光が直接カメラレンズ面に当たっているためで故障ではありません。当たっている光がなくなれば元に戻ります。	
	温度の急な変化によってカメラレンズ部が結露したためで故障ではありません。しばらく走行すると元に戻ります。	
	暗いところや夜間時には映りが悪くなることがありますが故障ではありません。	
映像にちらつきが出る	蛍光灯などの照明の下にいるためで故障ではありません。	
実際の色味と異なる	カメラの特性のためで故障ではありません。	
映像が映らない	シフトポジションがRになっていますか？	シフトポジションをRにしてください。
映像が正しい方向を向いていない	テールゲートが開いていませんか？	テールゲートを閉めてください。
映像が見づらい	カメラに強い光や反射光が入ったためで故障ではありません。	
映像にスミヤ（※）が入る	バンパーなどから強い反射光が入ったためで故障ではありません。	

※スミヤ ： 方向指示器の強い光が上下方向に光の帯のように出たもの。



カメラ映像が正常に表示されない場合

シフトポジションをRに入れ、リヤビューモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラが作動しない場合

- リヤビューモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、ミラー表示し続けているとき

カメラの故障により映像に異常がある場合

- リヤビューモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）★

マルチアラウンドモニターは、自車位置を映し出すことにより、駐車スペースへの駐車時や縦列駐車時に運転者を補助します。

マルチアラウンドモニターについて

⚠ 警告

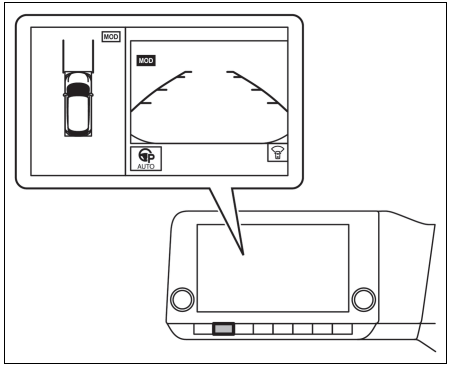
- **マルチアラウンドモニターの機能を過信しない。**

  マルチアラウンドモニターは障害物などの確認を補助するシステムです。車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。特に車両の四隅は、トップビュー、フロントビュー、リヤビューに障害物が映らない死角になります。必ず窓から目視し、安全を確認してから車両を操作してください。常に低速で車両を移動させてください。

- **実際の距離感を間違えないように注意する。**

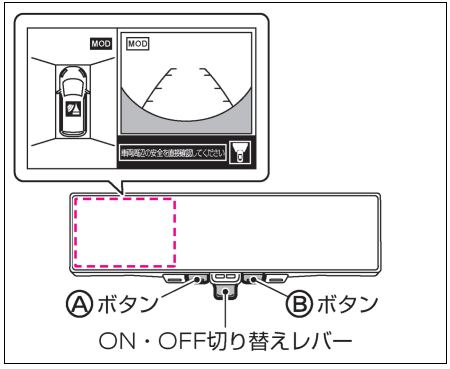
  マルチアラウンドモニターに映し出される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

スマートフォン連携ナビゲーション装着車



●＜パワースイッチ＞がONのときに、スマートフォン連携ナビゲーションの＜カメラ＞を押すか、シフトポジションをRにするとスマートフォン連携ナビゲーションに表示します。

スマートフォン連携ナビゲーション非装着車



●＜パワースイッチ＞がONのときに、デジタルルームミラーのON･OFF切り替えレバーを手前に引き、Ⓐボタンを押すか、シフトポジションをRにするとデジタルルームミラーに表示します。

マルチアラウンドモニターの使いかた

⚠ 警告

- **ドアミラーを格納した状態で使用しない。**

  適切な範囲を映すことができません。また使用するときは、テールゲートが確実に閉まっているか確認してください。

■ スマートフォン連携ナビゲーション装着車

●シフトポジションをRにするとマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。シフトポジションRをから他の位置にすると、マルチアラウンドモニターがOFFになります。

●シフトポジションがDまたはBのときに、センサーが障害物を検知したときはマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、マルチアラウンドモニターはOFFになります。

●スマートフォン連携ナビゲーションの＜カメラ＞を押すとマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。

●マルチアラウンドモニター表示中に、＜カメラ＞を押すと、次のとおりに画面を切り替えることができます

― シフトポジションがRのとき
トップビュー（ 左側画面） / リヤビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）→リヤワイドビュー（全画面）（マイパイロットパーキング付車）/リヤビュー（全画面）（マイパイロットパーキング無車）

― シフトポジションがR以外のとき
トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面） →サイドブラインドビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→フロントワイドビュー（全画面）（マイパイロットパーキング付車）→マルチアラウンドモニターOFF

●右側画面にフロントビューが表示されているときにシフトポジションをRにすると、リヤビューに切り替わります。シフトポジションをRから他の位置にすると、再度、フロントビューに切り替わります。

3分タイマー機能

●スマートフォン連携ナビゲーションの＜カメラ＞を押してから約3分後にマルチアラウンドモニター表示が消える機能です。シフトポジションがR以外のときに作動します。（ただし、タイマー作動中に＜カメラ＞を押したり、センサーまたは移動物検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。）

■ スマートフォン連携ナビゲーション非装着車

●切り替えレバーがOFFのときでも、シフトポジションをRにするとマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／リヤビュー（右側画面）を表示します。シフトポジションをRから他の位置にすると、マルチアラウンドモニターがOFFになります。

●シフトポジションがDまたはBのときに、センサーが障害物を検知したときはマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。障害物の検知がなくなると、マルチアラウンドモニターはOFFになります。

● Ⓐボタンを押すとマルチアラウンドモニターがONになり、トップビュー（左側画面）／フロントビュー（右側画面）を表示します。

●マルチアラウンドモニター表示中に、Ⓑボタンを押すと、次のとおりに画面を切り替えることができます。

― シフトポジションがRのとき
トップビュー（ 左側画面） / リヤビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）/リヤビュー（右側画面）→リヤビュー（全画面）

― シフトポジションがR以外のとき
トップビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→サイドブラインドビュー（左側画面）/フロントビュー（右側画面）→マルチアラウンドモニターOFF

●三菱自動車純正品のオリジナルナビゲーションの一部の機種では、ナビゲーションモニターへ表示を切り替えることができます。

●オリジナルナビゲーションのオプションスイッチを押すとナビモニターに表示されます。デジタルルームミラーのⒶボタンを押すとデジタルルームミラーに表示されます。

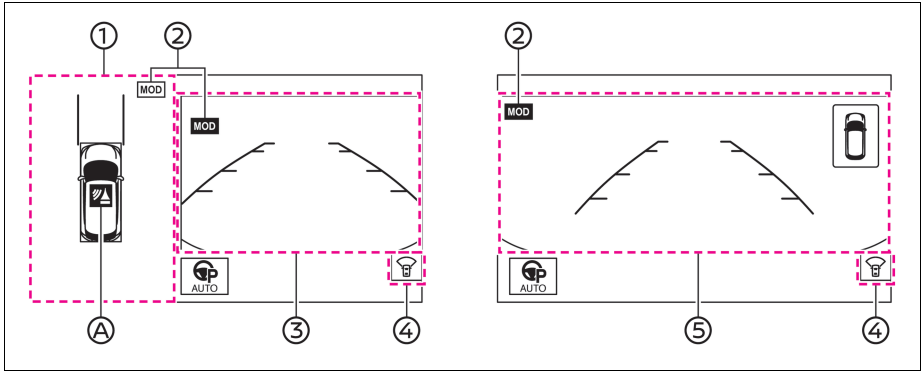
●取り扱いについては、オリジナルナビゲーション用取扱説明書（別冊）も合わせてお読みください

3分タイマー機能

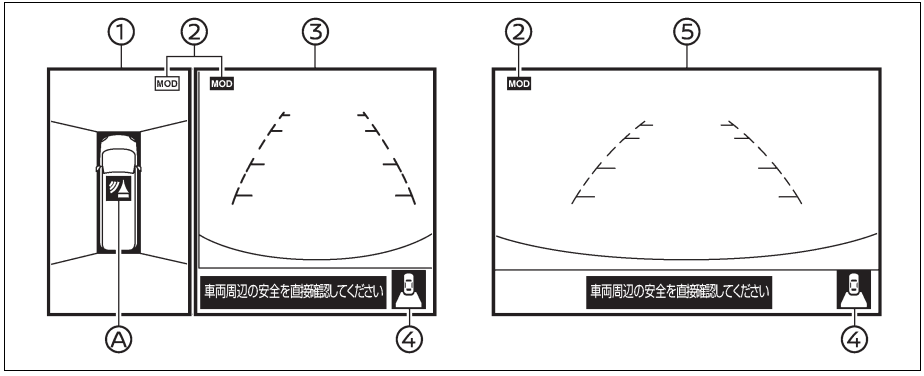
- Ⓐボタンを押してから約3分後にマルチアラウンドモニター表示が消える機能です。シフトポジションがR以外のときに作動します。ただし、タイマー作動中にⒷボタンを押したり、パーキングセンサーまたは移動物検知機能が作動したりするとタイマーがリセットされます。
- デジタルルームミラーのON･OFF切り替えレバーを車両前方側へ倒すと、マルチアラウンドモニターがOFFになります。

画面の見かた

マイパイロットパーキング付車



マイパイロットパーキング無車



①左側画面

●トップビューまたはサイドブラインドビューを表示します。

●<パワースイッチ>をONにしてから初めてマルチアラウンドモニターを表示したときに、アイコンⒶの色と点滅（約3秒間）で、パーキングセンサーの作動状況を表します。

— 赤色に点滅：パーキングセンサーON

— 灰色に点滅：パーキングセンサーOFF（パーキングセンサーをOFFにした直後も点滅します）

②移動物検知機能作動状態アイコン

●どちらのビューで移動物検知機能が作動するかを表します。

— MOD ：移動物検知機能が作動します

— MOD ：移動物検知機能が作動しません

●表示しているビューで映している範囲でのみ移動物検知機能が作動します。例えば、リヤビューで移動物検知機能を作動させている場合には、車両前方の移動物は検知しません。

③右側画面

●シフトポジションがRのときはリヤビューを、R以外のときはフロントビューを表示します。

④方向指示アイコン

●画面の映している方向を表します。

<u>マイパイロットパーキング付車</u>

— ：リヤビュー表示

— ：フロントビュー表示

— ：ワイドリヤビュー表示

— ：ワイドフロントビュー表示

<u>マイパイロットパーキング無車</u>

— ：リヤビュー表示

— ：フロントビュー表示

⑤マイパイロットパーキング付車：全画面表示ワイドビュー画面

●リヤワイドビューまたはフロントワイドビューを表示します。

⑤マイパイロットパーキング無車：全画面表示リヤビュー画面

●シフトポジションがRのときに全画面表示リヤビューを表示します。

画面表示に関する注意事項

⚠ 警告

- **リヤビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **ドアミラー、車両前方、車両後方に装着されているカメラからの映像を組み合わせて処理した疑似的な映像のため、トップビューは、障害物を実際より遠く映します。**
- **囲いや車両といった高さのある障害物は、映像の継ぎ目で位置がずれたり、表示されなかったりすることがあります。**
- **カメラの高さよりも上にある障害物は表示されません。**

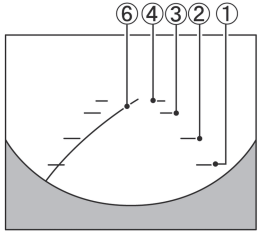
- **トップビューの映像は、カメラの位置が変化するとずれることがあります。**
- **路上の線は映像の継ぎ目でずれたり、曲がって見えたりすることがあります。ずれは、車両から遠ざかるにつれて大きくなります。**

画面表示の種類について

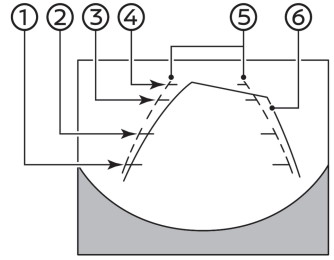
■ フロントビュー／リヤビュー

●車両の前方／後方の映像をマルチアラウンドモニター右側画面に表示します。

<フロントビュー>



<リヤビュー>



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②黄色：約1m

— ③緑色：約2m

— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を表示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を表示します。予想進路線は、ハンドルを切ったときに表示されます。予想進路線はハンドルを切った角度に応じて移動し、ハンドルを中立位置にすると表示されなくなります。

●フロントビューは、車速が約10km/hを超えると表示されなくなります。

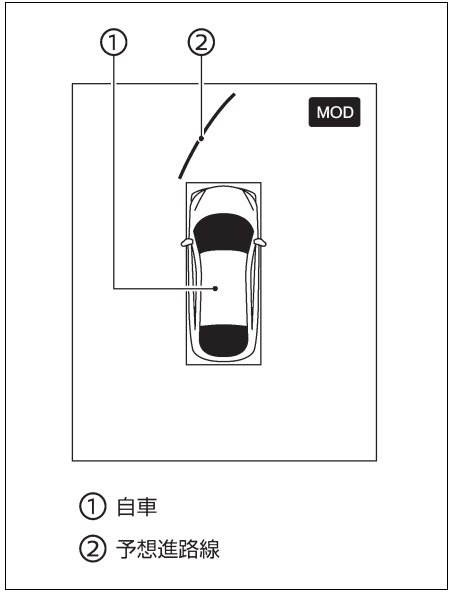
●予想進路線②はハンドルを切った角度のまま進んだときの予想進路を表示します。

アドバイス

- フロントビューが表示されているときに、中立位置から約90度の範囲内でハンドルを切ると、予想進路線が左右に表示されます。約90度以上ハンドルを切ると、予想進路線はハンドルを切った方向とは逆方向にのみ表示されます。
- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

■ トップビュー

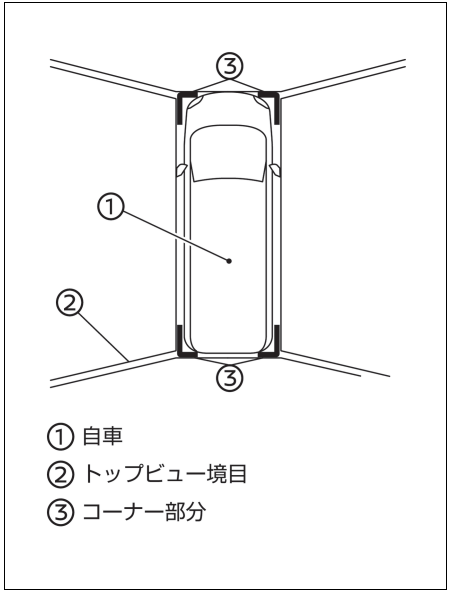
<u>マイパイロットパーキング付車</u>



●自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像をマルチアラウンドモニター左側画面に表示します。

●車両アイコン①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

マイパイロットパーキング無車



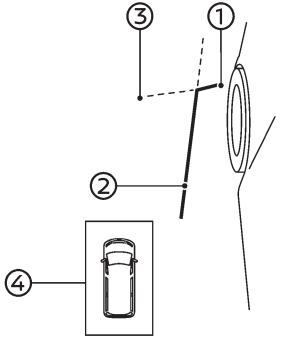
① 自車
② トップビュー境目
③ コーナー部分

●自車位置や駐車スペースへの進入コースが分かりやすい、車両を上から見たような映像をマルチアラウンドモニター左側画面に表示します。

●自車①は、自車位置を示しています。トップビューに表示される障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。カメラでは撮影できない領域トップビュー境目②は、黒色で表示されます。

●<パワースイッチ>をONにし、トップビューを表示すると、トップビュー境目②と撮影されないコーナー部分③は、約4秒間黄色で強調表示されます。センサーがOFFのとき、撮影されないコーナー部分③は赤色で表示されます。

■ サイドブラインドビュー



① 前端目安ライン
② 側方目安ライン
③ 前端目安ラインと側方目安ラインの延長線
④ センサー表示

●車両の左側前輪付近から前方を、マルチアラウンドモニター左側画面に表示します。道路端への幅寄せ駐車などに便利です。

目安ライン

●モニターには車幅と車両の前端を示す目安ラインが表示されます。

— ①前端目安ラインは、車両前部の位置の目安を示します。
— ②側方目安ラインは、ドアミラーを含めた車幅の目安を示します。
— ③前端目安ラインと側方目安ラインの延長線は、緑色の破線で表示します。

センサー表示

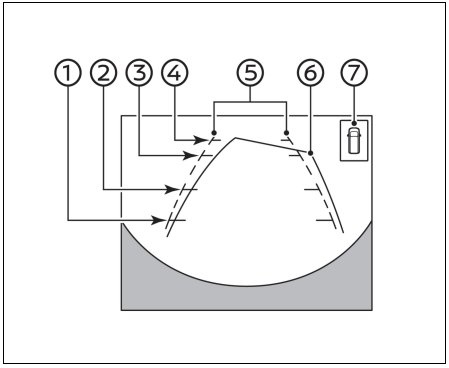
●④センサー表示は、センサーが障害物を検知すると、表示されます。

アドバイス

- 方向指示器の光が側方目安ラインと重なる場合がありますが、異常ではありません。
- サイドブラインドビュー表示中に、約10km/h以上になると画面の一部が灰色となりますが、異常ではありません。

■ **マイパイロットパーキング付車：全画面フロントワイドビュー／全画面リヤワイドビュー**

●車両の前方／後方の映像を、画面いっぱいに表示します。



距離目安ライン

●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②黄色：約1m

— ③緑色：約2m

— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑦センサー表示

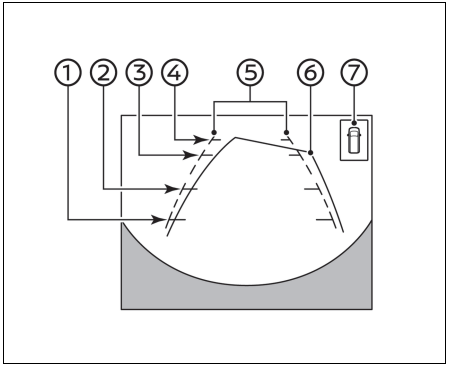
●センサーが障害物を検知すると表示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

■ マイパイロットパーキング無車：リヤビュー（全画面表示）

●車両の後方の映像を画面幅いっぱいに表示します。



●車体からの距離の目安を表示します。

— ①赤色：約0.5m

— ②黄色：約1m

— ③緑色：約2m

— ④緑色：約3m

⑤車幅目安ライン

●車幅の目安を示します。

⑥予想進路線

●運転操作時に予想進路を表示します。ハンドルを切った角度に応じて移動します。

⑦センサー表示

●センサーが障害物を検知すると表示します。

アドバイス

- リヤビューモニターの映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同様に左右反転させた映像です。
- 雪道や滑りやすい路面では、予想進路線と実際の進路が異なることがあります。
- リヤビューカメラは車幅の中心よりずれた位置に取り付けられているため、リヤビューの表示は多少右にずれて見えます。

画質調整のしかた（スマートフォン連携ナビゲーション装着車）

スマートフォン連携ナビゲーションで次の操作をすると、マルチアラウンドモニター画面の画質を調整することができます。

＜メニュー＞⇒［設定］⇒［カメラ］

スマートフォン連携ナビゲーションの操作方法は、別冊のスマートフォン連携ナビゲーション取扱説明書をお読みください。

項目 1	項目 2	機能
画質調整	明るさ	● [+]、[−] をタッチして明るさを調整します。
	コントラスト	● [+]、[−] をタッチしてコントラストを調整します。
	色合い	● [+]、[−] をタッチして色合いを調整します。
	色の濃さ	● [+]、[−] をタッチして色の濃さを調整します。
	黒レベル	● [+]、[−] をタッチして黒レベルを調整します。

移動物検知機能について

- 車庫入れや駐車場からの発進時などに自車周辺の移動物を運転者にお知らせすることで、安全確認をサポートする機能です。
- 車両周辺に移動物があるときに、音と黄枠を表示してお知らせします。
- トップビューに［ MOD ］表示がある場合には移動物を検知したエリア（前後左右）に黄枠を表示します。
- 移動物検知機能は以下の条件のとき、［ MOD ］が表示されている画面で作動します。
  - シフトポジションがPまたはNで停車しているときに、トップビュー側で作動します。
  - シフトポジションがDで車速約8km/h以下のときに、フロントビューで作動します。
  - シフトポジションがRで車速約8km/h以下のときに、リヤビューで表示します。

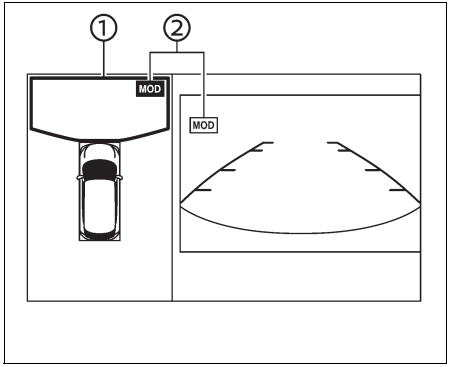
⚠ 注意

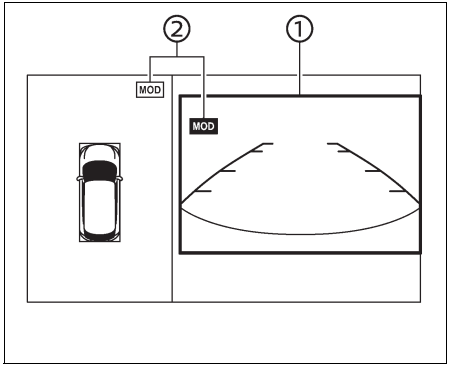
- **車両の操作をするときは、周囲の安全をミラーや目視で直接確認してください。**

📖 知識

- センサーブザーが鳴っている場合は移動物検知機能ブザーは鳴りません。
- サイドブラインドビューには移動物検知機能がないため、移動物検知機能作動状態アイコンを表示しません。

画面の見かた





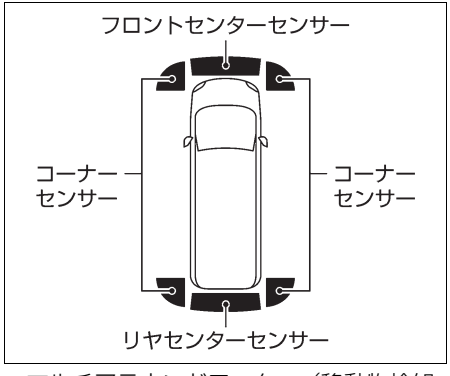
①移動物検知表示

- 移動物検知機能で移動物を検知したときに、黄枠でお知らせします。

②移動物検知機能作動状態アイコン

- 移動物検知機能を作動させる側の画面のアイコンを緑色（マイパイロットパーキング付車）または青色（マイパイロットパーキング無車）で表示します。
  - — MOD：移動物検知機能が作動します
  - — MOD：移動物検知機能が作動しません
- 以下の場合には移動物検知機能は作動しません。
  - — 車速やシフトポジションが移動物検知機能の作動条件から外れている場合
  - — トップビューによる移動物検知機能作動中でいずれかのドアが開いている場合
  - — リヤビューによる移動物検知機能作動中でテールゲートが開いている場合
- トップビューによる移動物検知機能作動中で電動格納式ミラーが作動していると、誤検知する場合があります。

パーキングセンサー（フロント / リヤ）について



- マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）を表示させて、走行中にセンサーが静止した障害物を検知した場合は、センサー表示とブザーでお知らせします。
- センサー表示はトップビュー、サイドブラインドビューまたは全画面ワイドビュー画面に表示されます。
- 障害物を検知してから、センサー表示とブザーが出るまでに多少時間がかかります。

⚠ 警告

- **バンパーにへこみなどがあると正確な距離が測定できず、正常に作動できない場合があります。**
- **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤作動の原因になります。**
- **純正以外のバンパーを取り付けたとき、正常に作動できない場合があります。**

⚠ 注意

- **気温や天候、路面状態などの周囲の状況や、障害物の大きさ、形状によってはセンサーが検知できないことがあります。また、音波を吸収しやすいものにも、センサーが検知できないことがあります。必ず周囲を確認して運転をしてください。**
- **次のような障害物には作動しません。**
  - — 背の低い障害物
  - — 幅の狭い障害物
  - — 針金、金網、ロープなどの細い障害物
  - — センサーに非常に近い障害物
  - — 急に進行方向に現れた障害物
- **次のような障害物は検知しないことや作動が遅れることがあります。**
  - — 地面から高い位置に存在する障害物
  - — スポンジ状のものや雪など表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
- **センサーは次のような場合は検知しない、もしくは正しく検知できない場合があります。**

⚠ 注意

— 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき

— 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき

— 周囲に草が生い茂っているとき

— 車両側面の近くに壁があるとき

— 路面上に段差や突起物があるとき

— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって走行するとき

— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき

— 周囲で大きな音が鳴っているとき

— 車両感応センサーやホーン、他車のセンサー、オートバイの排気音など超音波を発生するものが付近に存在するとき

— 炎天下や寒冷時

— 表面が一様でない障害物（複数の障害物が積載されて凹凸な形状の場合）

● **外部の騒音などにより、警報音（ブザー）が聞こえない場合があります。**

● **センサー部が凍結したときは異常表示が出たり、壁などの障害物があったりしてもセンサーが検知しないことがあります。**

（氷が解ければ、正常に復帰します）

● **センサーは前後バンパーについています。バンパーには、ステッカーを貼ったりアクセサリーなどを取り付けないでください。**

● **適正なタイヤの空気圧を維持してください。誤警報や誤操作の原因になります。**

アドバイス

● システムを正しく作動させるためにセンサーはいつもきれいにしておいてください。センサーの取り扱いについては、（➔P.315）をお読みください。

■ コーナーセンサー

障害物までの距離（目安）	60 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ …	ピピピピピ …	ピー

■ フロントセンターセンサー

障害物までの距離（目安）	100 ～ 60cm	60 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	遅い	早い	点灯
ブザー音	無し	ピッ、ピッ、ピッ …	ピピピピピ …	ピー

■ リヤセンターセンサー

障害物までの距離（目安）	150 ～ 50cm	50 ～ 30cm	30cm 以下
表示色	緑	黄	赤
表示点滅速度	遅い	早い	点灯
ブザー音	ピッ、ピッ、ピッ …	ピピピピピ …	ピー

■ センサー表示色

● センサー表示の色は、障害物に近づくにしたがって、緑、黄、赤と変化します。センサーの表示の色と距離目安線とでは障害物までの距離は異なります。

■ ブザー音

- 障害物との距離が近づくにしたがって、断続音の間隔が短くなります。表示が赤の場合は連続音になります。
- 障害物との距離が広がった場合は断続音が消え、センサー表示のみとなります。
- フロントセンサーが検知したときは低音、リヤセンサーが検知したときは高音でお知らせします。
- 障害物を検知しているときは、ステアリングスイッチの＜OK＞スイッチでセンサーの音がOFFになります。

■ パーキングセンサー（フロント / リヤ）OFF

- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［運転支援システム］⇒［パーキングセンサー］を選択すると、各パーキングセンサー（フロント/リヤ）のON･OFFを設定できます。

■ センサーによるカメラ画面の自動表示機能

- シフトポジションがDかつ車速約10km/h以下でカメラが表示されていない場合に、車両前方の障害物を検知した場合はマルチアラウンドモニター画面を自動で表示します。
- 障害物がなくなると、マルチアラウンドモニターはOFFになります。

マルチアラウンドモニター★に関する注意事項

⚠ 警告

- **カメラはフロントグリル下部、ドアミラー、リヤナンバープレート上部に装着されています。作動を妨げるような物をカメラ部分に取り付けないでください。字光式ナンバープレートやナンバープレートリムを装着すると、フロントビューおよびリヤビューモニターの映像が一部映らなくなることがあります。**
- **距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離は目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。**
- **目安ラインや予想進路線は、乗車人数などの影響により実際の距離と異なることがあります。目安としてお使いください。**
- **サイズが異なるタイヤと交換すると、予想進路線とトップビューが不適切に表示されることがあります。**
- **上り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。下り坂では、モニターに表示される障害物は実際よりも近くにあるように見えます。ミラーを併用するか、目視によって正確な距離を判断してください。**
- **フロントビューおよびリヤビューの表示線は、路面の状況により障害物への距離が実際と異なって見えることがあります。特徴をよく理解してください。**

アドバイス

- カメラに汚れ、雨、雪が付着すると、映像の映りが悪くなることがあります。カメラを清掃してください。

  ➔フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い (P.314)

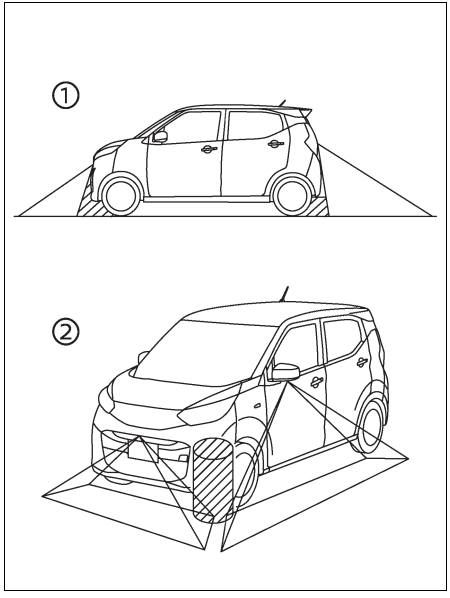
  ➔リヤビューカメラの取り扱い (P.315)
- アルコール、ベンジン、シンナーなどを使用してカメラを清掃しないでください。変色する原因となります。中性洗剤を薄めて含ませた布でふき取ったあと、乾いた布でふいてください。
- モニター映像に悪影響が生じるため、カメラに傷をつけないよう注意してください。
- カメラにはワックスを使用しないでください。中性洗剤を薄めて含ませた清潔な布でワックスをふき取ってください。

- カメラレンズの特性により、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して見えたりすることがあり

ます。車幅目安ラインと予想進路線は、実際の車幅と進路よりも広くなっています。

- シフトポジションが R 以外のとき、スマートフォン連携ナビゲーションの＜CAMERA＞（スマートフォン連携ナビゲーション装着車）、デジタルルームミラーのⒶボタン（スマートフォン連携ナビゲーション非装着車） を押してマルチアラウンドモニターを表示させたあと、センサーまたは移動物検知機能が作動しない状態で約3分間操作を行わないでいると、マルチアラウンドモニター表示が消えます。（3分タイマー機能）
- 画面の切り替わり後は、映像の表示が遅れることがあります。マルチアラウンドモニターが完全に表示されるまでは、映像が一時的にゆがむことがあります。
- 外気温が極端に高いか、低いときは、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- カメラに直接強い光を当てると、映像の映りが悪くなることがありますが、異常ではありません。
- 蛍光灯照明が当たると、映像にちらつきが出ることがありますが、異常ではありません。
- マルチアラウンドモニター映像の色味は、実際とはわずかに異なって見えることがあります。
- 暗い所や夜間時には映りが悪くなり、色味が異なって見えることがありますが、異常ではありません。
- トップビューの各カメラの映像に鮮明さの違いが生じることがあります。
- トップビューの画像は、4つのカメラからの映像を加工処理して表示するため、次のように表示される場合があります。
  - ― 立体物が倒れこんで見える
  - ― 路面よりも高い位置にある車両などが実際より遠くに見える
  - ― 高さのあるものが画像の継ぎ目でずれて表示される
  - ― 各カメラ画像の明るさが違う

映し出す範囲

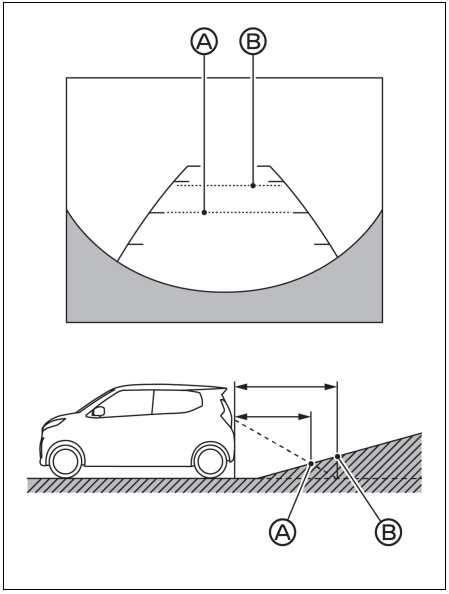


- 特定の領域は、カメラに映し出されません。フロントビューまたはリヤビューでは、バンパー下側または地上面の部分は表示されないことがあります①。トップビューではカメラの映し出す範囲の境目付近にあるもの、路面より高さのあるものは表示されないことがあります②。

映像と実際の路面との誤差

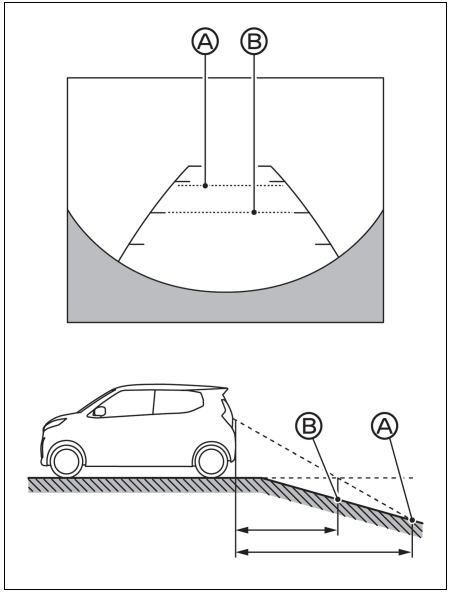
- フロントビューとリヤビューに表示される距離目安ラインと車幅目安ラインは、舗装された平坦な路面上での目安として使用してください。画面に表示される距離はあくまでも目安であり、自車と映し出されている障害物までの距離は、実際とは異なることがあります。

急な上り坂が後方にあるとき



●距離目安ライン、車幅目安ラインは実際の距離よりも手前に表示されます。例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。上り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも遠くにあるように見えます。

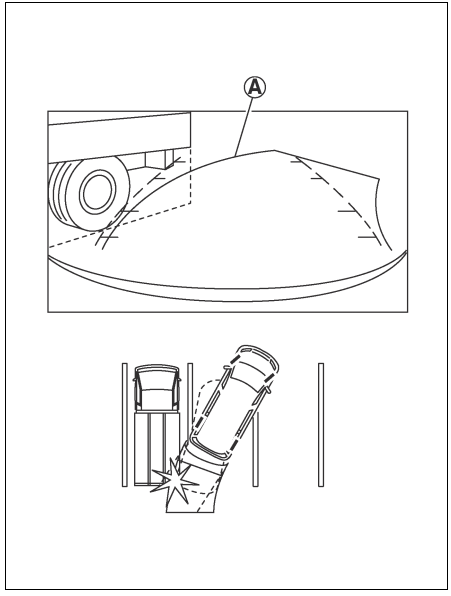
急な下り坂が後方にあるとき



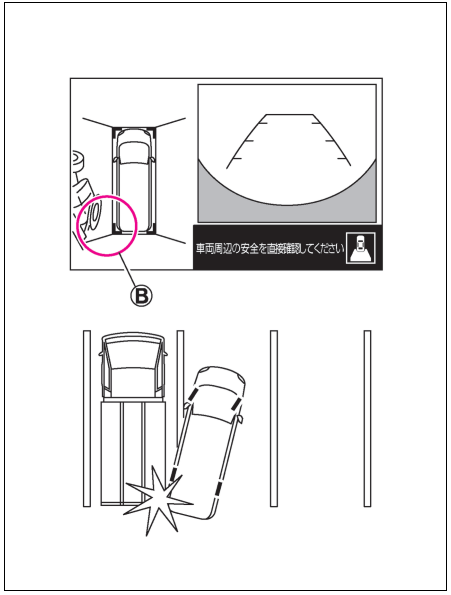
●距離目安ラインと車幅目安ラインは実際の距離よりも後ろに表示されます。 例えば、位置Ⓐまでの距離が1mと表示されていても、実際に1mの距離にあるのは、位置Ⓑです。下り坂に障害物があるときは、障害物は実際よりも近くにあるように見えます。

立体物が近くにあるとき

●立体物が近くにある場合には実際の距離と異なって表示される場合があります。

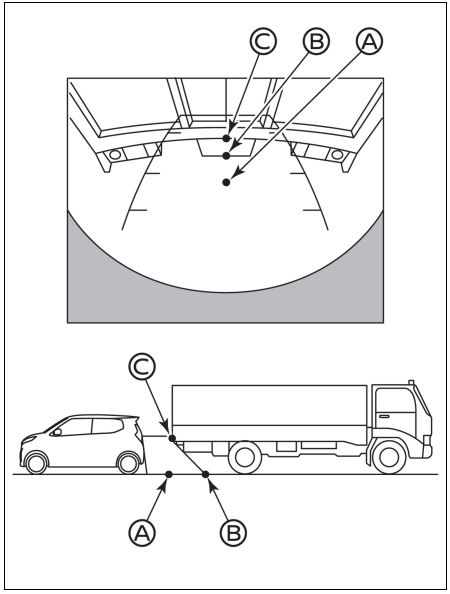


●例1:予想進路線Ⓐは表示されているトラックの車体に触れていません。しかし、トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、ぶつかることがあります。



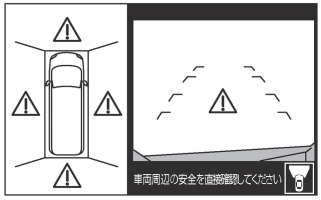
● 例2:表示されているトップビューⒷでは、自車とトラックの車体間にはわずかな距離があるように見えます。しかし、実際の距離は表示されているよりも短く、トラックの車体にぶつかることがあります。

立体物に接近するとき

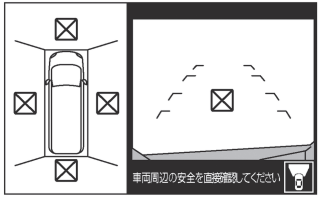


● Ⓒの位置はⒷの位置よりも遠くにあるように見えますが、実際はⒶの位置と同じ距離です。トラックの車体が実際の進路上に張り出している場合は、Ⓐの位置まで下がるとぶつかることがあります。

画面のエラー表示について



⚠アイコンが画面内に表示された場合は、マルチアラウンドモニター（移動物検知機能付）の異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。



☒ アイコンが画面内に表示された場合は、カメラ映像が一時的に周囲の電子機器の影響を受けている可能性があります。頻繁に表示される場合は三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラ映像が表示されない場合

シフトポジションをRに入れ、マルチアラウンドモニターを作動させた状態でも次のような画面表示が続く場合は、カメラシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

カメラECUが作動しない場合

- マルチアラウンドモニター画面がカメラ画面に切り替わらず、ミラー表示し続けているとき

カメラが作動しない／カメラの故障／カメラECUの故障などにより映像に異常がある場合

- マルチアラウンドモニター画面が黒色／青色／灰色など、異常なカメラ映像が表示されるとき

マイパイロットパーキング★

マイパイロットパーキングは、車庫入れ、縦列駐車、前向き駐車を支援する機能です。

マイパイロットパーキングについて

- スマートフォン連携ナビゲーションの画面に表示されます。
- カメラとセンサーにより駐車位置を検出し、アクセル、ブレーキ、ステアリング、シフトポジション操作を制御することにより駐車操作を支援します。

⚠ 警告

- **マイパイロットパーキングの性能には限界があります。**

  安全運転を行う責任は運転者にありますので、通常の運転操作と同様に、周りの状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人などに接触しそうな場合はブレーキペダルを踏んで車両を停止してください。

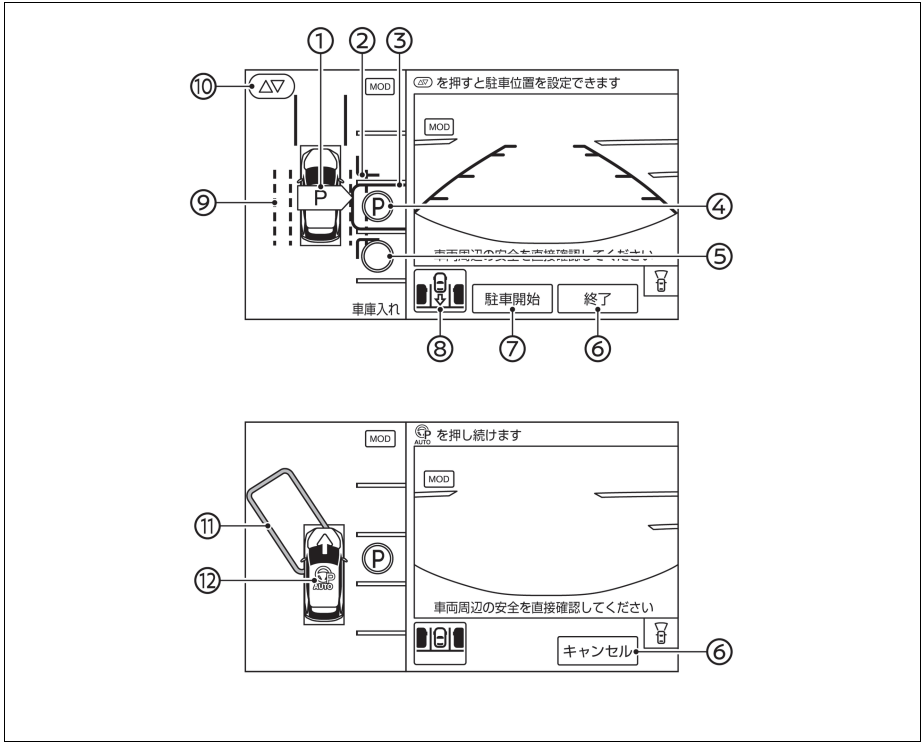
- **ステアリング制御中に、ハンドルのスポーク部に触れない。**

  手や指がスポーク部に巻き込まれ、ケガをするおそれがあります。また、ネクタイ、スカーフなども巻き込まれないように十分注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

マイパイロットパーキングスイッチ

- スイッチを押すとマイパイロットパーキングが起動します。
- 駐車制御を開始したあと、スイッチを押している間車両が移動します。スイッチから手を離すと車両が停止します。

マイパイロットパーキング画面



① **駐車位置検出アイコン**
駐車位置検出中に、左右どちらの駐車位置が検出されているか表示します。
〔P〉：右側の駐車位置が検出されているとき
〈P〕：左側の駐車位置が検出されているとき

② **障害物目安線（赤色）**
駐車制御中に車両が通過する目安範囲を表示します。

③ **駐車目安枠（青色）**
駐車しようとする目安位置を表示します。駐車制御中に赤色に変わります。

④ Ⓟ
これから駐車する位置を表示します。

⑤ ◎
選択された駐車位置以外に、選択可能な駐車位置を表示します。タッチするとⓅに切り替わります。

⑥ **［終了］/［キャンセル］**
マイパイロットパーキングを終了します。

⑦ **［駐車開始］**
駐車制御を開始します。

⑧ **駐車方法切り替えアイコン**
現在選択されている駐車方法を表示します。
タッチすると駐車方法を切り替えることができます。（➔P.223）

⑨ **駐車位置検出目安線（緑色）**
駐車位置を検出する目安範囲を表示します。

⑩ **駐車目安枠調整アイコン（△▽）**
駐車目安枠の位置を調整できます。（➔P.225）

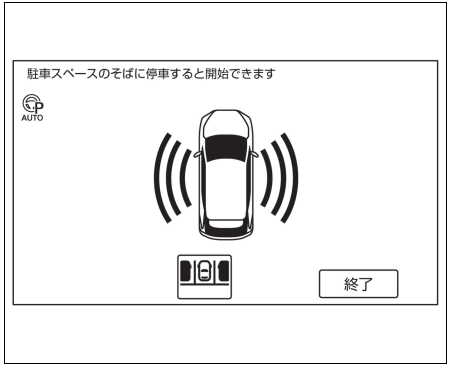
⑪ **切り返し目安枠（緑色）**
切り返しを開始する目安位置を表示します。

⑫ **マイパイロットパーキング制御アイコン（ AUTO ）**
マイパイロットパーキングの制御状態を色で表示します。
AUTO （緑色）：制御中
AUTO （灰色）：非制御中

知識

- ワイパー作動中やカメラレンズに付着した水滴などを検出すると [ ] が表示されます。
  [ ] 表示中は、検出できる駐車位置が制限されます。

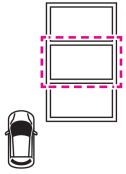
■ 車速が約 10km/h 以上になった場合



駐車位置検出中に車速が約10km/h以上になると、上の画面へ切り替わります。
車速が約10km/h以下になると、通常のマイパイロットパーキング画面に戻ります。

マイパイロットパーキングを使って駐車する

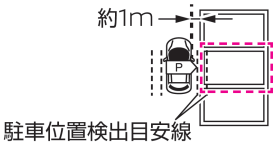
■ 操作例：車庫入れ（右側）



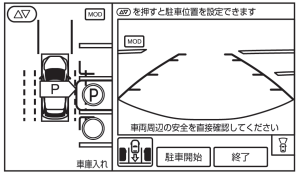
1. 駐車したい場所の手前で停車します。
2. ＜マイパイロットパーキングスイッチ＞を押すと、マイパイロットパーキングが起動します。

知識

- 以下の場合には、マイパイロットパーキングを起動できません。
  — 車速が約20km/h以上のとき
  — ドアミラーが閉じているとき
  — 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開いているとき
  — 駆動用バッテリー残量が少なくなっているとき
  — システムが故障しているとき
  — スマートフォン連携ナビゲーションが起動中のとき
- スマートフォン連携ナビゲーションの＜カメラ＞を押し、マルチアラウンドモニター画面上の［ AUTO ］をタッチしても、マイパイロットパーキングを起動できます。マルチアラウンドモニターの機能については（➔P.202）をお読みください。
- マイパイロットパーキング作動中はオーディオなどの音量が小さくなります。



3. ゆっくりと前進し、駐車したい場所の真横（約1m）でブレーキペダルを踏んで停車します。
駐車位置検出アイコン（P）が駐車したい場所の中央付近を示すように車両を停止します。
2本の駐車位置検出目安線（緑色）の範囲内に駐車区画線が入るように車を移動すると、駐車位置が検出されやすくなります。



4. 停車している状態で、駐車したい場所に Ⓟ が表示されていることを確認してください。
Ⓟ が表示されている駐車場所内や周辺に近接した障害物がないこと、車両が駐車できる十分な広さがあり、駐車可能な場所であることを確認してください。

知識

- 周りの状況をミラーや目視で直接確認し、周囲の車両や障害物、人に接触しそうな場合は、ブレーキペダルを踏み車両を停止してください。状況が改善しないときは、マイパイロットパーキングの使用を中断してください。画面上の［キャンセル］をタッチすると駐車制御を終了することができます。
- 障害物目安線は駐車位置に移動する際に車両の一部がはみ出す可能性がある範囲の目安を示します。車両やポールなどの障害物が障害物目安線より外側にあるときに円滑な駐車を行うことができます。
- 駐車目安枠が実際の駐車可能な位置に表示されない場合（障害物や側溝にかかるなど）、適切な駐車位置に手動で設定してください。

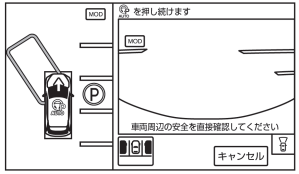
駐車目安枠の調整 (P.225)

- 車両を停止させた状態で［駐車開始］をタッチせずに＜マイパイロットパーキングスイッチ＞を押し続けると、自動的にブレーキがかかり停車状態を保持します。

  車両を移動する場合はセレクターレバーを操作し、アクセルペダルをゆっくりと踏み込み移動します。
- 駐車方法切り替えアイコンをタッチすると、駐車方法を変更することができます。

駐車方法を変更する (P.223)

- 駐車位置（◎）をタッチすると駐車位置を選択することができます。
- 方向指示器を作動させると、作動方向の駐車枠を検出します。



5. ブレーキペダルを踏んだまま画面上の［駐車開始］をタッチします。
駐車制御を開始します。
制御を開始するとマイパイロットパーキング制御アイコン（ AUTO ）が表示され、自動でブレーキをかけて停車状態を保持します。
センサー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動できないと判断した場合は、駐車制御が開始されません。その場合は通常走行で駐車を行ってください。

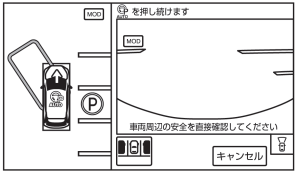
知識

- ［キャンセル］をタッチすると車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動してマイパイロットパーキングが終了します。駐車制御開始前にタッチすると、前の画面に戻り駐車位置の検出を再開します。
- アクセルペダルを操作するとブレーキが解除されます。

知識

- 駐車制御を開始するとパーキングセンサーが自動でONになります。マイパイロットパーキングが終了すると、マルチインフォメーションディスプレイで設定されたセンサーの設定状態に戻ります。
- 駐車制御中は<現在地>、<メニュー>を押しても画面は切り替わりません。<カメラ>を押すと、マイパイロットパーキングは終了します。

➔マイパイロットパーキングの終了のしかた (P.222)

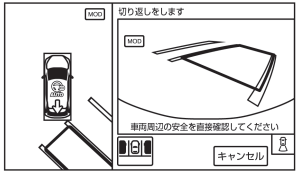


6. <マイパイロットパーキングスイッチ>を押したままでブレーキペダルを徐々にゆるめて車両をゆっくりと前進させます。
切り返し目安枠の方向（矢印の向き）に車両が移動します。
周辺状況に応じてブレーキペダルを踏んで車速を調整してください。
<マイパイロットパーキングスイッチ>から手を離すと車両が停止します。

再度押し続けると駐車制御が再開されます。

知識

- 設定した駐車位置やセンサー、カメラで検出した障害物の位置により、駐車位置までの経路と切り返し回数が変わります。
- 以下の場合には駐車制御を開始できません。状況が改善してから、<マイパイロットパーキングスイッチ>を押し続けると駐車制御を開始できます。
  - 運転席のシートベルトを締めていないとき
  - シフトポジションがPのとき
  - 電動パーキングブレーキが作動しているとき
  - アクティブスタビリティコントロール［ASC］がOFFのとき
- 急な勾配のある場所では駐車支援を開始できません。通常走行で駐車を行ってください。

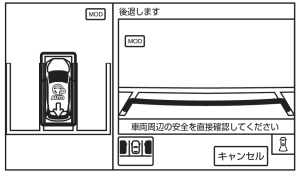


7. 切り返し目安枠（緑色）に到達するとシフトポジションが自動で切り替わり、車両が後退します。
障害物などがあり切り返し目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、セレクターレバーで進行方向を切り替えてください。

➔駐車制御の進行方向を切り替える (P.226)

知識

- センサー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、自動的に駐車制御を終了することがあります。適切な位置に車両を移動させてください。



8. 駐車目安枠（赤色）に到達すると車両が停止し、駐車制御が終了します。
駐車制御が終了すると、音と表示でお知らせします。
そのとき、シフトポジションがPに切り替わり、電動パーキングブレーキが作動します。
駐車目安枠（水色）に到達する前に駐車制御が自動で終了することがあります。

➔駐車制御中（車両移動時）の自動終了について (P.222)
障害物などがあり駐車目安枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させ、画面上の［キャンセル］をタッチしてマイパイロットパーキングを終了させてください。

知識

- 駐車車両などの障害物が障害物目安線にかかっている場合、センサーが障害物を検知して車両が停止し、駐車を完了できないことがあります。

マイパイロットパーキングの一時停止について

駐車制御中に＜マイパイロットパーキングスイッチ＞から手を離すと、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、シフトポジションがNに切り替わります。

再度＜マイパイロットパーキングスイッチ＞を押すと駐車制御を再開できます。

駐車制御の自動停止

以下の場合は自動的にブレーキがかかり車両が停止します。

- 進行方向に障害物を検出したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき

＜マイパイロットパーキングスイッチ＞から一度手を離し、状況が改善されたことを確認してから再度押し続けることで駐車制御を再開できます。

知識

- 駐車制御を再開すると、自動でシフトポジションがDまたはRに切り替わります。
- 障害物を検出して停止した場合、駐車制御を再開すると進行方向を変えて、切り返しにより駐車制御を継続します。
- センサー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。
- シートベルトを着用しないと駐車制御を再開できません。

マイパイロットパーキングの終了のしかた

画面上の［終了］または［キャンセル］をタッチすると、マイパイロットパーキングが終了します。

駐車制御中にマイパイロットパーキングを終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションはNに切り替わります。

駐車位置検出中の自動終了について

以下の場合は、マイパイロットパーキングが自動的に終了します。

- 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき
- マイパイロットパーキング起動後約3分以上経過したとき
- マイパイロットパーキング起動後約500m以上走行したとき
- 車速が約20km/hを超えたとき
- ドアミラーを閉じたとき
- ＜現在地＞や＜カメラ＞などで画面を切り替えたとき
- システムに異常が検出されたとき

警告

- **駐車位置検出中の自動終了時はブレーキペダルを踏む**

  自動でブレーキがかからないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 駐車制御中（車両移動時）の自動終了について

以下の場合は、マイパイロットパーキングが自動的に終了します。

駐車制御中に自動終了すると、自動的にブレーキがかかり車両が停止し、電動パーキングブレーキが作動します。このとき、シフトポジションはNまたはPに切り替わります。

- ハンドルを操作したとき
- アクセルペダルを操作したとき
- 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションをPまたはNに切り替えたとき

- シフトポジションを**D**または**R**に切り替えたとき
- ＜カメラ＞を押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- 障害物などにより駐車位置まで移動ができないと判断したとき
- 駐車制御による駐車位置が大きくずれたと判断したとき
- アクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにしたとき
- ASC/TCS/ABSが作動したとき
- 車速が約8km/hを超えたとき
- システムに異常が検出されたとき
- 駐車位置に近い場所で以下の状況になったとき
  - ― ＜マイパイロットパーキングスイッチ＞から手を離したとき
  - ― 駐車経路上に障害物を検出したとき
  - ― 運転席のシートベルトを外したとき

■ 駐車制御中（一時停止時）の自動終了について

以下の場合は音と表示でお知らせし、マイパイロットパーキングが自動的に終了します。

このとき、電動パーキングブレーキが作動しますが、シフトポジションは切り替わりません。

- 運転席、助手席、後席、またはテールゲートのいずれかのドアを開けたとき
- 電動パーキングブレーキを作動させたとき
- シフトポジションを**P**または**N**に切り替えたとき
- ＜マイパイロットパーキングスイッチ＞から手を離して約1分以上経過したとき
- ＜カメラ＞を押したとき
- ドアミラーを閉じたとき
- ASCをOFFにしたとき
- ASC/TCS/ABSが作動したとき
- システムに異常が検出されたとき

■ 駐車制御一時停止中のアクセルペダル操作について

駐車制御一時停止中にアクセルペダルを操作したときは、音と表示でお知らせし、マイパイロットパーキングが自動的に終了します。

シフトポジションが**N**の時、電動パーキングブレーキが作動します。

シフトポジションが**D**または**R**の時、運転者のアクセルペダル操作に従って走行を開始します。

駐車方法を変更する

［駐車開始］をタッチする前に、駐車方法切り替えアイコンで駐車方法を変更できます。

アイコンをタッチするごとに駐車方法が切り替わります。

＜駐車方法＞

車庫入れ（ ）	並列駐車場所に後退して駐車する駐車操作を支援します。
縦列駐車（ ）	縦列駐車場所に後退して駐車する駐車操作を支援します。
前向き駐車（ ）	並列駐車場所に前進して駐車する駐車操作を支援します。

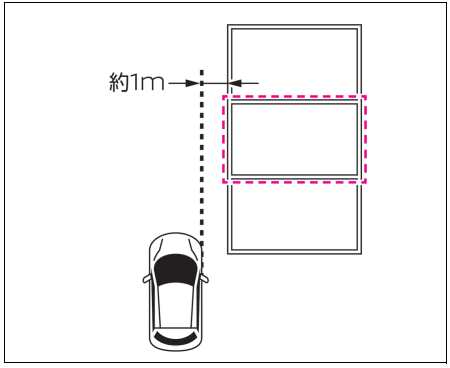
知識

- 選択できる駐車方法について設定することができます。

➔マイパイロットパーキングの設定（P. 232）

マイパイロットパーキングの駐車方法について

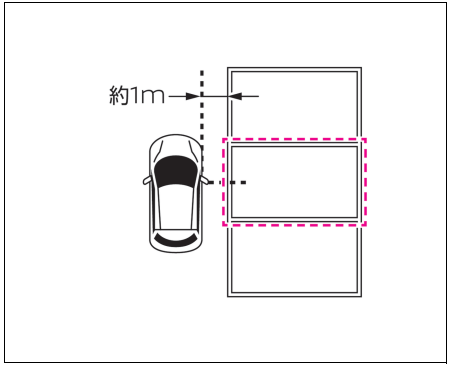
■ 車庫入れ



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

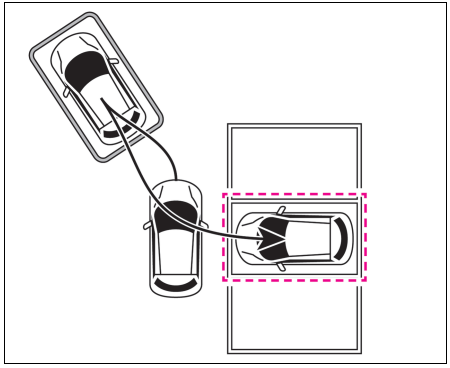
駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

駐車位置検出機能について (P.226)



ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

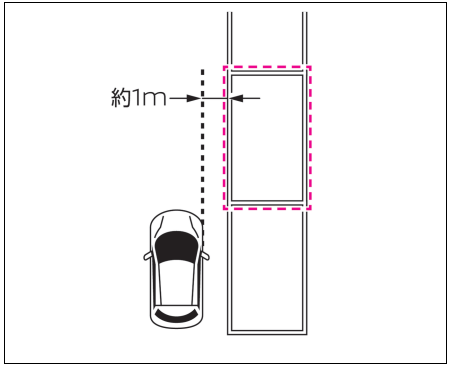
自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。



図のような経路で駐車制御を行います。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

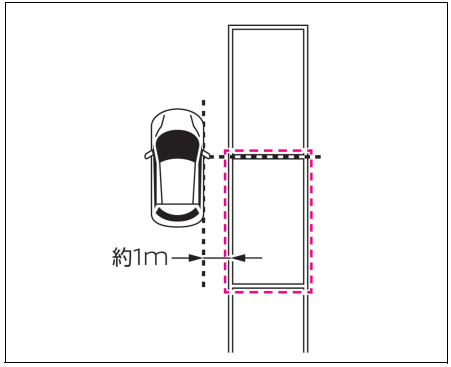
■ 縦列駐車



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

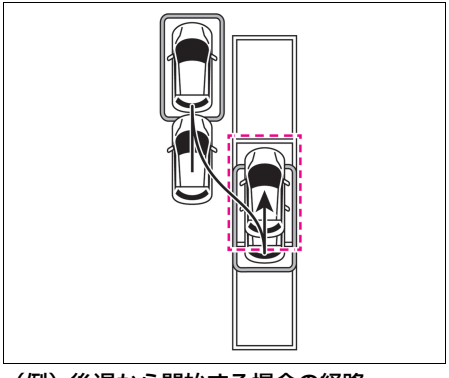
駐車位置検出機能について (P.226)



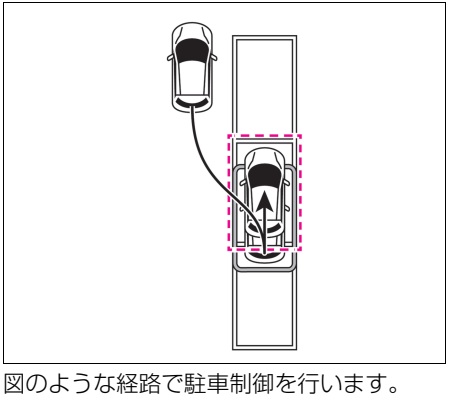
ゆっくりと前進し、駐車位置に平行になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の先端になるように車両を停止させてください。

（例）前進から開始する場合の経路



（例）後退から開始する場合の経路

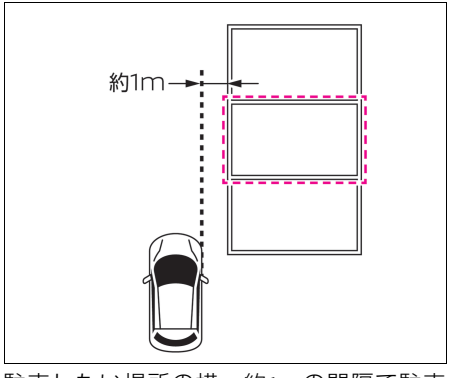


図のような経路で駐車制御を行います。

障害物や駐車位置によっては後退から開始する場合があります。

駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

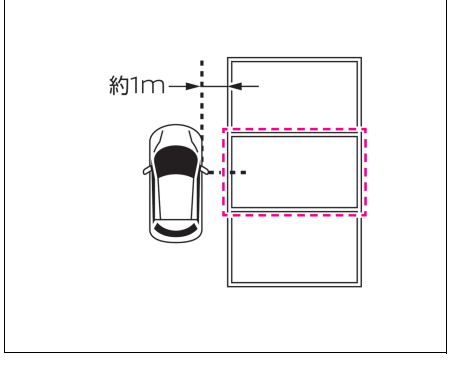
■ 前向き駐車



駐車したい場所の横、約1mの間隔で駐車位置に近づいてください。

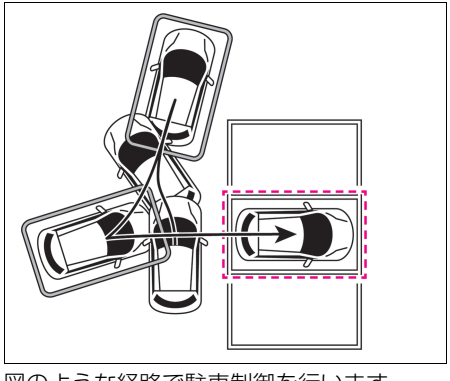
駐車位置との間隔が広すぎると、障害物が検出できない場合や、区画線を検出できない場合があります。

駐車位置検出機能について (P.226)



ゆっくりと前進し、駐車位置に垂直になるようにブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

自車の運転席ドア付近が駐車したい場所の中央付近になるように車両を停止させてください。



図のような経路で駐車制御を行います。

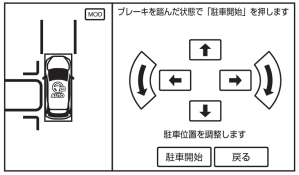
駐車経路、切り返し回数は駐車位置、周辺の障害物の位置により異なります。

駐車目安枠の調整

駐車目安枠を手動で調整することができます。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

1. ブレーキを踏んで車両を停止し、画面上の駐車目安枠調整アイコン（△▽）をタッチします。
Ⓟが表示されているときは、Ⓟのあった位置に駐車目安枠が表示されます。
駐車位置が検出されていないときは、デフォルトの位置に駐車目安枠が表示されます。



2. 矢印をタッチして微調整します。

知識

- 表示される障害物目安線は駐車位置に移動する際に車両の一部がはみ出す可能性がある範囲の目安を示します。車両やポールなどの障害物が障害物目安線より外側にあるときに円滑な駐車を行うことができます。
- 左側画面を直接タッチすることで、駐車目安枠を移動することができます。
- 方向指示器を使って駐車目安枠の方向を切り替えることができます。

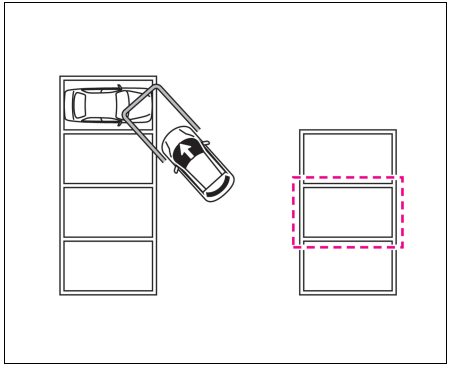
駐車制御の進行方向を切り替える

車両の進行方向に障害物（ポールなど）がある、または溝や崖など地面より低い場所があるときには、ブレーキペダルを踏んで車両を停止させ、＜マイパイロットパーキングスイッチ＞から手を離してください。

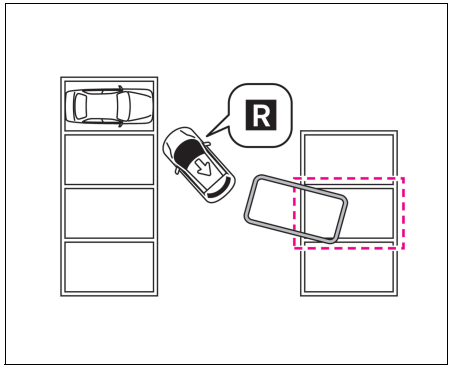
マイパイロットパーキングの注意事項(P.229)

その後、セレクターレバーで進行方向を切り替え、＜マイパイロットパーキングスイッチ＞を再度押すと駐車制御を再開します。

（例）駐車車両がある場合



1. ブレーキペダルを踏んで車両を停止させ、＜マイパイロットパーキングスイッチ＞から手を離します。



2. セレクターレバーで進行方向を切り替えます。
＜マイパイロットパーキングスイッチ＞を再度押すと駐車制御を再開します。

知識

- センサー、カメラで検出した障害物により駐車位置まで移動ができないと判断した場合、駐車制御を再開できません。

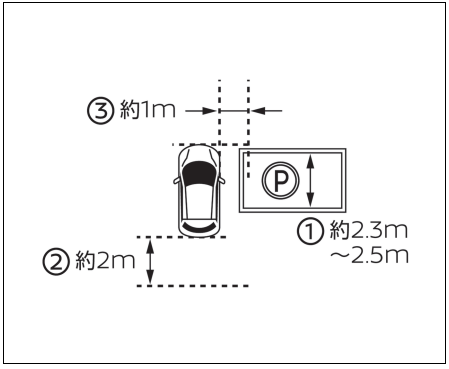
駐車位置検出機能について

カメラとセンサーを使って駐車位置を検出します。複数の駐車位置を検出できます。
カメラを使い、駐車区画線を認識して駐車位置を表示します。
センサーにより、検出した駐車区画内に障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

知識

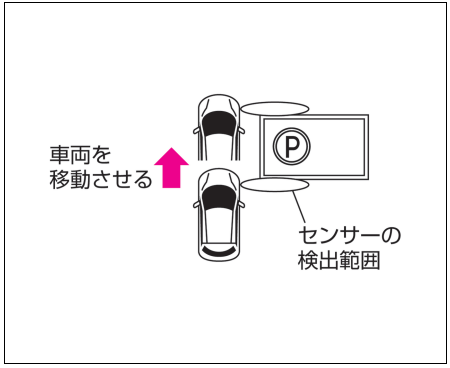
- フロントビュー、サイドビュー、リヤビューカメラのいずれかのカメラのレンズに汚れ、水滴などが付着しているときは検出できる駐車位置に制限がかかる場合があります。

■ 車庫入れ、前向き駐車が選択されている場合



以下の条件で駐車位置を検出します。

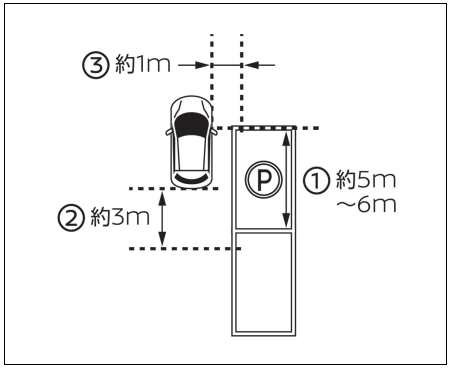
- 幅約2.3m～2.5m①の駐車区画を基本として認識します。
- 単線またはU字の区画線を基本として認識します。
- 区画線の太さは約15㎝を基本として認識します。
- 自車の前端から自車の後端約2m②以内に区画線があるときに認識します。
- 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
- ［左右の自動選択］がONの場合は車両の両側の駐車位置が検出されます。
  ➔マイパイロットパーキングの設定（P.232）



フロントのセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画上を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

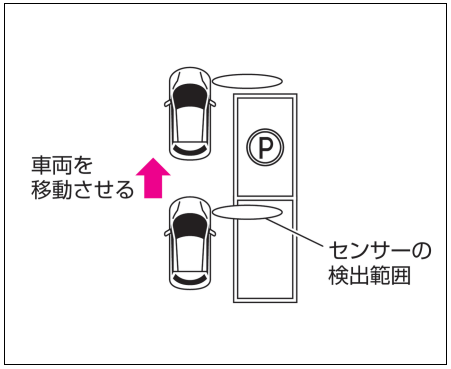
センサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

■ 縦列駐車が選択されている場合



以下の条件で駐車位置を検出します。

- 長さ約5m～6m①の駐車区画を基本として認識します。
- 区画線は単線を基本として認識します。
- 区画線の太さは約15㎝を基本として認識します。
- 自車の運転席ドア付近から自車の後端約3m②以内に区画線があるときに認識します。
- 駐車区画が自車から約1m③にあるときに認識します。
- ［左右の自動選択］がONの場合は車両の両側の駐車区画が検出されます。
  ➔マイパイロットパーキングの設定（P.232）



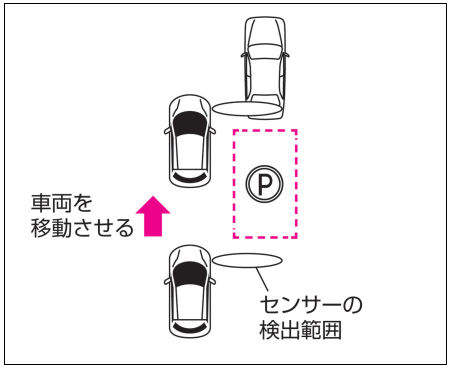
フロントのセンサーの検出範囲がカメラにより検出された駐車区画上を通過し、障害物を検知した場合は駐車位置を表示しません。

センサーの検出範囲より遠くにある駐車区画内の障害物は検出できません。

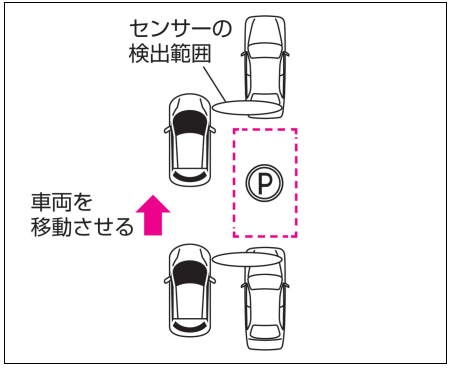
駐車区画線が認識されない場合は、センサーを使って周囲の障害物から駐車場所を検出します。

周囲の障害物の位置や角度によっては駐車目安枠は大きくずれる場合があります。

●障害物の手前にスペースがある場合

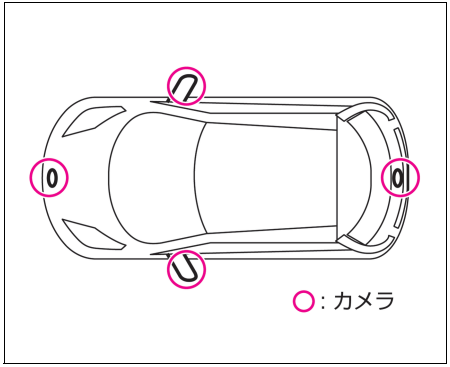


●障害物間に駐車可能なスペースがある場合



マイパイロットパーキングに使用するカメラ、センサーについて

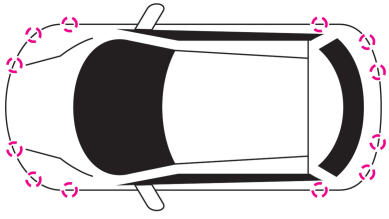
カメラ



マルチアラウンドモニターのカメラを使用しています。

取り扱いについては、フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い（➔P.314）、リヤビューカメラの取り扱い（➔P.315）をお読みください。

センサー



◌：センサー

前後左右の12個のセンサーを使用しています。
取り扱いについては、センサーの取り扱い（➔P.315）をお読みください。

マイパイロットパーキングの注意事項

⚠ 警告

- **画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。**

  障害物に接触したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。
- **周囲の車両や人の動きに十分注意してください。**

  検出された通路幅を有効に使って駐車支援を行っています。対向車や後続車、歩行者の動きに十分注意して駐車制御の操作を行ってください。
- **マイパイロットパーキングによる駐車支援が必要なくなったときは、マイパイロットパーキングを終了してください。**

  マイパイロットパーキングが作動状態のままだと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **車を降りる前に、電動パーキングブレーキが作動していること、およびシフトポジションがPであることを確認してください。**
- **マイパイロットパーキングを使用する前に、車両周辺に切り返しなどの駐車操作ができるスペースが十分あることを直接確認してください。**
- **状況によっては車両内外の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。**
- **駐車制御中は周囲へ車両の進む方向を知らせるために方向指示器を作動させてください。**
- **次のような状況ではマイパイロットパーキングを使用しないでください。**
  - ― 人や車両などの通行量が多い場所
  - ― 停車および駐車が禁止されている場所
  - ― 車両が入らないほど狭い場所
  - ― 穴や溝などがあるような駐車できない場所
  - ― 通路幅が狭い場所
  - ― 急な勾配のある場所
  - ― 砂地や砂利地などの整備されていない路面
  - ― 雪や凍結などでスリップしやすい路面
  - ― 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
  - ― 道幅と駐車位置に十分なスペースがないとき
  - ― 真夏の炎天下でアスファルトが溶けているような路面
  - ― 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
  - ― 機械式駐車場や自動ロック装置のある駐車場、駐車場所に障害物などがある場所
  - ― 過積載のとき
  - ― 摩耗しているタイヤ、スペアタイヤのような非常用タイヤ、タイヤチェーンを装着しているとき
  - ― タイヤの空気圧が適正ではないとき
  - ― けん引フックなどを取り付けているとき
  - ― カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき

⚠ 警告

- カメラが汚れや西日、影などで見にくいとき
- ドアミラーが開き切っていないとき
- カメラが正常に取り付けられていないとき
- バンパーにセンサーの性能を妨げるようなものを取り付けたとき
- バンパーにへこみなどがあるとき
- センサー周辺に雨や雪、泥などが付着しているとき
- 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んでいたりして車両が傾いているとき

アドバイス

- 縁石や車止めは検出できません。

  縁石にホイールが接触しそうな場合や車両が車止めを越えそうな場合にはブレーキペダルを踏み車両を停止させてください。車両が損傷することがあります。

知識

- 以下のような状況ではセンサーやカメラが障害物を検出できず、駐車位置や切り返し位置が適切に調整されないことがあります。障害物がある場合はブレーキペダルを踏んで車両を停止させるなど、適切な運転操作をしてください。
  - 人、動物などの動いているもの特に人は衣服の種類によっても検出できない場合があります。
  - 背の低い障害物
  - 溝や穴など地面より低い場所
  - ポールなどの幅の狭い障害物
  - 針金、ロープ、チェーンなどの細い障害物
  - 金網、フェンス、ショッピングカートなどのすき間が多い障害物
  - 鋭角的な形の障害物
  - 壁などに配置されている配管などの障害物
  - 地面から高い位置に存在する障害物
  - 柱などで構成されている平面ではない障害物
  - スポンジ状のものや雪などの表面が柔らかく音波を吸収しやすい障害物
  - バンパーに非常に近い障害物
  - 旋回時などでセンサーの検出範囲に急に飛び込んできた障害物
  - 急に近づいてきた障害物
  - 車両側方にある障害物
  - 障害物の面が車両の前面、または後面に対して斜めのとき
  - センサー部が凍結したり、雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
  - 車両姿勢が大きく傾いているとき
  - 炎天下や寒冷時
  - 凸凹道、坂道、砂利道、草むらを走行しているとき
  - 周囲で大きな音が鳴っているとき
  - 周囲に超音波（センサーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
  - 雨や水しぶきがかかったとき
  - 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
  - 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂塵、吹雪など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
  - カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
  - 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
  - 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
  - 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき

知識

— 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
— カメラのレンズが汚れていたり、水滴が付着しているとき
— カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき

● 以下のような状況ではブレーキがかかるなど、適切に駐車制御できない場合があります。
— 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
— 周囲で大きな音が鳴っているとき
— 周囲に超音波（センサーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
— 周囲に草が生い茂っているとき
— 凸形状または凹形状の構造物の近くを通過しているとき
— 車両側方の近くに構造物（壁、料金所設備、駐車場のゲート設備など）があるとき
— 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
— 垂れ下がった旗、ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき
— 車両周辺に雪のかたまりがあるとき

● 以下のような状況ではシステムが機能を十分に発揮できない場合があります。
— 純正品以外のタイヤを使用しているとき

● 以下のような状況では設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。必要に応じて適切な位置に車両を移動してください。
— 路面が平坦ではないとき
— 極端に重い荷物を積んだり、車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

● 以下のような状況では駐車位置を検出できない、または検出しにくい場合があります。
— 自車が駐車区画に近すぎるとき
— 駐車区画がロープ、ブロックなどで作られている区画線のない駐車場
— 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
— 路面と区画線のコントラストが低いとき
— 路面の区画線が黄色などの白線以外の色のとき
— 駐車区画が極端に狭いもしくは広いとき
— 区画線が極端に短いとき
— 区画線が極端に細いもしくは太いとき
— 駐車エリアが傾斜しているなどカメラ映像上で平行な区画線に見えないとき
— 区画線が斜め線などと接続されているとき
— 区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき
— 隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき
— 駐車区画内に障害物があるとき
— 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
— 悪天候（雨、雪、霧、粉じん、砂塵、吹雪など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
— カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズがくもっているとき
— 太陽や電灯の光が路面に映っているとき
— 太陽や電灯の強い光が路面にあたっているとき
— 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
— 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
— カメラのレンズが汚れていたり、水滴が付着しているとき
— カメラの視界を妨げるようなものを取り付けたとき
— 段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
— 積雪や融雪剤があるとき
— 石畳や緑化駐車場のとき

知識

- ― 画面上で駐車区画内にノイズ状の模様があるように表示されているとき
- ― 駐車区画内に文字などが描かれているとき
- ― 路面の色や明るさが一様でないとき
- ― 駐車区画と自車が傾いて止まっているとき
- ― 通路幅が狭いとき
- ― 前方に障害物があるとき
- ― 雨、雪、氷、汚れなどがセンサーに付着しているとき
- ― 周囲で大きな音が鳴っているとき
- ― 周囲に超音波（センサーを搭載した車両を含む）を発するものがあるとき
- ― 周囲に草が生い茂っているとき
- ― 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
- ― 車両周辺に雪のかたまりがあるとき

● 以下のような状況では適切な位置に駐車位置が検出されない場合があります。

- ― 区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
- ― 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- ― 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- ― 路面の色や明るさが一様でないとき
- ― 勾配がついている駐車場
- ― 区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差しかかっているとき
- ― 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
- ― 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

● 純正品以外のタイヤを使用しているときには、設定した位置に正しく駐車制御できない場合があります。冬用タイヤなどへ交換をした際は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

マイパイロットパーキングの故障について

システムに異常があると、スマートフォン連携ナビゲーション画面に警告メッセージが表示され、マイパイロットパーキング制御アイコン（ AUTO ）の色が橙色に変わり、マイパイロットパーキングが自動的に解除されます。使用中に警告が表示されたときは、安全な場所に停車して＜パワースイッチ＞をOFFにしてから再度ONにしてください。

上記の操作を行ってもマイパイロットパーキングが起動できないときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

マイパイロットパーキングの設定

1. スマートフォン連携ナビゲーション画面の［設定］をタッチします。
2. ［マイパイロットパーキング］をタッチし、設定項目を選びます。

＜設定項目＞

［前回駐車方法を選択］	ONにすると前回の駐車方法が選択されます。 OFFにすると車庫入れが選択されます。
［左右の自動選択］	ONにすると車両の両側の駐車位置が検出されます。 OFFにすると前回マイパイロットパーキングを使用した側の駐車位置のみ検出されます。 そのとき、方向指示器を作動させると作動方向の駐車位置を検出します。

[駐車方法の設定]	マイパイロットパーキング画面で選択できる駐車方法を設定できます。 ON になっている駐車方法が駐車方法変更アイコンをタッチするごとに選択されます。 OFF になっている駐車方法は駐車方法変更アイコンをタッチしても選択されません。 ➔駐車方法を変更する (P.223)

MEMO

室内装備

室内灯

ルーム＆マップランプ／ラゲッジルームランプ P.236

収納装備

グローブボックス P.238
アッパーグローブボックス P.238
車検証入れ P.238
ドリンクホルダー／ボトルホルダー P.239

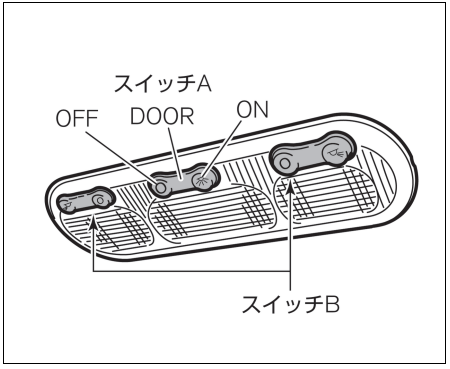
その他の室内装備

SOS コール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★ P.241
ステアリングヒーター★ P.245
シートヒーター★ P.245
アクセサリーソケット（DC12V） P.246
コンビニエントフック P.246
フロアマット P.246
サンバイザー／バニティミラー P.247
カードホルダー P.248
シートアンダートレイ★ P.248
ラゲッジフロアボード P.249
アシストグリップ P.249

ルーム＆マップランプ／ラゲッジルームランプ

ルーム＆マップランプの使いかた

●次のように点灯・消灯します。



スイッチA

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
＜ ON ＞	すべてのルームランプが常時点灯
＜ DOOR ＞（中立）	ドアを開けるとすべてのルームランプが点灯し、閉めると消灯します。
＜ OFF ＞	消灯

スイッチ B

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
＜ [illegible] ＞	スイッチを押した方のマップランプが常時点灯
＜○＞（水平）	スイッチ A が中立のとき、ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

アドバイス

- ＜パワースイッチ＞がOFFのときは、ルーム＆マップランプを長時間点灯させないでください。補機用バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- スイッチAが中立かつスイッチBが水平位置にあると、次の条件で点灯します。
  - ― ＜パワースイッチ＞をOFFにしてから約15秒間
  - ― ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - ― ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ― ドアが開いているとき
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］を選択すると、キー連動室内照明システムのON・OFFを切り替えることができます。

設定の詳細については、車両設定をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)

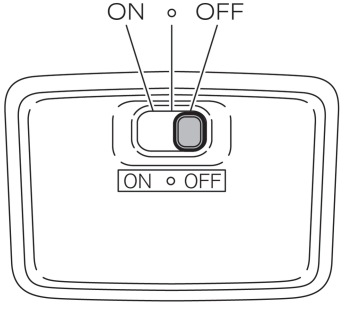
➔車両設定 (P.89)

バッテリーセーバー

- 補機用バッテリーあがりを防止するため、ルーム＆マップランプは15分以上点灯し続けると消灯します。

ラゲッジルームランプの使いかた

●次のように点灯・消灯します。



スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
＜ ON ＞	常時点灯します。
＜○＞（中立）	ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

スイッチ位置	点灯・消灯のしかた
＜ OFF ＞	常時消灯します。

アドバイス

- ＜パワースイッチ＞がOFFのときは、ラゲッジルームランプを長時間点灯させないでください。補機用バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

キー連動室内照明システム

- スイッチが中立の位置にあると、次の条件で点灯します。
  - ― ＜パワースイッチ＞をOFFにしてから約15秒間
  - ― ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - ― ＜パワースイッチ＞がOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
  - ― ドアが開いているとき
- マルチインフォメーションディスプレイで［設定］⇒［車両設定］⇒［ライト/照明］を選択すると、キー連動室内照明システムのON・OFFを切り替えることができます。

  設定の詳細については、車両設定をお読みください。

➔マルチインフォメーションディスプレイとは (P.78)

➔車両設定 (P.89)

バッテリーセーバー

- 補機用バッテリーあがりを防止するため、ラゲッジルームランプは15分以上点灯し続けると消灯します。

グローブボックス

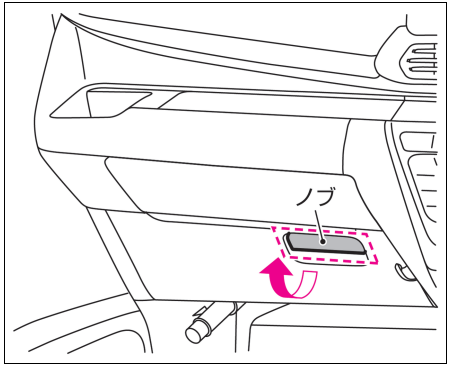
グローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- **グローブボックスを開けたまま走行しない。**

  ブレーキをかけたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たったりするなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ふたを開けるときは、ゆっくり開ける。**

  ふたを全開にしたとき身体に当たるおそれがあります。



●開けるときは、ノブを手前に引きます。
●閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

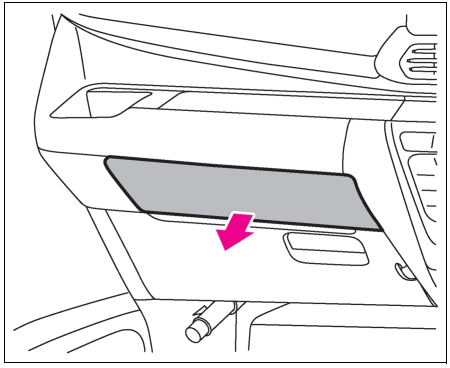
アッパーグローブボックス

アッパーグローブボックスの使いかた

⚠ 注意

- **開けたまま走行しない。**

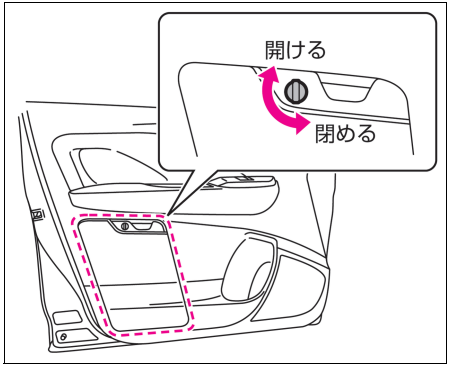
  収納した物が飛び出したりして、思わぬケガをしたり、事故につながるおそれがあります。



●開けるときは、引き出します。
●閉めるときは、押し戻します。

車検証入れ

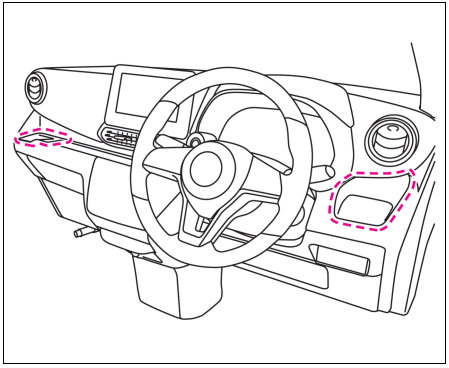
車検証入れの使いかた



●助手席ドア内側に車検証を収納できます。
●開けるときは、ツマミを右に90°回してカバーを開けます。
●閉めるときは、カバーを閉じてツマミを左に90°回します。

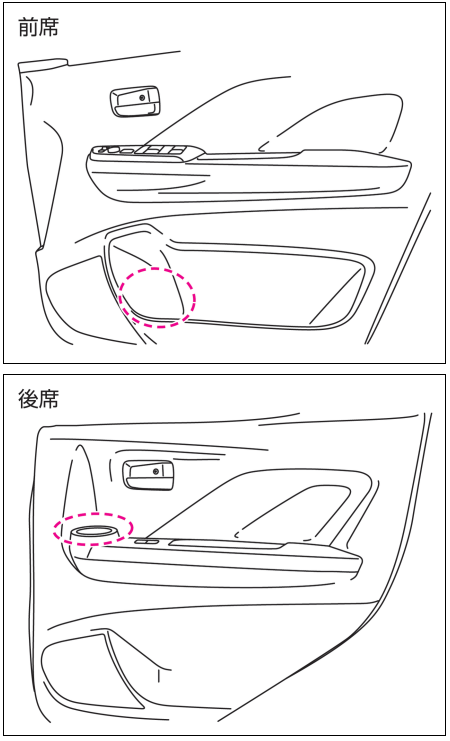
ドリンクホルダー／ボトルホルダー

前席シート用ドリンクホルダーについて



●インストルメントパネル部に2箇所あります。

ボトルホルダーについて



●ボトルホルダーは、前席および後席のドアにあります。

ドリンクホルダー／ボトルホルダーに関する注意事項

⚠ 警告

- **運転中に飲物を出し入れしない。**

  運転中に飲物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。運転中は信号待ちなどの停車中に飲物を出し入れしてください。

- **車内に水をかけたり、飲物などをこぼしたりしない。**

  スイッチ類、配線や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となったり、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

  万一、飲物などをこぼした場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかに三菱自動車販売会社にご相談ください。

- **ビンなどの硬いものは入れない。**

  側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **熱い飲物を置かない。**

  熱い飲物をドリンクホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、飛び散ったりして、乗員がやけどを負うおそれがあります。

⚠ 注意

- **飲物をこぼさないように注意する。**
  飲物の容器の形によっては、確実に固定されないおそれがあります。
- **車室内のスイッチや画面などに飲物をこぼさないようにする。**
  故障や火災のおそれがあります。

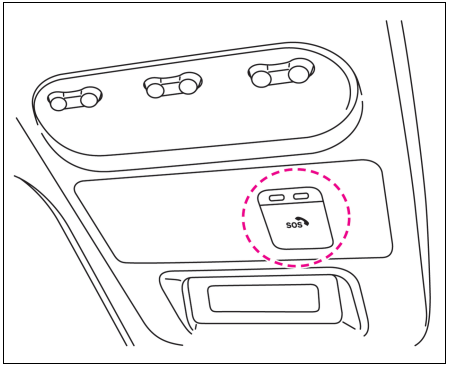
アドバイス

- 飲物や液体がいっぱいに満たされた容器をドリンクホルダーに置くと、走行中にこぼれたり、漏れ出したりして、車両の電子機器などに損傷を与えるおそれがあります。いっぱいに満たされた容器を置かないでください。

SOS コール（エアバッグ展開時自動通報機能付）★

＜SOSコールスイッチ＞を押すことでSOSコールを開始できます。また、事故発生時（SRSエアバッグ、SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ、SRSニーエアバッグ展開時）には自動でSOSコールを開始します。

SOS コールについて



●＜パワースイッチ＞がONのとき、＜SOSコールスイッチ＞を押すと、SOSコールを開始できます。

●事故発生時（SRSエアバッグ、SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ、SRSニーエアバッグ展開時）には自動でSOSコールを開始します。

●SOSコールスイッチは、ルーム＆マップランプ周辺にあります。

●マイパイロット緊急停止支援システム（SOSコール機能付）により緊急停止したときには自動でSOSコールを開始します。

知識

- SOSコールとは、急病・犯罪・事故などの緊急時に警察・消防・医療機関への連絡を補助するサービスです。
- SOSコールのサービス提供は、（株）日本緊急通報サービスからのものです。
- 三菱自動車販売会社でサービスのお申し込みと、車両側での初期設定が完了していないと、SOSコールを利用することができません。
- エアバッグ展開を伴う自動通報（SOSコール）後は、自動通報機能が使用できなくなります。リセット作業が必要ですので、三菱自動車販売会社へお問い合わせください。

SOS コールの使いかた

⚠ 警告

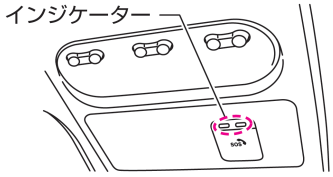
- **＜SOSコールスイッチ＞を押すときは、安全な場所に停車してから行う。**

走行中に運転者がスイッチを押そうとすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

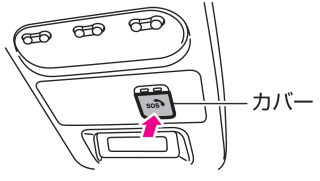
- **SOSコールは無線通信機能を利用しています。心臓ペースメーカーなどの医療用電気機器を使用している場合は、当該の医療用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波の影響について必ず確認してください。**

アドバイス

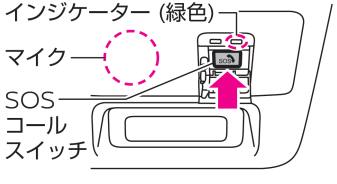
- 以下の場合は、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
  - ＜パワースイッチ＞をONにしても、インジケーターが赤色・緑色ともに点灯状態にならないとき
  - インジケーターが赤色・緑色ともに点灯してから約5秒後、赤色のインジケーターのみ点灯しているとき
- インジケーターが赤色･緑色ともに消灯している場合は、電波環境のよい場所まで車を移動させてください。



1. ＜パワースイッチ＞をONにします。
＜SOSコールスイッチ＞のインジケーターが赤色・緑色ともに点灯し、約5秒後に緑色のみ点灯を続けます。



2. ＜SOSコールスイッチ＞のカバーを押して開きます。



3. ＜SOSコールスイッチ＞を約1秒間押します。
緑色のインジケーターが点滅し、オペレーターに繋がります。
4. SOSコールサービスのオペレーターと通話します。
状況に応じてオペレーターからの折り返し、もしくは公共機関（警察・消防・医療機関）からの通話着信があります。着信時は自動で音声接続します。
通話が終了したら、カバーを戻し、ロックするまで押します。

知識

- SOSコールサービスのオペレーターや公共機関との通話中は、車両側から通話を終了させることはできません。

SOS コールスイッチのインジケーターについて

● <SOSコールスイッチ>には、システムの状態を表すインジケーターがあります。

インジケーターの点灯パターン		システム状態	説明・対処方法
赤色	緑色		
(消灯)	(消灯)	システム OFF サービスエリア外	● システムが OFF の状態です。 ● <パワースイッチ>を ON にすると電源が入ります。<パワースイッチ>を ON にしても、インジケーターが赤色·緑色ともに点灯状態にならないときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● 電波環境が悪く、SOS コールを開始できない状態です。車を電波環境のよい場所へ移動させてください。
(点灯)	(点灯)	システム ON 通知	● システムが ON になったことを知らせます。 ● システムが ON になると、約 5 秒間点灯します。 ● 初期設定が完了していないと点灯を続けます。
(消灯)	(点灯)	SOS コール開始可能	● SOS コールを開始できる状態です。
(消灯)	(点滅)	SOS コール利用中	● オペレーターと通話中の状態です。
(点灯)	(消灯)	システム異常 SOS コールサービス契約なし	● システム異常または SOS コールサービス契約がなく、サービスを正常に提供できない状態です。すみやかにサービスの利用契約期限をご確認いただき、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

SOS コールに関する注意事項

アドバイス

- <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターのみ点灯する場合は、システムに異常があるか、サービスの契約期限が切れています。契約期限をご確認いただき、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- 補機用バッテリーあがりにつながるため、SOSコール利用中は安全を確認したうえでパワーユニットを停止せずにご使用ください。
- 通話中は、<SOSコールスイッチ>の横にあるマイクに向かって話してください。
- SOSコールは、携帯電話と同様のデータ網を使用しています。圏外エリア（トンネル内、地下駐車場など）や電波の届きにくい場所（山間部）では利用できない場合があります。
- 救急車両は車両位置／車種／車体色／登録ナンバーをもとに現場の通報車両を特定します。元の車体色がわからなくなるほど塗り替えをしてしまっていると、救急車両の到着が遅れる場合があります。
- システムを利用する前にMITSUBISHI CONNECT サービスの契約が必要です。
- システムを利用する前に車両側で初期設定が必要です。サービス契約後は三菱自動車販売会社で初期設定を完了してください。
- 車の登録ナンバーを変更したときは、MITSUBISHI CONNECT登録情報を変更してください。SOSコール利用時、会員登録上の車のナンバーと実際の車のナンバーが一致しない場合、救急隊員の到着が遅れることがあります。
- SOSコールサービス契約中に車を手放す場合は、MITSUBISHI CONNECT の退会手続きを行ってください。退会方法は専用Webサイトをご覧ください。

MITSUBISHI CONNECT 専用 Web サイト：

https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/connect/

知識

- SOSコールは、国内でのみ利用できます。
- SOSコールは、MITSUBISHI CONNECT サービスに申し込みいただくことで利用できます。
- <SOSコールスイッチ>の赤色のインジケーターが点灯していても、SOSコールを開始することができます。ただし、発生している異常によっては、音声通話や救急車両の案内を正常に行えないことがあります。すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- SOSコール開始後は通話のキャンセルはできません。いたずらや機能確認など、緊急の場合以外で<SOSコールスイッチ>を押さないでください。
- SOSコールは車載された通信機を使用するため、お客さまの携帯電話がなくても利用できます。
- 通話中の音声は、ボリュームを変更することができません。
- 本システムは、オープンソースを使用したソフトウェアを実装しています。ライセンスについて、次のWebサイトを参照してください。

  http://opensourceautomotive.com/IC/tZ7T3eE6AiV4

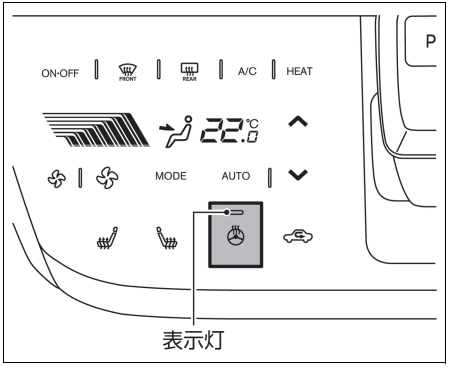
ステアリングヒーター★

ハンドルを温めます。

アドバイス

- 補機用バッテリーあがりを防止するため、メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているときに使用してください。

ステアリングヒーターの使いかた



- スイッチをタッチすると約30分間作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 作動中にスイッチをタッチすると作動が停止します。（スイッチの表示灯が消灯）
- ハンドルの温度が一定温度以上のときは、スイッチをタッチしてもステアリングヒーターは作動しません。

知識

- 外気温が低い（約10°C以下）とき、タイマーエアコンまたはリモートエアコン（タイマーエアコン）★、リモートエアコン（今すぐエアコン）★を作動させると、次のようにステアリングヒーターが自動的に作動します。
  - タイマーエアコンまたはリモートエアコン（タイマーエアコン）作動時：設定した出発時刻の約15分前から作動
  - リモートエアコン（今すぐエアコン）作動時：エアコンの作動開始から約15分間作動

シートヒーター★

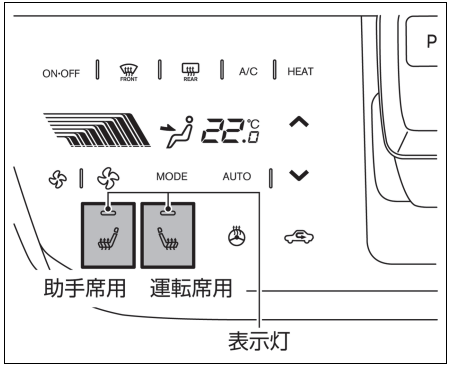
前席シートの座面を温めます。

シートヒーターの使いかた

注意

- **長時間の連続使用はしない。**
  低温やけどの原因になります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意してください。

- **硬くて重い物や突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートを突き刺したりしない。**



- スイッチをタッチすると作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 止めるときは、再度スイッチをタッチします。（スイッチの表示灯が消灯）
- スイッチをタッチすると、操作音が鳴ります。

アドバイス

- 過熱するおそれがあるため、シートに毛皮や座布団を載せたり、シートカバーを使用しないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。

アドバイス

- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。
- 補機用バッテリーあがりを防止するため、メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているときに使用してください。

アクセサリーソケット（DC12V）

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。

アクセサリーソケットの使いかた

警告

- **アクセサリーソケットを使うときは、次のことを守る。**

  アクセサリーソケットの不適切な使用は、車両のヒューズが切れるだけでなく、最悪の場合、車両火災ややけどのおそれがあります。

  — 複数のアクセサリーソケットを持つアダプターを使用して、一度にたくさんの機器を接続しないでください。

  — 消費電力120W以下のものを使ってください。

  — 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入してください。

  — 使用中や使用後はソケットやプラグの取り扱いに十分注意してください。

  — シガーライターをソケットに差し込まないでください。

  — ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

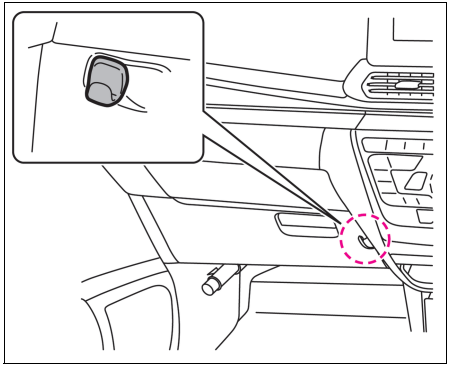
- アクセサリーソケットはインストルメントパネルにあります。
- ふたを開けて使います。
- 使用しないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- 相手プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源をOFFにするか、<パワースイッチ>をOFFにしてください。

アドバイス

- 補機用バッテリーあがりを防止するため、READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているときに使用してください。また、長時間使用したり、エアコン、ヘッドライト、リヤデフォッガーなどを同時に使用したりしないでください。

コンビニエントフック

コンビニエントフックの使いかた



- 買い物袋などを引っ掛けるときに使います。

アドバイス

- フックの変形または破損を防ぐため、次のことをお守りください。

  — 3kg以上の物を掛けない

  — 炎天下などで車内が高温のときは、物を掛けたままにしない

フロアマット

この車（年式）専用のフロアマットが設定されています。

床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

⚠ 警告

- **この車（年式）専用のフロアマットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用する。**

  フロアマットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなったりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- **運転席にフロアマットを敷くときは、次のことを守る。**

  — 三菱自動車純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない。

  — フロアマットでペダルを覆わない。

  — フロアマットを重ねて敷かない。

  — 運転席専用のフロアマットを使用する。

  — フロアマットを前後さかさまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。

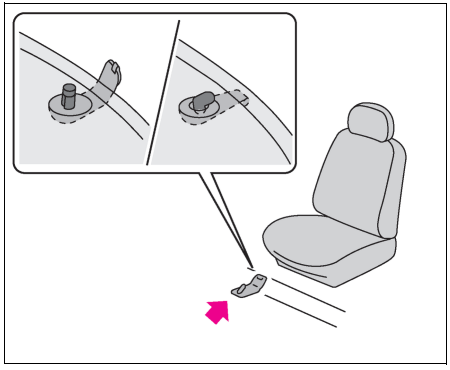
- **運転する前にフロアマットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。**

- **運転に支障がないことを確認する。**

  運転する前、<パワースイッチ>がOFFの状態で各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

- **タバコの火種をフロアマットなどに落とさない。**

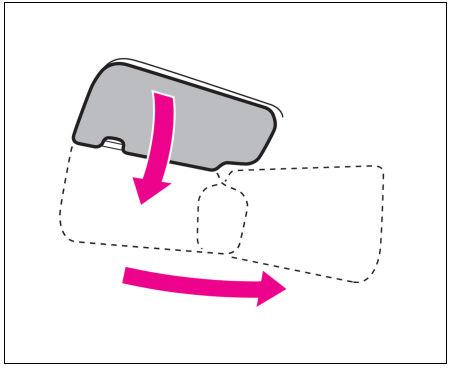
  火災につながるおそれがあります。



- 床面には三菱自動車純正フロアマット用の固定クリップが付いています。
- フロアマットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ・ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、三菱自動車販売会社にお問い合わせください。

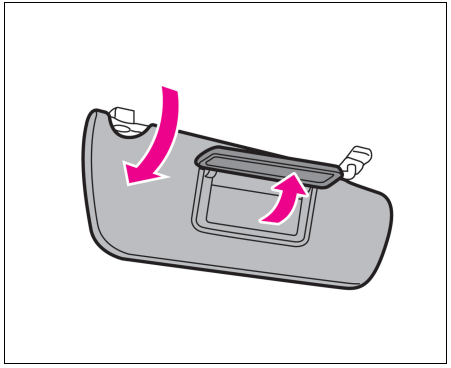
サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー



- 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
- 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

バニティミラー★の使いかた

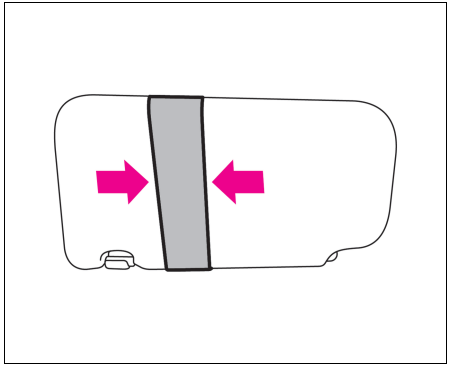


- サンバイザー裏側にバニティミラー（鏡）が付いています。
- サンバイザーを下に下げ、カバーを開けて使います。

カードホルダー

カードホルダーの使いかた

タイプA

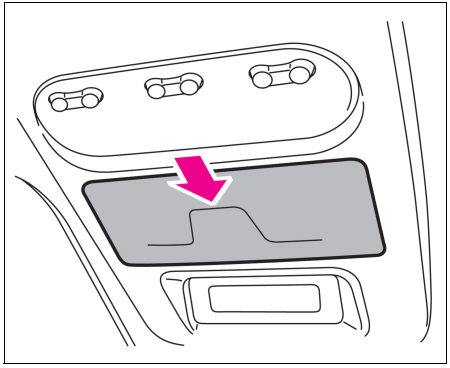


- 運転席側のサンバイザーにカードホルダーが付いています。
- カードをスライドさせ、差し込みます。

アドバイス

- 炎天下での駐車は車室内が大変高温になりますので、カードを入れたままにしないでください。カードが変形するおそれがあります。

タイプB★



- ルーム＆マップランプ付近にカードホルダーが付いています。
- カードを挟み込んで使います。

シートアンダートレイ★

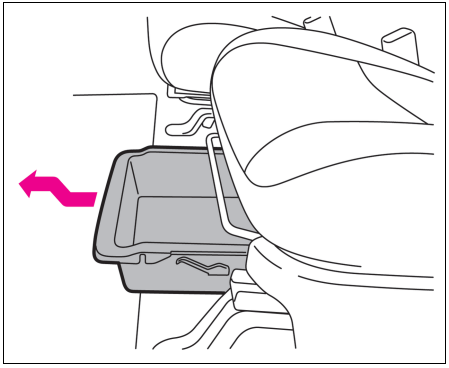
シートアンダートレイの使いかた

⚠ 注意

- **引き出したトレイは、最後まで確実に押し込む。**

  引き出したトレイを戻すときは、最後まで確実に押し込んでください。

  また、トレイを引き出したまま走行しないでください。ブレーキをかけたときなどにトレイや収納した物が飛び出し、思わぬケガをするおそれがあります。



●助手席シートの下にあります。
●使用するときは、トレイを少し上げながら引き出します。
●戻すときは、トレイを押し込みます。

アドバイス

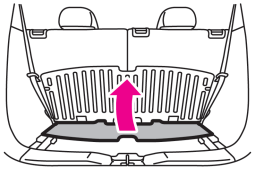
- トレイからはみ出るほど、物を入れないでください。シートの調節レバーに当たりレバー操作を妨げたり、収納した物が取り出せなくなったりするおそれがあります。
- 2kg以上の物を入れないでください。トレイが破損するおそれがあります。

ラゲッジフロアボード

大きな荷物をラゲッジアンダーボックスに収納する際は、ラゲッジフロアボードを持ち上げてください。

ラゲッジフロアボードの持ち上げかた

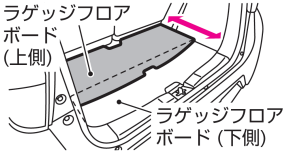
1. テールゲートを開けます。
テールゲートの開けかた (P.108)



2. 上側のボードごと下側のラゲッジフロアボードを持ち上げます。

知識

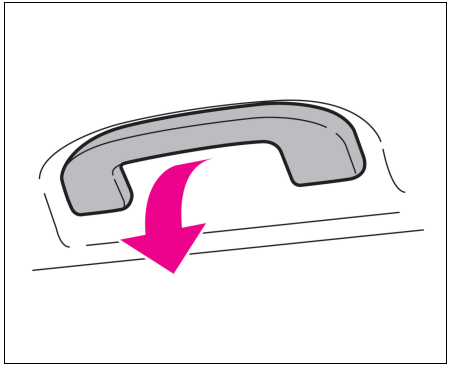
- 上側のラゲッジフロアボードは、後席シート位置にあわせて前後にスライドします。



アシストグリップ

アシストグリップの使いかた

●アシストグリップは、前席シート左右および後席シート左右にあります。



注意

- **アシストグリップに手をかけて乗り降りしない。**
  アシストグリップは、走行中などシートに座った状態で身体を支えるために使用してください。乗降用ではないため、手をかけて乗り降りしないでください。万一、アシストグリップが外れた場合は、思わぬケガをするおそれがあります。

MEMO

まずはじめに

故障したときは	P.252
発炎筒	P.253
けん引について	P.253

緊急時の対処法

パンクしたときは	P.256
ドアが開かないときは	P.260
パワーユニットを始動できないときは	P.261
補機用バッテリーがあがったときは	P.261
パワーダウン警告灯が点灯したときは	P.263
駆動用バッテリーの残量がなくなったときは	P.263
警告灯がついたときは	P.264
警告メッセージが表示されたときは	P.271
ブザー（警報音）が鳴ったときは	P.289
窓ガラスがくもったときは	P.290
雪道やぬかるみにはまったときは	P.291
水没したときは	P.291
外装ランプが点灯しないときは	P.292
ヒューズが切れたときは	P.294

故障したときは

車両が故障したときは、次の手順で対処してください。

故障したときの対処のしかた

⚠ 警告

- **発炎筒はトンネル内では使用しない。**

  煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり、事故につながるおそれがあります。非常点滅表示灯を使ってください。

⚠ 注意

- **走行中にメーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が消灯したときは、慎重に運転する。**

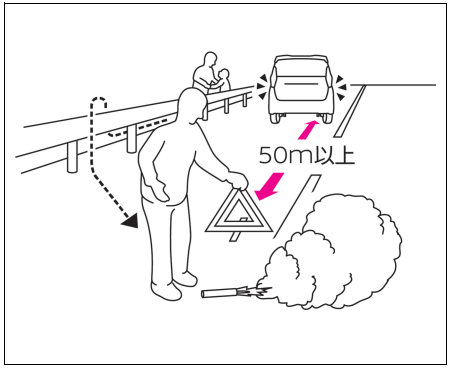
  故障によりメーター内のREADY（走行可能）表示灯が消灯すると、ブレーキやパワーステアリングが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあります。

  すみやかに安全な場所に停車してください。

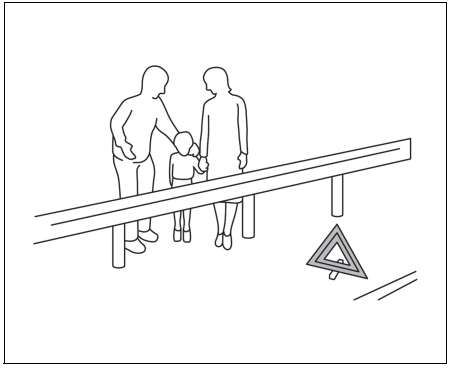
アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務付けられています。
- 高速道路上では1kmごとに非常電話が設置されています。

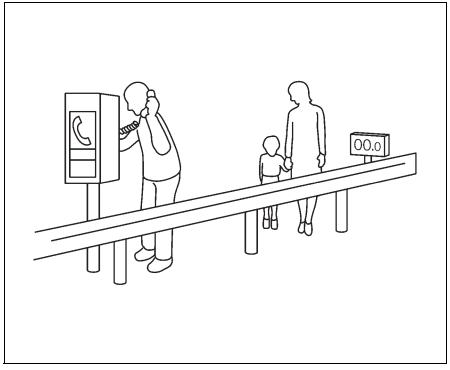
1. 非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。
   路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。



2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、車両の50m以上後方に発炎筒と停止表示板（停止表示灯）を置きます。
   ➔ 発炎筒 (P.253)



3. 運転者もガードレールの外側などに避難します。
   避難するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないよう注意してください。



4. 非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。

発炎筒

高速道路や踏み切りなどで故障・事故により緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

発炎時間は約5分です。非常点滅表示灯と併用してください。

発炎筒の使いかた

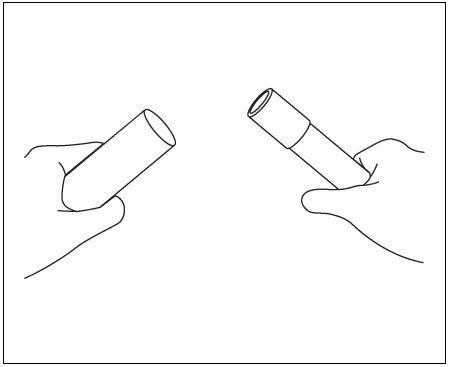
⚠ 警告

- **お子さまには触らせない。**
  いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- **可燃物の近くで使用しない。**
  引火するおそれがあります。
- **点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけない。**
  やけどをするおそれがあります。

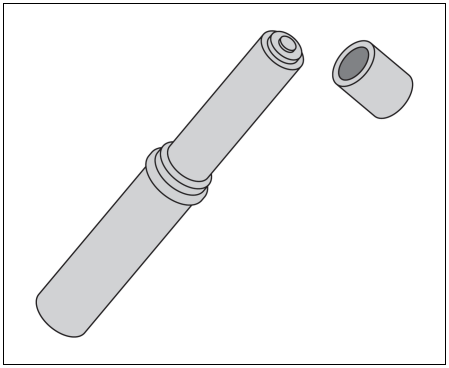
アドバイス

- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に三菱自動車販売会社でお買い求めください。

1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。



2. 本体を回しながらケースから引き抜き、本体を逆さにして差し込みます。



3. 先端のふたを取り、ケースのすり薬で発炎筒の先端をこすって着火します。

けん引について

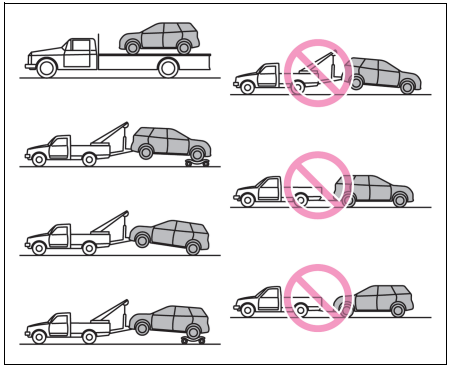
けん引が必要なときは、三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。

けん引時の注意事項

- 車両が動かなかったり、異常な音がしたりするときは、けん引せずに三菱自動車販売会社へご連絡ください。
- 前輪または4輪を持ち上げてけん引してください。
- やむをえず4輪接地の状態でけん引されるときは、シフトポジションを**N**にした状態で行ってください。
- この車両は、オートP機能（➔P.142）により、＜パワースイッチ＞がOFFのときはシフトポジションを**P**から**N**に切り替えることができません。そのため、補機用バッテリーあがりなどで＜パワースイッチ＞がOFFから切り替えられないときは、4輪接地の状態でけん引できません。
- 4輪接地でけん引してもらうときは、速度30km/h以下で路肩に寄せる程度の移動のみとしてください。
- けん引ロープはできるだけソフトロープを使い、バンパーに傷をつけないように注意してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。

- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。
- けん引中は、イノベーティブペダル オペレーションモードをOFFにする。
- けん引中は、マイパイロット★をOFFにする。
- けん引中は、踏み間違い衝突防止アシスト[EAPM]をOFFにする。

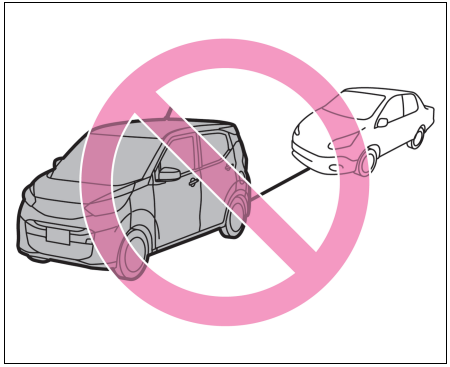


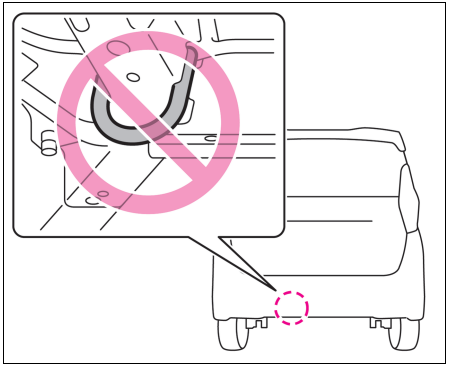
⚠ 注意

- **前輪を持ち上げてけん引するときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**

  アクティブスタビリティコントロール［ASC］が作動し、ブレーキがかかることがあります。

リヤフックについて





この車両で他車をけん引することはできません。後ろ側についているフック（リヤフック）は船舶または、トレーラー輸送時の固定専用です。

けん引時などの固定には絶対使用しないでください。

アドバイス

- けん引用として使うと、車両を損傷するおそれがあります。

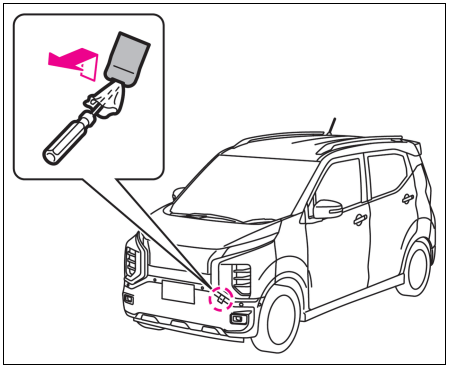
やむをえず 4 輪接地でけん引されるときは

⚠ 注意

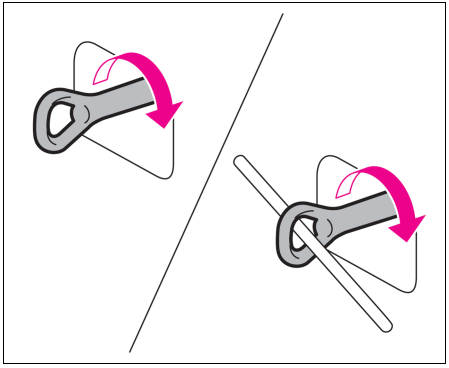
- **メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が消灯していると、ブレーキやハンドルが正しく機能せず、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなったりすることがあるので注意して運転する。**
- **けん引フックに指定以外のフックは絶対に使用しない。**

  フック部が破損するおそれがあります。
- **長い下り坂ではけん引しない。**

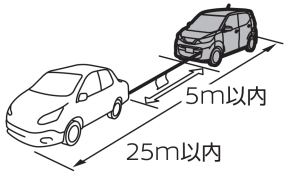
  ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。



1. 先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。



2. 金属の固い棒などを使用して、けん引フックを取り付けます。
➔工具、パンクタイヤ応急修理キットの格納場所 (P.299)



3. 自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm×30cm以上の白い布を取り付けます。

4. パーキングブレーキを解除し、パワーユニットを始動してシフトポジションをNに切り替えます。
パワーユニットを始動できないときは＜パワースイッチ＞をONにし、シフトポジションをNにしてください。

アドバイス

- 4輪接地の状態でけん引されるときは、パワーユニットを始動するか＜パワースイッチ＞をONにしてシフトポジションをNにした状態で行ってください。＜パワースイッチ＞がOFFのときは、オートP機能によりシフトポジションをNに切り替えられないため、けん引することができません。
➔各シフトポジションの機能 (P.142)
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤおよびジャッキが標準で搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、パンクタイヤ応急修理キットで応急修理ができます。

応急修理する前に

- パンクタイヤ応急修理キットの修理剤を使用したタイヤは、新しいタイヤに交換されることをおすすめします。タイヤの交換については専門の修理業者と相談し、損傷が激しい場合は交換、修理可能と判断された場合は修理を実施してください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できますが、タイヤのバルブは新しいものと取り替えてください。
- 修理剤とホースは再使用できません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

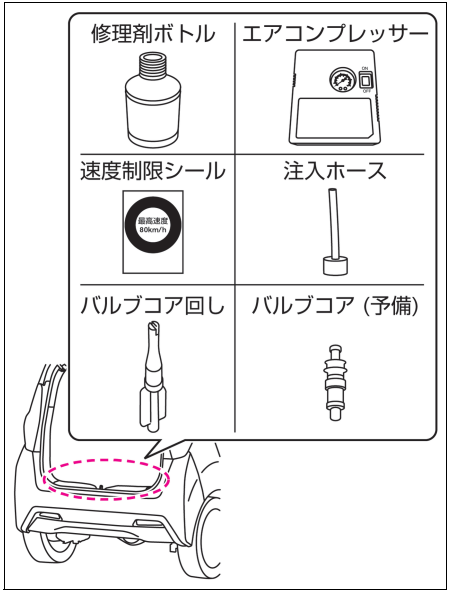
応急修理を行うときは、次の準備をしてください。

- 地面が固く平らな場所に車両を移動する。
- パーキングブレーキをかける。
- シフトポジションを**P**にする。
- <パワースイッチ>をOFFにする。
- 非常点滅表示灯を点滅させる。
- 次の場合はパンクタイヤ応急修理キットでは応急修理ができません。三菱自動車販売会社またはJAFなどに連絡してください。
  - 約4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
  - タイヤサイド部が損傷を受けたとき
  - ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
  - タイヤがホイールから外れているとき
  - ホイールが破損しているとき
  - タイヤが2本以上パンクしているとき
  - 修理剤の有効期限が切れているとき

アドバイス

- タイヤに釘やネジが刺さっている場合は、抜いてしまうとパンク穴が大きくなり空気が漏れやすくなるため、抜かずにパンクタイヤ応急修理キットで応急修理してください。

パンクタイヤ応急修理キットについて



- タイヤトレッド部（接地面）の軽度なパンクは、パンクタイヤ応急修理キットで応急修理できます。
- パンクタイヤ応急修理キットは、ラゲッジルームに格納されています。
  ➔工具、パンクタイヤ応急修理キットの格納場所（P.299）
- 応急修理を目的としているため、修理後に長期間の走行はできません。修理後はすみやかに三菱自動車販売会社または専

門の修理業者で点検、恒久修理またはタイヤ交換を行ってください。

知識

- パンクタイヤ応急修理キットを取り出すときは、後席シートを車両前方へスライドさせてください。

応急修理のしかた

■ 修理剤の注入

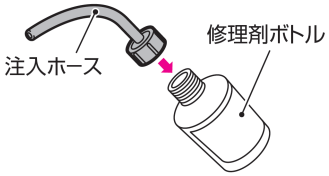
1. 修理剤ボトルとエアコンプレッサーを取り出し、修理剤ボトルをよく振ります。

⚠ 注意

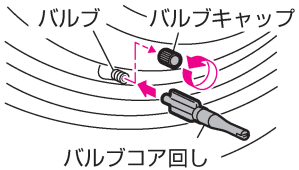
- **バルブコアは慎重に取り外す。**
  外すときにタイヤに空気が残っていると、コアが飛び出すおそれがあります。

知識

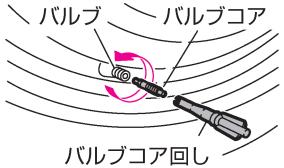
- 修理剤ボトルは注入ホースをねじ込む前によく振ってください。注入ホースをねじ込んだあとに修理剤ボトルを振ると、修理剤が飛び散るおそれがあります。
- 修理剤は衣服などに付着すると取れなくなるおそれがありますので注意してください。
- 寒冷時には修理剤の粘度が高くなり、注入作業がしにくくなります。その場合、車内などで温めると注入作業がしやすくなります。



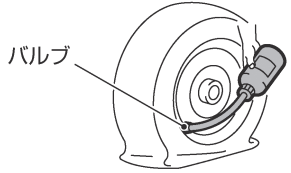
2. 修理剤ボトルの内ぶたを付けたまま注入ホースをねじ込みます。（注入ホースをねじ込むと内ぶたが破れます。）



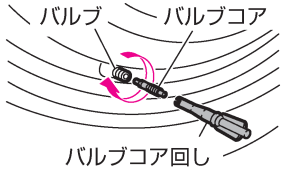
3. パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを外し、ビニール袋に入っているバルブコア回しの後ろでバルブ内のバルブコアを押し、タイヤの空気を完全に抜きます。



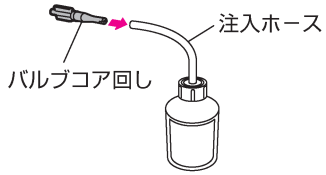
4. バルブコア回しでバルブコアを回し、取り外します。



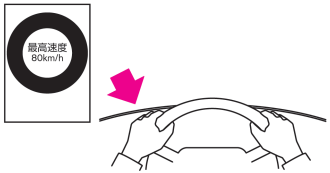
5. 注入ホースをバルブに差し込みます。その後、修理剤ボトルをさかさまにして持ち、修理剤がすべてタイヤ内に注入できるまで何回も圧迫します。



6. 注入し終わったら、注入ホースをバルブから引き抜き、バルブコア回しを使ってバルブコアをバルブにしっかりとねじ込みます。



7. 注入が終わった空ボトルから修理剤が漏れるのを防ぐため、注入ホースの先端にバルブコア回しを差し込んで栓をします。



8. 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。

⚠ 注意

- **ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らない。**

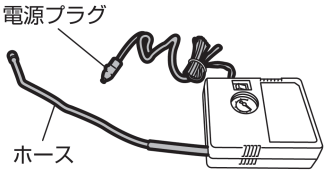
  SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

知識

- バルブコアは汚れないようにきれいに保管してください。

- 空になった修理剤ボトルは、タイヤ交換または恒久修理のときに修理剤の回収に使いますので、捨てずに三菱自動車販売会社または修理業者までお持ちください。

■ エアの注入



1. エアコンプレッサーに格納されているホースと電源プラグを取り出します。

⚠ 注意

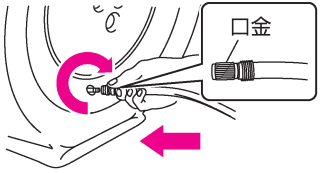
- **空気を入れたあとは、ホースの口金が熱くなることがあるため、やけどしないように注意する。**

アドバイス

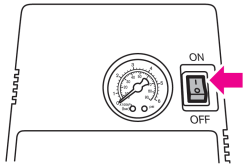
- コンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。タイヤ空気圧を昇圧できない場合は修理できません。

知識

- タイヤの指定空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。
- 車種により、コンプレッサーの形状が異なります。



2. エアコンプレッサーのホースの口金をタイヤのバルブにしっかりとねじ込みます。
3. 電源プラグを車内のアクセサリーソケットに差し込みます。
4. <パワースイッチ>をONにします。



5. エアコンプレッサーのスイッチをONにし、タイヤを指定空気圧まで昇圧させます。
6. 指定空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチをOFFにし、電源プラグをアクセサリーソケットから抜きます。

7. ホースをタイヤのバルブからすばやく取り外し、タイヤのバルブにキャップを取り付けます。

10分以内に指定空気圧まで昇圧できない場合

10分以内に指定空気圧まで昇圧できない場合は、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。三菱自動車販売会社またはJAFなどに連絡してください。

空気を入れすぎてしまったとき

ホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

■ 点検走行

1. ただちに走行を始め、10分間または5km程度走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
2. 走行後、エアコンプレッサーのスイッチがOFFになっていることを確認し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックしてください。

130kPa未満の場合

本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

130kPa以上指定空気圧未満の場合

エアコンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで昇圧し、点検走行の作業を行います。上記作業を繰り返しても指定空気圧より低下する場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止して三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

JAFの営業所一覧…別冊のメンテナンスノートをお読みください。

指定空気圧の場合

応急修理は完了です。すみやかに三菱自動車販売会社または専門の修理業者まで慎重に運転してください。

⚠ 注意

- **走行するときは、低速で慎重に運転し、特にカーブや旋回時には注意する。**

アドバイス

- 応急修理後の恒久修理の際、パンク穴を発見できないために恒久修理できないことがあります。そのまま走行を続ける場合は、こまめに空気圧をチェックしてください。頻繁に空気圧の低下がみられるときは、三菱自動車販売会社または修理業者で点検を受けてください。

パンクタイヤ応急修理キットの注意事項

⚠ 注意

パンクタイヤ応急修理キットについて

- **パンクタイヤ応急修理キットは搭載車両専用のため、他の車には使用しない。**
- **パンクタイヤ応急修理キットは自動車用タイヤの空気充てんや空気圧チェック以外で使用しない。**
- **パンクタイヤ応急修理キットはDC12V専用のため、他の電源での使用はしない。**
- **分解、改造などは絶対にしない。**
- **コンプレッサーに衝撃を与えない。**

  故障の原因となります。
- **お子さまが誤って手を触れないように注意する。**

修理剤について

- **修理剤を口に入れない。**

  修理剤を飲みこむと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診療を受けてください。
- **万一、目や皮膚に付着したときは、水でよく洗い流す。**

  それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

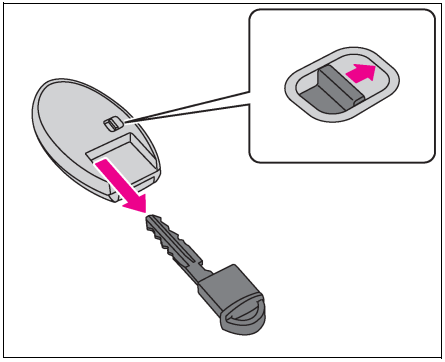
アドバイス

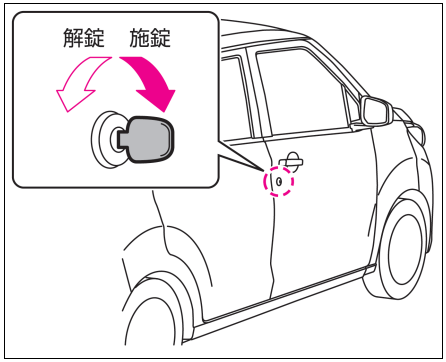
- パンクタイヤ応急修理キットは、必ず三菱自動車純正品を使用してください。
- 水やほこりを避けて使用してください。

ドアが開かないときは

キーレスオペレーションキーの電池が切れたときや、補機用バッテリーがあがったときなどドアが開かないときは、次の方法で施錠・解錠してください。

内蔵キー（エマージェンシーキー）でのドアの開けかた

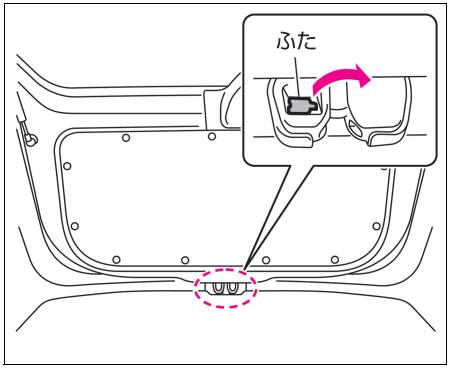




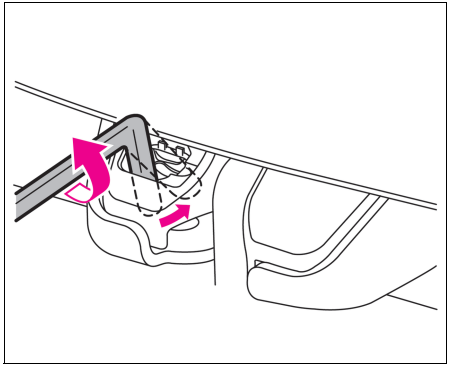
運転席ドアにある鍵穴に内蔵キーを差し込んで車両後方に内蔵キーを回すと解錠します。施錠するときは、車両前方に内蔵キーを回します。

緊急時のテールゲートの開けかた

補機用バッテリーあがりなどにより、テールゲートを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。



●テールゲートの車室内側にあるロック機構のふたを開けます。



●お手持ちの六角レンチを穴に差し込みレバーを矢印の方向に動かして解錠し、テールゲートを持ち上げます。

アドバイス

- この手順は、あくまで故障時の緊急手段です。故障の原因になるため、正常なときは使用しないでください。
- <テールゲートオープナースイッチ>などの故障につながるおそれがあるため、この操作をしたときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- 操作後はなるべく早く三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

パワーユニットを始動できないときは

キーの電池が切れたときや、使用環境によりキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順でパワーユニットを始動してください。

始動のしかた

1. ブレーキペダルを踏み、キーのロゴマークの裏面を<パワースイッチ>に接触させます。
（ブザーが"ピピッ"と鳴ります。）
2. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を押します。

アドバイス

- 上記の手順でパワーユニットを始動できない場合は、早めに三菱自動車販売会社に連絡してください。

- ドアの施錠・解錠は、内蔵キー（エマージェンシーキー）（➔P.260）をご使用ください。
- キーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
➔キーレスオペレーションキーの電池交換（P.309）

停止のしかた

停止操作は通常と同じ手順です。

補機用バッテリーがあがったときは

補機用バッテリーがあがり、パワーユニットの始動ができなくなったときは救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

⚠ 警告

- **ジャンプスタートを行うときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
補機用バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受ける。**
バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。
- **ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ。**
- **ブースターケーブルを自車バッテリーの⊖端子に直接つながない。**
- **ブースターケーブルの⊕端子と⊖端子を接触させない。**
火花が発生し、補機用バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- **補機用バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、補機用バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **補機用バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

⚠ 警告

しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

ジャンプスタートのしかた

⚠ 注意

- **ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触したりしないように注意する。**
- **ブースターケーブルは、確実に接続する。**

  救援車のエンジン始動時の振動で外れたりしないように確実につないでください。
- **冷却ファンやベルトに注意する。**

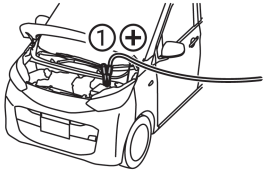
  ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

アドバイス

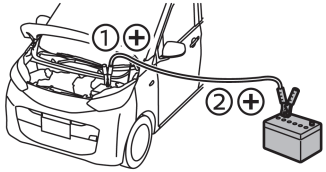
- 押しがけによる始動はできません。
- この車両を救援車として使用しないでください。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。

- ジャンプスタートを行うときは、充電ケーブルを取り外してください。車両または充電機器を破損するおそれがあります。

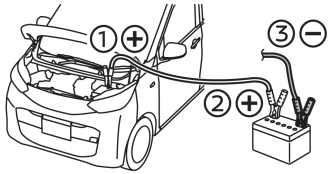
1. 自車と救援車の<パワースイッチ>をOFFにします。
   パワースイッチ (P.138)



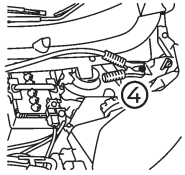
2. ブースターケーブル①を自車の補機用バッテリーの⊕端子に接続します。



3. 手順2のケーブルの反対側②を救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続します。



4. もう1本のブースターケーブル③を救援車の12Vバッテリーの⊖端子に接続します。



5. 手順4のケーブルの反対側④を自車の車体に接続します。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
7. 自車のブレーキペダルをしっかりと踏みながら、<パワースイッチ>を一回押します。
8. メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯したことを確認し、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。

パワーダウン警告灯が点灯したときは

外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたとき、また、急速充電を繰り返したときは、駆動用バッテリーの温度が上がり、パワーダウン警告灯［ ］が点灯する場合があります。
パワーダウン警告灯が点灯したときは、加速性能や回生ブレーキ性能が制限されることがあるため、次の対処方法に従ってください。

点灯したときの状況	対処方法	注意事項
走行中にパワーダウン警告灯［ ］が点灯したとき	高速道路を走行しているとき 80km/h 以下で走行してください。次のパーキングエリアまたはサービスエリアで車両を止め、パワーダウン警告灯［ ］が消灯するまで待ちます。 一般道を走行しているとき 安全な場所に停車し、パワーダウン警告灯［ ］が消灯するまで待ちます。	パワーダウン警告灯［ ］が消灯しないときは、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
急速充電でパワーダウン警告灯［ ］が点灯したとき	駆動用バッテリーを冷やすため、＜パワースイッチ＞を OFF にし、パワーダウン警告灯［ ］が消灯するまで待ちます。（可能な場合、日陰で照り返しのない場所に移動してから待ちます。）	

駆動用バッテリーの残量がなくなったときは

駆動用バッテリーの残量が完全になくなると、メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が消灯し走行できなくなります。

バッテリーの残量が完全になくなったときの対処のしかた

駆動用バッテリーの残量が完全になくなったときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
万一、安全な場所に移動する前に走行できなくなったときは、付近の人に応援を求め、車両を手で押して安全な場所に移動してください。
このとき、シフトポジションはNにします。

アドバイス

- 救援を待つ間は、＜パワースイッチ＞をOFFにしてください。＜パワースイッチ＞をONのままにしておくと、補機用バッテリーがあがるおそれがあります。

- 駆動用バッテリーの残量が完全になくなると、メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が消灯し、シフトポジションも自動的にNに切り替わるため、自力での走行ができなくなります。
- 駆動用バッテリーの残量が完全になくなり、車両が停止するときに振動が発生することがありますが、異常ではありません。
- 駆動用バッテリーの残量が完全になくなったときは、駆動用バッテリー残量警告灯［ ］（黄色）が消灯（白色）するまで充電してください。

警告灯がついたときは

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。
警告灯が点灯・点滅したときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。
メーター内の警告や表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	パワーユニット警告灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、モーターや高電圧システムなどに異常が発生すると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。
	補機用バッテリー充電警告灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているとき、補機用バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。 ⚠ 注意 **● 補機用バッテリー充電警告灯が点灯したまま走行しない。** 車両が突然停止するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
	ABS 警告灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、ABS のシステムに異常があると点灯します。	● <パワースイッチ>を ON にしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	電動パーキングブレーキ警告灯	● 正常なときは、<パワースイッチ>が ON のとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、電動パーキングブレーキのシステムに異常があると点滅します。	● <パワースイッチ>が ON で警告灯が点滅しているときに、電動パーキングブレーキを解除しても点滅が続くときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社に連絡してください。
	ブレーキ警告灯（赤色）	● 正常なときは、<パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、次の場合は点灯し続けます。 — ブレーキ液が不足しているとき — ブレーキシステムに異常があるとき	● 走行中にブレーキ警告灯（赤色）が点灯した場合は、車両を停止し、以下の確認を行ってください。（ブレーキシステム警告灯［ ］（黄色）と同時にアクティブスタビリティコントロール［ASC］警告灯［ ］も点灯します。） — ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 — ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因があることが考えられますので、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	ブレーキシステム警告灯（黄色）	● 正常なときは、＜パワースイッチ＞を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞が ON のとき、次の機能に異常があると点灯します。 — ブレーキシステム — 回生ブレーキ — ヒルスタートアシスト [HSA] — 電動パーキングブレーキ	● パーキングブレーキを解除し、ブレーキ液量が正常でブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車して、三菱自動車販売会社に連絡してください。このときは、ブレーキの効きが極度に悪くなっているおそれがあります。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ警告灯（赤色）と同時に点灯していないときは、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● ブレーキシステムの電源系統に異常があるときは、ブザーが鳴ります。 アドバイス ● ブレーキシステム警告灯（黄色）が点灯しているときは、回生ブレーキが作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	シートベルト非着用警告灯	● <パワースイッチ>が ON のとき、運転席および助手席の乗員がシートベルトを着用していないと点灯します。 ● 後席のシートベルト非着用警告灯は、<パワースイッチ>を ON にしたとき、後席の乗員がシートベルトを着用していないと一定時間点灯します。 ● 運転席および助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で一定以上の車速で走行すると、警告灯が点滅します。 ● 一定以上の車速で走行中、後席の乗員が着用しているシートベルトを外すと後席の警告灯が点灯または点滅します。 **前席シートベルト非着用警告音（シートベルト非着用ウォーニング）** ● 運転席および助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で車速が一定以上になると、ブザーが一定時間鳴ります。 **後席シートベルト非着用警告音（シートベルト非着用ウォーニング）** ● 一定以上の車速で走行中、後席の乗員が着用しているシートベルトを外すと、ブザーが一定時間鳴ります。	● シートベルトを着用してください。 **⚠ 警告** **●走行中は全員がシートベルトを着用する。** 着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 **📖 知識** ●助手席シート、後席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。 ●後席のシートベルト非着用警告灯は、ルーム＆マップランプ周辺にあります。 ●後席のシートベルト非着用警告灯は、<パワースイッチ>をONにしたとき、後席に乗員がいなくても一定時間点灯する場合があります。 ●後席乗員検知付車は、後席の乗員がシートベルトを着用していない状態で一定以上の車速で走行すると、後席の警告灯が点滅し、一定時間ブザーが鳴ります。
	SRS エアバッグ警告灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、約 7 秒後に消灯します。 ● <パワースイッチ>が ON のとき、SRS エアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯を続けます。	**⚠ 警告** **●<パワースイッチ>をONにしても点灯しないとき、または点灯を続けるときは、放置したまま走行しない。** 万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	アクティブスタビリティコントロール［ASC］警告灯	● ＜パワースイッチ＞を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞が ON のとき、ASC が作動すると点滅します。 ● ＜パワースイッチ＞が ON のとき、ASC システムに異常があると点灯します。	● 点灯したときは ASC の作動は停止しますが、ASC システムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔アクティブスタビリティコントロール［ASC］(P.159)
	電動パワーステアリング警告灯	● ＜パワースイッチ＞を ON にすると点灯し、メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯すると消灯します。 ● ＜パワースイッチ＞が ON のとき、電動パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、電動パワーステアリングが作動しないことがあり、その場合はハンドル操作が重くなります。ハンドルをしっかりと握り、通常より強く操作してください。 アドバイス ●ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 知識 ●すばやいハンドル操作を行うと、ハンドル付近から擦れるような音が聞こえてくることがありますが、異常ではありません。
	駆動用バッテリー残量警告灯	＜パワースイッチ＞が ON のとき、駆動用バッテリーの残量が低下すると黄色く点灯します。	すみやかに最寄りの充電施設で充電してください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	パワーダウン警告灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているとき、次の場合に点灯します。 — 駆動用バッテリーの残量が極端に低下しているとき — 真冬の屋外などで、駆動用バッテリーの温度が極端に低いとき — 外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたことにより、走行モーターや駆動用バッテリーなどの温度が極端に上がったとき — 急速充電を繰り返し行い、駆動用バッテリーの温度が極端に高いとき — 車両故障が発生しているとき	● 点灯中は出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。 ● マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それらの指示に従ってください。 ● 駆動用バッテリーの残量が極端に低下したときは、すみやかに充電するか、充電できる場所が近くにないときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。 ● 駆動用バッテリーの温度が上がって点灯したときは、（P.263）をお読みください。
	電制シフト警告灯	● <パワースイッチ>が ON のとき、電制シフトに異常があると点灯します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、表示されたメッセージに従ってください。

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] ／踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] 警告灯	● <パワースイッチ>を ON にすると点灯し、メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯すると消灯します。 ● 次の場合は点灯します。 — FCM を OFF にしているとき — ASC を OFF にしているとき — FCM、踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] または前方衝突予測警報 [PFCW] のシステムに異常が発生しているとき — フロントガラスの汚れなどにより、フロントカメラが前方を認識できなくなったとき — 前方からの強い光により、カメラが前方を認識できなくなったとき — 炎天下に駐車したときなど、カメラが高温になったとき — フロントガラスの結露やくもりなどにより、フロントカメラが前方を認識できなくなったとき — 周辺の電波源の影響を受けているとき — センサーの汚れなどで、FCM が一時的に作動できない状態になっているとき ● EAPM が作動したときは点滅します。	● FCM を OFF にしているときは、ON にすると消灯します。 ● ASC を OFF にしているときは、ON にすると消灯します。 ➔ASC の ON・OFF のしかた (P.160) ● 一度<パワースイッチ>を OFF にしてから再始動しても警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● フロントガラスが汚れているときは、フロントガラスを清掃し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ● 室内の温度が高いときなどは、温度が下がると自動的に作動を復帰します。 ● フロントガラスに結露やくもりなどがある場合は結露やくもりを除去し、警告灯が消灯したことを確認してください。 ➔フロントガラスのくもりの取りかた (P.290) ● 各システムについては、FCM（➔P.177）、PFCW（➔P.181）および EAPM（➔P.183）をお読みください。
	マスターウォーニング（黄色）	● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ➔警告メッセージ (P.271)
	マスターウォーニング（赤色）	● メーターに警告メッセージが表示されると同時に点灯します。	● 同時に表示した警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ➔警告メッセージ (P.271)

警告灯	名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
	車両接近通報装置 [AVAS] 警告灯	● AVAS に異常があると点灯します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明･対処方法」に従ってください。表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告メッセージ

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
始動時はブレーキを踏みパワースイッチを押してください	パワーユニット始動操作表示	● <パワースイッチ>が OFF のとき、キーレスオペレーションキーが車室内にある状態で運転席ドアを閉めたときに表示します。 ● <パワースイッチ>が ON でメーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が消灯しているときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら<パワースイッチ>を押すと、メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯し、走行できるようになります。 ● 次の場合、表示が消えます。 — メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯したとき — リモコン機能、またはドアハンドルのスイッチでドアを施錠したとき
キーレスオペレーションキーをパワースイッチに接触させてください	キーレスオペレーションキー非作動時パワーユニット始動表示	● キーレスオペレーションキーの電池が切れたときや、使用環境により、キーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、キーの裏面を<パワースイッチ>に接触させてください。 ➔パワーユニットを始動できないときは (P.261)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
キー電池残量が 低下しています	キーレスオペレーション キー電池切れ表示	● キーレスオペレーションキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔キーレスオペレーションキーの電池交換 (P.309) ● 次の場合、キーレスオペレーションキー電池切れ表示が消えます。 ― 表示から約 30 秒経過したとき ― <パワースイッチ>を ON 以外にしたとき
キーが 見つかりません	キーレスオペレーション キー持ち出し警告	● 次の場合に表示します。 ― READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯している状態で、キーレスオペレーションキーが車外に持ち出されたとき ― キーを携帯していないとき ― 携帯しているキーの電池が切れているとき ― 登録されていないキーを携帯しているとき	● 次のように対処してください。 ― キーが車外に持ち出されていないか確認してください。 ― キーを携帯してください。 ― 新しい電池に交換してください。 ➔キーレスオペレーションキーの電池交換 (P.309) ― 自車のキーであることを確認してください。
	ドア開き警告	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 **⚠ 注意** **● 走行前に表示が消えていることを確認する。** ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
キーシステム故障 取扱説明書を見てください	キーシステム警告	● キーシステムに異常があると表示します。	● 三菱自動車販売会社にご連絡ください。<パワースイッチ>を切り替えられないことがあります。
P レンジに入れてください	P 戻し忘れ警告	● シフトポジションがP以外で運転席ドアが開いていると表示します。	● シフトポジションをPに入れてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
パーキングブレーキを解除してください	電動パーキングブレーキ戻し忘れ警告	● 電動パーキングブレーキをかけ、運転席ドアを閉めずにアクセルペダルを踏み、発進すると表示します。 ● 電動パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると表示します。	● すみやかに電動パーキングブレーキを解除してください。 ➔電動パーキングブレーキ (P.142)
停車状態を維持できません ブレーキを踏んでください	電動パーキングブレーキ警告	● 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で車両が動くと表示し、ブザーが鳴ります。 ● 電動パーキングブレーキがかかった状態で、ブレーキペダルを踏まずに<電動パーキングブレーキスイッチ>を押した場合に表示します。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 解除する場合は、ブレーキペダルを踏んでから<電動パーキングブレーキスイッチ>を押してください。 ➔電動パーキングブレーキ (P.142)
	ブレーキオートホールド警告	● ブレーキオートホールド機能が作動中に車両が動いたときに表示し、ブザーが鳴ります。	● ブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
急坂路に停車しています 車が動くことがあります	ブレーキオートホールド急坂路注意表示	● 急な坂道などでブレーキオートホールド機能が作動したときに表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道や滑りやすい路面でブレーキオートホールド機能が作動していても、車両が動き出すおそれがあります。 ➔ブレーキオートホールド (P.143)
急坂路では ブレーキを踏んでください 車が動くことがあります	ブレーキオートホールド急坂路操作表示	● 急な坂道などでブレーキオートホールド機能が作動してから一定時間経過し、ブレーキペダルが踏まれていなかった場合に表示し、ブザーが鳴ります。	● すみやかにブレーキペダルを踏んでください。 ● 急な坂道などでブレーキオートホールドが作動してから一定時間経過し、電動パーキングブレーキがかかるときに車両が動き出すおそれがあります。 ➔ブレーキオートホールド (P.143)

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
ブレーキを踏み スイッチを操作すれば 解除できます	＜ブレーキオートホールドスイッチ＞解除操作表示	● ブレーキオートホールド機能作動中、ブレーキペダルを踏まずに＜ブレーキオートホールドスイッチ＞を押したときに表示します。	● ブレーキペダルを踏んでから＜ブレーキオートホールドスイッチ＞を押してください。 ➔ブレーキオートホールド (P.143)
シャシー制御 システム故障 取扱説明書を見てください	シャシー制御表示	● シャシー制御のシステムに異常があると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
踏み間違い衝突防止 アシストが作動しました	EAPM 作動時表示	● EAPM が作動すると表示します。	● 進行方向に壁などの障害物、車両や歩行者などを検知している場合に、アクセルペダルが素早く深く踏み込まれたとシステムが判断したときに作動します。 ➔踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] (P.183)
ヘッドライトシステム異常 取扱説明書を見てください	ヘッドライト警告	● LED ヘッドライトに異常があると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからフロントカメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してパワーユニットを再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
システム故障 取扱説明書を見てください	システム故障警告	● マイパイロット、FCM、EAPM、LDW、LDP、PFCW、TSR が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度<パワースイッチ>を OFF にしてから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔マイパイロット★ (P.164) ➔衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.177) ➔踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] (P.183) ➔車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP] (P.189) ➔前方衝突予測警報 [PFCW] (P.181) ➔ふらつき警報 [DAA] (P.193) ➔標識認識システム [TSR] (P.193)
ふらつき警報 システム故障	システム故障警告 （ふらつき警報 [DAA]）	● DAA が故障すると表示します。	
センサー故障 取扱説明書を見てください	センサーシステム異常警告	● センサーが故障したときに表示します。	● 安全な場所に停車し、一度<パワースイッチ>を OFF にしてから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ➔パーキングセンサー（フロント / リヤ）(P.97)

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
ふらつき警報 休憩しませんか？	DAA 表示	● 運転者のハンドル操作から注意力が低下していると判断したときに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔ふらつき警報 [DAA] (P.193)
⚠ 警告 注意してください	進入禁止標識認識表示	● 前方の車両進入禁止標識を認識し、一方通行路へ進入する可能性がある場合に表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識認識システム [TSR] (P.193)
⚠ 警告 止まれ 注意してください	一時停止標識認識	● 前方の一時停止標識を認識した場合には、メーターに表示します。	● 表示・非表示の設定ができます。 ➔標識認識システム [TSR] (P.193)
ライト消灯してください	ライト消し忘れ警告	● ＜パワースイッチ＞が ON 以外の位置で運転席ドアを開けたとき、次の場合に表示し、ブザーが鳴ります。 – ライトスイッチが＜ ≡D ＞の位置にあるとき – ライトスイッチを＜ ≡DC/OFF ＞の位置に回して、メーター内のテールランプ表示灯［ ≡DC ］が点灯しているとき	● ライトスイッチを＜ AUTO ＞の位置にする、または＜ ≡DC/OFF ＞の位置に回してメーター内のテールランプ表示灯［ ≡DC ］を消灯してください。
メンテナンス タイヤ	タイヤ交換表示	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。 設定（➔P.91）
メンテナンス ユーザー	メンテナンス距離表示	● タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 設定（➔P.91）

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
走行時間 休息してください	タイマーアラーム表示	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● タイマーアラーム表示は、設定したりリセットしたりできます。 設定（P.87）
バッテリーあがりを防ぐため 電源を OFF します	自動電源 OFF 表示 A	● パワーユニットが停止している状態で、＜パワースイッチ＞を ON にしたまましばらくすると表示することがあります。	● そのまま＜パワースイッチ＞を切り替えないと、省エネのため＜パワースイッチ＞が OFF になります。
バッテリーあがりを防ぐため 電源を OFF しました	自動電源 OFF 表示 B	● パワーユニットが停止している状態で、＜パワースイッチ＞を ON にしたまま時間が経過し、＜パワースイッチ＞が自動で OFF になったときに表示することがあります。	
駆動用バッテリー残量低下 充電をしてください	駆動用バッテリー残量警告	● 駆動用バッテリーの残量が低下し、駆動用バッテリー残量警告灯［ ］が黄色く点灯するのと同時に表示します。	● すみやかに最寄りの充電施設で充電してください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
EV システム高温 走行制限中 ゆっくり運転してください	出力制限警告 A	● 外気温が高いときや連続で高速走行や登坂走行をしたことにより、走行モーターや駆動用バッテリーなどの温度が極端に上がったとき、パワーダウン警告灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	● 表示すると出力が制限され、アクセルペダルを踏み込んでも速度が上がらなくなります。 ● 駆動用バッテリーの残量が極端に低下して点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社へご連絡ください。
EV システム低温 走行制限中	出力制限警告 B	● 真冬の屋外などで、駆動用バッテリーの温度が極端に低くなったとき、パワーダウン警告灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	
バッテリー残量低下 走行制限中 充電をしてください	出力制限警告 C	● 駆動用バッテリーの残量が極端に低下したとき、パワーダウン警告灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	
走行制限中	出力制限警告 D	● 出力制限警告 A、出力制限警告 B、出力制限警告 C 以外の出力制限される原因があるとき、パワーダウン警告灯［ ］が点灯すると同時に表示します。	
充電プラグが 接続されています	プラグイン表示	● 充電コネクタが接続されているときに表示します。	–
走行できません 充電プラグを抜いてください	充電コネクタ取り外し警告	● 車両に充電コネクタが接続された状態で、パワーユニットを始動しようとしたときに表示します。	● パワーユニットを始動するときは、充電コネクタを取り外してから<パワースイッチ>を押してください。
12V 充電システム故障 安全に停車してください	12V 充電系警告 A	● 走行中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生し、パワーユニットに異常がなく出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
12V 充電システム故障 走行制限中 安全な場所に停車してください	12V 充電系警告 B	● 走行中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
12V 充電システム故障 EV システム停止 安全に停車してください	12V 充電系警告 C	● 走行中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生し、パワーユニットが停止されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
12V 充電システム故障 パーキングブレーキを かけてください	12V 充電系警告 D	● 停車中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生していると表示します。	● すみやかにパーキングブレーキをかけ、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
12V 充電システム故障 販売店で点検してください	12V 充電系警告 E	● 停車中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生し、パワーユニットに異常がなく出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
12V 充電システム故障 走行制限中 販売店で点検してください	12V 充電系警告 F	● 停車中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
12V 充電システム故障 EV システム停止 販売店で点検してください	12V 充電系警告 G	● 停車中、補機用バッテリー系の充電システムに異常が発生し、パワーユニットが停止されていると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
12V バッテリー充電不足 取扱説明書を見てください	12V 充電系警告 H	● 補機用バッテリー用の充電が不足しているときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム停止 安全に停止し 車外の安全な場所に退避し てください	駆動用バッテリー熱暴走警告 A	● 走行中、駆動用バッテリーに異常が発生し、熱暴走にいたる危険を検知したときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、車外に退避してから三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム停止 車外の安全な場所に退避し てください	駆動用バッテリー熱暴走警告 B	● 停車中、駆動用バッテリーに異常が発生し、熱暴走にいたる危険を検知したときに表示します。	● すみやかに車外に退避し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム故障 走行制限中 販売店で点検してください	パワーユニット警告 A	● パワーユニットに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
EV システム故障 走行制限中 安全に停車してください	パワーユニット警告 B	● 走行中、パワーユニットに異常が発生し、出力が制限されていると表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム故障 販売店で点検してください	パワーユニット警告 C	● パワーユニットに異常が発生し、パワーユニットが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム停止 安全に停車してください	パワーユニット警告 D	● 走行中、パワーユニットに異常が発生し、パワーユニットが停止しているときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム停止 パーキングブレーキを かけてください	パワーユニット警告 E	● 停車中、パワーユニットに異常が発生し、パワーユニットが停止しているときに表示します。	● すみやかにパーキングブレーキをかけ、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム停止 販売店で点検してください	パワーユニット警告 F	● 停車中、パワーユニットに異常が発生し、パワーユニットが停止しているときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム故障 次回始動できません 販売店で点検してください	パワーユニット警告 G	● パワーユニットに異常が発生し、パワーユニットが再始動できないときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。
EV システム故障 安全に停車してください	パワーユニット警告 H	● 走行中、パワーユニットに異常が発生し、パワーユニットが停止せず、出力が制限されていないときに表示します。	● すみやかに安全な場所に停車し、三菱自動車販売会社にご連絡ください。
イノベーティブペダル オペレーションモード システム異常 減速、停車する際は ブレーキを踏んでください	イノベーティブペダル オペレーションモード システム異常警告	● イノベーティブペダル オペレーションモードシステムに異常があると表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
駐車時は必ず パーキングブレーキを かけてください	電制シフト警告 A	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● 駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけてください。パーキングブレーキをかけていないと、＜パワースイッチ＞を OFF にできないことがあります。 ● ＜パワースイッチ＞を OFF にできないときは、次の操作を行ってください。 — ①停車してパーキングブレーキをかけます — ②ブレーキペダルを踏み込みながら＜パワースイッチ＞を押して、＜パワースイッチ＞を ON に切り替えます — ③セレクターレバーにあるⓅスイッチを押してPに切り替えます — ④＜パワースイッチ＞を押して、OFF に切り替えます

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
シフトコントロールシステム異常 販売店で点検してください	電制シフト警告 B	● 電制シフトに異常が発生したときに表示します。	● すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。 ● シフトポジションがすぐに切り替わらないことがあるため、目的のシフトポジションの位置でセレクターレバーを保持し、シフトポジションが切り替わったことを確認してから手を離してください。 ● オート P 機能（➔P.142）が作動しないことがあるため、駐車するときはセレクターレバーにあるⓅスイッチを押し、**P**に切り替わったことを確認してください。
シフトレバーの位置を確認してください	シフトポジション警告	● セレクターレバーが中央の位置以外で保持され続けたときに表示します。	● セレクターレバーが中央の位置にあるか確認してください。 ● セレクターレバーが中央の位置にあるときに表示された場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
フロントレーダー及びその周辺が汚れています 拭いてください	フロントレーダーシステム停止警告	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着し、次のシステムが停止すると表示します。 — ➔マイパイロット★ (P.164) — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.177) — ➔前方衝突予測警報 [PFCW] (P.181) ● 次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。 — 長い橋を走行しているとき — 砂地や雪原を走行しているとき — 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、パワーユニットを再始動してください。 ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。
作動範囲外のため 現在使用できません	作動範囲外警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — 車線逸脱防止支援機能 [LDP]（➔P.189） ● アクティブスタビリティコントロール［ASC］を OFF にしたとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再び ON にしてください。

画面表示	名称	表示する条件	説明・対処方法
車線認識カメラ・その周辺 が 高温のため使用できません	カメラ高温警告	● 炎天下に駐車したときなど、フロントカメラが高温になり、次のシステムが停止すると表示します。 — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.177) — ➔車線逸脱警報システム [LDW] ／車線逸脱防止支援機能 [LDP] (P.189)	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、フロントカメラ周辺の温度が下がってから、再び ON にしてください。
アクセルペダルが 高温のため 使用できません	アクセルペダル高温警告	● アクセルペダルを戻す力を発生させているモーターが高温になり、次のシステムが作動を停止すると表示します。 — ➔衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]（歩行者・自転車運転者検知付）(P.177)	● モーターの温度が下がると、システムは作動を再開します。
滑りやすい路面のため 現在使用できません	スリップ警告	● 次のシステムが停止すると表示します。停止する条件については、各システムをお読みください。 — ➔マイパイロット★ (P.164) — ➔LDP について (P.190) ● ABS または ASC（トラクションコントロール機能（TCS）は含まない）が作動したとき	● 停止したシステムを再び作動させる場合は、停止したときの状態が改善されてから、スイッチで再び ON にしてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
システム故障のため、 一部の運転支援を 使用できません	● FCM、踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM] が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度＜パワースイッチ＞を OFF にしてから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
視界不良のため 一部の運転支援を 制限しています	● 悪天候（雨、雪、霧、風塵、砂塵、吹雪など）で視界が悪いとき	● 悪天候時には FCM は作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
カメラが高温のため 一部の運転支援を 制限しています	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとシステムは自動的に作動を再開します。
現在一部の運転支援が 使用できません フロントレーダー周辺を 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき	● 安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、パワーユニットを再始動してください。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
現在一部の運転支援が 使用できません 前方カメラ周辺のガラスを 拭いてください	● 雨、雪、霧またはカメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき ● 夜間やトンネル内などでヘッドライトを点灯せず真っ暗な状態が継続したとき	● 安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除き、パワーユニットを再始動してください。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
ASC OFF のため 一部の運転支援を 制限しています	● ASC を OFF にしたとき	● ASC を OFF にしたときは、FCM は作動しません。 ※PFCW は作動します。
電波障害のため 一部の運転支援を 制限しています	● 放送局など周辺の電波源により影響を受けているとき	● 周辺の電波源による影響を受けている場合は、FCM は作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。
現在一部の運転支援を 制限しています	● システムチェックが正常に終了しなかったとき（P.178） ● けん引されているとき ● センサーに異常が発生したとき	● 安全な場所に停車し、一度＜パワースイッチ＞を OFF にしてから再始動してください。 ● けん引されているときは、FCM は作動しません。 ● 状況が改善されると、システムは自動的に作動を再開します。

マイパイロット警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、次の「説明・対処方法」に従ってください。メーター内の表示は、グレード、オプションなどにより異なります。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
作動範囲外のため 現在使用できません	● アクティブスタビリティコントロール［ASC］を OFF にしたとき ● マイパイロットパーキングが作動しているとき	● ASC が OFF の場合はマイパイロットを使用することができません。 ● マイパイロットパーキングが作動しているときは、マイパイロットを使用することができません。
パーキングブレーキが 作動しているため 使用できません	● 電動パーキングブレーキが作動したとき	● 電動パーキングブレーキが作動しているときはマイパイロットを使用することができません。
シートベルトが 解除されているため 使用できません	● 運転席のシートベルトを解除したとき	● 運転席のシートベルトが解除されている場合はマイパイロットを使用することができません。
システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、一度<パワースイッチ>を OFF にしてからパワーユニットを再始動します。再始動後も警告灯が点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
停車状態を維持できません ブレーキを踏んでください	● マイパイロットにより車両が停止中、運転席ドアが開いたが電動パーキングブレーキが正常に作動しなかったとき	● すみやかにブレーキを踏んでください。
フロントレーダー及び その周辺が汚れています 拭いてください	● 車両前部に取り付けられたレーダーセンサー周辺に雪や氷、泥などが付着したとき ● 次のような道路形状、または建造物がある場合は、レーダーが先行車を正確に検知できず、作動が停止します。 — 長い橋を走行しているとき — 砂地や雪原を走行しているとき — 長い壁の近くを走行しているとき	● 安全な場所に停車し、一度パワーユニットを停止してからレーダーセンサーおよびその周辺の汚れなどを取り除き、パワーユニットを再始動してください。 ➔レーダーセンサーの取り扱い (P.313) ● 停止したときの状態が改善、または変更されると、システムは作動を再開します。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
滑りやすい路面のため 現在使用できません	● ASC/TCS が作動したとき ● タイヤの空転を検出したとき	● ASC/TCS が作動する、または、タイヤが空転するような状況ではマイパイロットは使用できません。

マイパイロット（車線維持支援機能 [LKA]）警告メッセージ

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
レーンを認識できません 車線維持支援を解除します	● 走行車線内にレーンマーカーに見えるようなものがあるなど、レーンマーカーが正しく検出できない状態が長時間続いたとき（雪のわだち、雨の日の周辺の光の反射、消し忘れのレーンマーカーなど）	● 再び車線維持機能を使用したいときは、レーンマーカーがはっきりと描かれている道路でマイパイロットを解除し、再度セットしてください。
悪天候のため 現在使用できません	● ワイパーを高速で作動させたとき	● ワイパーの高速動作を解除してください。その後、マイパイロットを再度セット、もしくは＜車線維持支援スイッチ＞を押してください。
カメラが認識できないため 現在使用できません	● 雨、雪、霧または、カメラ前方のフロントガラスの凍結、汚れなどで、カメラの視界が確保できなくなったとき	● 状況が改善すると、マイパイロットを使用することができます。 ● 警告表示が出続ける場合は、安全な場所に停車して、パワーユニットを一旦停止してカメラ前方のフロントガラスの汚れなどを取り除いてください。
車線認識カメラ・その周辺が高温のため使用できません	● カメラおよびカメラ周辺の温度が高いとき	● 室内の温度が下がるとマイパイロットを使用することができます。
システム故障 取扱説明書を見てください	● システム故障	● 安全な場所に停車して、パワーユニットを一旦停止して再始動し、再びシステムを ON にしてください。
車線維持支援は一時的に作動できません	● 両側の車線を検出しなくなったとき ● 車速が 50km/h 以下で、先行車を検出しなくなったとき	● 作動条件を再度満たすと LKA は再開されます。
⚠警告 	● ハンドルを持っていない、またはハンドルを操作していないとき — 表示（赤）により警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。

警告表示	表示する条件	説明・対処方法
	● 表示による警告後、運転者がハンドルを操作しないときに表示します。 — 音、表示（赤）、および短時間のブレーキ制御で段階的に警告します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯します。
	● 警告後、運転者のハンドル操作がない状態が継続したときに表示します。 — 緊急警報音が鳴るとともに車両を減速、緊急停止します。	● すみやかにハンドルを持って操作してください。 ● 運転者のハンドル操作を検出すると警告は消灯し、マイパイロットが解除されます。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ …（数秒間）	ドアハンドルのスイッチを押したとき	READY（走行可能）表示灯［ 🚗 ］が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にドアハンドルのスイッチを押していないか
		テールゲートのスイッチを押したとき	READY（走行可能）表示灯［ 🚗 ］が点灯していないか キーを車室内に置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか
		キーレスオペレーションキーのドア施錠スイッチを押したとき	READY（走行可能）表示灯［ 🚗 ］が点灯していないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にドアハンドルのスイッチを押していないか
	ピッピッピッ（3回）	ドアを閉めたとき	READY（走行可能）表示灯［ 🚗 ］が点灯しているときに、キーが車外に持ち出されていないか
	ピッピッピッ …（約 30 秒）	充電コネクタを接続したとき	充電コネクタが正しく接続されているか
	キー（金属音）	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車内	ポンポン、ポンポン（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	＜パワースイッチ＞がONのままになっていないか
	ポロポロポロ（3回）	ドアを閉めたとき	＜パワースイッチ＞がONのまま、キーが車外に持ち出されていないか
		＜パワースイッチ＞を押したとき	キーを携帯しているか キーを携帯してもブザーが鳴るときは、キーの電池を交換してください
	ポロポロポロ（繰り返し）	運転席ドアを開けたとき	＜パワースイッチ＞がONのままになっていないか シフトポジションをPにしているか

窓ガラスがくもったときは

フロントガラスのくもりの取りかた

⚠ 注意

- **＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、エアコンの設定温度を低くしない。**

  フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- ＜デフロスタースイッチ＞をONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。
- ＜デフロスタースイッチ＞は、連続して長時間ONにしないでください。消費電力が多いため、航続可能距離が減少する原因になります。

知識

- ＜デフロスタースイッチ＞をONにすると、自動的に＜A/C＞スイッチ、＜HEAT＞スイッチの表示灯が点灯し、外気導入に切り替わります。

- ＜デフロスタースイッチ＞をタッチするとエアコンが作動し、外気導入に切り替わります。（＜デフロスタースイッチ＞の表示灯が点灯）
  ＜パワースイッチ＞がONのとき使えます。
- 止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。（＜デフロスタースイッチ＞の表示灯が消灯）

デフロスタースイッチ（P.125）

テールゲートガラスのくもりの取りかた

アドバイス

- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が多いため補機用バッテリーあがりの原因になります。
- メーター内のREADY（走行可能）表示灯［ ］が点灯しているときに使用してください。
- ＜リヤデフォッガースイッチ＞をタッチすると、ヒーテッドドアミラー★も同時に作動します。

- ＜リヤデフォッガースイッチ＞をタッチすると約15分間作動し、テールゲートガ

ラスの熱線が暖まります。（<リヤデフォッガースイッチ>の表示灯が点灯）
<パワースイッチ>がONのとき使えます。

- 止めるときは、もう一度スイッチをタッチします。（<リヤデフォッガースイッチ>の表示灯が消灯）

リヤデフォッガースイッチ（➔P.125）

雪道やぬかるみにはまったときは

雪道、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったりしたときは、次の方法で脱出してください。

脱出のしかた

⚠ 警告

- **周囲の安全を必ず確認する。**

  周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- **必要以上にアクセルペダルを踏み込まない。**

  急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **脱出するときは、過度にタイヤを空転させない。**

  タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品が異常過熱したりすることにより思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. メーターでアクティブスタビリティコントロール［ASC］をOFFにします。
   ➔ASCのON・OFFのしかた（P.160）
2. 車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
   必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。
3. ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
   周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

アドバイス

- 数回試しても脱出できないときは、三菱自動車販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

水没したときは

水没したときの対処のしかた

⚠ 警告

- **水位が窓ガラスよりも高いとき、緊急脱出用ハンマーを使用した場合、割れたガラスが車室内に入り、ケガをするおそれがあります。**

緊急脱出用ハンマー（別売り）について

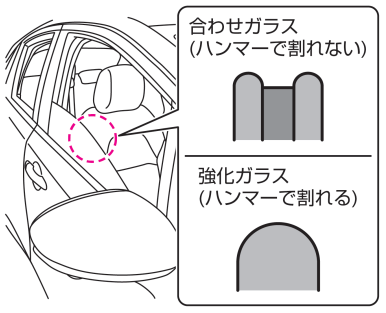
- **フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマーで割ることはできません。フロントドアガラス、リヤドアガラス、テールゲートガラスを割って脱出してください。**
- **ドアガラスは車種によって、合わせガラスを使用しています。ただし車両の仕様変更により合わせガラスの位置が異なる場合があります。**

  合わせ、または強化ガラスの見分け方法については、ガラスの断面、もしくは刻印（マーク）を確認することで見分けることができます。

ガラスの断面で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスを半分ほど開け、断面を上から確認し、2枚のガラスが貼り合わせられている場合は合わせガラスとなります。

⚠ 警告



ガラスにある刻印（マーク）で合わせガラスを見分ける方法

- ドアガラスには次のような刻印（マーク）が表示されています。この表示によって、合わせガラスかどうかを見分けることができます。

Eマーク

■合わせガラス：XI、V-XI
■強化ガラス：無印、V

JISマーク

■合わせガラス：L
■強化ガラス：T

※車両によっては、刻印（マーク）が表示されていない、またはガラスの種類を示す表示の位置が異なる場合があります。

水没したときは、次のような対処方法で車外に脱出してください。

- シートベルトを外して車外に脱出してください。
- ドアが開く水位が低いうちにドアを開けて、車外に脱出してください。
- ドアが開かなかった場合、窓ガラスを開け、窓から車外に脱出してください。
- <パワーウインドウスイッチ>を押しても窓ガラスが開かない場合、以下の方法で脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（別売り）がある場合、窓ガラスを割り窓から車外に脱出してください。
  - 緊急脱出用ハンマー（別売り）がない場合、または緊急脱出用ハンマーで窓ガラスが割れない場合には、車内外の水位が同じ高さくらいまで浸水するのを待ち、ドアを強く押し開けて車外に脱出してください。

  （車内外の水圧差がなくなると、ドアを開けることができます。）
- 浸水·冠水被害に遭われた場合は、車両故障につながるおそれがあるため、すみやかに三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

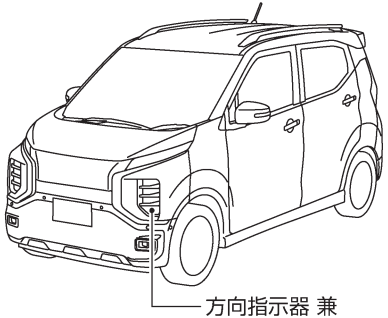
外装ランプが点灯しないときは

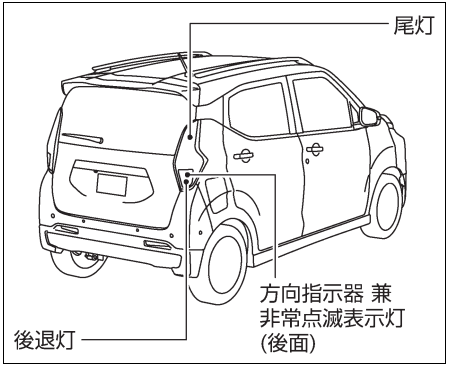
次の交換可能な電球（バルブ）、番号灯以外の外装ランプはすべてLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

ヘッドライト、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。

また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

交換可能な電球（バルブ）の位置





⚠ 注意

- **電球交換は、電球が冷えた状態で行う。**
  やけどをするおそれがあります。
- **交換作業をするときは、指や腕をケガしないように注意する。**
- **電球は確実に取り付ける。**
  電球は点灯中、表面が高温になります。電球が正しく取り付けられていないと、走行中に電球が外れて周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

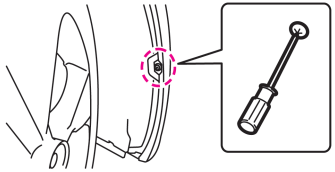
アドバイス

- 電球交換をするときは、軍手などを着用してください。

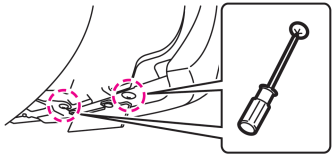
- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- 電球に油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。電球の寿命が短くなったり電球が破損するおそれがあります。

方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）

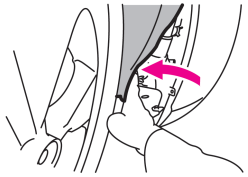
1. 作業スペースを確保するため、作業する側と反対方向にハンドルを切ります。



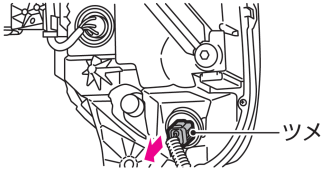
2. お手持ちの工具でネジを外します。



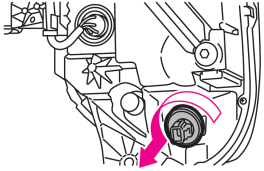
3. 下側のネジを外します。



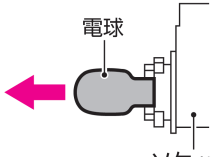
4. カバーをめくり、作業スペースを確保します。



5. コネクターを取り外します。（ツメを押しながら外します。）



6. ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。



7. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。
8. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

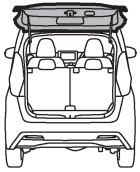
アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

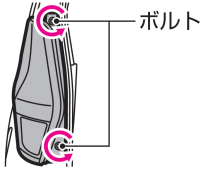
知識

- 方向指示器　兼　非常点滅表示灯（前面）：12V-21W（アンバー）（WY21W）

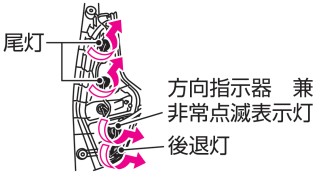
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）／後退灯／尾灯



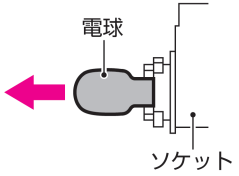
1. テールゲートを開けます。



2. リヤコンビランプのボルトを外し、ランプをまっすぐ後方に引いて取り外します。



3. 交換したい電球のソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。



4. 古い電球を引き抜き、新しい電球をソケットに取り付けます。
5. 取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

アドバイス

- 取り外すときは、無理に力を加えないでください。破損するおそれがあります。

知識

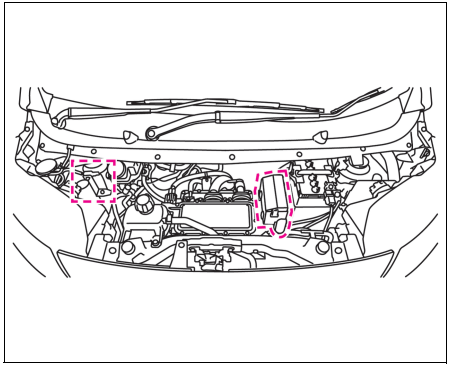
- 尾灯：12V-5W（W5W）
- 方向指示器　兼　非常点滅表示灯（後面）：12V-21W（アンバー）（WY21W）
- 後退灯：12V-16W（W16W）

ヒューズが切れたときは

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

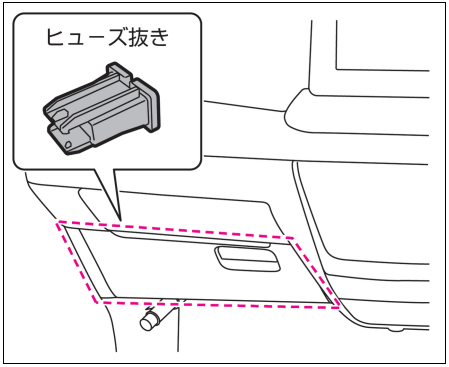
ヒューズボックスの位置



- ヒューズボックスは、次の位置にあります。
  - パワーユニットルーム内
  - グローブボックス奥

●各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側またはヒューズボックス付近に表示してあります。

ヒューズ抜きについて



●グローブボックス奥のヒューズボックス内にヒューズ抜きがあります。

ヒューズの点検・交換のしかた（パワーユニットルーム内）

アドバイス

- パワーユニットルーム内のヒューズを交換するときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

ヒューズの点検・交換のしかた（グローブボックス奥）

警告

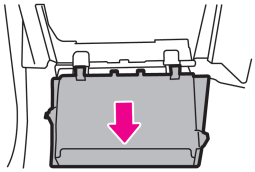
- **規定の容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使用しない。**
  電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。
- 交換してもヒューズが切れるときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
- グローブボックスを取り付けるときは、外したときと逆の手順で取り付けます。

1. ＜パワースイッチ＞をOFFにします。

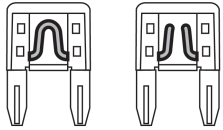
2. グローブボックスを開け、左右のストッパーを外します。



3. グローブボックスを50°開けた状態で引き上げ、取り外す。

4. ヒューズ抜きを使用してヒューズを取り外します。
ヒューズ抜き（➔P.294）

ヒューズの参考画像



5. ヒューズが切れていないか点検します。
切れているときは新しいヒューズと交換します。

MEMO

メンテナンス

メンテナンスの前に

点検整備について P.298

工具・ジャッキ

工具・ジャッキ★について P.299

点検と整備

パワーユニットルーム P.303
ウォッシャー液の補給 P.304
寒冷時の取り扱い P.305
タイヤ P.306
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.308
ワイパー P.308
キーレスオペレーションキーの電池交換 P.309
補機用バッテリー P.310

清掃・お手入れ

外装のお手入れ P.312
内装のお手入れ P.315

サービスデータ

点検値 P.318
交換油脂類 P.318
車両仕様 P.319
イベントデータレコーダ（EDR） P.321
車両状態記録機能 P.322

点検整備について

道路運送車両法により、定期点検と日常点検が義務付けられています。正しい点検整備を行いお車を安全にお使いください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検整備の種類

⚠ 警告

- **点検、整備をするときは必ず車両から充電ケーブルを取り外し、＜パワースイッチ＞がOFFになっていることを確認する。**

アドバイス

- 以下の場合は、整備作業を行わないでください。
  - 充電ケーブルによる駆動用バッテリー充電時
  - 補機用バッテリー補充電時
  - リモートエアコンまたはタイマーエアコン作動時

●点検･整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

●**日常点検**
走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
いつもと違うことに気がついたら三菱自動車販売会社で点検を受けてください。（音、振動、におい、水漏れ、油もれなど）

●**定期点検**
1 年ごとに実施する点検です。12か月点検および24 か月点検があります。

●**その他の点検**
新車時の無料点検や、厳しい使われかたをしたときに必要な点検があります。

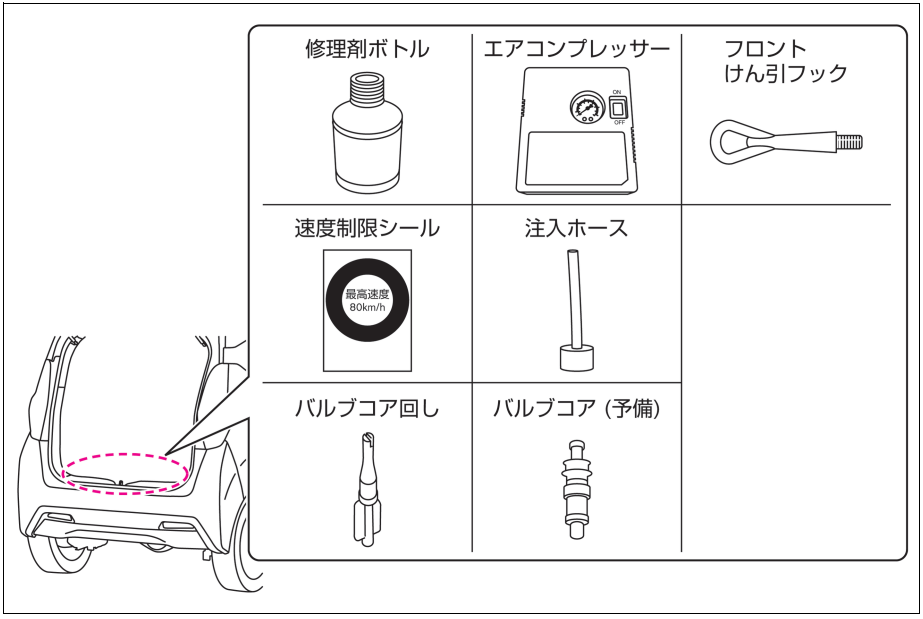
車検、点検整備のとき

●車検、点検整備については、三菱自動車販売会社にご相談ください。

工具・ジャッキ★について

この車両には、スペアタイヤ、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

工具、パンクタイヤ応急修理キットの格納場所



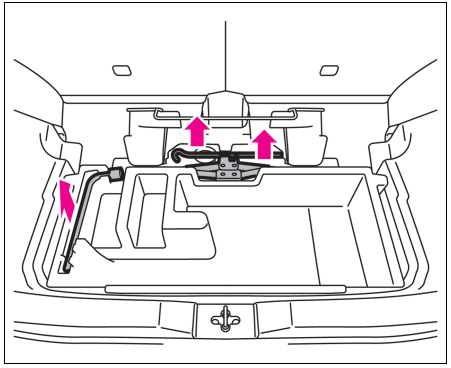
⚠ 注意

- **工具を使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類や発炎筒（➔P.253）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。
- 工具･パンクタイヤ応急修理キットは、ラゲッジルーム内に格納されています。
  ➔応急修理する前に (P.256)
  ➔パンクタイヤ応急修理キットについて (P.256)

ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーの取り出しかた（別売り）

- この車両には、ジャッキ、ハンドル兼ホイールナットレンチ、ハンドルレバーが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車両専用のジャッキを準備してください。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。



●ラゲッジルームのラゲッジフロアボードを持ち上げて取り出します。

⚠ 注意

- **ジャッキを取り出すときは、手をぶつけないように注意する。**
  金属部などに手をぶつけると、ケガをするおそれがあります。
- **ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しない。**

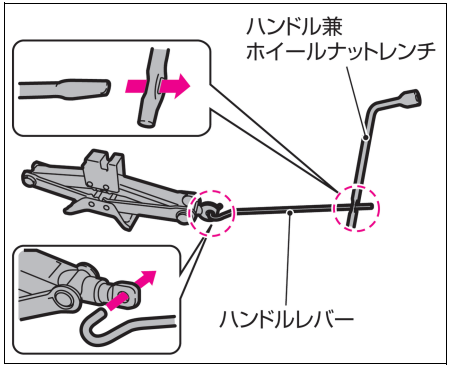
アドバイス

- ジャッキとラゲッジフロアボードが内装部品にぶつからないようにしてください。傷がつくおそれがあります。

知識

- ジャッキを取り出すときは、後席シートを車両前方へスライドさせてください。

ジャッキの使いかた



●ジャッキにハンドルレバーとハンドル兼ホイールナットレンチをセットします。

●ジャッキを使って車両を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを設置してください。

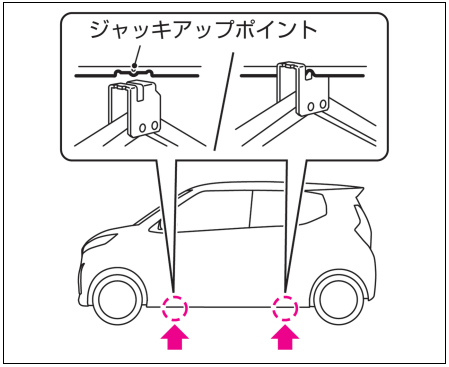
⚠ 警告

- **ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らない。**
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- **工具、ジャッキを使ったあとは、元の場所に収納する。**
  車室内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **ハンドル兼ホイールナットレンチを回すときは、ハンドルレバーをしっかり握って回す。**
  ハンドルレバーが回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- **ハンドルレバーは、確実にハンドル兼ホイールナットレンチの穴に差し込む。**
  ハンドルレバーが確実に差し込まれていないと、外れて思わぬケガをするおそれがあります。
- **ジャッキアップ中はパワーユニットを始動しない。**
  車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

ジャッキアップポイント



●矢印の位置がジャッキアップポイントです。

⚠ 注意

● **ジャッキを使うときは、次のことを必ず守る。**

— ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い、他車のジャッキは使用しないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使用しないでください。

— ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。

— 平坦で硬いところに駐車して作業してください。

— 使用前にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを**P**にしてください。

— 輪止めなどで車を固定してください。

— ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。

— 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

● ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

ジャッキアップのしかた

⚠ 注意

● **柔らかい地面の上ではジャッキアップしない。**

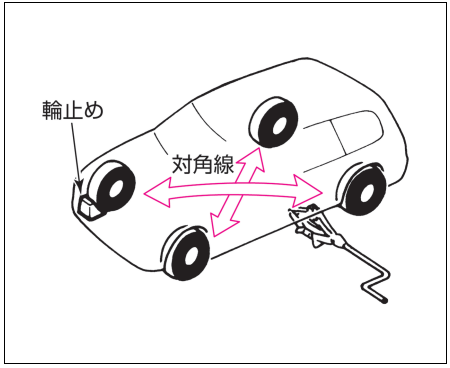
ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。

● **やむをえず傾斜地で作業するときは、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにする。**

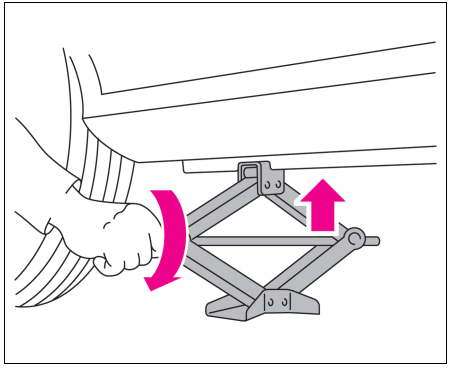
●輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。

1. 交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。

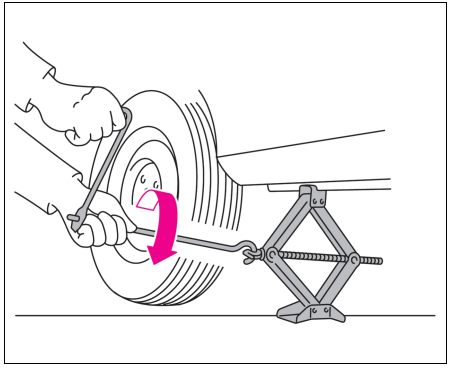
➔停車・駐車のしかた (P.147)



2. ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪をジャッキアップするとき：後輪の後ろ側
後輪をジャッキアップするとき：前輪の前側



3. ジャッキの上部がジャッキアップポイントに接触するまで、ジャッキを矢印の方向に手で回します。

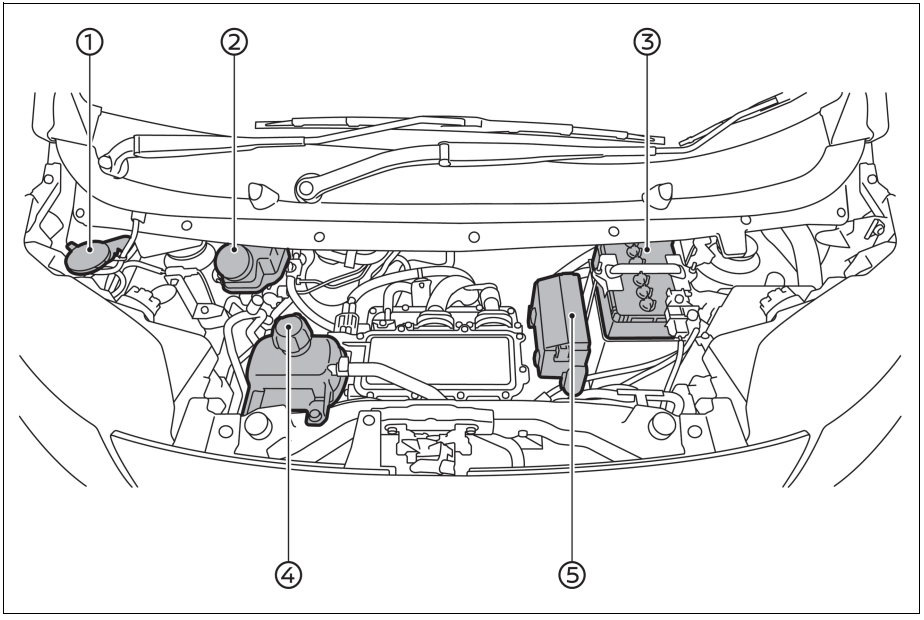


4. ハンドル兼ホイールナットレンチを回して、タイヤと地面が少し離れるまで、ジャッキアップします。

パワーユニットルーム

パワーユニットルーム内を点検するときは安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけた状態でボンネットを開けます。

パワーユニットルーム内の配置図



① ウォッシャータンク
② ブレーキフルードリザーバータンク
③ 補機用バッテリー
④ 電動パワートレイン冷却用ラジエーターリザーバータンク
⑤ ヒューズボックス

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

- **点検や整備に使用した工具や布などをパワーユニットルーム内に置き忘れない。**
  故障や車両火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **パワーユニットルーム内の作業をするときは、＜パワースイッチ＞をOFFにする。**
  パワーユニット作動中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- 点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 警告

- **走行前、ボンネットが確実に閉まっていることを、必ず確認する。**
  ロックされていないと、走行中にボンネットが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

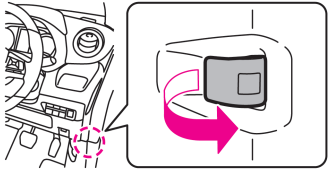
⚠ 注意

- **風が強いときは、ボンネットをしっかり持ってゆっくりと開ける。**
- **ボンネットを開けたときは、ボンネットに頭などをぶつけないよう注意する。**
- **ラジエーターなどの高温部には触れない。**

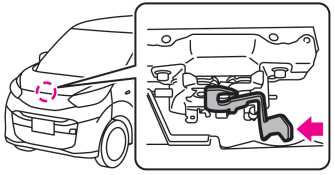
  やけどをするおそれがあります。
- **ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろす。**

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ボンネットやワイパーを損傷します。
- ボンネットを閉めるときに、ボンネットに体重をかけて強い力で押すと、ボンネットがへこむおそれがあります。

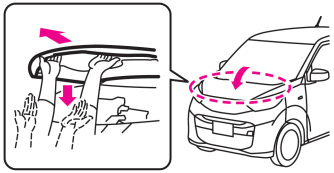


1. 運転席の右下にあるオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2. ボンネット先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらボンネットを持ち上げます。

3. ステーをフックから外し、ボンネット裏側の穴（ステー差し込み位置）に確実に差し込みます。



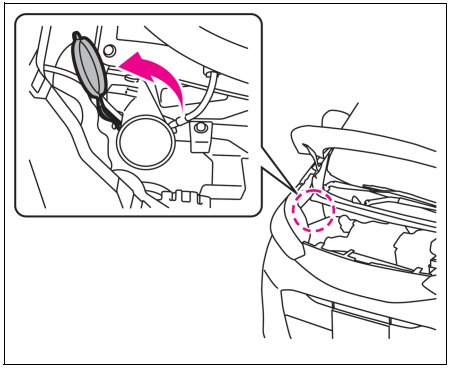
4. 閉めるときはステーをフックに戻し、ボンネットを20cm ～ 30cmの高さまでゆっくり降ろしてから、手を離して落としてロックします。ロックできなかったときは、レバーを操作してボンネットをもう一度持ち上げてから再度落としてください。ボンネットを上から押して閉めようとしないでください。

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

補給のしかた

- フロントワイパーとリヤワイパーのウォッシャータンクは兼用です。



- ウォッシャー液が減っているときは、ウォッシャータンクのふたを外し、ウォッシャー液を補給してください。
- ウォッシャー液は、必要に応じ水で薄めてください。希釈割合はウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にします。

●三菱自動車純正ウォッシャー液をおすすめします。
ウォッシャータンク容量（P.319）

⚠ 注意

● **ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけない。**
出火するおそれがあります。

アドバイス

● ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

寒冷時の取り扱い

寒冷時に備えて、準備や点検などを正しく行ってください。

冬の前の準備

■ 冷却水の濃度点検

●冷却水の凍結を防ぐため、冷却水の濃度を点検してください。

冷却水の濃度	凍結温度
30%	約 −15 ℃
50%	約 −35 ℃

●冷却水を補充・交換するときは、三菱自動車純正スーパーロングライフクーラントプレミアムをお使いください。
サービスデータ（冷却水）（P.319）

アドバイス

● 寒冷地仕様車の冷却水は工場出荷時に50%にしてあります。

● 冷却水の点検・補充・交換は三菱自動車販売会社にご相談ください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

●冬用タイヤに交換するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

●タイヤチェーンは、タイヤサイズにあった三菱自動車純正品をおすすめします。

■ ウォッシャー液の濃度点検

●ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の容器に記載してある凍結温度を参考に外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

●ドアやワイパーなどが凍結したときは、無理に開けたり動かしたりせず、凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐに水分をふき取ってください。

●ガラスに雪や霜が積もっているときは、プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように雪を取り除いてください。

●足まわり（ブレーキ周辺、フェンダーの裏側など）が凍りついているときは、部品を破損しないように注意しながら、付着した氷塊を取り除いてください。

●車室内に乗り込むときは、靴についた雪を取り除いてください。

⚠ 警告

● **ルーフに積もった雪は落とす。**
窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

● ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。

● ワイパー、ドアミラー、パワーウインドウなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。

● ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

雪道の走行のしかた

■ 滑りやすい路面に注意

●滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。

●雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
➔タイヤチェーンについて (P.308)

■ 走行中の雪の付着に注意

●ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
●フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき確認して雪を取り除いてください。

■ 駐車するときの注意

●シフトポジションを**P**にし、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
●軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
●雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

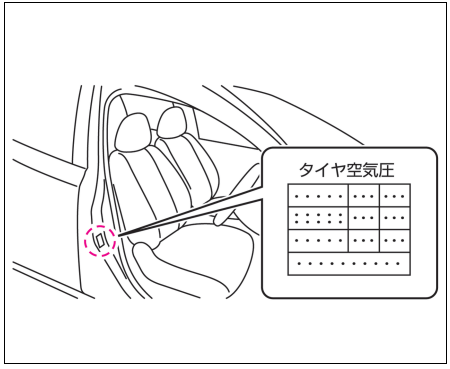
タイヤ

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

安全な走行のため、タイヤの点検は次の項目を点検してください。
詳細は別冊のメンテナンスノートをお読みください。

タイヤ空気圧

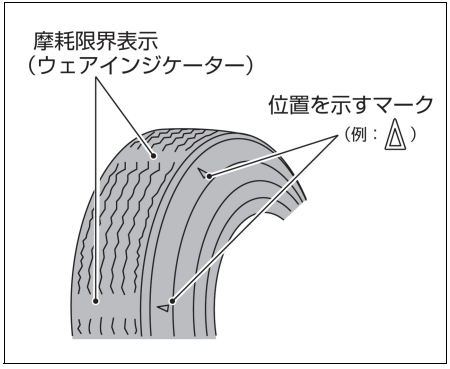


●すべてのタイヤの空気圧を点検してください。
●タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してあります。
●タイヤの空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用して点検してください。
●タイヤ空気圧の点検は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。
●タイヤ側面の厚みが薄いタイヤは、空気圧が減っていることを目視で確認することが困難なため、必ずタイヤエアゲージを使用して点検してください。
●走行直後はタイヤ空気圧が約1割上がることがあります。

タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷および針などの異物が刺さっていないか点検してください。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



●タイヤの溝の深さが十分であるか、ウェアインジケーター（摩耗限界表示）が表れていないか点検してください。
●タイヤが摩耗して接地面とウェアインジケーター（摩耗限界表示）が同じ高さになったらタイヤを交換してください。

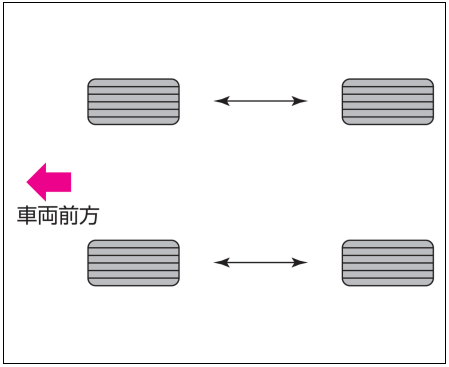
タイヤ・ロードホイールを交換するときは

- タイヤ交換をするときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。
  ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- アルミホイール★には荷重制限がありますので、交換するときは三菱自動車販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。
- バルブキャップは三菱自動車純正品を使用してください。三菱自動車純正品以外のバルブキャップを使用すると腐食して固着し、外れなくなる場合があります。
- バルブキャップは工具などを使用して締め付けると、破損するおそれがあります。
- ホイールナットの締め付けトルクは、98N·m（10kg·m）です。

タイヤローテーションのしかた



左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、三菱自動車販売会社にご相談ください。

タイヤに関する注意事項

⚠ 警告

- **タイヤの空気圧が不足したまま走行しない。**

  気温や高度の変化により、タイヤの空気圧は変化します。タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **5～7年を目安に必ず点検する。**

  タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。引き続き使用する場合は安全走行を確保するため、必ず点検を受けてください。点検については三菱自動車販売会社へご相談ください。

- **指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けない。**

  不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付ける。**

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 注意

径が異なるタイヤを装着すると車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、アクティブスタビリティコントロール［ASC］システムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。

— 摩耗差の大きいタイヤの装着

— 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着

— サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

● **著しく摩耗差のあるタイヤや空気圧が規定値と著しく異なるタイヤを装着しない。**

車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

冬用タイヤ・タイヤチェーン

雪道や凍結した道路を走行するときは、冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

冬用タイヤについて

●冬用タイヤを装着するときは、4輪とも指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のものに交換してください。

⚠ 注意

● **タイヤチェーンを不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものを使用しない。**

ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンを装着するときは、次のことを守ってください。

●タイヤチェーンを装着するときは、安全に作業できる平坦な場所に停車し、＜パワースイッチ＞をOFFにして作業してください。

●タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。

●タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って装着してください。

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書で指定された速度で走行してください。

アドバイス

● タイヤチェーンを装着すると、ホイールカバー★やアルミホイール★に傷をつけるおそれがあります。

● 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。

● タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行しないでください。また、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパー

ワイパーゴムが傷んでいると、きれいにふき取れなかったり、窓ガラスを傷つけたりします。

定期的に点検し、傷んでいるときは次の手順に従って交換してください。

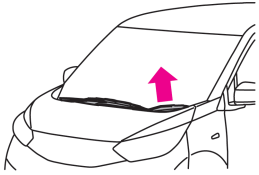
ワイパーブレードの交換のしかた

アドバイス

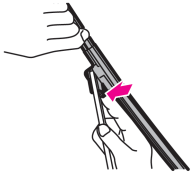
● 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

● ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

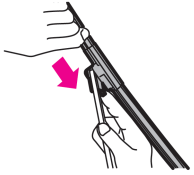
●リヤワイパーブレードの点検、交換が必要なときは、三菱自動車販売会社にご相談ください。



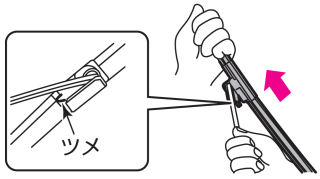
1. ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを少し傾けます。



2. ワイパーブレードのツメを押したままにします。



3. ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。



4. 新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。

キーレスオペレーションキーの電池交換

キーのスイッチを押しても作動しないときや作動表示灯（➔P.102）が点滅しないときは、電池の消耗が考えられます。次の手順に沿って、電池を交換してください。

電池交換のしかた

⚠ 警告

- **電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。**

キーには、ボタン電池が使用されています。誤って電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。 新しい電池および取り外した電池は、お子さまの手の届かない場所に保管してください。

- **電池を飲み込んだり、体内に入れてしまった場合は、ただちに医師の診察を受ける。**

⚠ 注意

- **カバーがしっかりと閉まらない場合は、キーの使用を中止する。**

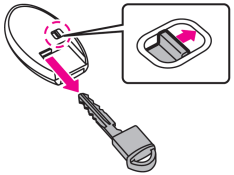
  キーをお子さまの手の届かない場所に保管し、すみやかに三菱自動車販売会社にご連絡ください。

アドバイス

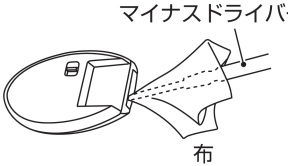
- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。三菱自動車販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換の際は、必ず同じタイプの電池と交換してください。

アドバイス

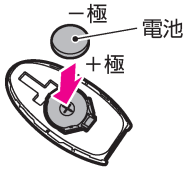
- 電池交換後は、キーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。正常に作動しないときは故障が考えられますので、三菱自動車販売会社にご相談ください。



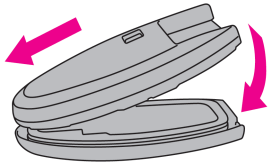
1. キー裏側のロックを外しながら、内蔵キー（エマージェンシーキー）を引き抜きます。



2. すき間にマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）



3. 消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+ 極を下にして取り付けてください。）
使用電池：CR2032



4. カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。

補機用バッテリー

補機用バッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
詳しくは三菱自動車販売会社にご相談ください。

補機用バッテリーに関する注意事項

⚠ 警告

- **補機用バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけない。**
  補機用バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- **バッテリー液が付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診断を受ける。**
  バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- **補機用バッテリーの⊕側ターミナルが周辺の金属と接触しないようにする。**
  接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、補機用バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- **補機用バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定する。**

⚠ 注意

しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

外装のお手入れ

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

●塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
- ― ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
- ― 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ― ほこり、汚れがひどいとき

■ 水洗いするときは

●水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
●水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
●はん点が残らないように水をふき取ります。

洗車時の注意

⚠ 注意

● **下回りを洗うときは、ケガをしないように注意する。**

● **洗車するときは、パワーユニットルーム内に水をかけない。**

電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。

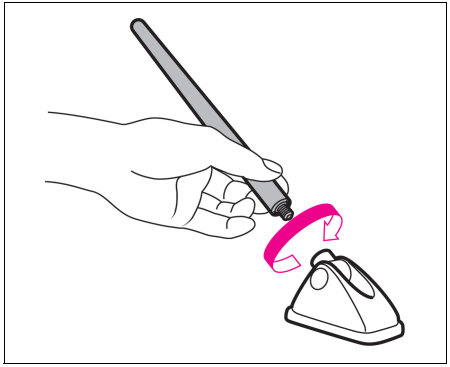
アドバイス

● ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
● ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使用しないでください。変色やしみの原因となります。
● 硬いブラシや、たわしなどは使用しないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
● 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。
● 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車機を使うときは

●ルーフについているアンテナを外してください。
●ドアミラーを格納してください。
➔ドアミラー (P.120)
●充電リッドを完全に閉めてください。
➔充電リッドの開けかた、閉めかた (P.27)
●高圧洗浄機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、塗装の劣化を早めたりすることがあります。

アンテナの外しかた



●アンテナを取り外すときは、アンテナの根元を持ち、矢印の方向に回して取り外します。
●取り付けるときは、アンテナの根元を持ち、矢印と逆方向に回し、確実に締め付けます。

アドバイス

● 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

アドバイス

- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車室内に水が漏れるおそれがあります。

オーバーフェンダーテープ（ホイールアーチ）付車

- 表面の汚れをとるときは、水洗い後柔らかい布で拭き取ります。強くこすると、傷がつくことがあります。
- 高圧洗車機を使用するときは、フェンダーのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。テープが剥がれる場合があります。

ワックスをかけるときは

●ワックスがけは1か月に1回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。

② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

ワックスの選びかた

●コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスをご使用ください。
三菱自動車純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミロードホイール★のお手入れ

●中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。三菱自動車純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、三菱自動車販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけたりするおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - ― 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使用しない
  - ― 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - ― 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - ― 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使用しない

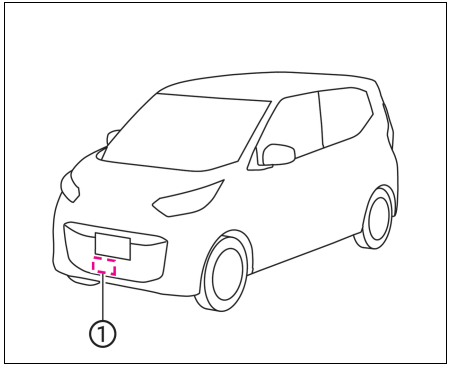
軽い補修のしかた

●フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺以外は、塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。
サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

●フロントバンパー、リヤバンパーのレーダーセンサー周辺はタッチアップペイント含め塗装修理はできません。塗装する場合は三菱自動車販売会社にご相談ください。
➔レーダーセンサーの取り扱い (P. 313)

レーダーセンサーの取り扱い

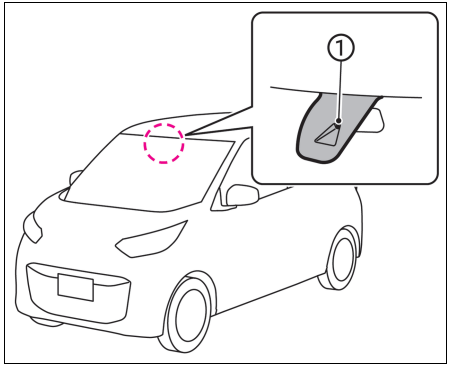
システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●以下の状態の場合レーダーセンサー①の性能が発揮できない可能性があります。取り付けた部品の除去、洗車、修理、もしくはバンパー交換を推奨します。
  — レーダーセンサー周辺へのステッカー貼り付け、後付け部品の取り付け
  — お客さまの手による補修
  — レーダーセンサー周辺の傷つき、鳥糞、虫、泥などの付着
  — 衝突などでレーダーセンサー周辺を破損したとき
●フロントバンパー、リヤバンパーを改造、脱着したり、塗装したりしないでください。塗装する場合は三菱自動車販売会社にご相談ください。

フロントカメラの取り扱い

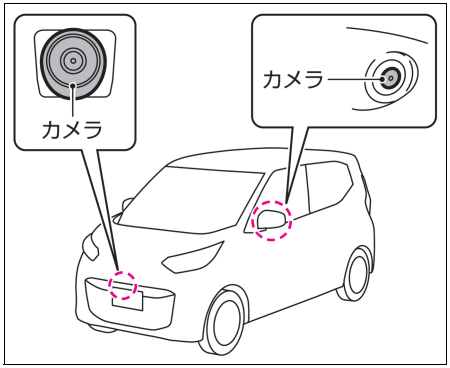
システムを正しく作動させるため、次のことをお守りください。



●カメラ前方のフロントガラスはいつもきれいにしておいてください。
中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。
●カメラ前方のフロントガラスにステッカー（車検の検査標章や透明なものを含む）を貼らないでください。
●インストルメントパネル上に鏡や白い紙などの光を反射しやすいものを置かないでください。太陽光が反射し、カメラの検知性能に影響が出るおそれがあります。
●カメラ①を取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。
●フロントガラスが汚れていたり、フロントカメラの前が障害物でふさがれていたり、カメラが前方を撮像できないとき、マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドライト警告」の警告メッセージ（➔P.274）が表示されることがあります。カメラの前の障害物を取り除き、汚れを清掃してください。
●カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。またカメラを取り外さないでください。故障、誤作動の原因になります。事故などでカメラ周辺部が変形した場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

フロントビュー★／サイドビューカメラ★の取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

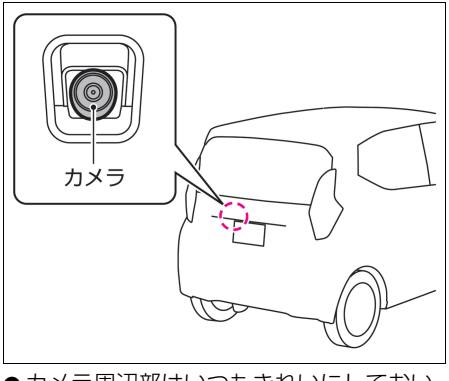


●カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。

●衝突などでカメラ周辺を破損したときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

リヤビューカメラの取り扱い

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。



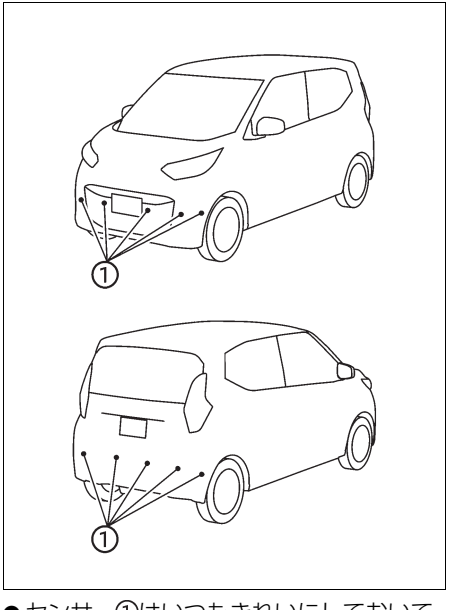
●カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。
中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。

●光が反射するため、ナンバープレートのアクセサリーを取り付けないでください。

●衝突などでカメラ周辺を破損したときは、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

センサーの取り扱い

システムを正しく作動させるために、以下のことをお守りください。



●センサー①はいつもきれいにしておいてください。
汚れているときは、柔らかい布で傷つけないように注意してふき取ってください。

●センサー①またはその周辺に強い衝撃を与えないでください。またセンサー①の取り外し、分解などをしないでください。故障、誤作動の原因になります。
事故などでセンサーの取り付け部が変形した場合は、三菱自動車販売会社にご相談ください。

●センサーまたはその周辺にステッカー（透明なものを含む）を貼ったり、アクセサリーなどを取り付けないでください。故障、誤作動の原因になります。

内装のお手入れ

内装のお手入れについて

アドバイス

- 車室内に水をかけないでください。
オーディオ★やスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤を使用しないでください。変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがあるため、確認してからご使用ください。
- オーディオ★やスイッチ類などの電装品、ブレーキペダル周りにシリコーン（シリコン）を含むケミカル用品（スプレー、グリース、オイルなど）を使用しないでください。電装品の故障につながるおそれがあります。

アドバイス

- 消臭剤･芳香剤、化粧品･日焼け止めなどは、容器からこぼしたりしないでください。また、吊り下げタイプの消臭剤･芳香剤などは、内装部品に接触しないようにしてください。含まれる成分によっては、内装部品に付着すると変色やしみ、ひび割れ、塗装はがれなどの原因となるおそれがあるため、付着した場合は、すみやかに柔らかい布でふき取ってください。
- 塩素系（二酸化塩素や次亜塩素酸）の洗浄液を使用しないでください。塗装はがれやサビなどの原因となるおそれがあります。やむをえず洗浄（除菌）する場合は、エタノール75%以下をご使用ください。エタノールを乾いた布に含ませ、内装部品をふいてください。エタノールがなくなるまでふき取ってください。ふき残しがあると塗装はがれや色落ちなどの原因となるおそれがあります。エタノールは、引火性ですので、火気に注意してください。
- 内装部品を固いもので擦ったり引っかいたりしないでください。傷がつき、破損するおそれがあります。

カーペットの汚れ取り

●電気掃除機でほこりを取り除き、三菱自動車純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアマットを取り外したときは、敷き直すときにフロアマットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。
フロアマット (P.246)

IR カット /99%UV カットガラス★のお手入れ

フロントドアガラスの内側にはIRカット&UVカットコーティングがされています。

●フロントドアガラスの内側を清掃するときは、水または温水を含ませた柔らかいきれいな布で早めに汚れをふき取ってください。

アドバイス

- IRカット&UVカットコーティングの傷つきや劣化を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ― フロントドアガラスの汚れがひどいときは、なるべく窓ガラスの開閉を行わない。
  - ― 清掃するときはコンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナー、アルカリ性洗剤は使用しない。
  - ― 砂などが付着している布で清掃をしない。

布、ビニールレザーの汚れ取り

●中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、三菱自動車純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

メーター表面やその他光沢のあるプラスチック部品の汚れ取り

●塵、ほこりを取り除き、柔らかい布を真水に浸して、固くしぼってから軽くふき取ります。
硬いブラシや布、ティッシュでこすると、傷がつくことがあります。

アドバイス

- 乾いた布やウェットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色したりする原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

ガラスの汚れ取り

●テールゲートガラスの内側を清掃するときは、熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線にそって軽くふいてください。

●ガラスクリーナー、洗剤などは使用しないでください。

●ガラスの内側を清掃するときは、アンテナ線を切らないように、水を含ませた柔らかい布で軽くふいてください。

デジタルルームミラー★のお手入れ

- ミラーやカメラ部は常にきれいな状態にしておいてください。汚れなどが付いていると見えにくくなるおそれがあります。
- ミラーやカメラ部を清掃するときは、乾いた柔らかい布などでそっと拭いてください。
- 清掃するときはアルコール、ベンジン、シンナーなどの薬品でミラーやカメラ部を拭かないでください。変色、劣化、故障の原因となります。汚れがひどいときは、まず濡れた柔らかい布で拭いてから乾いた柔らかい布で拭いてください。
- カメラ前方のテールゲートガラスはいつもきれいにしておいてください。中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた布でふき取ります。
  油膜が付いているときは、油膜取りを使用して清掃してください。
- カメラ前方のテールゲートガラスにステッカー（透明なものを含む）を貼らないでください。
  ➔ 外観リヤ (P.4)

点検値

項目		点検値
ブレーキペダル ※	床板とのすき間 メーター内の READY（走行可能）表示灯［ ］が点灯時に約 490N（50kg）で踏んだとき	60mm 以上

※： ブレーキが正常に作動しないときは、必ず三菱自動車販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの高さの調節が必要なときも、三菱自動車販売会社にご相談ください。

交換油脂類

お車の性能を適正に保つため、弊社指定銘柄のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外をお使いになる場合、指定銘柄に相当する品質のものをお使いください。
下記は、おおよその規定量です。実際の量は、わずかに異なることがあります。
交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。

減速機オイル

規定量（ ℓ ）	指定油脂（規格）
0.85	三菱自動車純正 ATF SP Ⅲ ※

※： 必ず三菱自動車純正ATF SPⅢを使用してください。三菱自動車純正ATF SPⅢ以外のフルードを使用すると減速機が損傷するおそれがあります。

ブレーキフルード

規定量（ ℓ ）	指定油脂（規格）
–	三菱自動車純正ブレーキフルードスーパー 4（DOT4）

電動パワートレイン冷却水

規定量（ℓ）	指定油脂（規格）
2.4 ※1	三菱自動車純正スーパーロングライフクーラントプレミアム ※2

※1：リザーバータンクのMAXレベル容量（0.25ℓ）を含みます。

※2：走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、三菱自動車純正スーパーロングライフクーラントプレミアムを必ずご使用ください。

ウォッシャー液

規定量（ℓ）	指定油脂（規格）
1.5	三菱自動車純正ウォッシャー液 ※

※：外気温に応じて濃度を調節してください。

車両仕様

2.9kW 普通充電器（車載用）／急速充電

項目	内容
入力電圧	AC 100V ～ 200V
定格周波数	50Hz ／ 60Hz
最大定格電流	14.5A（2.9kW 普通充電器（車載用））
漏電遮断器の検知電流	建屋側のブレーカーや接続している充電ケーブルによって異なります。（三菱自動車純正品充電ケーブル：15mA）
EV 充電モード／接続タイプ	Mode 2 ／ Case B（普通充電、三菱自動車純正品充電ケーブルとの組み合わせ） Mode 3 ／ Case B/C（普通充電、公共充電スタンドなど） Mode 4 ／ Case C（急速充電、V2H、V2L）
施工要求（短絡保護電流、保護機器の情報）	過電流、過電圧対策手段は、国内の法規、基準に従うことが必要です。家屋、ビルの配線に適切な過電流保護装置を必ず設置してください。

項目	内容
IP 等級	IP44：充電中の充電ケーブル（コントロールボックス付）★と充電ポート結合部（三菱自動車純正品充電ケーブルとの組み合わせ）
動作温度	車両の動作温度
保管温度	車両の保管温度
アダプタ	充電ポート部にアダプタを使用しないでください。

電球（バルブ）の容量

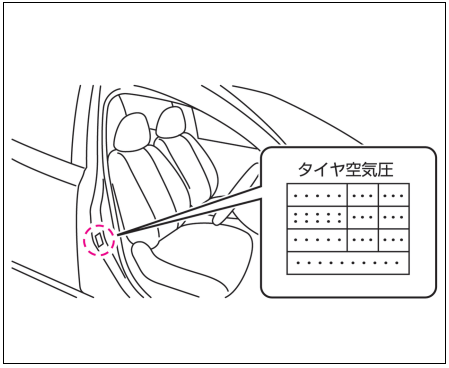
電球		容量（V-W）	電球のタイプ
番号灯		12-5	W5W※
尾灯		12-5	W5W
後退灯		12-16	W16W
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	前面	12-21（アンバー）	WY21W
	後面	12-21（アンバー）	WY21W

※：電球が点灯しないときは三菱自動車販売会社で点検を受けてください。
次の外装ランプはLEDです。LEDが一部でも点灯しない場合は、三菱自動車販売会社で点検を受けてください。

- ロービーム（LED）
- ハイビーム（LED）
- フォグランプ★（LED）
- 車幅灯（LED）
- 方向指示器兼非常点滅表示灯（側面）（LED）
- 制動灯（LED）
- ハイマウントストップランプ（LED）

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
155/65R14 75S 165/55R15 75V	14 × 4.5J 15 × 4.5J	100mm (4穴)	46mm



タイヤの指定空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。

イベントデータレコーダ（EDR）

車両データの記録・蓄積について

- イベントデータレコーダは一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声は記録しません。
- 氏名、性別、年齢などの個人情報は記録しません。

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはイベントデータレコーダ機能を備えています。

以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、イベントデータレコーダで車両が衝突したときなどの車両データを記録・蓄積しています。

■ SRS エアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に下記車両データを記録・蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 車速などの車両情報

■ マイパイロットシステム★

マイパイロットシステムは下記車両データを記録・蓄積します。

- アクセルペダル、ブレーキペダル、ハンドルなどの操作状況
- 先行車やレーンマーカーなどの検知状況

☆／★：車両型式、オプションなどで異なる装備

- 車速などの車両情報
- マイパイロットの作動に関する情報
- マイパイロットの故障診断情報
- フロントカメラの画像情報（SRSエアバッグ、衝突被害軽減ブレーキシステム[FCM]作動時）

データの扱いについて

三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、イベントデータレコーダに記録されたデータを三菱自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態記録機能

車両状態の記録・蓄積について

車両状態記録機能は、下記車両データを記録・蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報

車両状態記録機能

- 車両状態記録機能は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

車両状態記録機能は品質維持を目的として、車両の運行状態を記録・蓄積します。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

データの取り扱いについて

三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを三菱自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。

なお、三菱自動車および三菱自動車が委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

3

3 点式シートベルト P.48

A

A/C（エアコン）
- A/C スイッチ P.125
- エアコンを使うときに注意すること P.129
- オートエアコン P.125
- タイマーエアコン P.131
- 吹き出し口 P.128
- リモートエアコン（今すぐエアコン） P.20

ABS
- ABS P.158
- ABS 警告灯 P.74

ACC 電源オートオン / オフ機能 P.139
AHB（オートマチックハイビーム） P.150

D

DAA（ふらつき警報） P.193

E

e-Assist P.161
ECO モード P.157
EDR（イベントデータレコーダ） P.321
ELR（緊急固定）付シートベルト P.48
ESS（エマージェンシーストップシグナルシステム） P.158
ETC ..... N

F

FCM（衝突被害軽減ブレーキシステム） P.177

I

ISOFIX チャイルドシート下部取付金具 P.57

L

LCDN（先行車発進通知） P.196
LDP（車線逸脱防止支援機能） P.189
LDW（車線逸脱警報システム） P.189

M

My MITSUBISHI CONNECT P.20

N

NORMAL モード P.157

R

READY（走行可能）表示灯 P.75

S

SOS コール（エアバッグ展開時自動通報機能付） P.241
SPORT モード P.157
SRS エアバッグ P.59
SRS エアバッグ警告灯 P.74

T

TSR（標識認識システム） P.193

U

USB ポート ..... N

V

V2H 給電 P.31
V2H 充電 P.31
V2L 給電 P.32

W

W 数（電球の容量） P.320

ア

アームレスト P.112
アウターミラー（ドアミラー） P.120
アクセサリーソケット（DC12V） P.246
アクティブスタビリティコントロール [ASC]
- ASC P.159
- ASC OFF 表示灯 P.75
- ASC 警告灯 P.74

アシストグリップ P.249
アッパーグローブボックス P.238
アルミロードホイールのお手入れ P.313
アンサーバック機能 P.102
安全にご利用いただくために P.15

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アンテナ.....P.134

イ

ESS（エマージェンシーストップシグナルシステム）.....P.158
一時停止標識認識.....P.194
移動物検知機能.....P.85, P.210
イノベーティブペダル オペレーションモード.....P.156
イノベーティブペダル オペレーションモード表示灯.....P.73
イベントデータレコーダ（EDR）.....P.321
今すぐ充電.....P.20, P.32
今すぐ充電スイッチ.....P.27
イモビライザー（盗難防止装置）.....P.67
イルミネーションコントロール.....P.99
インジケーター（表示灯）.....P.75
インナーミラー（自動防眩ルームミラー）.....P.116
インフォメーショングループ.....P.83

ウ

ウィンカー（方向指示器）.....P.152
ウインドウガラス（パワーウインドウ）.....P.123
ウェルカムライト.....P.102
ウォーニング（警告灯）.....P.74
ウォッシャー
　ウォッシャー液の補給.....P.304
　ウォッシャースイッチ.....P.154
ウォッシャー液.....P.319
ウォッシャーの噴霧状態点検.....M
動けなくなったときは.....P.252
運転するときに注意すること.....P.45
運転する前に.....P.44
運転前の準備.....P.44

エ

エアコン
　A/C スイッチ.....P.125
　エアコンを使うときに注意すること.....P.129
　オートエアコン.....P.125
　タイマーエアコン.....P.131
　吹き出し口.....P.128
　リモートエアコン（今すぐエアコン）.....P.20
エアバッグ
　SRS エアバッグ.....P.59
　SRS エアバッグ警告灯.....P.74
　SRS カーテンエアバッグ.....P.64
　SRS サイドエアバッグ.....P.63
　運転席＆助手席 SRS エアバッグ.....P.61
　運転席 SRS ニーエアバッグ.....P.65
エコドライブレポート.....P.97
エマージェンシーストップシグナルシステム [ESS].....P.158

オ

応急修理する前に.....P.256
オーディオ.....N
オーディオ
　アンテナ.....P.134
　オーディオの使いかた.....P.134
　ステアリングスイッチ.....P.135
オートエアコン.....P.125
オートマチックハイビーム [AHB].....P.150
オートライトコントロール（フロントワイパー連動）.....P.149
オートロック機能.....P.102, P.106
お子さまの安全のために.....P.51
お子さまを乗せるときに注意すること.....P.51
オドメーター（積算距離計）.....P.71
音声操作表示.....P.98

カ

カードホルダー.....P.248
外気温度計.....P.71
回生ブレーキ.....P.14
外装のお手入れ.....P.312
カギ（キーレスオペレーションキー）.....P.102
各種設定画面.....P.85
カメラ
　フロントカメラ.....P.314
　フロントビュー／サイドビューカメラ.....P.314
　リヤビューカメラ.....P.315
ガラスアンテナ.....P.135
ガラスのお手入れ（テールゲートガラス）.....P.316
寒冷時の取り扱い.....P.305

キ

キー
　エマージェンシーキー.....P.102
　キーレスオペレーションキー.....P.102
　キーレスオペレーションキーの電池交換.....P.309
　キーレスオペレーションシステムに関する注意事項.....P.103
キースイッチ（パワースイッチ）.....P.138
キーレスオペレーションキー
　キーレスオペレーションキーが正常に作動しないとき.....P.260
　機能・使いかた.....P.102
　電池交換のしかた.....P.309
　ドアの施錠・解錠の作動範囲.....P.103
キー連動室内照明.....P.236
キー連動室内照明システム.....P.102
急速充電.....P.30, P.34

索引

ク

空気圧（タイヤ）.....P.306, P.321
駆動用バッテリー
　駆動用バッテリー.....P.14
　駆動用バッテリークーラー.....P.28
　駆動用バッテリー残量計.....P.72
　駆動用バッテリー残量警告灯.....P.72
駆動用バッテリーの残量がなくなったときは.....P.263
くもり取り
　デフロスタースイッチ.....P.290
　リヤデフォッガースイッチ.....P.290
クラクション（ホーン）.....P.115
クリアランスランプ（車幅灯）
　スイッチ.....P.148
　電球（バルブ）容量.....P.320
　点灯しないとき.....P.292
車のお手入れ.....P.312
グローブボックス.....P.238

ケ

警告灯.....P.74
警告灯がついたときは.....P.264
警告メッセージ.....P.85, P.271
警告メッセージが表示されたときは.....P.271
警報ブザー音別一覧表.....P.289
けん引について.....P.253
減速機オイル.....P.318

コ

交換油脂類.....P.318
工具.....P.299
後席シート.....P.113
航続可能距離表示.....P.72
航続距離を延ばすためのポイント.....P.18
後退灯
　電球（バルブ）容量.....P.320
　点灯しないとき.....P.292
高電圧部品について.....P.15
故障したときは.....P.252
コンビニエントフック.....P.246

サ

サービスデータ.....P.318
最高速度標識認識.....P.194
最高速度標識認識表示.....P.73
サイドミラー（ドアミラー）.....P.120
サンバイザー.....P.247

シ

シート
　後席シート.....P.113
　シートヒーター.....P.245
　前席シート.....P.111
　チャイルドシート.....P.52
シートアンダートレイ.....P.248
シートヒーター.....P.245
シートベルト
　シートベルトの着用のしかた.....P.48
　シートベルトの注意事項.....P.49
　シートベルト非着用警告灯.....P.74
事故が起きたときは.....P.16
室内灯.....P.236
始動しない.....P.261
始動のしかた.....P.138
自動防眩ルームミラー.....P.116
シフトレバー（セレクターレバー）.....P.141
車検証入れ.....P.238
車線逸脱警報システム [LDW].....P.189
車線逸脱防止支援機能 [LDP]
　LDP.....P.189
　走行支援スイッチ.....P.191
ジャッキ
　ジャッキ.....P.299
　ジャッキアップのしかた.....P.301
車幅灯
　スイッチ.....P.148
　電球（バルブ）容量.....P.320
　点灯しないとき.....P.292
車両型式.....S
車両重量.....S
車両仕様.....P.319
車両状態記録機能.....P.322
車両情報画面.....P.79
車両寸法.....S
車両接近通報装置 [AVAS]
　AVAS.....P.161
　車両接近通報装置 [AVAS] 警告灯.....P.74
ジャンプスタートのしかた.....P.262
充電
　V2H 充電.....P.31
　急速充電.....P.34
　充電ができない.....P.39
　充電がなくなったときは.....P.263
　充電ケーブル.....P.25
　充電に関する装備.....P.24
　充電に関する注意事項.....P.21
　充電ポート.....P.27
　タイマー充電.....P.36
　普通充電.....P.30
充電ケーブル.....P.25
充電表示灯.....P.75

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

収納装備 P.238
乗車定員 S
衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM]
(歩行者・自転車運転者検知付)
FCM P.177
FCM ／踏み間違い衝突防止アシスト
[EAPM] 警告灯 P.74
心臓ペースメーカーなどをご使用の方の
注意事項 P.46
進入禁止標識認識 P.194

ス

スイッチの操作
A/C スイッチ P.125
TRIP RESET スイッチ P.71
今すぐ充電スイッチ P.27
イルミネーションコントロールスイッチ P.99
ウォッシャースイッチ P.154
シートヒータースイッチ P.245
ステアリングスイッチ（オーディオ） P.135
ステアリングスイッチ（マイパイロット） P.165
ステアリングスイッチ（マルチインフォメーションディスプレイ） P.78
テールゲートオープナースイッチ P.108
デフロスタースイッチ P.290
ドアスイッチ（ドアハンドルのスイッチ） P.106
ドアミラースイッチ P.120
パワーウインドウスイッチ P.123
パワーウインドウロックスイッチ P.123
パワースイッチ P.138
非常点滅表示灯スイッチ P.10
フォグランプスイッチ P.153
ブレーキオートホールドスイッチ P.144
ヘッドライトレベリングダイヤル P.152
方向指示器スイッチ P.152
マイパイロットパーキングスイッチ P.217
ライトスイッチ P.148
リヤデフォッガースイッチ P.290
ワイパースイッチ P.153
水没したときは P.291
ステアリング（ハンドル） P.114
ステアリングスイッチ
オーディオ P.135
音声操作 N
ハンズフリーフォン N
マイパイロット P.165
マルチインフォメーションディスプレイ P.78
ステアリングヒーター P.245
スピードメーター（速度計） P.71
スペアタイヤ
スペアタイヤ P.299
パンクしたときは P.256
スモールランプ（車幅灯）
スイッチ P.148
電球（バルブ）容量 P.320
点灯しないとき P.292

セ

制動灯
電球（バルブ）容量 P.320
点灯しないとき P.292
設定（メーター） P.85
セレクターレバー P.141
先行車発進通知 [LCDN] P.196
センサー
センサー設定 P.85
センサーの取り扱い P.315
洗車のしかた P.312
前照灯（ヘッドライト）
スイッチ P.148
電球（バルブ）容量 P.320
点灯しないとき P.292
前席シート P.111
前部霧灯（フォグランプ）
スイッチ P.153
電球（バルブ）容量 P.320
点灯しないとき P.292
フォグランプ表示灯 P.75
前方衝突予測警報 [PFCW] P.181

ソ

走行 P.147
走行支援システム P.162
走行時間アラーム P.85
速度計（スピードメーター） P.71

タ

タイマーエアコン P.131
タイマーエアコンに関する注意事項 P.133
タイマー機能 P.20
タイマー充電 P.36
タイマー設定状態確認画面 P.96
タイヤ
アルミロードホイールのお手入れ P.313
応急修理のしかた P.257
タイヤ・ホイールを交換するとき P.307
タイヤ・ロードホイールサイズ P.321
タイヤチェーンについて P.308
タイヤの位置交換（ローテーション） P.307
タイヤの空気圧 P.306, P.321
タイヤの点検項目 P.306
パンク P.256
パンクタイヤ応急修理キット P.256
冬用タイヤについて P.308
タイヤアングルガイド P.95
正しい運転姿勢について P.44

索引

ダブルプリテンショナー機構 P.48

チ

チャージランプ（補機用バッテリー充電警告灯） P.74
チャイルドシート P.52
チャイルドシート適合表 P.54
チャイルドプルーフ P.107
着信表示 P.98
駐車支援システム P.198
駐車のしかた P.147
チルトステアリング P.115

ツ

通話表示 P.98

テ

定期点検 M
停止のしかた P.138
停車のしかた P.147
低速加速抑制機能 P.184
低速衝突軽減ブレーキ機能 P.184
定速制御機能（マイパイロット） P.174
テールゲート P.108
テールゲートガラスのくもりの取りかた P.290
テールランプ（尾灯）
　スイッチ P.148
　電球（バルブ）容量 P.320
　点灯しないとき P.292
テールランプ表示灯 P.75
デジタルルームミラー
　デジタルルームミラー P.117
　デジタルルームミラーのお手入れ P.317
デフロスタースイッチ P.290
電気自動車（EV）が事故にあったときの注意事項 P.16
電気自動車（EV）ってどんな車？ P.14
電気自動車（EV）の取り扱いに関する注意事項 P.16
電気自動車と上手に付き合うために P.18
電気自動車の特徴 P.14
電気自動車を始動できないときは P.261
電球（バルブ）容量 P.320
電欠したときは P.263
点検整備について P.298
点検値 P.318
電池交換のしかた（キーレスオペレーションキー） P.309
電動格納式ドアミラー P.120
点灯しないとき P.292
電動パーキングブレーキ
　電動パーキングブレーキ P.142
　電動パーキングブレーキ警告灯 P.74
　電動パーキングブレーキ注意事項 P.143
電動パワーステアリング警告灯 P.74
電動パワートレイン冷却水 P.319
電費情報表示 P.82

ト

ドア
　テールゲート P.108
　ドア P.106
　ドアが開かないときは P.260
　ドアスイッチ（ドアハンドルのスイッチ） P.106
　ドアを室内から開けられないとき（チャイルドプルーフ） P.107
ドアミラー P.120
ドアを室内から開けられないとき（チャイルドプルーフ） P.107
灯火装置（ランプ）の点灯、点滅具合、汚れ、損傷点検 M
盗難防止装置（イモビライザー） P.67
時計 P.71
ドライブコンピューター P.82
ドライブモードインジケーター P.73
ドライブモードセレクター
　ドライブモードインジケーター P.73
　ドライブモードセレクター P.157
トラブルがおきたときは
　駆動用バッテリーの残量がなくなったときは P.263
　警告灯がついたときは P.264
　警告メッセージが表示されたときは P.271
　けん引について P.253
　故障したときは P.252
　水没したときは P.291
　電球（バルブ）が切れたときは P.292
　ドアが開かないときは P.260
　発炎筒 P.253
　パワーダウン警告灯が点灯したときは P.263
　パワーユニットを始動できないときは P.261
　パンクしたときは P.256
　ヒューズが切れたときは P.294
　ブザー（警報音）が鳴ったときは P.289
　補機用バッテリーがあがったときは P.261
　窓ガラスがくもったときは P.290
　雪道やぬかるみにはまったときは P.291
トリップメーター（区間距離計） P.71
ドリンクホルダー P.239

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

索引

ナ

内装のお手入れ……P.315
ナビゲーションシステム……N
ナンバー灯（番号灯）
　スイッチ……P.148
　電球（バルブ）容量……P.320
　点灯しないとき……P.292

ニ

日常点検……M

ハ

パーキングセンサー（フロント / リヤ）……P.97
パーキングブレーキ……P.142
ハイマウントストップランプ
　電球（バルブ）容量……P.320
　点灯しないとき……P.292
ハザードスイッチ（非常点滅表示灯）……P.10
挟み込み防止機構……P.124
発炎筒……P.253
バックミラー（自動防眩ルームミラー）……P.116
発進……P.146
バッテリー
　バッテリー液量の点検・補給……M
　補機用バッテリー……P.310
バッテリーがあがったときは……P.261
バッテリー残量がなくなったとき……P.263
バッテリーセーバー
　ヘッドライト……P.148
　ラゲッジルームランプ……P.236
　ルーム＆マップランプ……P.236
バッテリーを長持ちさせるためのポイント……P.18
バニティミラー……P.248
バルブ（電球）容量……P.320
パワーウインドウ……P.123
パワーウインドウ
　挟み込み防止機構……P.124
　パワーウインドウが正常に作動しないとき……P.124
パワースイッチ……P.138
パワースイッチでのモードの切り替えかた……P.139
パワーダウン警告灯……P.74
パワーダウン警告灯が点灯したときは……P.263
パワーメーター……P.71
パワーユニット警告灯……P.74
パワーユニットルーム……P.303
パワーユニットを始動できないときは……P.261
パンクしたときは……P.256
番号灯
　スイッチ……P.148
　電球（バルブ）容量……P.320
　点灯しないとき……P.292
ハンドル……P.114

ヒ

ヒーテッドドアミラー……P.121
非常停止のしかた……P.139
非常点滅表示灯
　スイッチ……P.10
　電球（バルブ）容量……P.320
　点灯しないとき……P.292
尾灯
　スイッチ……P.148
　電球（バルブ）容量……P.320
　点灯しないとき……P.292
ヒューズ……P.294
ヒューズが切れたときは……P.294
標識認識システム [TSR]
　TSR……P.193
　TSR に関する注意事項……P.195
　一時停止標識認識……P.194
　最高速度標識認識……P.194
　進入禁止標識認識……P.194
表示灯……P.75
表示灯がついたときは……P.76
ヒルスタートアシスト [HSA]……P.160

フ

ブースターケーブルのつなぎかた……P.261
フード（ボンネット）……P.303
フォグランプ
　スイッチ……P.153
　電球（バルブ）容量……P.320
　点灯しないとき……P.292
　フォグランプ表示灯……P.75
吹き出し口……P.128
ブザー（警報音）が鳴ったときは……P.289
普通充電……P.30, P.32
踏み間違い衝突防止アシスト [EAPM]
　EAPM……P.183
　衝突被害軽減ブレーキシステム [FCM] ／ EAPM 警告灯……P.74
　低速加速抑制機能……P.184
　低速衝突軽減ブレーキ機能……P.184
冬用タイヤ・タイヤチェーン……P.308
ふらつき警報 [DAA]……P.193
ブレーキ（回生ブレーキ）……P.14
ブレーキ液量の点検・補給……M
ブレーキオートホールド
　ブレーキオートホールド……P.143
　ブレーキオートホールド表示灯……P.75
ブレーキ警告灯（赤色）……P.74
ブレーキシステム警告灯（黄色）……P.74
ブレーキの効き点検……M
ブレーキフルード……P.318
ブレーキペダルの踏みしろ……M
フロアマット……P.246

フロントカメラ P.314
フロントガラスのくもりの取りかた P.290

へ

ヘッドライト
　自動点灯ランプの消灯のしかた P.149
　スイッチ P.148
　電球（バルブ）容量 P.320
　点灯しないとき P.292
　ヘッドライト上向き表示灯 P.75
ヘッドライトの点灯、点滅具合、汚れ、
損傷点検 ..... M
ヘッドライトレベリングダイヤル P.152
ヘッドレスト
　後席シート P.114
　前席シート P.112
便利なサポート機能 P.20
便利な充電方法 P.36

ホ

ホイールサイズ P.321
ホイールナットレンチ P.299
方向指示器
　スイッチ P.152
　電球（バルブ）容量 P.320
　点灯しないとき P.292
　方向指示表示灯 P.75
方向指示器の点灯、点滅具合、汚れ、
損傷点検 ..... M
ホーム P.79
ホーンの鳴らしかた P.115
補機用バッテリー P.310
補機用バッテリー充電警告灯 P.74
ポジションインジケーター P.73
ポジションランプ（車幅灯）
　スイッチ P.148
　電球（バルブ）容量 P.320
　点灯しないとき P.292
ボトルホルダー P.239
ボンネット P.303

マ

マイパイロット
　車両情報画面 P.83
　ステアリングスイッチ P.165
　マイパイロット P.164
マイパイロットパーキング P.217
マイパイロットパーキングスイッチ P.217
マスターウォーニング P.74
マップランプ P.236
窓ガラスがくもったときは P.290
マルチアラウンドモニター
　移動物検知機能 P.210
　パーキングセンサー（フロント / リヤ）
　について P.211
　マルチアラウンドモニター P.202
　マルチアラウンドモニターに関する
　注意事項 P.213
マルチインフォメーションディスプレイ
　各種設定画面 P.85
　警告メッセージ P.85, P.271
　車両情報画面 P.79
　その他の表示機能 P.97
　タイヤアングルガイド P.95
　ホーム P.79
　マルチインフォメーションディスプ
　レイ P.78

ミ

ミラー
　自動防眩ルームミラー P.116
　デジタルルームミラー P.117
　ドアミラー P.120
　バニティミラー P.248

メ

メーター
　オドメーター（積算距離計） P.71
　外気温度計 P.71
　各種設定画面 P.85
　各部名称 P.70
　駆動用バッテリー残量計 P.72
　駆動用バッテリー残量警告灯 P.72
　警告灯 P.74
　警告メッセージ P.85, P.271
　航続可能距離表示 P.72
　車両情報画面 P.79
　スピードメーター（速度計） P.71
　タイマー設定状態確認画面 P.96
　時計 P.71
　トリップメーター（区間距離計） P.71
　パワーメーター P.71
　表示灯 P.75
　マルチインフォメーションディスプ
　レイ P.78
　メーターの明るさの調節のしかた P.99
メンテナンス設定 P.85
メンテナンスデータ（サービスデータ） P.318

モ

モーター P.14

M「メンテナンスノート」をお読みください。
S「自動車検査証」をご参照ください。
N「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

ユ

雪道の走行のしかた....P.305
雪道やぬかるみにはまったときは....P.291

ラ

ライト消し忘れ警報....P.148
ライトスイッチ....P.148
ラゲッジフロアボード....P.249
ラゲッジルームランプ....P.236
ランプ（室内照明）
　ラゲッジルームランプ....P.236
　ルーム＆マップランプ....P.236
ランプが点灯しないとき（バルブの交換）....P.292

リ

リモートエアコン（今すぐエアコン）....P.20
リモコンによる施錠・解錠....P.106
リヤシート....P.113
リヤデフォッガースイッチ....P.290
リヤビューカメラ....P.315
リヤビューモニター....P.198
リヤワイパースイッチ....P.154

ル

ルーム＆マップランプ....P.236

レ

冷却水
　寒冷時の取り扱い....P.305
　冷却水量の点検・補給....M
レーダークルーズコントロール [ACC]
　ACC....P.166
　ACC の解除のしかた....P.169
　ステアリングスイッチ....P.165
レーダーセンサー....P.313
レバー（セレクターレバー）....P.141

ロ

ロードホイール
　お手入れ....P.313
　交換....P.307
　サイズ....P.321
路上で故障したときは....P.252
ロックノブ....P.107

ワ

ワイパー
　ワイパー・ウォッシャースイッチ....P.153
　ワイパーブレードの交換....P.308
ワックスをかけるときは....P.313

メーター内に警告灯や警告メッセージが表示されたときは、すみやかに適切に対処する必要があります。詳しくは、警告灯（➔P.264）、警告メッセージ（➔P.271）をお読みください。表示灯については、表示灯（➔P.76）をお読みください。

警告灯 例

警告灯は、車両故障などを運転者に知らせるためのものです。警告灯が点灯したときは警告灯（➔P.264）に記載されている「説明・対処方法」に従ってください。

警告メッセージ 例

警告メッセージが表示されたときは、警告メッセージ（➔P.271）に記載されている「説明･対処方法」に従ってください。

表示灯 例

表示灯は、何らかのシステムが作動していることなどをお知らせするものです。点灯している理由は、表示灯（➔P.76）をお読みください。

MEMO

MEMO

MEMO

純正品のおすすめ

- お客様のお車に最適な純正品をご使用ください。
- 純正品は、厳しい検査に合格し、その品質が保証されています。
  また、三菱自動車販売会社を通じてお求めになれます。
- 新車時の性能と快適な乗り心地を長く維持していただくために、点検や交換の際は、三菱自動車販売会社にご相談ください。
- 三菱自動車指定の純正品や油脂類以外の物を使用すると、故障などの原因になることがあります。
- 純正品にはGENUINE PARTSと記載してあります。

事故が起きたときは！

あわてずにつぎの処置をしてください。

- **続発事故の防止**
  他の交通の妨げにならないような安全な場所（路肩、空地など）に車を止め、パワーユニットを停止します。その他に感電防止などの処置も必要です。
  詳しくは「安全にご利用いただくために：電気自動車（EV）が事故にあったときの注意事項」をお読みください。→P.16
- **負傷者の救護**
  負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
  この場合、とくに頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故のおそれがあるときは安全な場所に移動させます。
- **警察への届け出**
  事故が発生した場所、状況および負傷者数や負傷の程度などを警察官に報告し指示を受けます。
- **相手方の確認とメモ**
  相手方の氏名、住所、電話番号を確認し、事故の状況をメモします。
- **ご購入された販売会社と保険会社への連絡**
- **医師の診断を受ける**
  外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けてください。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

万一にそなえて

安心のため、自賠責保険（強制保険）のほかに任意自動車保険にも加入しましょう。
詳しくは三菱自動車販売会社へご相談ください。